

2023（令和5）年度

2023（令和5）年4月1日から2024（令和6）年3月31日まで

知識集約型社会を支える人材育成事業

—新時代の地域のあり方を構想する
地域戦略人材育成事業—

成果報告書



大正大学

スガモで育む日本の未来。

目次

巻頭序言	1
1. 基本情報	
(1) 申請の概要	2
(2) 事業の概要	14
(3) 事業の成果	25
2. 事業の報告	
(1) 新時代の地域のあり方を構想する地域戦略人材育成事業	36
(2) データサイエンス教育	48
(3) クロスディシプリン（学融合）教育	81
(4)アントレプレナーシップ育成教育	100
(5) 学修支援・学びのコミュニティ	163
終わりに	176

巻頭序言



大正大学 学長
神達 知純

平素より本学の教育、研究に対してご理解とご支援をいただき、誠にありがとうございます。心から感謝申し上げます。大正大学は大正15年(1926年)に開学し、まもなく創立百周年を迎える歴史と伝統のある大学です。本学は仏教連合大学構想を創立の由縁とし、大乘仏教の精神である「智慧と慈悲の实践」を建学の理念とし、「4つの人(慈悲・自灯明・中道・共生)となる」を教育ビジョンとしています。建学の理念である「智慧と慈悲の实践」は菩薩の生き方を表しています。菩薩とは自らの修行の完成と衆生の救済を志す人を意味します。わかりやすく言えば、自己の研鑽に励むとともに、他者の幸福を願って行動する者です。今日、多様性や利他が話題となっておりますが、それは菩薩のような生き方に共感が集まっているのかもしれませんが。学生たちには、大学に在籍している間だけでなく、生涯を通じて菩薩のように生きてほしい。本学の建学の理念には、そのような願いが込められています。私は、建学の理念および教育ビジョン「4つの人となる」に改めて光を当てて、それらに基づいた大学運営に熱意をもって臨みたいと考えています。

さて、建学の理念が「智慧と慈悲の实践」というように、本学は実践的な教育を伝統としてきました。近年では、以下に述べますように、「地域戦略人材」の育成を目標として、実践的な教育にますます力を入れています。地域や企業との連携関係を構築し、キャンパスとは異なる学びの場(フィールド)は充実してきました。教室で学んだことをフィールドで活用し、再び教室に戻って学びを深める。このような理論と実践の往還は、学生の学びに大きな効果をもたらすばかりでなく、人間的な成長にもつながっています。

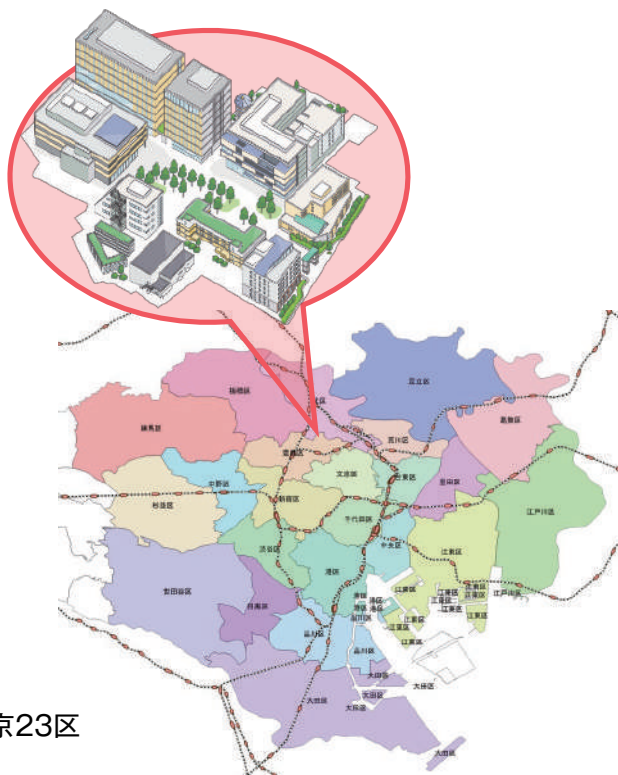
そのような教育上の特色を活かすかたちで、本学では令和2年度より「新時代の地域のあり方を構想する地域戦略人材育成事業」に取り組み、当事業は知識集約型社会を支える人材育成事業に採択されて4年目を迎えています。令和5年度には「育成する人材像」を見据えたアントレプレナーシップ育成教育の各コース「地域戦略人材コース」、「企業内リーダーシップ人材コース」、「起業人材コース」が始まりました。統合型新教養教育、データサイエンス、リーダーシップ、学融合教育を受けてきた学生が新たなカリキュラムを受講し、アントレプレナーシップが醸成されることが期待されます。

また本学では総合的な学修支援体制を構築し、教職員とチューターが学生の学びと成長をサポートしています。変動の激しい時代と言われていています。このような時代であるがゆえに、高校から大学へ、大学から社会へという時間軸において、一人ひとりの学びと成長を支援していく必要があると考えています。

令和8年(2026年)に、大正大学は創立百周年を迎えます。この節目を「第二の開学」と位置付け、次の百年に向けて、新たな大正大学の未来を築いていきます。

1. 基本情報

(1) 申請の概要



大正大学

学生数：4,832名

男子：2,399名

女子：2,433名

専任教員数：153名

専任職員数：165名

※令和5年5月1日現在

大正大学の6学部・3研究科



仏教学研究科

人間学研究科

文学研究科



大学教育再生戦略推進費 「知識集約型社会を支える人材育成事業」 計画調書

[基本情報]

1. 大学名	大正大学							
2. 機関番号	32635							
3. 事業者 (大学などの設置者)	ふりがな (氏名)	かしわぎ 柏木	まさひろ 正博	(職名) 理事長				
4. 申請者 (大学の学長)	ふりがな (氏名)	かんだつ 神達	ちじゆん 知純	(職名) 学長				
5. 事業計画責任者	ふりがな (氏名)	まえだ 前田	のぶこ 長子	(所属・職名) 学修支援センター 教授				
6. メニュー	メニュー I 文理横断・学修の幅を広げる教育プログラム							
	事業計画名	新時代の地域のあり方を構想する地域戦略人材育成事業						
7. 事業プログラム に参加する学生 の所属学部等名	社会共生学部、地域創生学部、表現学部、心理社会学部、文学部、仏教学部							
8. 事業計画の ポイント (400 文字以内)	幅広い学融合の知識や創造力、変化に対応する力、異なる分野のネットワーク結節点となるためのコミュニケーション力を本学で学ぶ全学生に身に付けさせることにより、我が国において新時代の地域を牽引するアントレプレナーシップを身に付けた「地域戦略人材」（多面的な性質をもつ地域の課題解決に向けて異なる専門分野の多様な人材を統合し、調整する新しいリーダー）を育成するもの。実施にあたっては、本学の特色である地学連携体制・産学協創体制を生かして学融合・学際・課題解決型の教育プログラムを構築する。また、教育組織と事務組織を統合する学内第三の組織である総合学修支援機構 DAC をハブとして学内の各組織を有機的に連携させ、教育及び学生支援体制の基盤を確立すると共に社会とのインタラクションを活発化させる。また、リカレント教育の提供等による生涯を通じた教育サポートの構築や、独自メディアを活用した成果の発信も予定している。							
9. 学生・教職員数		学生数				教職員数 (R2.5.1)		
		入学定員 (令和2年度)	全学生数 (R2.5.1)	収容定員 (令和2年度)	定員充足率 (R2.5.1)	教員数	職員数	合計
	学部	1,125 人	4,774 人	4,590 人	104.0%	156 人	165 人	321 人
	大学院	95 人	137 人	208 人	65.9%			
合計	1,220 人	4,911 人	4,798 人	102.4%				
10. 連携先機関名 (他の大学、民間企業等 と連携した取組の場合 の機関名)	<ul style="list-style-type: none"> ・ソフトバンク株式会社 ・全国商工会連合会 ・株式会社フジテレビジョン 							

11. 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 3 項において「公表するものとする」とされた教育研究活動の状況について、公表している HP の URL	https://www.tais.ac.jp/guide/info/
---	---

12. 事業計画経費（単位：千円） ※千円未満は切り捨て							
年度（令和）	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	合計	
事業規模	51,927	65,395	67,660	61,640	68,190	314,812	
内訳	補助金申請額	50,000	50,000	50,000	33,333	15,000	198,333
	大学負担額	1,927	15,395	17,660	28,307	53,190	116,479

※1. 文部科学省や他省庁が実施する他の補助金は「大学負担額」に計上しないこと。

※2. 国立大学における運営費交付金、公立大学における運営費交付金、私立大学の私立大学経常費補助金等は「大学負担額」に計上しないこと

13. 事業プログラムの受入学生定員（1学年あたり、事業最終年度）	
1,125名	

<メニュー1のみ記入>

	大分類	中分類	小分類
14. 専門分野 (主たる分野の順に記載してください(最大5つ以内))	社会科学	C3_社会学関係	A8_公共社会学
	社会科学	D9_その他	E3_地域創生学
	人文科学	B9_その他	J2_表現文化学
15. 授与する学位 分野・名称	学士（公共政策学、社会福祉学、経済学、表現文化学、人間科学、臨床心理学、日本文学、人文学、歴史学、仏教学）付記する名称：地域戦略人材育成課程の修了		

(大学名：大正大学)

(事業名：新時代の地域のあり方を構想する地域戦略人材育成事業)

新時代の地域のあり方を構想する地域戦略人材育成事業

地域戦略人材とは

多面的な性質をもつ地域の課題解決に向けて異なる専門分野の多様な人材を統合し、調整する新しいリーダー

- ・幅広い文理横断の知識や創造力
- ・変化に対応する力
- ・異なる分野のネットワーク結節点となるためのコミュニケーション力等

必要となる改革の方向性

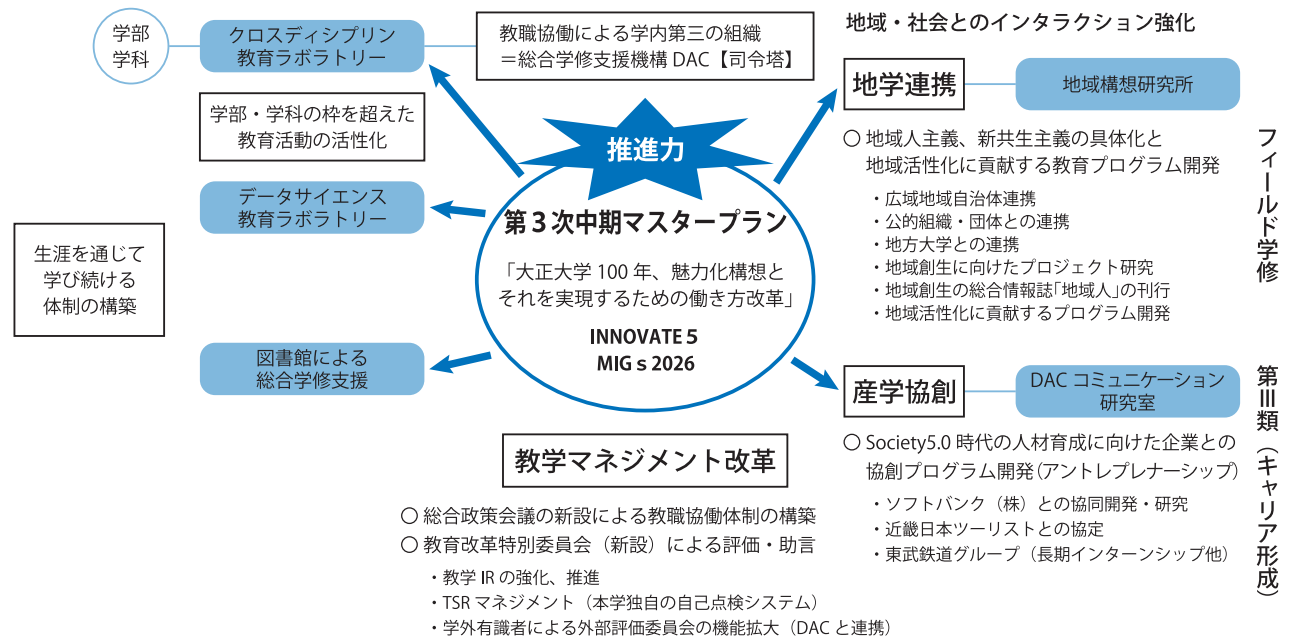
- ✓ 本学第3次中期マスタープラン・INNOVATE 5・MIG s 2026 を踏まえた人材育成
- ✓ 超スマート社会の中で地域を支え、活躍する人材を育成する教育プログラム構築
- ✓ 全学横断的な教育改革の実現に向けた組織改革、教職協働体制の確立
- ✓ 目指す人材像の育成に向けた地域・社会とのインタラクション強化

【事業方針】 ● 地学連携・産学協創による新しい教育プログラムの実現

● 学内第3のマネジメント組織＝総合学修支援機構 DAC を司令塔とする全学横断的な教育改革の実現、ガバナンス強化

● 生涯を通じた学びの体制構築による人材の好循環促進、社会とのインタラクション強化

事業概要



- ・ DAC (機構長: 学長) の司令塔機能強化、学長補佐の協働による学内組織(教育・研究・地域連携)の連携強化
- ・ 大学のビジョン達成に向けた FD・SD の徹底(FD・SD 手当の支給)
- ・ 教学 IR 体制の組織・運営強化(エビデンスに基づくプログラム開発)
- ・ DAC ポートフォリオの開発と活用(学修成果の可視化による育成強化)
- ・ 専属チューターによる共通教育の目標達成サポート体制構築
- ・ 新教育分野開発のためのラボラトリーの設置
 - ① クロスディシプリン教育ラボ(学融合)
 - ② データサイエンス教育ラボ(文理融合)

本補助金の目的・趣旨



文部科学省>トップ>教育>大学・大学院、専門教育>国公立大学を通じた大学教育再生の戦略的推進>知識集約型社会を支える人材育成事業

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/intelligence.htm

「知識集約型社会を支える人材育成事業」は、Society5.0時代等に向け、全学横断的な改善の循環を生み出すシステム（全学的な教学マネジメントの確立、管理運営体制の強化や社会とのインタラクションの強化等）の学内における形成を実現しつつ、今後の社会や学術の新たな変化や展開に対して柔軟に対応しうる能力を有する幅広い教養と深い専門性を両立した人材を育成することを目的とした事業です。



日本学術振興会>TOP>事業のご案内>知識集約型社会を支える人材育成事業

<https://www.jps.go.jp/j-chishiki/index.html>

【事業の趣旨】

我が国では、経済的な価値が資源や物から知識や情報へとシフトし、知識を共有・集約することで、様々な社会課題を解決し新たな価値が生み出される、まさに知識集約型社会の到来が予想されている。

このため、大学においては、この知識集約型社会を支える人材育成に対する社会の要請に応えるため、専門教育においても、知識の水準の高度化だけでなく、分野を超えた専門知の組み合わせが必要とされる。

このたび大正大学は、文部科学省「知識集約型社会を支える人材育成事業」に、「新時代の地域のあり方を構想する地域戦略人材育成事業」として採択され、五年間この事業を推進する。

本事業における教育プログラム内容／体系

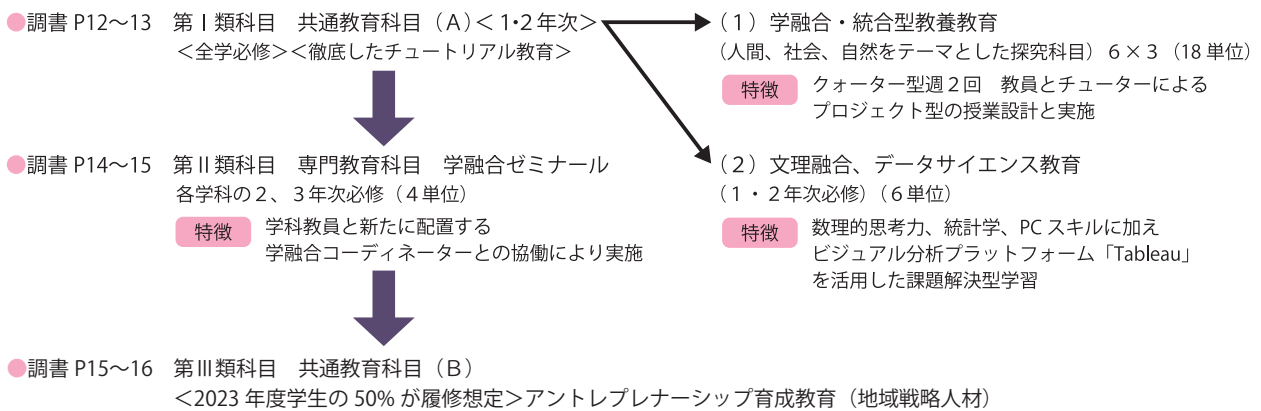
「本事業の実施にあたって「地域戦略人材」の育成に必要な能力を育成する観点から、
 本学の科目区分を活用してそれぞれの分野に必要な科目を配当する。」

- 第Ⅰ類科目（共通教育科目（A））
- 第Ⅱ類科目（専門教育科目）
- 第Ⅲ類科目（共通教育科目（B）アントレプレナーシップ育成教育）

「地域戦略人材」
 多面的な性質を持つ異なる専門分野の多様な人材を
 統合し調整する課題解決型リーダー

<1>養成する人材像（ビジョン）・・・・・・・・

<2>人材育成のための教育体系



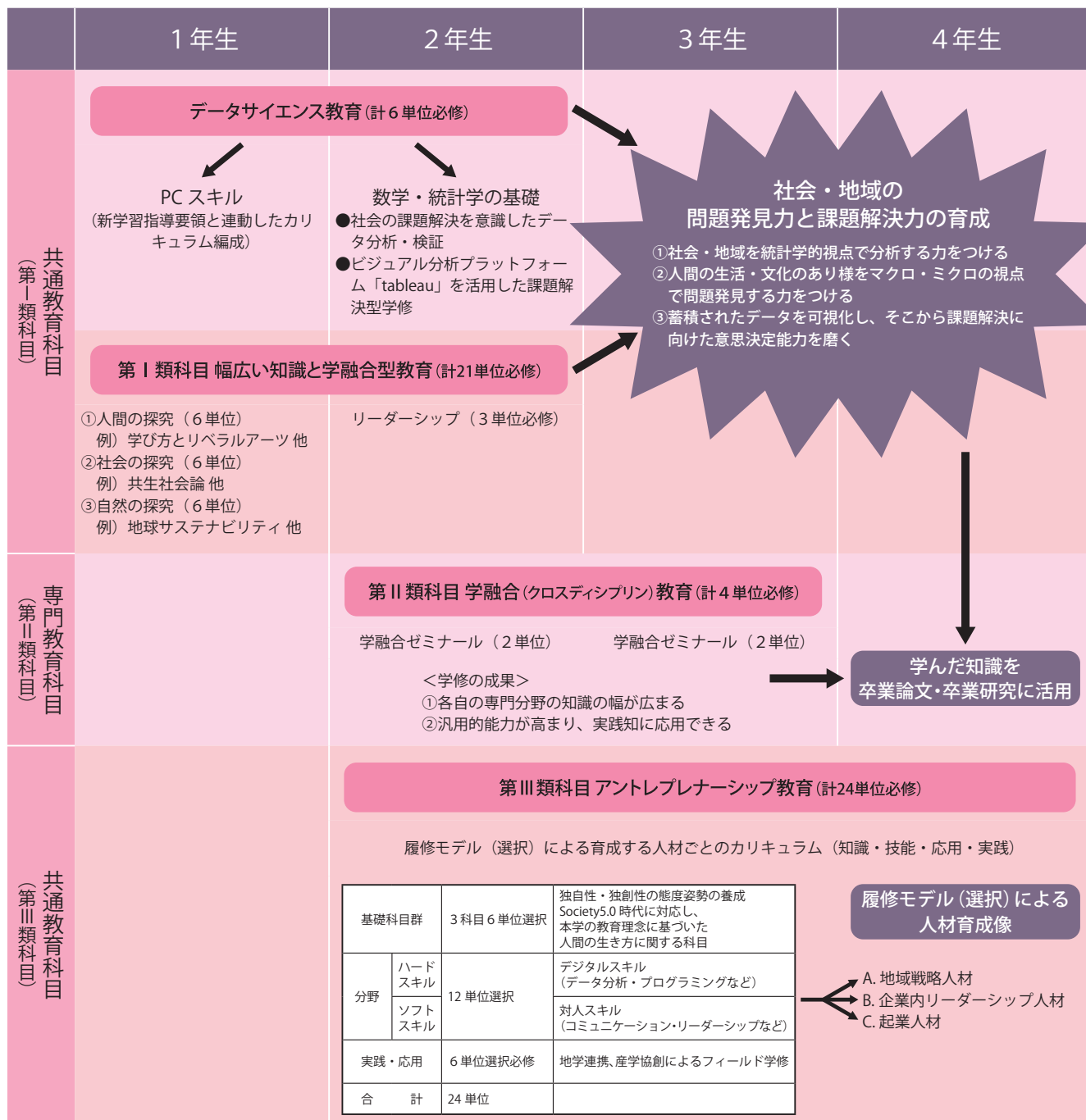
**養成人材別
 履修モデル**

- ①新共生主義：地域人イズム、超スマート社会、アントレプレナーシップ等
- ②ハードスキル：論理的思考、データ分析、プログラミング、ファイナンス等
- ③ソフトスキル：コミュニケーション・リーダーシップ、ビジネス関係等
- ④実践応用：ワークショップ、インターンシップ、フィールドワーク、海外研修等（地学連携、産学協創によるプログラム等）



- A. 地域戦略人材
- B. 企業内リーダーシップ人材
- C. 起業人材

本事業により育成する人材像・教育体系（イメージ図）



令和2年度 知識集約型社会を支える人材育成事業審査結果

大学等名	大正大学	整理番号	4
メニュー	メニューⅠ 文理横断・学修の幅を広げる教育プログラム		
事業計画名	新時代の地域のあり方を構想する地域戦略人材育成事業		

[採択理由]

本事業計画は、新時代の地域を牽引するアントレプレナーシップを身に付けた「地域戦略人材」（多面的な性質をもつ地域の課題解決に向けて異なる専門分野の多様な人材を統合し、調整する新しいリーダー）を育成するため、当該大学の特色である地域連携体制・産学協創体制を生かして学融合・学際・課題解決型の教育プログラムを構築するものである。

本事業計画は、社会が直面する課題を踏まえ、大学が社会・地域に果たすべき役割や人材育成を明確に設定しながら当該大学が進められてきた「地域人材育成」を柱とする取組を基に、これまでの地方自治体や企業等との社会連携の実績を生かした地域連携型教育に加え、アントレプレナーシップ、データサイエンス教育などを全学へと展開するものとなっている。また、教育組織と事務組織を統合する学内第三の組織である「総合学修支援機構 DAC」をハブとして既存の学内の各組織を有機的に連携させ、教育及び学生支援体制の基盤を確立するとともに社会とのインタラクションを活発化することとしている。大学を挙げて構築する実施体制により、全学生を対象とする教育プログラム構築を目指す本事業計画の着実な実施が期待できる。

また、全学展開を行う上で課題となる入学目的の異なる学修者への動機付けや伴走体制、文系学生を念頭に学修者の苦手意識の克服・リテラシー向上を重視したデータサイエンス・理数系教育の工夫は、本教育プログラムにおける学修目標を達成するための方策として評価できるものであり、将来的にそのノウハウは中小規模大学の取組として共有すべきモデルともなりうるものと考えられる。

さらに、学生の学修支援・メンタリングに従事するチューターについて独自の養成プログラムを開発し、約100名を養成・配置する体制づくり、チューターと教員の協働による学修支援、教員の資質・能力の開発・向上と評価に関する指標・プログラムの作成など、教育プログラムに関わる人材の資質・能力を継続的に養成・開発、向上していく視点は、本教育プログラム全体の持続可能性につながるものである。チューター養成システムの公表等も企図されており、取組成果の他大学への波及が期待できる。

以上のことから、当該大学の事業計画は「幅広い教養と深い専門性を両立した人材の育成」と「全学の教学マネジメント改革」という今回の事業趣旨に沿った、普及性・実現可能性・継続性が高い提案となっていると評価でき、着実な計画の実施が望まれる。

知識集約型社会を支える人材育成事業 令和3年度現地視察報告書

知識集約型社会を支える人材育成事業委員会

大学等名	大正大学	整理番号	4
メニュー	メニュー I 文理横断・学修の幅を広げる教育プログラム		
事業計画名	新時代の地域のあり方を構想する地域戦略人材育成事業		

1. 進捗状況の概要
<ul style="list-style-type: none"> ・ 本事業計画の目的に照らし合わせた申請時の理念や内容が確実に実現化しつつある。 ・ 学融合の考え方が、第Ⅰ類科目、第Ⅱ類科目及び第Ⅲ類科目の各対象教育プログラムに反映されており、計画どおりに着実に実行されている。 ・ 「チューター」を含む学生の教育に関わる者の間で、情報共有や取組検討の機会がしっかりと準備されており、教員間での円滑なコミュニケーションが実現している。 ・ 「データサイエンス科目」を含む第Ⅰ類科目の活動は、他の人文社会科学系大学のモデルにもなるべき取組である。具体的には「チューター」を入れたチームティーチングを実現化し、細やかなフォローで大学での学びのスタートを支援しているほか、ICT活用によってコロナ禍においても学びを止めないシステムを構築している。 ・ 「データサイエンス科目」必修化について、学生自身がその有益さを理解し、将来、自分自身のキャリアに役に立つことを認識しているプログラムとなっている。 ・ 第3の職種と呼ばれる「チューター」を自学で育成し雇用するという、持続性が高いシステムを構築している。 ・ 人生100年時代に学生の成長に寄り添うことをやりがいとする第3の職種「チューター」を設定し、セカンドキャリア、デュアルキャリア、パラレルキャリア等の多様な働き方を可能にする場を作り、学生教育の質向上に役立てている。 ・ 全教室Webカメラ設置やBYODなどDX化を進めており、ハイフレックス授業等、個別最適な学びを支援している。
2. 課題・意見(改善を要する点、指導・助言内容)
<ul style="list-style-type: none"> ・ ガバナンス体制については、いまだその意思決定のプロセスが不明瞭との印象を受けた。学長を中心とした何事にも迅速に対応できるマネジメント体制の構築を検討いただきたい。 ・ 本事業計画と学士課程教育との関係性を整理いただきたい。特に付与される学位の根拠である専門教育との関係性をディプロマ・ポリシーも含めて明らかにする必要がある。 ・ 第Ⅱ類科目、第Ⅲ類科目の取組は年次進行で進んで行くことに加え、第Ⅲ類科目については選択科目にもなることもあり、学生との意見交換においても第Ⅱ類科目及び第Ⅲ類科目に対する認識が浸透していなかったことから、今後はさらに学内広報にも力を入れていただきたい。 ・ 第Ⅰ類科目、第Ⅱ類科目を必修で学修した後、本事業計画に係る授業を選択する学生、そうでない学生と様々なカリキュラムのバリエーションが生まれることになる。それらの学びの特性について、学修成果を可視化することによって明らかにしていただきたい。

知識集約型社会を支える人材育成事業(メニュー I・II) 中間評価結果

大学名	大正大学	整理番号	4
メニュー	メニューI. 文理横断・学習の幅を広げる教育プログラム		
事業計画名	新時代の地域のあり方を構想する地域戦略人材育成事業		

(「知識集約型社会を支える人材育成事業委員会」による評価)

【総括評価】

A：計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

【コメント】

事業の実施体制については、本事業を運営していくための組織として、教育組織と事務組織を統合し教職協働を具現化する「学内第三の組織」とされる総合学修支援機構DACを設置しており、学部学科での専門教育とのハブとなって連携・協働を行っている点が評価できる。また副学長をその長である機構長に任命することにより、持続可能な組織化に取り組んでいる。

事業の具体的な取組の進捗状況について、まずは ディプロマ・ポリシーの改正・増補により「三つの方針」を通じた学修目標の具体化が、事業目的に沿う形で適切に設定されたことを評価する。また学修成果の可視化についても、IR を中心に多様なデータを収集できている。今後はこれらアセスメントツールを本事業を俯瞰するアセスメントプランとして取りまとめていただき、本事業全体の評価精度を高めていくことを期待する。事業の内容としては、第Ⅰ類で展開しているデータサイエンス教育は、企業との連携により、文系学生であっても将来に必要なスキルと認識しやすい仕組みを取り入れていること、また苦手な学生にはチューターやスチューデント・アシスタントがサポートする学修支援システムを組み合わせることで、全国の文系大学におけるモデルとなる活動であると高く評価する。その一方で、第Ⅱ類の学融合ゼミナールについては知識提供に止まっているのではないかなどの懸念もあり、内容と授業方法には改善の余地が大きい。また令和4年度は試行とした第Ⅲ類アントレプレナーシップ養成教育プログラムは全学の半数の学生が受講することを想定する本事業の目玉プログラムであることから、事業後半に向けて質の高い取り組みを期待する。

事業の実実施計画・継続性については、本事業が大学の第3次中期マスタープランに位置付けられていることから、理事会において資金面を含めた経営資源を投入し、さらに充実・発展する環境が整っている。各会議体のそれぞれの役割、機能が本事業の運営を行うにあたり構造的・合理的なものであり、特に第Ⅰ類科目におけるチューターの養成と配置は斬新なアイデアで効果が期待できる。

事業成果の普及については、チューター養成のための「総合的学修支援者育成プログラム」や文系学生のためのデータサイエンス教育は他大学のモデルとなりえる取り

組みである。

採択時に付された留意事項及び現地視察報告書への対応については、適切に対応している。

経費執行の適切性については、適切と認められる。

知識集約型社会を支える人材育成事業
令和5年度現地視察報告書

知識集約型社会を支える人材育成事業委員会

大学名	大正大学	整理番号	4
メニュー	メニュー I 文理横断・学修の幅を広げる教育プログラム		
事業計画名	新時代の地域のあり方を構想する地域戦略人材育成事業		

1. 進捗状況の概要
<ul style="list-style-type: none"> ・本現地視察により、本事業計画が確実に進捗していることをまずは確認した。具体的な内容は以下のとおりである。 ・第Ⅰ類科目：データサイエンス科目においては、これまでも度々触れられてきたが、本事業計画におけるDX教育には大きな特徴がある。PCの扱いが得意ではない文系学生が多い中、学生からの質問を待つのではなく、複数のチューターから頻繁に学生に声掛けをするプッシュ型支援を行っている点である。そのような細やかな学習支援が文系学生の苦手意識を払拭し、自己肯定感を高めながら学んでいる状況を生み出している。これは他の文系大学のモデルとなり得る取り組みである。 ・同授業の発展形としての資格取得を目指す春夏特別プログラム（単位外）も、半数の学生が合格していることから学生のキャリアにとっても有益なプログラムとなっている。また資格取得に関しても、経済的な補助システムを導入して動機づけを喚起している。 ・第Ⅱ類科目：学融合（クロスディシプリン）教育においては、2～3学科が組み合わせられ、異なった視点からの学びを得ることを目的としており、「学融合ゼミナールⅠ」と「学融合ゼミナールⅡ」から構成されている。中間評価においては、「ゼミナール」という名称であってもその教育方法は講義形式であることを指摘したが、統一的な授業スタイルを導入し、講義形式の中においても、グループディスカッションなどのアクティブ・ラーニング要素を取り入れており、一部改善が見られる。 ・第Ⅲ類科目：アントレプレナーシップ育成教育プログラムでは、令和4年度時点では試行的であった内容と比較すると大きな充実が見られる。具体的には、講師陣の新規雇用に伴い、プログラムの内容が充実するとともに、令和5年度においては、対象の全2年生、3年生のうち、78.9%の学生が受講するプログラムに発展している。その人数の内訳も全6学部のだこかに偏るのではなく、まんべんなく散らばっていることから、本プログラムが、学内のどの学士課程教育においても一定の認知度を得られていると判断する。
2. 課題・意見(改善を要する点、指導・助言内容)
<ul style="list-style-type: none"> ・第Ⅱ類科目：学融合（クロスディシプリン）教育においては、いまだ改善の余地が大きいことを指摘したい。複数の視点を得るための学科の組み合わせは事前に決定しており、ゼミナールⅠ、Ⅱではその組み合わせが繰り返される。内容において一部類似のものもあることが学生との意見交換で明らかになった。また授業全体でディスカッションの機会が導入されたことは改善がなされた点として認められるが、同じグループでの浅いディスカッションに留まっているとの指摘もある。所記の目的を果たすべく、アクティブ・ラーニングの活用など、授業方法については更なる検討が求められる。また、決まった学科の組み合わせだけで「現代社会の課題」に答えているのか疑問が残る。オンデマンドなども駆使して自由に選択できるようなシステム等も考えられるのではないかと。あわせて、授業内での他学科との学生との対話・交流も検討いただきたい。 ・第Ⅲ類科目：アントレプレナーシップ育成教育プログラムにおいては、その発展が認められるものの、通常のキャリア教育の範疇に留まっている印象も受ける。キャリアセンターにおいて行われている類似のサポートとの差異を明確にするべきである。また当初の本事業計画の趣旨である「地域戦略人材」の視点をもっと取り入れることが望まれる。

(2) 事業の概要

①補助金の意図、採択の意図

＊「知識集約型社会を支える人材育成事業」の意図

文部科学省：「知識集約型社会を支える人材育成事業」は、Society5.0 時代に向け、全学横断的な改革の循環を生み出すシステム—全学的な教学マネジメント体制の確立、管理運営体制の強化や社会とのインタラクションの強化など—の学内における形成を実現しつつ、今後の社会や学術の新たな変化や展開に対して柔軟に対応する能力を有する幅広い教養と深い専門性を両立した人材を育成することを目的とした事業である。

＊採択のポイント

今回の事業趣旨は「幅広い教養と深い専門性を両立した人材の育成」と「全学の教学マネジメント改革」であった。本学の事業計画がこの趣旨に沿ったものであると評価され、その普及性・実現可能性・継続性に期待がされている。第Ⅰ～Ⅲ類科目の教育の再編と総合学修支援機構DACを司令塔とした教職協働体制が評価されたものと思われる。

②目的・目標

本学では大学100周年に向けてその使命と存在意義を再確認しつつ、社会や時代の急激な変化をふまえて学生への教育価値を高めるため、2018年に発表した第3次中期マスタープラン「大正大学100年、魅力化構想とそれを実現するための働き方改革」及び第3次中期マスタープラン増補・改訂をふまえて大学教育の抜本的改革を推進しているところである。本事業は、このような本学の方向性に正しく合致するところである。

社会が直面している諸課題に向き合いながら、大学が社会・地域に果たすべき役割や人材育成についての将来像を明らかにする指針であるが、これに基づき行う総合的な教育改革構想の中核が本事業計画で実施する「地域戦略人材の育成」である。よって本事業計画を「新時代の地域のありかたを構想する地域戦略人材育成事業」と名づけた。

本学は、特にここ10年地域と共に歩む大学として、これまでに企業や100をこえる地方自治体と連携協定を結び、産学官協働により新時代の社会・地域を創造する人材育成に取り組んできた。その経験をもとに本学では地域戦略人材を「多面的な性質をもつ地域の課題解決に向けて異なる専門分野の多様な人材を統合し、調整する新しいリーダー」と定義してきた。

＊社会のニーズ分析と養成を目指す人材像

これからの日本では少子高齢化の加速や技術革新など、人の生き方・働き方が大きく変わる可能性がある。とくに情報を基盤とした超スマート社会の到来は、これまでの教育のありかたに変更を求めてくることが予想される。データサイエンスを基礎的な素養とした上で、ビッグデータをどのように活用するか、AIの導き出した集合知からどのような価値を創造していくかなど、変化が激しく予測が難しい時代にあって、従来の枠組みを超えた学融合的な視点を身につけ、時代の変化に合わせて社会を支えていく人材の育成が求められよう。

社会的ニーズに応えるために、本学では建学の理念「智慧と慈悲の実践」にのっとり、地域において課題を解決するリーダーの育成を目指す。具体的には、地域における課題の解決に向けて、幅広い学融合の知識や創造力、変化に対応する力、コミュニケーション力を全学生に身につけさせようとするものである。

また本事業は実社会に適用できる能力を育成することを目標とするため、社会・地域とのインタラクションの形成が必要となる。地学連携・産学協創による教育展開を予定している。

*第3次中期マスタープラン改訂・増補

新時代の地域のあり方を構想する地域戦略人材育成事業

(A) 地域戦略人材育成の目的は、多面的な性質をもつ地域の課題解決に向けて異なる専門分野の多様な人材を統合し、調整する新しいリーダーの育成と位置付け、以下の能力、資質を育成し、社会に輩出する。

- ①幅広い文理横断の知識や技能を身に付け、活用できる能力を育成
- ②社会の変化に対応する力を育成
- ③異なる分野のネットワーク結節点となるためのコミュニケーション力等を養成

(B) 必要となる教育改革の方向性は以下のとおりである。

- ①本学第3次中期マスタープラン・INNOVATE 5・MIG s 2026を踏まえた人材育成
- ②超スマート社会の中で地域を支え、活躍する人材を育成する教育プログラム構築
- ③全学横断的な教育改革の実現に向けた組織改革、教職協働体制の確立
- ④目指す人材像の育成に向けた地域・社会とのインタラクション強化

(C) 本事業の基本方針の方向性は以下のとおりである。

- ①地学連携・産学協創による新しい教育プログラムの実現
- ②学内「第3のマネジメント組織」＝総合学修支援機構 D A C を司令塔とする全学横断的な教育改革の実現とガバナンス強化
- ③生涯を通じた学びの体制構築による人材の好循環促進、社会とのインタラクション強化

*第3次中期マスタープラン改訂・増補に関する補助資料

令和2年度に文部科学省に採択された“大学教育再生戦略推進費”「知識集約型社会を支える人材育成事業」(令和2年～6年度までの助成事業)を一過性なものではなく、

- (1) 本学教育改革の中長期的な指針として位置づける。
- (2) 理事会が、本教育を推進する上での“最高意思決定機関”の役割を果たし、「ヒト・モノ・カネ・情報」を集中させ、責任を持って確実に実行を継続するものであることを確認する。

本学は、令和2年文部科学省「知識集約型社会を支える人材育成事業」採択を受けて、Society 5.0時代(デジタル化社会)を支える人材育成事業を実施(2020年12月～2025年3月)している。本事業による教育改革の概要は、以下のとおりである。

- ①学科の専門知を基盤に異なる分野の専門知を融合することで、新しい発想を生み出す能力の養成【学融合】
- ②集積されたデータを分析し、活用するための基礎スキルを必修化することで分散している大量のデータが利用可能となり、新しい価値を生むための教育を実施【文理融合】
- ③3・4年次を対象とした後期共通教育科目(社会や地域の課題を解決し、新しい価値を創造する人材育成教育)を実施し、社会や企業、インクルーシブな関係を構築する。
- ④第Ⅲ類科目(24単位)
 - A. 地域戦略人材 公務員コース
 - B. 企業内リーダーシップ人材 イントレプレナーコース
 - C. 起業人材 アントレプレナーコース

*第4次中期計画に関する補足資料

100周年記念事業とポスト創立100周年を見据えたプランを想定し、事業計画として示すものである。本補足資料では、第3次中期マスタープランの中でも極めて社会的評価が高く、第4次中期計画においても継続し

て実施する2事業について特記し、下記のとおり補足して説明する。

1. 教育活動（新時代の地域のあり方を構想する地域戦略人材育成事業）

令和2年度に採択された文部科学省「知識集約型社会を支える人材育成事業（新時代の地域のあり方を構想する地域戦略人材育成事業）」は、文理融合・学融合・データサイエンスなどの学習を基盤にアントレプレナーシップの育成を目標とし、本学が目指す「社会・地域の課題解決を担う新しいリーダー“地域戦略人材”」の養成に取り組んでいる。

本事業は、申請時の教育目標、カリキュラム並びに運営方針を原則として変更できないことから、補助期間である令和6年度末まで計画通り実施し、教育目標の達成に向けて全学で取り組む。

開講4年目を迎えた本年度も、本事業の教育効果は学内外から高い評価を得ている。そのため、補助期間終了後においても、“地域戦略人材”の養成を目指す本事業の基本方針を踏襲した教育活動は継続し、発展させて実施するものとする。

2. 「地域主義」の未来

平成28（2016）年以降、本学は「地域主義」をスローガンとして掲げ、地域構想研究所の中核事業である「広域地域自治体連携」を基盤とした産学連携・大学間連携により、地域貢献事業を行ってきた。また、「広域地域自治体連携」は、学生の地域実習・フィールドワーク・インターンシップの受け入れ拠点として大きな役割を果たすなど、他大学にはない極めて特色ある取り組みを継続して行っている。

今後も地域貢献や学習活動強化を目的とした事業を継続し、全学体制での展開を目指す。第4次中期計画「生涯学習デジタルネットワーク事業」は、地域貢献事業の発展形の一部として位置付けるものである。

なお、地域主義及び地域構想研究所の未来は、本年中に中期的展望として取りまとめることを目指す。

③実施計画

*授業科目・教育課程の編成・実施

本学の現状の教育課程にはいくつかの課題があり、第Ⅰ類科目（共通教育科目）と第Ⅱ類科目（専門科目）の接続及び第Ⅲ類科目（地域連携、キャリア教育、資格科目）の位置付けには検討の余地があると考えられてきた。今回の事業を推進するにあたって、この問題に積極的にアプローチする。

まず第Ⅰ類科目については令和3年度より全学共通の第Ⅰ類教育をスタートさせた。その第Ⅰ類の特色を3つ挙げたい。

- ・学融合・統合型教養教育
- ・文理融合・データサイエンス教育 反復学修によって文系学生の苦手意識を克服した上で、課題解決をはかるための論理的思考力を育むことをめざす。
- ・徹底したチュートリアル教育

次に第Ⅱ類は本学の教育課程において中心に位置するものであるが、第Ⅰ類・第Ⅲ類との整合性・有機的接続を進めていきたい。そして、本事業実施のため第Ⅱ類を改編し、2・3年次に学融合ゼミナール（必修）を設置することとする。地域戦略人材について各学科で検討し、令和4年度より開講となる学融合ゼミの内容については、クロスディシプリン教育ラボラトリー・チームが各学科の第Ⅱ類科目コーディネーターと協議し、推進した。

次に第Ⅲ類の再編については、元来、第Ⅲ類は卒業後のキャリア形成にかかわるものであり、教職・諸資格等の授業科目は従来通りとなる。本事業実施にあたって育成人材モデルをA地域戦略人材、B企業内リーダーシップ人材、C起業人材と想定し、それぞれに応じたアントレプレナーシップ育成教育プログラムの授業科目群を用意する。

学生の目線から見れば、1年次は共通教育である第Ⅰ類の学修が中心となる。2年次より第Ⅱ類が中心となる

ことはこれまで通りだが、並行して第Ⅲ類が履修できるよう機会を拡充する。学生の特質を見て、適宜、第Ⅲ類のアントレプレナーシップ育成プログラムの履修を薦めるなど、細やかな履修指導を行う。

④内容

上記の第Ⅰ～第Ⅲ類の改編をふまえて卒業要件にも変更を加える。令和2年度において、社会創造系学部群では改革された第Ⅰ類が実施されている。令和3年度からは全学的な施行とした。また第Ⅱ類においては令和2年度にコロナ禍の臨時的取り組みではあったが専門総合の開講を行った。令和4年度からは、第Ⅱ類科目「学融合ゼミナール」、第Ⅰ類科目「リーダーシップ」を実施した。第Ⅲ類科目については、令和3年度にアントレプレナーシップ育成教育プログラムを一部実施し、基礎科目を令和4年度に実施した。

そして、令和5年度より、スキル科目群と実践科目群を開始し、地域戦略人材、企業内リーダーシップ人材（イントレプレナー）、起業人材（アントレプレナー）の3つに分かれたコースを実施した。

①アントレプレナーシップ育成プログラムの開講に際し、以下に取り組んだ。

(1) 履修サポートの構築

3コースを3部署に振り分けて体制を組み、以下を対象（コース登録者）に履修の支援を行った。

- ・起業人材（アントレプレナーコース） 130名
- ・企業内リーダーシップ人材（イントレプレナーコース） 164名
- ・地域戦略人材（公務員コース） 88名

(2) プログラムにかかる授業の開講（第1QT～4QT）

- ・起業人材（アントレコース）：スキル科目13科目（22講座）、ワークショップ科目6講座
- ・企業内リーダーシップ人材（イントレコース）：スキル科目11科目（29講座）、ワークショップ科目10科目（17講座）
- ・地域戦略人材（公務員コース）：10科目（10講座）
- ・夏期間に各マイスターWSにおいてフィールドワークやインターンシップを実施した。
- ・ビジネス実践では、履修者60名全員が企業13社への希望によりマッチング（選考）を行い、5日間～10日間のインターンシップを実施した。インターンシップ後の11月29日には、反省会を企業と合同で実施し（11社参加）、次年度に向けてさらなる連携を強化した。
- ・企業内リーダーシップ人材（イントレプレナーコース）を中心に選抜型インターンシップを実施（12名）
- ・エントリーシートによる応募・面接・2日間の事前研修にて、企業理解や参加目的・目標の整理、ビジネスマナーの基礎を習得し、インターンシップに参加、事後に活動内容とその学習成果の報告会を実施。

(3) 各期末での教員・学生への振り返り

- ・1QT終了に伴う教員へのヒアリング：アントレプレナーコースの17名に学生状況ヒアリングを行い、意欲状況や授業進行にかかる問題点の共有・協議を行った。
 - ・第1QT後に8名の学生ヒアリング、スキル系科目の教員FDを実施し、学生の理解度・動機等と教員の授業運営のマッチングを図った。第2QT後も学生10名に学生ヒアリング、ワークショップとスキル系一部の教員FDを実施し、学生の理解度・満足度等を教員にフィードバックし、第4QTに向けて授業運営の改善を図った（イントレプレナーコース）
 - ・出席状況が芳しくない学生へのフォローアップ：当該学生をリスト化し電話面談にて、今後の履修相談をおこなった（アントレプレナーコース）
 - ・アントレプレナーシップ育成教育本格始動にあたり学生個別の履修登録状況の確認、履修相談を行った（イントレプレナーコース）
 - ・1、2QT終了に伴う学生アンケートならびに教員へのアンケートを実施。
-

(4) その他

- ・SHODAI BUSINESS CAFEの開催：起業家やアントレプレナーシップへの関心が非常に高い学生に対し、科目担当教員の協力により実務家を招集、学生と交流・アイデア創出・ビジネスノウハウの提供をおこなった。これをきっかけに学生がカフェを活用するアイデアを形にし、起業に向けた準備やスキルアップ、起業家や他学生との交流などを通じてビジネス展開の可能性やコネクションを築く。（アントレプレナーコース）
- ・現役公務員の招へい：地域戦略人材としてのマインドを醸成するために、マイスターワークショップでは現役の公務員をゲスト講師として招へいし、リアリティある現場理解や学生のマインドセットをおこなった（地域戦略人材コース）
- ・奨学制度を活用した企業内リーダーシップ人材を中心に選抜型インターンシップを計画・実施した。

⑤令和5年度までの事業概要

- ・第Ⅰ類科目において全学統一カリキュラムを導入、チュートリアル教育の推進
- ・tableauを活用したデータサイエンス授業を実施
- ・令和4年度からのカリキュラム改革を学内の合意形成を経て再編
- ・S D・F Dの推進
- ・第Ⅲ類科目においてアントレプレナーシップ育成教育を導入
- ・アントレプレナーシッププレプログラムの実施、すがもオールキャンパス構想の推進
- ・第Ⅱ類科目「学融合ゼミナール」の全学的導入とクロスディシプリン教育の実証研究
- ・教学I R推進部会によるI R活動の推進、教員評価部会の整備・推進
- ・チューター養成講座の開催とチューターの育成採用
- ・学びのコミュニティと学修支援の推進
- ・地学連携によるフィールドワーク
- ・アントレプレナーシップに則った人材育成のための海外インターンシップ
- ・情報公開・社会とのインタラクションの推進（日経地方創生フォーラムの参画、文部科学省・採択校連絡会での発表、関連団体への発表・投稿、マスメディア等からの取材・ヒアリング等）

⑥令和5年度までの事業内容

本事業は、多面的な性質を持つ地域の課題解決に向けて、異なる専門分野の多様な人材を統合して、調整する新しいリーダー（地域戦略人材）の育成を行う取組みであり、幅広い文理横断の知識や創造力、変化に対応する力、異なる分野のネットワーク結節点となるためのコミュニケーション力等を養成することを目標としている。教育課程として、第Ⅰ類科目におけるチュートリアル教育やデータサイエンス教育、第Ⅱ類科目におけるクロスディシプリン（学融合）教育、第Ⅲ類科目におけるアントレプレナーシップ養成教育を展開し、これらの相乗効果により地域戦略人材の育成を実現するものである。

令和2年度については、総合政策会議等の会議体の設置によるガバナンス体制の強化を行い、学長のリーダーシップの下、事業の推進と確認、規程・組織の整理・改編、各組織の役割の明確化・連携等を推進した上で、S D・F D・情報公開・フォーラムへの参画等を実施した。そして、第Ⅰ類科目における探究科目やデータサイエンス科目については、先行実施・F Dとして一部実施した。データサイエンス教育については、授業設計と運営における強化ポイント等の設定により、学生の「数学」への必要性の意識が高まり、主体的に学ぶ体制やサイクルを構築することができた。また、授業前後の学修支援体制を構築し、欠席した学生や課題に取り組めていない学生への授業前後のサポートの日常化を担当教員チーム間で構築し、次年度に向けて教育のP D C Aサイクルを推進した。

チュートリアル教育については、次年度以降の全学的な導入に向けた準備を進めるとともに、きめ細かな学生への学修支援を実施した。そして、チューターの採用については、チューター養成講座を通して育成採用するとともに、採用後も研修を実施し、チューターとしての資質・技能の向上を図った。

学修支援については、学生の視野を広げるとともに、主体的な学びを支援することを目的として、独自講座「学びのコミュニティ」において、チュートリアル教育を推進する総合学修支援機構D A Cと図書館が連携しながら、対面とオンラインを併用して、学びに生きる読書生活の創造、新しい学びのための図書館活用（著作権等の知識・理解）、A I 社会、メディア社会、文学、哲学等の様々な講座の企画・運営にあたり、学部を超えた学生の参加があった。

令和3年度においては、第Ⅰ類科目の統合型教養教育において、「人間の探究」・「社会の探究」・「自然の探究」を学生の必修科目として全学的に展開した。「人間の探究」は対自己力、「社会の探究」は対人力、「自然の探究」は対課題力をテーマとして共通のパートを構成している。これらの科目では、汎用的なスキルの取得を目指しており、具体的には、主体的学修態度、知識理解・活用力、表現力、課題探究・解決力、情報データ活用力、対人力、セルフマネジメント、チャレンジ精神、地域密着力等の育成を目指している。加えて、「データサイエンス」についても必修科目とし、社会に出た際の欠かせないスキルとして、データに強い学生を育成することを目標として教育活動を推進している。これらの科目により、学生は、社会や地域の問題発見力や課題解決力を身につけることを目標としている。

そして、本事業での学びは、学生が社会で必要な汎用的スキルを第Ⅰ類科目（学修基礎）で身につけ、第Ⅱ類科目（専門科目）でそれぞれの専門分野を学修し、この段階で他分野の学びを統合・関連付け、思考する学融合の視点を会得しながら、社会で活躍できる知識と実践力を身につけるための第Ⅲ類科目を履修することで、アントレプレナーシップの養成を行うことを目指している。

指標とプログラム、評価法の確立については、教学I R推進部会及び外部評価委員会を設置・開催し、情報交換・意見聴取等を実施した。今後の事業の課題や意見を聴取することができ、取り組みの参考意見・改善課題とすることができた。

データサイエンス教育については、データサイエンス授業設計と運営における強化ポイントを貫いたことで、学生の「数学」の必要性の意識が高まり、主体的に学ぶ体制やサイクルが構築できた。また、授業前後のオンラインでの学習支援体制を構築し、休んだ学生や課題に取り組めていない学生への授業前後のサポートの日常化を教員間（担当教員チーム）で構築し、教育のP D C Aサイクルを推進した。

第Ⅲ類科目アントレプレナーシップ養成教育については、試行（プレ）プログラムとして、希望する学生を対象に、活動テーマを示し、正課外のプログラム（非単位プログラム）として展開し、意欲のある学生がそれぞれのテーマに参加した。全てのプログラムで、企業や自治体との協働も試み、学生はチームでの動き方、学外の社会人への接し方、積極性、組織内での合意形成力や調整力、発想力等を実践的に学ぶことができた。

その他、学生調査・企業調査・卒業生調査等を行い、学生の能力・資質等の現状分析、社会が求めている学生の能力・資質や教育活動等の情報を収集・分析し、学生への教育内容や学修支援に活かせるように学内で共有・検証を行った。

教育課程については、本事業の授業科目の再編により、卒業要件の変更を実施した。このことにより、第Ⅰ類科目・第Ⅱ類科目・第Ⅲ類科目の接続がより有意義なものとなり、全学において育成する人材像のイメージがより明確になることを目的としている。卒業要件については、社会福祉学科を除く全学科において第Ⅱ類科目の履修単位を70単位以上に改正した。そのため、一定数の学生が単位以上を履修する可能性があるため、第Ⅱ類科目である各学科の専門科目が70単位で完結するように、各学科において、コアカリキュラムの見直しを、カリキュラムマップ等を用いて設定をした。なお、第Ⅲ類科目は卒業要件24単位以上とし、選択必修4単位を除く、残りの20単位を履修モデルに沿って選択履修していくようにしている。

3つのポリシーについては、全学科のDPについて「知識集約型社会を見すえて、自らの専門分野の学問領域

と他の学問領域を統合的に学び、多面的・重層的な思考をすることで、複雑で多様な現代社会の課題に応えることができる」という文言を増補した。また、学則・履修規程などを改正し、卒業要件・制限単位（緩和の方向）、第Ⅲ類科目に関しての規程を改正した。さらに、大学のDPにおいて、Society 5.0 で実現する変化の激しい知識集約型社会を生き抜くための新たな目標として、「新共生主義」及び「地域人スピリット」を養成する等の文言を明記した。

令和4年度においては、第Ⅰ類科目「リーダーシップ」、第Ⅱ類科目「学融合ゼミナール」を全学的に実施した。「リーダーシップ」は、課題と向かい合う上に必要なリーダーシップについて、ワークを交えながら経験的に学び、学生が自身のリーダーシップ観を知り、またそれを再構成する教育内容としている。「学融合ゼミナール」は、所属学科の専門領域を中心としつつ他領域の知識・技能の修得を意識させる教育内容としている。ゼミナールにおいて、学生は、学融合的な学びの基本的方法を学び、幅広い学融合の知識や創造力、従来の枠組みを超えた学融合的・学際的な視点を身につけ、時代の変化に合わせて社会を牽引し、あるいは支えていく人材の育成、学融合・学際的な知識を養成することができる。

第Ⅲ類科目については、資格課程・キャリア形成・アントレプレナーシップ人材養成に資する科目群の位置付けとして改正し、アントレプレナーシップ育成教育プログラムを設けた。基礎科目として、「超スマート社会論」、「新共生社会論」、「地域人イズム論」、「アントレプレナーシップ論」を設けた。全学生は、2科目4単位を選択必修とし、アントレプレナーシップ育成教育プログラム修了を目指す場合、3科目6単位を選択必修とした。

令和5年度においては、アントレプレナーシップ育成教育プログラムにおける履修モデルに基づく3つのコース（A. 地域戦略人材：公務員コース、B. 企業内リーダーシップ人材：イントレプレナーコース、C. 起業人材：アントレプレナーコース）を開始した。

これらのコースには、新ビジネス開拓、既存の仕事や事業の改革、人やコミュニティづくりなど新しいことに一歩を踏み出し、社会に貢献できる能力を「知識」と「実践」の融合により修得する科目を設けている。講義では、様々な分野で活躍する方々から話を聞き、地域を題材とした学びと活動を一体化したワークショップやインターンシップなどの実践的な学びを通して、新しいことにチャレンジするアントレプレナーシップの修得を目指す。プログラムは、基礎科目・スキル科目・実践科目から構成され、これらの科目を24単位以上修得することにより、修了証を授与する。

また、「学融合ゼミナールⅡ」の開講とクロスディシプリン研究紀要の発行、学融合ゼミナールにおいて選出された学生によるプレゼンテーションである「学融合サミット」の開催等を行った。

情報公開については、令和5年度「知識集約型社会を支える人材育成事業（DP）」成果発信シンポジウム、「知識集約型社会を支える人材育成事業（DP）」共通テーマ4参加校合同主催・教学マネジメントセミナー2023ポスターセッション、数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム関東ブロック第4回ワークショップ、第12回Tableau大学ユーザー会にて本事業の紹介を行った。

3つのポリシーについて

本事業において育成する「地域戦略人材」とは、「多面的な性質をもつ地域の課題解決に向けて異なる専門分野の多様な人材を統合し、調整する新しいリーダー」をいい、具体的には、以下のような力をもった人材の育成が求められます。

- ✓学融合からの視点、多様な視点からの課題アプローチ
- ✓具体的課題に対して的確な事実認識を行い、解決のための知恵を生み出す知識・技能
- ✓主体的に解決策を提起する態度・意識
- ✓複数分野のネットワークの結節点となるためのコミュニケーション能力

そのため、「大正大学3つのポリシー」における「ディプロマ・ポリシー」及び「カリキュラム・ポリシー」を次のとおり改正し、各学科における「ディプロマ・ポリシー」についても増補しました。

【大学】

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

大正大学（以下「本学」という。）の建学の理念は「智慧と慈悲の実践」です。仏教では自らのためだけではなく、他者の幸せを願って修行する人を菩薩といいます。本学で学ぶすべての人が菩薩のように物事を正しく認識・判断し、実践・行動する人間となることを本学は求めています。

また、本学は、Society 5.0 で実現する変化の激しい知識集約型社会を生き抜くための新たな目標として、「新共生主義」及び「地域人スピリット」を掲げ、学際的な研究・学融合型の教育を目指します。この「新共生主義」及び「地域人スピリット」を実現するために、教育ビジョン「4つの人となる—慈悲・自灯明・中道・共生」を規範として示します。

「慈悲」の人となるとは——、

「生きとし生けるものに親愛のこころを持てる人となる」こと。

生きとし生けるものに親愛のこころを保ち続け、心を開き、よりよいコミュニケーションができる。

「自灯明」の人となるとは——、

「真実を探究し、自らを頼りとして生きられる人となる」こと。

自ら「問い」を立て、社会・地域の問題解決のために、さまざまな知識を得て、学融合的な考察ができる。

「中道」の人となるとは——、

「とらわれない心を育て、正しい生き方ができる人となる」こと。

社会・地域に貢献する人材となるために人柄を磨き、かたよりやこだわりから自由になり、さまざまな意見に耳を傾けて行動ができる。

「共生」の人となるとは——、

「共に生き、ともに目標達成の努力ができる人となる」こと。

目標を実現するために挑戦を繰り返す態度と姿勢を育み、自ら「学び」と実践・行動に信念を持ち、ふりかえりを通して行動の改善ができる。

そして、本学は地域主義の立場に立ち、どの学部、学科で学んでいても地域を愛し、生活の基礎となる地域の活性化のためにアントレプレナーシップを発揮し、貢献する「地域人スピリット」を養成します。これらの教育ビジョンに基づき本学では、以下の各資質・能力を総合的に身につけた学生に対して学位を授与するものとします。

知識・技能

- ①社会においてよりよく生きるための力となる知識や技能を、専門的な知識と実践的な経験の統合によって身につけている。〈自灯明・中道〉
- ②自らの専門分野とする学問領域の学修内容と研究方法を理解し、現実社会の中で活用できる。〈自灯明・中道〉

思考・判断・表現

- ③自ら問いを立て、多面的かつ重層的に思考することによって、課題解決への道筋を論理的に探究することができる。〈自灯明・中道〉
- ④己の立場にとらわれず、意見や価値観の異なる人々の考えを傾聴した上で、自らのそれを再構築し、論理的・創造的に表現することができる。〈中道・自灯明〉

関心・意欲・態度

- ⑤自立的・自律的な生き方を志向する中で、地域・社会・世界における課題の当事者としての自己を再発見することができる。〈自灯明〉
- ⑥より良い地域や社会の形成と発展に寄与していくために、利他の精神をもって主体的かつ実践的に学習成果を活かそうとする姿勢を身につけている。〈共生・慈悲〉
- ⑦他者に対して親愛の情を抱き、互いを尊重しながら、ともに目標を達成しようとする協働性を身につけている。〈慈悲・共生〉

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本学では、教育ビジョン「4つの人となる」及び本学が目指す新時代の人材像の礎を築くために必要な資質・能力を育成するために、共通教育科目である「第Ⅰ類科目」、学科の専門教育科目である「第Ⅱ類科目」、資格取得とキャリア形成及びアントレプレナーシップ養成に関する「第Ⅲ類科目」を設置し、初年次から卒業までに学ぶ諸科目を有機的に連携・接続させた教育課程を編成しています。

また、知識を習得するだけでなく、思考力・判断力を育むために、アクティブ・ラーニングやフィールドワーク等を積極的に取り入れ、双方向で実践的な学びを重視した教育方法を採用しています。評価については、4年間の学習成果を測定する総括的評価だけでなく、教育活動の過程で学習成果を測定する形成的評価を行っています。

教育内容

①第Ⅰ類科目：共通教育においては、旧来型の知識習得中心の教育システムを改め、学融合・統合型教育として、社会の課題と向き合い、変化に対応できる能力を養い、未来を生き抜くために必要な知識と技能を獲得するための教育と位置付けています。そして、主体的学修態度の涵養、知識理解・活用力、表現力、課題探究・解決力、情報・データ活用力、対人力、セルフマネジメント、チャレンジ精神、地域密着力などの習得とキャリア意識の醸成を目標とし、人間の探究、社会の探究、自然の探究、総合英語、データサイエンス、リーダーシップという科目を設けています。

「探究」は、主体的学習態度、知識理解・活用力、表現力、課題探究・解決力、情報・データ活用力、対人力、セルフマネジメント、チャレンジ精神、地域密着力を、人間・社会・自然というテーマに即して統合的に育成す

るための科目です。

「データサイエンス」は、データを活用して課題を解決するための論理的思考力とデータリテラシーを修得する科目です。

「リーダーシップ」は、思考力や交渉力を磨き、社会人として活躍できるコミュニケーション力やチャレンジ精神の育成を目指す科目です。

「総合英語」は、異文化間でのコミュニケーションに欠かせない英語の4技能を身につけるほか、グローバルな意識をもって進んでコミュニケーションができる力の育成や異文化理解の態度を養成する科目です。

②第Ⅱ類科目：専門教育においては、各専門分野における知識・技能を体系的に修得するとともに研究方法の理解と実践を進めるため、学部共通科目、専門ゼミナールのほか、選択科目として方法研究科目、応用科目などを系統的に配置します。

また、「学融合ゼミナール」を配置し、自らの専門分野の学問領域と他の学問領域を統合的に学び、多面的・重層的な思考をすることで、複雑で多様な現代社会の課題に応えることができることを目指します。

③第Ⅲ類科目：第Ⅰ類科目、第Ⅱ類科目をベースに、社会との接続を実践しながら、学生のキャリア志向によって、国家資格・認定資格取得のための科目、企業研究や地域との協働による科目、専門性をより高めるための科目、新しい価値創造を企画・実現し、組織内においてもリーダーシップを発揮できる人材を育成するアントレプレナーシップ養成科目を設置します。

教育方法

共通教育・専門教育のいずれにおいても、双方向的で実践的な学びを重視したアクティブ・ラーニングを実施しています。そのなかで、地域・社会・世界におけるさまざまな課題に対して、他者との協働を通じて課題の解決や探究に取り組む機会、また地域・社会の教育資源を活用した「フィールドワーク／サービスラーニング」等の機会を提供しています。

これらの学びを機能させるために講義のみならず、グループワークにおいて学生が相互に学び合うピアインストラクションやディスカッションなど、さまざまなアクティブ・ラーニングの手法を取り入れます。また、特にⅠ類においては、専任教員と複数のチューターやティーチング・アシスタント等が授業及び事前・事後の授業外学修をサポートするチュートリアル教育・チームティーチングを実施します。

専門教育においては少人数からなるゼミナールやワークショップを通じて専門的な知識や技能を身につけます。また、卒業論文・卒業研究を全学生に課すことにより、学修成果を理論的・創造的に発表する機会を設けます。

また、授業の進捗状況において形成的評価を採用し、到達目標に対する学生の達成度をはかり、柔軟な姿勢で教育に取り組んでいます。

評価

①共通教育においては、教育目標の到達度を確認するために、小テスト、プレゼンテーション、課題レポート、エッセイ等を課し、学修成果を総括的に評価します。

② 4年間の総括的な学習成果については、全学生に課される卒業論文あるいは卒業研究・卒業制作とその発表に対して、担当教員による評価と口述試験を行い、ディプロマ・ポリシーで示された資質・能力の達成状況を評価します。

③また、卒業時には、カリキュラム改善の指標とするため、質問紙法や面接調査法を用いて学生生活全般に対する総括的評価を行い、カリキュラムのPDCAサイクルを推進します。

④学部教育の改善については、各学部の学びの特徴に応じたカリキュラムアセスメントを実施し、教育課程を随時見直します。

【学科】

ディプロマ・ポリシー (DP)

思考・判断・表現

知識集約型社会を見据えて、自らの専門分野の学問領域と他の学問領域を統合的に学び、多面的・重層的な思考をすることで、複雑で多様な現代社会の課題に応えることができる。

(3) 事業の成果

情報公開

- ①第12回Tableau大学ユーザー会において、「前期共通教育におけるTableauを活用したデータサイエンス教育プログラムの4年目の報告」というテーマで、前田教授・尾白准教授が発表をしました。
- ②数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム関東ブロック第4回ワークショップにおいて、前田教授・君島部長が講演を行いました。
- ③「知識集約型社会を支える人材育成事業（DP）」共通テーマ4参加校合同主催・教学マネジメントセミナー2023 ポスターセッションに参加しました。
- ④令和5年度「知識集約型社会を支える人材育成事業（DP）」成果発信シンポジウムに前田教授、人文学科赤野間さんが登壇しました。

学生の活躍

- ①ミタカ・ミライ研究アワードで公共政策学科の2年生4名、松村斗和さん、百足明莉さん、福田瞭我さん、齋藤優也さんが優秀賞を受賞しました。
- ② Tableau Student Ambassadorに人間科学科新里元大さんが選出されました。
- ③学融合サミット2023において、地域創生学科、歴史学科、社会福祉学科、日本文学科の代表学生が集まり、学融合ゼミナールで学んだこと、気付いたことについての発表を行う「学融合サミット2023」を開催しました。

「学生によるミタカ・ミライ研究アワード2023」

【優秀賞】心も、体も、満タンに。ミタカ・スポーツ

僕らが中年になったとき、変わらず健康でいられるように。みんなで実行せよ！DoSports！

提案者：大正大学 社会共生学部 公共政策学科 チーム名「大正石油」

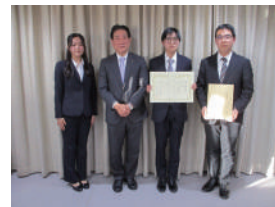


Tableau Ambassadorについて

Salesforce（本社：米国）は2023年度の「Tableau Ambassador」を発表し、心理社会学部人間科学科3年生の新里元大さんが選出されました。

Tableau Ambassadorは、Salesforceのビジュアル分析プラットフォームであるTableauの使用を様々な方法で広めるリーダーや伝道師としての役割を果たします。

今年度は全世界から354人が選出され、その中には日本からの選出者も20人含まれており、その中で大学生の「Tableau Student Ambassador」として4人が選ばれました。

新里さんは、データサイエンスの科目でチューデントアシスタントを務めるだけでなく、12月4日に開催されたオープンキャンパスでは高校生を対象にした「Tableauを使ってビジュアル・アナリティクスを体験しよう！」というハンズオンセッションの講師を務めており、学外のデータ分析のコンテストにも積極的に参加しています。



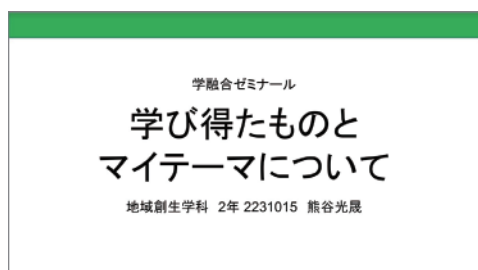
学融合サミット2023

令和5年7月26日に地域創生学科、歴史学科、社会福祉学科、日本文学科の代表学生が集まり、学融合ゼミナールで学んだこと、気付いたことについての発表を行う「学融合サミット2023」を開催しました。当日は、「学融合ゼミナール」を担当するⅡ類コーディネーターの教員から学生の紹介もあり、学生への表彰も行いました。

学生の発表内容については、UR-note (LMS) に掲載して、各学科の学生が意見交換も実施しました。

※「学融合ゼミナール」については、クロスディシプリン教育チームが各学科の第Ⅱ類コーディネーターと協働として企画・運営にあたっています。7月の昼休みには「学融合サロン」として学生とチーム長の意見交換会も実施しました。

■ 「学び得たものとマイテーマについて」 地域創生学科 熊谷光晟さん



■ 「茂原市の災害」 歴史学科 神明美優さん



■ 「外国人ホームレス」 社会福祉学科 千葉美咲さん



■ 「子供と貧困～貧困家庭の子どもが裕福になれないのはなぜか～」 日本文学科 清水唯梨花さん 鈴木彩花さん 鈴木遼人さん 高橋滯さん



令和5年度 データサイエンス特別プログラム実施結果

◆令和3～6年度 検定&資格取得目標◆

	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
取得率目標	0%	30%	50%	80%

◆令和5年度夏合格者数進捗状況◆

講座(講義)	目標数(学生数)		実績(学生数)			合格率		目標達成率	
	受講者数	合格者数	受講者数	資格試験受験者数	合格者数	受講者数に対する合格率	受験者数に対する合格率	受講者数達成率	合格者数達成率
Tableau Desktop Specialist	30	15	86	57	56	65.1%	98.2%	286.7%	373.3%
統計検定4級	30	15	40	25	22	55.0%	88.0%	133.3%	146.7%
MOS Excel 一般	100	55	142	95	93	65.5%	97.9%	142.0%	169.1%
MOS Excel上級 (NEW)	15	7	49	38	36	73.5%	94.7%	326.7%	514.3%
合計	175	92	317	215	207	65.3%	96.3%	181.1%	225.0%

令和5年夏の課題	令和4年夏実績	令和5年夏実績	評価
受講人数の向上	155人	317人 (+162人)	◎
受験者率の向上	60%	68% (+8%)	△
統計検定の合格率の向上 (対受験者数)	77%	88% (+11%)	○

【参考】令和4年度夏&春計

講座(講義)	受講人数	資格試験受験者数	合格者	受講者に対する合格率	受験者数に対する合格割合
Tableau Desktop Specialist	43	28	28	65.1%	100%
MOS Excel 一般	205	144	140	68.3%	97%
統計検定4級	75	46	39	52.0%	85%
合計	323	218	207	64.1%	95%

令和5年度_特別プログラム_実施概要

NO	名称	対象の資格・試験	特別プログラム実施計画				対象者(推奨)	資格・試験の主催
			R4夏	R4春	R5夏	R5春		
1	Tableau Desktop Specialist 対策講座	Tableau Desktop Specialist	→				データサイエンス I～VI修了学生	Tableau Software
2	MOS Excel 一般レベル 対策講座	マイクロソフト オフィス スペシャリスト Excel 一般レベル	→				特に指定なし	Microsoft
3	統計検定4級 対策講座	統計検定4級	→				特に指定なし	一般財団法人 統計質保証推進協会
4	MOS Excel 上級レベル 対策講座	マイクロソフト オフィス スペシャリスト Excel 上級レベル			開始	→	Excel 一般レベル 資格保有者	Microsoft
5	統計検定3級 対策講座	統計検定3級			新規	→	統計検定3級 資格保有者	一般財団法人 統計質保証推進協会

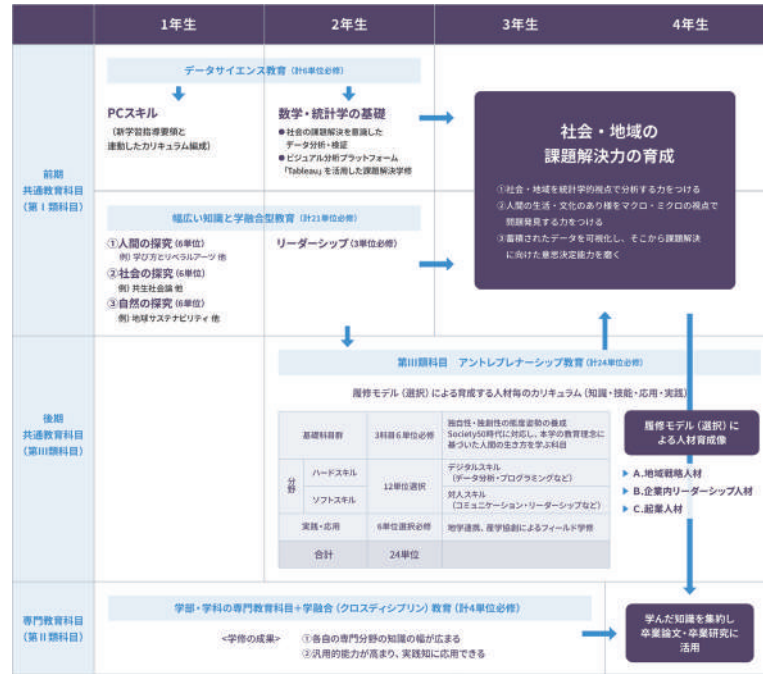
「新時代の地域のあり方を 構想する地域戦略人材育成事業」



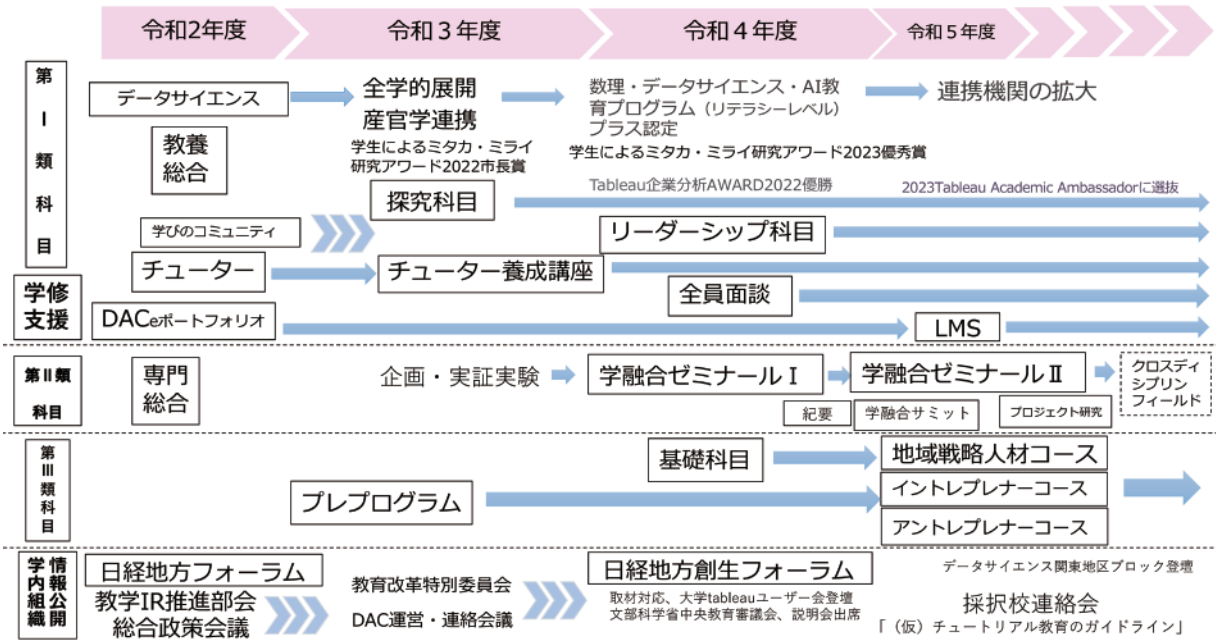
当初の計画とこれまでの成果



当事業により育成する人材像と教育体系



これまでの実績と成果について



計画と主な取組み（全般）

計画	取組み（予定含む）
<ul style="list-style-type: none"> 第Ⅰ類科目において全学統一カリキュラムを導入。 チュートリアル教育とDAC e-ポートフォリオの運用 DAC e-ポートフォリオ機能拡張のための開発開始 総合学修支援施設・図書館及び教育機能を持つ諸施設の整備 	<ul style="list-style-type: none"> 第Ⅰ類科目の全学的導入（探究科目、データサイエンス、リーダーシップ） 全員面談（1年生）、DAC e-ポートフォリオ（LMSへ移行）の「学びと成長の記録」の活用 データサイエンス教育による産官学連携と学生のコンテスト等の参加等支援 「学びのコミュニティ」の実施（総合学修支援部・図書館）
<ul style="list-style-type: none"> 第Ⅱ類科目における学融合カリキュラムの本格実施 	<ul style="list-style-type: none"> 学融合ゼミナールⅠ・Ⅱの実施 「クロスディシプリン紀要」の発行 学融合サミット、学融合サロン 「プロジェクト研究」、クロスディシプリンフィールドワークの実施
<ul style="list-style-type: none"> 第Ⅲ類科目の本格実施 地学連携によるフィールドワークを本格実施 	<ul style="list-style-type: none"> ブレプログラムの企画・実施、基礎科目の全学的実施 第Ⅲ類科目アントレプレナーシップ育成教育 「人材育成像」に合わせた履修モデル3コースの実施、すかも街なか教室の活用
<ul style="list-style-type: none"> 他大学への波及、情報公開 	<ul style="list-style-type: none"> 日経地方創生フォーラムへの参画 チューター養成講座 文科省中央教育審議会、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」説明会 仏教系大学会議、tableau大学ユーザー会

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

計画と主な取組み【令和2年度】

計画	実施内容
日本最大級のラーニングコモンズを持つ総合学修支援施設・図書館及び教育機能を持つ諸施設の整備	授業内外の学修支援を行い、独自講座「学びのコミュニティ」については、図書館と総合学修支援機構DACが協力して推進した。
教学ガバナンス体制の強化に向けた総合政策会議の立ち上げ	各部署・各組織の役割を明確化・周知し、本事業における学生への教育活動・教育支援活動を推進することができた。
1年生の50%に対しビッグデータ・Tableau 研修を取り入れたデータサイエンス授業を実施	tableauによる問題解決・価値創造型の産学連携による実践的教育を推進した。
各学科の専門教育（第Ⅱ類）に学融合を目的とした専門総合（2単位）の科目を増設（対面、ないしオンラインと対面の併用にて運用）	学部・学科の枠を越えた第Ⅲ類科目または他学科第Ⅱ類科目として開講し、自らの興味・関心と学修計画に応じて履修することを可能とした。
データサイエンス教育ラボラトリー開設	データサイエンス教育ラボラトリーの設置により、既存の教員へのFD・SDの実施や学生に対する学修支援等を推進することができた。
DAC 総合学修支援機構を再編し、2つの研究所と各種ラボラトリーを並立、連携させて事業を推進	学融合・統合型教養教育、チュートリアル教育、データサイエンス教育、アントレプレナーシップ教育、地域連携型教育について、各組織の役割・意義が明確となり、事業を適切に推進することができた。

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

計画と主な取組み【令和2年度（2）】

計画	実施内容
チュートリアル教育において、全学生に対し次年度への導入教育を実施。教育成果報告書を発行	チームティーチング授業として、教員の専門性や特性を活かした授業設計を教員が共同して行い、リフレクションやテスト結果に対応した教員・チューターの学修支援もきめ細やかに実施し、成果報告書も刊行した。
令和4年度からの第Ⅱ類のカリキュラム改革を学内の合意形成を経て構築	第Ⅰ類科目、第Ⅱ類科目、第Ⅲ類科目を通じて、複数の(分野を越えた)専門知を組み合わせて学修させることによって、学生が社会や地域の課題を解決できる能力、資質を養成する体制を整備した。
教員の資質・能力の開発・向上と評価に関するプログラム開発	教職員において総合的データ分析力と、分析に基づく未来予測・意思決定・企画立案能力の発展を目指すSD・FDを実施した。
FD・SDの基本方針・実施施策を決定。事業化に向けて規程整備	FD活動の規程化、データサイエンス・DX・tableau等のSD活動をSD計画の中に位置づけることができた。
地学連携によるフィールドワークなどのカリキュラム開発	すかもプロダクトラボ等の場所を活用して、通年で授業を展開するための調整や準備を行った。

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

計画と主な取組み【令和3年度】

計画	実施内容
全学共通の選択科目（第Ⅲ類科目）においてアントレプレナーシップ養成教育を導入	教育課程の改正により、第Ⅲ類科目にアントレプレナーシップ育成教育プログラムを位置付けた。
第Ⅰ類科目において全学統一カリキュラムを導入。クォーター制、チュートリアル教育とDAC e-ポートフォリオの運用	令和3年度より、第Ⅰ類科目を全学部を実施し、DACe-ポートフォリオに「学びと成長の記録」の作成を行い、この記録をもとに夏期・冬期に「学生面談」を実施した。
学内のラーニングコモンズにおけるチュートリアル教育の推進	専任教員と複数のチューターやティーチング・アシスタント等が授業及び事前・事後の授業外学修をサポートするチュートリアル教育・チームティーチングを実施した。
アントレプレナーシップ教育（第Ⅲ類）の部分的実施と実証的実験・評価	試行プログラムとして、活動テーマを示して、課外のプログラムとして展開し、意欲のある学生がそれぞれのテーマに参加した。
産学協創による人材育成教育カリキュラム開発	データサイエンス教育、アントレプレナーシップ養成教育において、連携企業・自治体等とともに推進。

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

計画と主な取組み【令和3年度（2）】

計画	実施内容
第Ⅱ類を想定したクロスディシプリンの教育について実証実験研究開始	令和4年度の実施に向けて、①授業内容設計、②担当教員との共有、③cross先学科との調整、④カリキュラムマップにもとづくシラバス作成の現状、問題点・疑問点等を確認し、全学科において「学融合ゼミナール」が適切に学生に実施できるように準備・検証・確認を行った。
教学IR 推進部会の稼働整備	教学IR推進部会を毎月開催し、大学内における学生諸データの確認・検証、企業調査・卒業生調査・在学生調査企業ヒアリングを推進した。また、学内IR報告会（データサミット）を全教職員対象に2回開催した。
教員評価部会の稼働整備	教員評価部会を設置し、本事業に携わる教員の貢献評価とすることとし、来年度に向けての意見交換を実施した。

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

計画と主な取組み【令和4年度】

計画	実施内容
学融合の教育推進のためのクロスディシプリン教育ラボの研究開始	全学科に第Ⅱ類コーディネーターを設け、意見交換会やアンケートを実施した。また、来年度発行予定の「大正大学クロスディシプリン教育紀要」の依頼や準備を行った。
第Ⅱ類科目における学融合カリキュラムの本格実施	クロスディシプリン教育として、「学融合ゼミナールⅠ」を全2年生に実施した。学生は分野により、専門領域と「地域学」または「人文学」について複合的な観点から学ぶことができた。
第Ⅲ類科目の本格実施	第Ⅲ類科目の本格実施として全2年生を対象に、春学期に「アントレプレナーシップ論」、「超スマート社会論」の2科目、秋学期に「アントレプレナーシップ論」、「地域人イイズム論」、「新共生社会論」の3科目を開講した。そして、次年度からのマイスターワークショップに繋がるプレプロジェクトの実施を行った。
在学期間全体を通じた学びのプロセスを完成	教育課程については、本事業による授業科目の再編により、卒業要件を変更した。第Ⅰ類科目・第Ⅱ類科目・第Ⅲ類科目の接続がより有意義なものとなった。

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

計画と主な取組み【令和4年度（2）】

計画	実施内容
DAC e-ポートフォリオ機能拡張のための開発開始	令和5年度より学務システムを更改することになり、学務システムとマッチング実績を持つシステムを導入することとした。「DAC e-ポートフォリオ」の思想と仕様を引き継ぎつつ、現在本学が進める高大接続・大社接続も視野に入れ、より汎用性の高いLMSを導入することとした。
産学協創（with ソフトバンク）・地学連携による人材育成についての公開フォーラム開催	日本経済新聞社が主催する「日経 地方創生フォーラム アフターコロナの地方創生」が日経ホールで開催され、セッション1「デジタル時代における実践的アントレプレナーシップ教育の成果と課題」にソフトバンク等と参画した。
教育改革特別委員会によって審査・評価・助言を受け、改善された新カリキュラムを公表	第Ⅰ類・第Ⅱ類・第Ⅲ類科目について進捗状況等の報告を行い、来年度からの第Ⅲ類科目アントレプレナーシップ育成教育についての公表を行った。
同委員会による教員の事業貢献評価により、教員評価の報告開始	データサイエンス担当教員2名によるプレゼンテーションと貢献評価・表彰を実施した。

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

計画と主な取組み【令和5年度】

計画	実施内容
地学連携によるフィールドワークを本格実施	「人材育成像」に合わせた履修モデル3コースにおけるワークショップの実施、すがも街なか教室の活用を推進している。
アントレプレナーシップに則った人材育成のための海外インターンシップの本格稼働	アントレプレナーシッププログラム（第Ⅲ類 H 群）に計画されている「海外インターンシップ」を令和5年度に開講し、「一般社団法人アジア学生研修機構 LETS プログラム」を活用して、令和5年8月に実施した。渡航先はベトナムであり、事前事後の研修も実施した。

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

チュートリアル教育の展開 ～総合的学修支援の考え方～

総合的学修支援の考え方～主体的な学修態度の涵養～

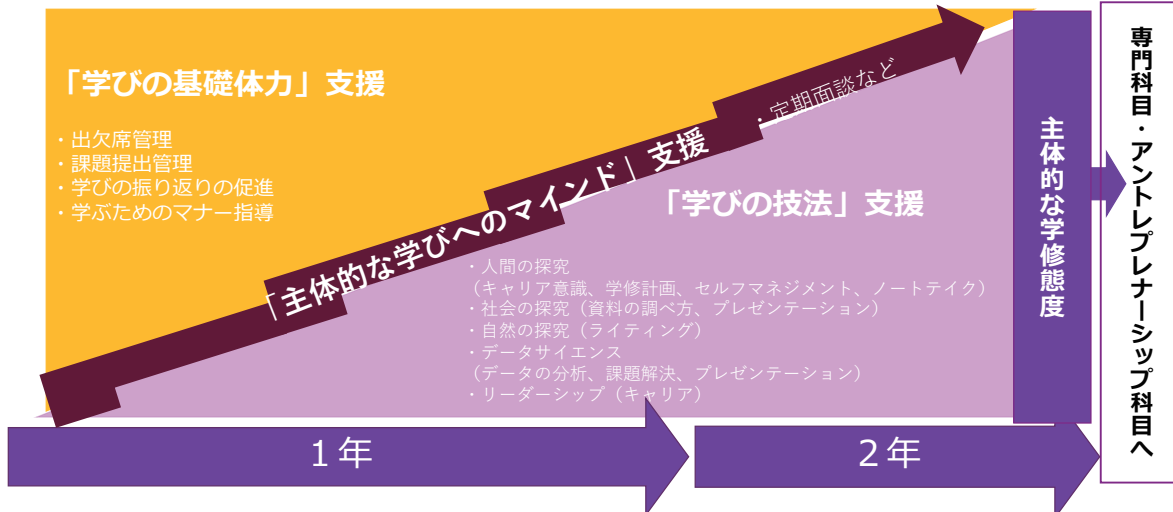
授業と学修支援を通して、以下を育成する。

1. 主体的な学びへのマインド（心）
 - ・自分が大学で学ぶ意味を見出す
 - ・社会課題に対する当事者意識を持てる
2. 学びの基礎体力（体）
 - ・ルールを理解し、学修を習慣化できる
（＝休まず出席する、課題を必ず提出する等）
 - ・自分の学びを振り返る
3. 学びの技法（技）
 - ・課題抽出ができる
 - ・基本的な分析ができる
 - ・解決策を見出せる
 - ・他者に説明できる

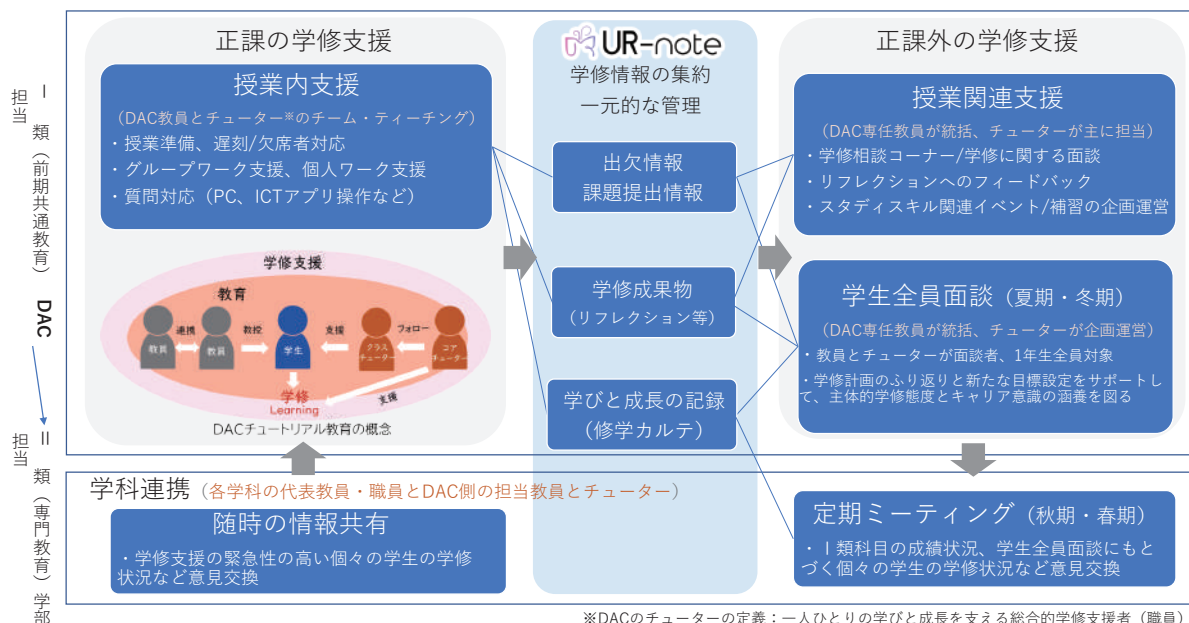


総合的学修支援の考え方～グラデーションをつけた学修支援～

2年次以降専門科目（Ⅱ類）とアントレプレナーシップ科目（Ⅲ類）の学びへスムーズに移行させること（トランジション教育）を意図し、時期によってグラデーションを付けた学修支援を行う。



総合的学修支援の考え方～組織型の学修支援（DAC「学修支援」の見取り図）



2. 事業の報告

(1) 新時代の地域のあり方を構想する地域戦略人材育成事業



学長
神達 知純

(1) はじめに

本学は開学以来、建学の理念である「智慧と慈悲の実践」を教育・研究の根幹とし、社会の動向を見すえた教育の改革を行ってきました。

令和2年度からは「新時代の地域のあり方を構想する地域戦略人材育成事業」（以下、地域戦略人材育成事業）に取り組み、当事業は文科省の「知識集約型社会を支える人材育成事業」に採択されました。本学における「地域戦略人材」とは「多面的な性質をもつ地域の課題解決にむけて異なる専門分野の多様な人材を統合し、調整することができる人材」と定義します。つまり、当事業をもって本学は新時代の地域におけるリーダーを育成することを宣言したのです。

近年の大正大学は「地域主義」を掲げてきました。平成26年に地域構想研究所、平成28年に地域創生学部を設置し、東京において地域課題を解決するための教育・研究活動を開始しました。また、100を超える地方自治体と連携協定を結んでおり、情報交換や交流を行っています。次の段階として、本学はただ地域を志向するだけではなく、地域課題の解決に資する人材を育成する特色ある大学として社会的な評価を確立することを目指すとしました。

もともと大正大学は地域課題の解決のための実践的な教育・研究を行ってきた歴史があります。近年では平成23年の東日本大震災後の被災地復興支援活動を全学的に行いました。このときの支援活動は、一つに街頭募金活動、二つに宮城県南三陸町でのボランティア活動、三つに被災地に居住する同窓生や家族への慰問と三通りに展開されました。二つ目と三つ目の活動については本学の教職員・学生に参加を呼びかけ、春学期の授業開始を遅らせてボランティア活動期間に充てました。この活動は本学が地域連携活動に注力をする端緒となり、翌年には鴨台プロジェクトセンターを設立し、TSR（大正大学の社会的責任）による社会貢献活動を始めました。

これが契機となって近隣地域である巣鴨との交流活動が活発になり、現在では鴨台盆踊りをはじめとする数々の行事に多くの地域住民の参加が得られています。また、巣鴨の商店街に学生が参画したカフェやアンテナショップを開き、地域貢献活動を通じた学びの機会を学生に提供しています。学生が地域の中に出て行くということも教育のひとつの形です。地域の方々にさまざまなことを教わりながら、学生たちが成長して行ってほしいと考えています。そこで商店街を含めた大学から巣鴨の駅までの一帯を「すがもオールキャンパス」と呼び、ここに4つの学び場を展開するなど「すがもオールキャンパス構想」を推進しているところです。

大正大学が地域戦略人材育成事業に取り組むまでの経緯は以上のようなこととなりますが、社会的な背景にも

言及する必要があります。世界的に Society5.0 という新たな社会像が予想されています。1.0 は狩猟、2.0 は農耕、3.0 は工業、4.0 は情報。そして 5.0 は情報社会を超えた新たな社会といわれており、IoT、ビッグデータ、AI によって経済発展や社会課題の解決が見込まれています。そしてそのような社会を生き抜くためには、さまざまな知識・情報を整理し活用できる力が必要です。大学でもこのような社会の到来を見通して従来型の教育を見直し、汎用的な知識・スキルと深い専門性を両立した人材を育てていくことが求められています。

これをふまえて、大正大学の地域戦略人材育成事業では、学融合やデータサイエンスの学修を基本としてアントレプレナーシップの育成を目指し、課題解決型の実践的な教育を全学で実施することとしたのです。ただし、そのために大きな教育改革が必要となり、令和2年度に全学に及ぶ教育体系の再編を推進しました。

この事業を展開・推進するにあたっては、まず教学マネジメント体制を整え、次に全学的な教育再編を断行する必要がありました。本学では、1年次と2年次に学ぶ共通科目を第Ⅰ類科目、学部学科の専門科目を第Ⅱ類科目、教職関連の資格取得や2年次以降に履修する諸科目を第Ⅲ類科目としておりましたが、これら全ての教育課程を課題解決型の実践的かつ学融合的な教育に変革し、総合的な学修支援体制を確立することをテーマのもとで再編成しました。ただし全学共通教育を改編するのは大変負荷のかかることです。当事業を全学的に大胆に推進していることは、本学の取り組みの大きな特徴のひとつだと自負しております。

当事業の推進に伴った教育改革は、まず令和3年度には第Ⅰ類教育の改編、令和4年度には第Ⅱ類教育において全学科で「学融合ゼミナール」の開講、同年には第Ⅲ類教育でアントレプレナーシップ育成教育の基礎科目の開講、令和5年度にはそのスキル科目と実践科目の開講と推移しています。そのため、当事業に関連する教育を1年次から受けている初年度の入学生たちは令和5年度に3年生、つまり令和6年度の卒業生となるわけで、この学生たちが社会に出てどのような成果を見せるかということ、私たちも非常に楽しみにしているのです。

(2) チュートリアル教育とデータサイエンス教育の導入

第Ⅰ類は全学部で共通して1・2年次に履修する科目群であり、本事業を展開するにあたって「人間の探究」「社会の探究」「自然の探究」「データサイエンス」「総合英語」「リーダーシップ」、計30単位を必修と決めました。これまでも第Ⅰ類は本学の共通教育を担う重要な科目群でありましたが、本事業推進に伴い、主体的学修態度の涵養をはじめ、より汎用的な資質・能力を育成することに重きを置いた教育へとシフトすることとなりました。改革の肝となったのは、チュートリアル教育とデータサイエンス教育の導入です。

まずチュートリアル教育について、第Ⅰ類教育において教員・職員とは別に、チューターという職種を設けました。そして、学修支援体制を確立し、複数の教員とチューターによるチームティーチング授業を展開しています。これを本学ではチュートリアル教育と呼んでおり、「探究」「データサイエンス」等のⅠ類の授業を複数の教員とチューターによって実施し、授業時間外においても手厚い学修支援が実施されています。教員・職員と異なる第三の職種として多数のチューターを雇用し、授業内外で学生の学修を支援する体制を整えたと言えます。

一方、学生の学びに向き合う態度をどのように見ているかということ、チューターと教員が1年生全員を対象にした個人面談を、夏と冬の2回、定期的実施して、そこで個々の学修状況を細かくチェックし、その記録にもとづいて学科と連携をとりながら、適切な学修支援を施しています。また、チューターは、学修の心・技・体が伴わない学生に寄り添うだけでなく、より高度な学修を望む学生には第Ⅱ類・第Ⅲ類への橋渡しの役割をも担います。そして、本学では独自の「チューター育成プログラム」を通じてチューターの採用を行っています。

データサイエンス教育については、文系の大学の本学にとってデータサイエンス教育を全学必修とすることにはさまざまな意見がありました。しかし、企業や自治体との協力による課題解決型の授業は学生の満足度も高く、それだけではなく学生が学外コンテストで優秀な成績を収めるなどの成果をも挙げています。そのような意味で、データサイエンス教育の導入は本学においてひとつの成功事例として評価されています。令和4年度には、文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」のリテラシープラスに認定されました。

データサイエンス教育が一定の成果を挙げた理由のひとつに、前述したチュートリアル教育体制を確立したことがあります。データサイエンスに苦手意識をもつ学生がいるのは言うまでもありません。そのような学生たちに効果を発揮したのはプッシュ型の学修支援です。授業でわからないことがあったときに学生が教員に質問に行くのは通常ですが、なかなか前に進めない学生もいます。本学ではチューターが学生を丁寧にサポートし、学生の背中を押す役割を担っています。このようなチュートリアル教育がデータサイエンス教育にひとつの成果をもたらしました。

(3) 学融合教育の導入

第Ⅱ類は学位取得の根幹となる学科の専門教育ですが、ここに学融合を内容とする「学融合ゼミナール」という科目を必修と決めました。A学科とB学科をクロスさせ、2年次には地域課題に関するテーマ、3年次には現代社会に関するテーマを学ぶこととなります。A学科の受講生たちはB学科の専門領域に触れることができ、複眼的な視野を獲得することが期待されています。将来的には学科の枠を越えた学生たちの交流がより活発になることをめざします。

(4) アントレプレナーシップ育成教育の導入

第Ⅲ類科目はもっとも整理する必要のあった学群でした。もともとⅢ類は教職課程等の諸資格希望者には明確な位置付けをもっていましたが、それ以外の学生には「Ⅰ類・Ⅱ類以外の科目群」といった理解をする者もいました。教職課程を例に挙げれば、教員をめざす学生にとって第Ⅲ類科目はみずからの卒業後のキャリアを形成する大事な教育課程です。第Ⅲ類改編はその考えかたに則るものであり、Ⅲ類が学生にとって卒業後のキャリアに関わる重要な学びであると位置付けました。

第Ⅲ類改編の目玉はアントレプレナーシップ育成教育の導入でした。アントレプレナーシップを身につけるとは、一般的に新しいビジネスを起こす人、起業する人という意味になります。しかし本学ではその意味ではなく、課題に対して積極果敢にチャレンジする人、あるいは新しい価値を創造する人という意味で用いています。学生達は第Ⅰ類において社会で生きるために必要な汎用的なスキルをある程度身につけています。また第Ⅱ類では高度な専門性を身につけるまでには至っていないにせよ、それぞれの専門の基礎を履修した段階にあります。そのような学生たちが第Ⅲ類の受講対象者となります。その段階で身につけている知識や技能を実践するための装置がこのアントレプレナーシップ育成教育です。

アントレプレナーシップ育成教育はイシュー型の実践科目が中心となるプログラムです。2年次後半の基礎科目から始まり、ソフトスキル科目、ハードスキル科目と積み上げていき、最終的には4年次にマイスターワークショップを履修することで完成します。

アントレプレナーシップ育成教育の成果は、本課程を履修した学生たちがどのようなキャリアを形成するかによります。本学としても大いに期待するところとなります。

(5) 課題と展望

以上のように、本学での当事業は展開してきました。

現在の課題については次のとおりです。当事業において共通教育の大幅な改編を行いました。学科との連携を確固たるものとして、共通教育と専門教育との実質的な接続を実現しなければいけません。ただし、汎用的な資質・能力の育成をめざす共通教育と専門的な知見を修める専門教育をつなげることは思いのほか難しいと感じています。

また、このような教育課程を通じて学生がどのようなキャリアを形成するかについては、今後も意識する必要があります。LMS等の活用により、学修成果の可視化を通じて、不断の教育改善と学生の学修意欲向上に努め

る必要があります。

さて、汎用的な資質・能力の育成、共通教育の改編は、本学のみに限った話ではなく、わが国の高等教育機関で広く推進されているところです。これは先述の社会的背景もあって、すでに平成24年の中央教育審議会答申では、『大学が「生涯学び続け、主体的に考える力」を育む高等教育の場となるため、主体的な学修を促す学士課程教育の質的転換が必要である』と述べています。この方向性は平成30年の同答申「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」において敷衍され、予測困難な時代に卒業後も自律的な学修者であるために、大学には学修者本位の教育への転換を図ることが求められました。つまり数多くの大学でデータサイエンス教育やアントレプレナーシップ育成教育等が導入されているのは、国の施策に沿ったものとも言えます。このような教育は時代の求めに応じたものとして必要であると思う一方で、私立大学にはそれぞれの建学の理念や学風がある訳であり、それが見えなくなってしまうことを懸念します。本学においても地域戦略人材育成事業の推進に伴う現在の教育のあり方を「大正大学」という文脈の中で意味付けすることが大事になると考えています。つまり大正大学の建学の理念によって再解釈する必要があります。

いささか都合よく聞こえてしまうかもしれませんが、わが国の高等教育の方向性は本学の建学の理念によく合うと感じています。本学の建学の理念「智慧と慈悲の実践」は大乗仏教の菩薩の生き方を理想として立てられたものです。大乗仏教の菩薩はあくなき智慧の探究とはてなき慈悲の実践に努める者です。よって建学の理念は在学中の4年間で完成するはずはなく、生涯を通じて達成をめざす目標と言えます。そうであれば「智慧と慈悲の実践」はまさしく「生涯学び続ける」こととなります。

そのような確信もあって、学長として建学の理念に基づく新しい学力観を全学に提示しました。

本学では建学の理念に沿って教育ビジョン「4つの人（慈悲・自灯明・中道・共生）となる」を立て、これを全学DPに紐づけています。この教育ビジョンを用いて、『4つの人となる』ための10の力を新しい学力観としました。4つの人が建学の理念を、10の力が汎用的な資質・能力を示します。私立大学のアイデンティティである建学の理念をその時代に求められる汎用的な資質・能力に結びつけることを、恒常的な仕組みにしたいと考えています。

本学は地域戦略人材育成事業の推進を契機に、高度デジタル人材の育成にも挑戦する予定です。まもなく創立百周年という節目を迎えますが、次の100年に向けて不断の教育改革を実行していきたいと考えています。

文部科学省「知識集約型社会を支える人材育成事業」認定
新時代の地域のあり方を構想する地域戦略人材育成事業

多面的な性質をもつ地域の課題解決にむけて異なる専門分野の多様な人材を統合し、調整することができる人材

➤ 地域戦略人材に必要な4つの要素

- ①学融合からの視点、多様な視点からの課題アプローチ
- ②具体的課題に対する的確な事実認識、解決のための知恵を生み出す知識・技能
- ③主体的に解決策を提起する態度・意識
- ④複数分野のネットワークの結節点となるためのコミュニケーション能力

(「大正大学地域戦略人材育成プロジェクト <https://www.tais.ac.jp/p/regional-strategy/>」より抜粋・一部改)

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

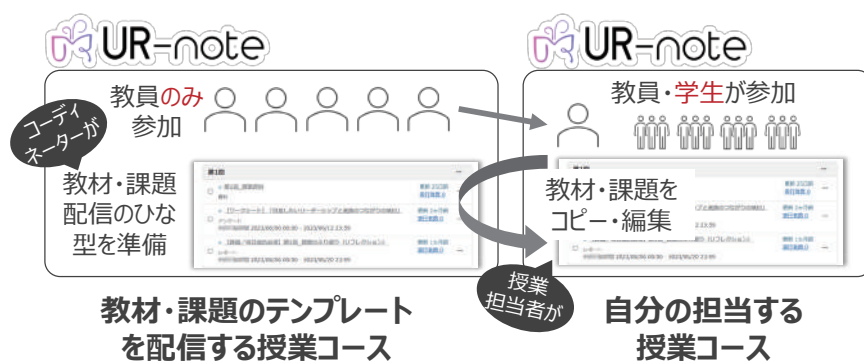
- 令和5年度から、前年度まで複数システム (tpo、eポートフォリオ、teams・FormsなどのMicrosoft365ツールなど) にまたがって利用され、運営に使われていたツールを、**UR-noteに統一**。
- これにより、**出席管理、教材・テストなどの作成・提示、学生への連絡・促し、成績管理**、さらには学生のふり返り・目標設定など**PDCAのために用いられてきた「学びと成長の記録」**などが一元化。
- **グループ学修支援機能などの新規機能も実装**されており、さらなる進展が今後見込まれる。



Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

(例) 共通教育における教材配信

- UR-noteでは、教員は自ら担当する授業Aから、同じく担当する授業Bに教材・課題を「コピー」できる。
- この機能を用いて、共通教育における教材・課題の共有が簡便化



(例) 「社会の探究」におけるPBLでの活用

MAKE YOUR UNIVERSE. 大正大学 Goto 100
一様だから つくれる世界を。

- 「社会の探究」では、**学生同士が協働**して、大学（2QT）や地域（4QT）の**課題発見・解決**に勤しみ、その成果を他者に向かって**発表・表現**することを目標として設定。
- 対人・協働についての具体的な学修成果のため、グループ学修における学生同士の相互評価を、UR-noteを用いて導入
- 学生にはUR-noteを通じてルーブリックを明示し、それに沿って相互評価をシステム上で行わせる。
- ルーブリックについては、QTが進むごとに評価観点を増加させ（目標のハードルを段階的にあげる）、2年次のデータサイエンス科目における産学連携プレゼンテーションとの接続を念頭に作成。
- 相互評価自体、またなされた評価についてのふり返し、なども含めて、成績評価、科目運営のための資料、学修成果のアセスメントとして活用できる。

学生たちによるパフォーマンスの相互評価

ループブックを設定し、UR-notelに入れ込む

Excel ファイルでループブック用CSV作成

大項目	小項目	a 3点×6	b 2点×6	c 1点×6
協働性	協調性	意見や立場の相違があってもグループワークのために積極的に協力できた	意見や立場の相違があってもグループワークのために協力しようとした	意見や立場の相違があってもグループワークのために協力しようとしなかった
	積極性	メンバーの意見に耳を傾けて、相手の気持ちや考えを理解し、意見を述べた	メンバーの意見に耳を傾けて、相手の意見を尊重した	メンバーの意見に耳を傾けていない/尊重していない
主体性	気づくり	グループメンバーの不安や緊張を気づくような気づきづくりができた	グループメンバーの不安や緊張を気づくような気づきづくりを試みた	グループメンバーの不安や緊張を気づくような気づきづくりがなかった
	意思形成	メンバーとしっかりと話し合いながら納得できる意思形成ができた	チームメンバーとしっかりと話し合ったが納得した意思形成とは言い難い	チームメンバーと話し合ったが納得した意思形成がなかった
主体性	責任感	グループ内の役割分担をしっかりととらうことができた	グループ内の役割分担を理解していたが、完全にこなすことができなかった	グループ内の役割分担を理解していない/まったく役割を担わなかった
	積極性	グループワークのために自ら進んで発言をして意図的に取り組めた	グループワークのために意図的に取り組もうとしたが、自ら進んで発言はしていない	グループワークのための発言がなく、自ら発言をしなかった

配点は用意されたマス目に即して自動設定される

パフォーマンスの相互評価

実際の評価の手順（学生側の動き）

- ①グループメンバーを検索
評価対象者を選択
自己評価と他者評価を実施
- ②ループブックにそった評価
およびフィードバック
- ③自己評価と他者評価の
ギャップを確認

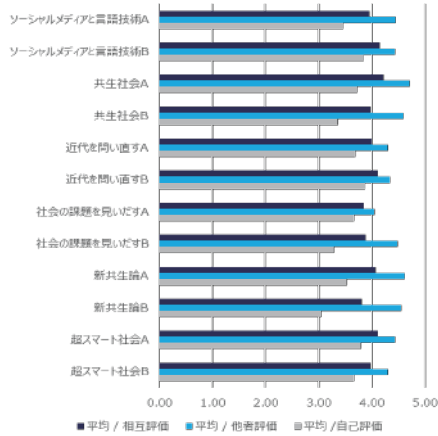
1 QT2回、2 QT1回実施・・・学生の操作への「慣れ」は早い

学生たちによるパフォーマンスの相互評価

グループワーク相互評価の結果（2QT第7週に実施）

履修クラス名	実施学生数	平均 / 評価人数
ソーシャルメディアと言語技術A	58	3.79
ソーシャルメディアと言語技術B	83	3.71
共生社会A	73	2.79
共生社会B	85	3.45
近代を問い直すA	149	4.15
近代を問い直すB	95	3.67
社会の課題を見いだすA	80	3.76
社会の課題を見いだすB	102	3.88
新共生論A	66	3.44
新共生論B	98	3.10
超スマート社会A	73	3.52
超スマート社会B	143	3.78
総計	1105	3.64

⇒ 全体傾向：概ねメンバー全員を評価
(基本1グループ5人編成⇒4名を評価)



⇒ 全体傾向：自分に厳しく他人に甘い

社会の探究におけるPBL

MAKE YOUR UNIVERSE. 大正大学 Goto ICD
— 一緒にだから つくれる世界を。

- 「社会の探究」の到達目標、特に地域密着力の涵養のため、2QTにおいては地域に開かれた鴨台祭（学祭）の隠れた魅力や問題を発見して課題解決策を提示（ミニプロジェクト）。4QTにおいては豊島区内の隠れた魅力や問題を見つけて、課題を解決するために大学としてどのような連携が可能なのかを探る（ファイナルプロジェクト）。
- いずれも具体的な企画を立案することを目標とする。
- 学生相互評価を実施するとともに、学生たちが選考したチームに対して担当教員、さらには学長・副学長による審査を経て、優れたチームへの賞を授与。



Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

学修成果の可視化（令和5年度の取り組み）

- 人間の探究：「過去・現在・未来について考え、自己理解を深め、キャリア意識を身につける」という観点にかかわる実施。
→「セルフマネジメント」「リフレクション」「キャリア意識」に対する学生の成長実感についてアンケートを実施し調査と分析（アンケートFormsを利用。1, 2QT.では主に「セルフマネジメント」「リフレクション」）。
1、2QT.ともに実施。→「学びと成長の記録」、授業時のリフレクションについての分析も検討中。
- 社会の探究：グループ学習におけるルーブリック導入と、UR-noteを活用した相互評価の導入
→上記パフォーマンスに関する相互評価についての分析、授業時のリフレクション分析（昨年度と同様にサンプル抽出しての変化分析）、各スキル（パワポ、プレゼン、ソーシャルスキル）についての成長実感調査（Formsなどで実施済）。
→共通パート教材、ナレッジ部分についての調査も検討中。
- 自然の探究：計量テキスト分析をつうじた到達目標の達成測定とライティングにかかわるアンケートの実施
→学生アンケート（選択&自由記述）を用いて、昨年から行っていた自由記述におけるテキストマイニングによる調査にあわせて、5件法による量的調査も分析を進める。
→1、2QT.ともに実施済。
- 令和4年度の取り組みの一部（「自然の探究」）について取り上げる。

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

レポートライティングに関する学生の学修動向の調査

目的・方法

■ 目的:

「自然の探究」科目各QTにおける、レポート・ライティングに関する学生の内在的な学修動向を明らかにし、今後の授業改善に活かす。

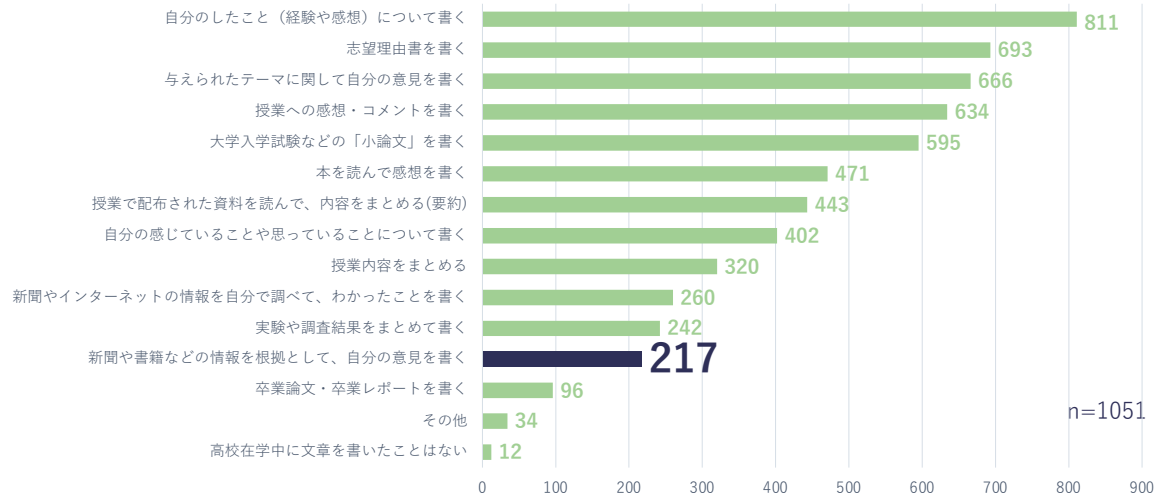
■ 方法:

「数学と心・仏教」（担当:高橋秀裕・丹波博紀）の各QT第13・14回に学生が書いた「授業のふり返し」を計量テキスト分析する(使用ツール:KH Coder)。

- 👉 学生は「授業のふり返し」を書くことで、みずからレポート・ライティングの学びの、どんな点に成長を感じているのか、またさらなる成長の必要を憶えているのかを、自分なりに「ふり返し」、粹づける。
- 👉 そうした定性データを計量的手法を交えて分析することで、より内在的な学生の学修動向が把握できる。

高校までの学習履歴:高校時代に書いたことのある文章(複数回答可)

与えられたテーマに対して意見・感想を書いたことがある者は多いが、「新聞や書籍などの情報を根拠として、自分の意見を書く」を経験した者は217人に留まる(👉「自然の探究」で論証に取り組む意義?)



調査の概要

- この問いに答えるため、「数学と心・仏教」履修者(1・2QT:70名、4QT:69名)が、各QT第13・14回の「授業のふり返し」で書いたライティングの学びに関する「ふり返し」(※)を計量テキスト分析。

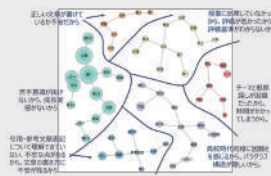
※ 授業の到達目標「大学で求められる文章のあり方を理解し、与えられたテーマについての的確な文章表現をすることができる」について、具体的にどのような伸長があったか？またはさらなる伸長が必要か？

- 計量テキスト分析とは、テキストデータ全体で、どのような言葉が多く出現するのかを統計を使って正確かつ客観的に分析する手法の1つ。とくにここでは「共起ネットワーク」を用いた。

KH Coder :

- 計量テキスト分析またはテキストマイニングのためのフリーソフトウェア(自由ソフトウェア)
- アンケートの自由記述・インタビュー記録・新聞記事など、さまざまなテキストの分析に役立つ

<https://khcoder.net/>



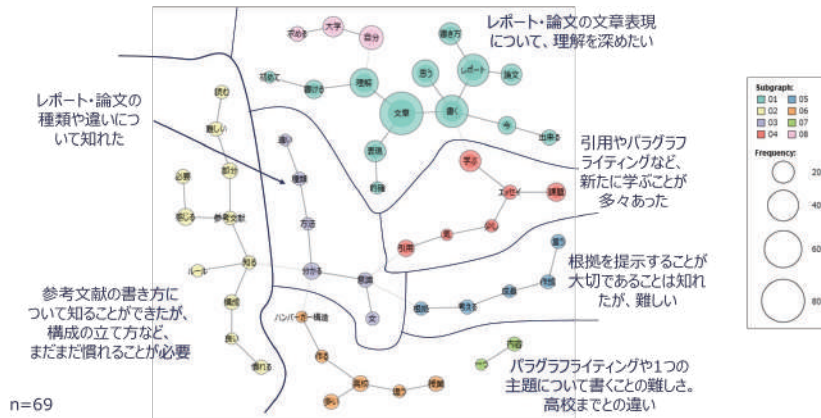
共起ネットワーク :

- 頻出頻度の高い単語同士の関係をネットワーク図で表現
- 今回は回答単位で集計し、語と語の共起関係のうち上位100を選択

レポートライティングに関する学生の学修動向の調査

【寸評】1QTにおける伸長orさらなる伸長の必要性

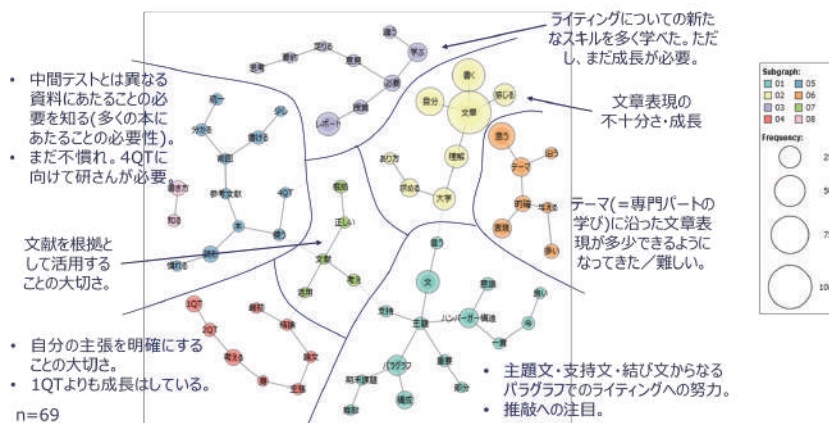
- 学生は1QTのレポートライティングの学びについて、とくに高校までの学びとの比較で「ふり返り」、伸長を実感するものの、大学で求められる文章表現をまだ十分にはできていないと考えている。
- レポート・論文の種類や引用・参考文献表記の仕方、根拠の大切さといった形式面に言及する「ふり返り」は多かったが、テーマ設定(=専門パートとの接続)の大切さなど内容面への言及はほぼ見られない。



レポートライティングに関する学生の学修動向の調査

【寸評】2QTにおける伸長orさらなる伸長の必要性

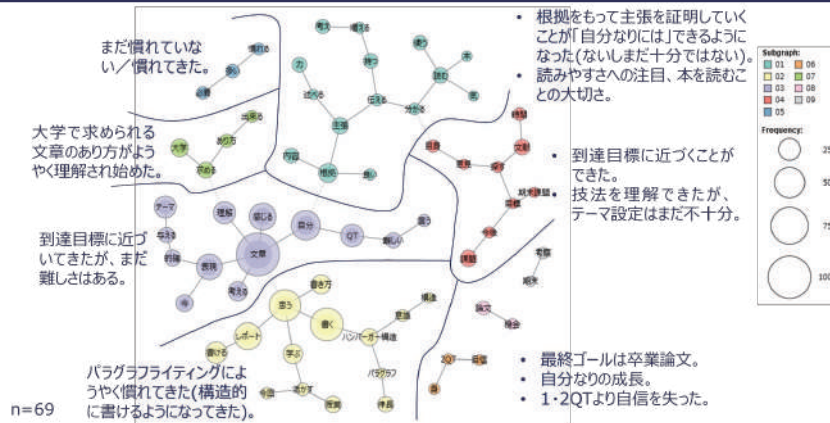
- 2QTになると、テーマ(=専門パートの学び)設定の重要性という内容面への言及が目立つようになる(「多少できるようになってきた(≠十分できた)」「難しい」といった「ふり返り」が大半)。
- また、1QTと比較して、パラグラフ構造(主題文・支持文・結び文)について具体的に言及するものや、資料への具体的なあたり方に言及するものが増加する(いずれも「十分できた」と答える者はほぼいない)。



レポートライティングに関する学生の学修動向の調査

【寸評】4QTにおける伸長orさらなる伸長の必要性

- 4QTになると、到達目標の含意することへの理解(またはその不十分さ)への言及が増加する(学生が大学でどのような文章表現を求められるのか、その全貌を掴み始めていることの証拠か)。
- また、根拠に基づく主張、パラグラフ単位での構造的なライティングについての「慣れ」への言及も目立つようになる(一方、理解はできたが、まだ十分実践できないという「ふり返り」も少なくない)。



レポートライティングに関する学生の学修動向の調査

「授業のふり返り」の計量テキスト分析が示すこと

- 学生は授業の到達目標「大学で求められる文章のあり方を理解し、与えられたテーマについての確かな文章表現をすることができる」の達成に向けて着実に学修を進めてきた。
- ただし、この到達目標達成に向けた学生自身の伸長の「ふり返り」を分析したところ、その伸長(成長)は単純ではないことが明らかになった。
- すなわち、学生は1QT時点では「大学で求められる文章のあり方」を、「高校までに書いてきた文章のあり方」と比較し、両者の違いを形式的側面で捉え、みずからの伸長を考えていた。
- 一方、2QTになると、こうした形式的側面への言及は弱まり、テーマ設定やパラグラフの具体的な構成といった内容面への注目が強まり、そこでみずからの伸長の十分さ／不十分さを捉えるようになる。つまり、「大学で求められる文章のあり方」を内実で把握し始める。
- この傾向は4QTになるといっそう強まる。4QTになると、出来／不出来はあるにしても「大学で求められる文章のあり方」が何であるのか理解し、慣れ始めてきたことへの言及が多く見られるようになる。たとえば、根拠に基づき、テーマに関する自身の主張を展開することにチャレンジしたことが「ふり返られる」。
- 以上のような学修動向の内在的把握は、今後の授業改善に資するところが多い。つまり、出来／不出来もさることながら(「完璧に出来た」と「ふり返る」学生は皆無)、学生が「いまチャレンジしていること」を支える方向へと授業を改善していくことが必要である。

(2) データサイエンス教育

データサイエンス教育について



学修支援センター教授
前田 長子

本学は、令和4年度に文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」のリテラシープラスに選定されました。産学連携の取り組みや実務家教員の活用、学修支援体制が評価されたと自負しています。

令和5年度も連携先を拡大しつつも、この基本路線を踏襲してデータサイエンス教育を全学的に展開しています。学生が学んでいくクラス編成については、まず1年生から説明すると、習熟度別の学部混成のクラスとなっており、令和5年度については12クラスの編成としています。2年生については、1年生とは異なり、学部学科別で14クラスの編成としています。産学連携先やデータの内容等について、データの形式や内容等を学部学科の専門性と紐づくように、工夫して組み合わせを考える構成としています。

データサイエンス教育においては、学生の主体的な学びを最優先にし、学修者中心のアプローチを重視して様々な体制を整備しています。例えば、1クラスあたりの学生数は約100名で構成されていますが、1クラスに2名の教員、1名から3名のチューター、5名から8名の学生SAを配置しています。教員、チューター、SAによるチームティーチングを導入し、手厚いサポートを提供することで、「ひとりも取りこぼさない学修支援」の実践を目指しています。また、データサイエンス教員は、専任教員5名と非常勤教員13名で構成されており、特に注目すべきは、非常勤教員のうち11名が、IT関連企業等での実務経験を有する社会人や経営者である点です。ビジネスの現場や社会の実情に基づき、教材の開発や産学連携のテーマ設定に取り組んでいます。学生には、データサイエンス科目を通じて、実践的なデータ利用能力を身につけてもらい、新卒で企業に入社する際に、即戦力として評価される人材の育成を目指しています。

これまで、主に授業中の話に焦点を当ててきましたが、補完的な取り組みも積極的に行っています。具体的には、テスト対策のための様々な補講を開催し、学生が気軽に参加できる環境を整えています。補講は授業回ごとに設定し、学生が苦手な部分や理解を深めたい分野を選択できるようにしています。令和5年度からは、LMSを活用した事前学習用ワークブックの配信も始め、小テスト対策用の教材を配布して、講義終了前に補講への参加を促しています。

また、教育の質を保証するために、教員のFD（研修会）も年間を通して頻繁に実施しています。大規模な研修会は春と秋の2回実施しており、その他にも、各授業の直前に、授業のポイントに焦点を当てた講師会を開催しています。春期には、教員やチューターの入れ替わりがあるため、新メンバー向けにTableauの研修会を開催しています。秋期には、スキルアップを目的として、協力企業であるExcellenceの山崎由愛先生を招いて研修会を行っています。さらに、SA向けの研修も実施しており、SAはデータサイエンスを履修済みの学生ですが、履修当時と同一内容の講義とは限らないため、特に産学連携のデータには事前に触れる機会を提供しています。

大正大学で Tableau を導入して良かったと思う点は、以下の3つです。まず、Tableau は優れたパフォーマンスを有し、標準的なスペックのノートパソコンでもスムーズに動作します。このため、学生が高価なノートパソコンを所持しておらずとも、スムーズに利用することができるという利点があります。

次に、Tableau はデータを簡単にビジュアル化できる特長があります。これにより、数字に苦手意識がある学生や数字を扱うのが苦手な学生でも、楽しく取り組みやすくなります。ただし、簡単な可視化が可能な反面、数値の誤りには注意が必要なため、教員や S A が教室を巡回し、細かく指導しています。

最後に、Tableau はストーリーを活用して、分析からプレゼンテーションまでを効率的に行える点が挙げられます。産学連携の最終段階では、学生が企業や自治体にプレゼンを行います。時間の制約から、何度も授業回を使って分析や準備を行うことは難しいです。Tableau のストーリーを活用することで、分析からプレゼンまでを効果的に行える点が大きな利点となっています。

令和5年度については、本学は5つの企業や自治体との産官学連携プロジェクトを推進し、本学の2年生が、データサイエンスⅣでは問題解決型ミッション、データサイエンスⅥでは価値創造型ミッションに取り組みました。先方から提供されたデータも含め、過去の課題ではなく現在のテーマに焦点を当て、より実践的なプレゼンテーションを経験できることから、学生たちが課題に真剣に取り組む様子が多く見受けられました。

2年次のデータサイエンスⅤとⅥの授業は、全7回で構成されています。初回には連携先からミッションが提示され、6回目にはクラス内で予選会が実施され、最終回ではクラスの代表者や代表チームが連携先に向けてプレゼンテーションを実施しました。

データサイエンスⅤでは、教員のサポートのもと、学生たちはデータ分析からストーリー作成までをひとりでを行い、個人でプレゼンテーションを行いました。そして、データサイエンスⅥでは、これまでの学習の集大成として、グループでプレゼンテーションを行いました。

データサイエンスⅥでは、通常、データサイエンスⅤで代表に選ばれた学生がグループのリーダーとして活躍します。個人で行う方が楽だという意見も存在しますが、異なる考えやスキルを持つメンバーをリードしながら、グループ内での合意形成や、プレゼンテーションで生じる困難や厳しさを克服することも重要であると認識しています。

また、大学と連携先の契約だけでなく、学生たちもデータ利活用の学修を経た後に誓約書を提出することで、データの取り扱いにおける重要性やエチケットについて学ぶ機会を設けています。

続いて、産官学連携の発表テーマについてご紹介します。前述の通り、2年次のデータサイエンスでは、学科の専門性に基づいてクラス分けが行われています。具体的な例として、社会共生学部2学科と地域創生学部の1学科の学生が参加した三鷹市から提供されたデータを使用したプレゼンテーションが挙げられます。

社会福祉学科の学生は、高齢者に関連する問題に取り組む学生が多く見受けられましたが、一方でデータサイエンスに苦手意識を抱く学生も多くいます。このため、教員は学生たちが専門知識を活かしながらも、自信を持って課題に取り組むことができるようサポートしています。

公共政策学科の学生は、フィールドワークや自治体での研修に参加し、将来的に公務員を目指す学生もいます。自治体の分析に関しては慎重なアプローチが求められます。自治体の規模や人口構成などを考慮するように、学生に対して指導やアドバイスを行っています。

地域創生学部では、公共政策学科とは異なり、地域の基盤づくりではなく地域活性化に焦点を当てています。経営的にも成り立つ仕組みに興味を持つ学生が多く、実践に走りがち傾向があります。しかし、教員は実践を重要視しつつも、根拠を充実させて提案に結びつけるよう指導しています。

このように、学科ごとに学生の傾向や特徴、得意分野が異なるため、教員はそれぞれのクラスに合わせた指導を行っています。

連携先様からの評価は、一定の評価をいただいていると考えています。例えば、株式会社サイゼリヤ様では最

終プレゼンで発表した内容が社内の商品開発の会議で取り上げられ、好評を博しています。また、AIの企業であるニューラルポケット株式会社様からは、Tableau を使える学生のアルバイトの推薦を依頼されるなど、参画いただいている先から積極的なフィードバックがあり、少しずつ成果を上げている状況です。

そして、学んだ知識を資格取得に繋げるための取組みも行っていきます。この「特別プログラム」は、令和4年度の夏から本格的に開始し、2年目を迎えました。令和4年度は、Tableau の Desktop Specialist、MOS の一般、統計検定4級のコースを開講しました。夏からはMOSの上級コース、今年度の春からは統計検定3級のコースも開講しました。

「特別プログラム」ではガイダンスを行い、学生と対話する機会を設けることでやる気を高める形式を取っています。同時に、本学ではチュートリアル教育を導入し、専任職員が行う模擬試験で7割以上の点数を取れるまで補習を行うことにより、合格率向上に積極的に取り組んでいます。対面およびオンラインの授業は1回100分で4回行われ、その後に模試を受験します。模試で7割以上の点数を獲得した場合には、本試験を受験する流れとなっています。

試行錯誤を重ねながら行ったこの「特別プログラム」ですが、受講者全体に対する合格率は64.1%であり、まだまだ向上の余地があります。ただし、受験者に対する合格率は95%という高い数字を記録しています。このプログラムでは、模試の合格が前提となっていますが、例えば、Tableau の Desktop Specialist では、令和4年度に受験した28名全員が合格したという実績があります。

各プログラムの満足度と推奨度についてです。Tableau に関しては、アンケートに協力してくれた学生が17名しかいないため、参考になるかどうかはわかりませんが、満足度と推奨度は3つのプログラムの中で最も高いです。一方、統計検定4級は、去年の夏の合格率が75%と苦戦しました。内容の改善により、満足度は少しずつ向上していると考えていますが、取り組むべき課題はまだまだあります。

受講者アンケートのプログラムへの参加理由によると、Tableau に関してはデータサイエンスで学んだ知識を実践的に活かしたいという学生が多く、次いで、就職活動に有益であり、かつ効率的に資格取得が可能だという理由が挙がりました。

また、「特別プログラム」に関する学生の評価ポイントとして、実戦形式のワークに対する詳細な解説があり、これにより効果的な学習が可能だったという点が挙げられています。講義で学んだ内容の確認を模試で行えたこと、模試後に講義動画を振り返りながら理解度を高めて受験に臨めたこと、授業では触れられなかった専門的な機能や知識を学べたこと、基礎から応用まで広範な範囲で学べたことが好評でした。

さらに、大学経由での受験で一発合格すれば受験費用が全額負担され、これがモチベーション向上と受験ハードルの低下に寄与したとの声がありました。IT企業を中心に就職活動を行っている学生はTableauの資格取得が企業から評価され、資格取得の価値を実感したという経験も共有されました。改善点は、申し込みのハードルや受講期間の長さなどが挙げられ、これらに関しても耳を傾けながら改善できるところは改善していきたいと考えています。

そして、データサイエンス教育を経て、本学の学生たちは学外コンテストで成果を上げています。令和3年度においては、公共政策学科の現4年生がTableauを使用したプレゼンテーションで、ミタカ・ミライ研究アワードの三鷹市長賞を受賞し、令和4年度には同学科の3年生4人、令和5年度にも同学科の2年生4人が優秀賞を受賞しました。また、Tableauの企業分析AWARDには3年生のSAの有志チームが2組参加し、そのうち1チームが優勝しました。さらに、この企業AWARDに参加していた企業からインターンシップのオファーがあり、優勝したチームのメンバー2名が75時間のインターンシップを経て、Alteryxの認定資格プログラムを取得しました。

このように、学生たちが活躍できる場を積極的に提供し、習得したスキルや経験を次のステップに繋げていけるよう支援していきたいと思っております。

最後に、データサイエンス教育の今後の課題についてです。Tableauを使用したデータサイエンスの講義は令和2年度からスタートしましたが、授業内容や小テストの難易度は年々高くなっています。社会のニーズと学生の理解度を考慮し、毎年、授業内容や教材を見直す必要があるためです。しかし、ITリテラシーの高い学生と乏しい学生の間には大きな格差があります。一部の学生はそのスキルを活かして活躍の場を広げている一方、苦手意識を抱く学生たちは小テストの点数が伸び悩んでいます。この状況を踏まえ、講義内容や小テストの難易度調整が必要であると感じています。

また、変化する社会環境に即した教育を提供するために、社会で求められる資質能力に対するカリキュラムの適応性の検討も必要不可欠です。特に、新学習指導要領に合わせた、カリキュラムの改善・修正が重要な課題です。現在、LMSを利用した学修時間の拡大に取り組んでおり、補習や個別学修支援の減少が実現され、学生の負担を軽減することができています。

さらに、検定資格などの外部指標を活用して学修成果を可視化し、それを就職活動に有効活用することが重要であると考えています。特に、Tableauの資格は、就職活動において注目され、面接での話題となることが多いとの声があります。SAを担当する学生の資格取得をサポートすることで、説得力も増すことになります。そして変化する学習環境や社会のニーズに応えるため、教員やチューターの採用や育成にも注力する必要があると感じています。

令和5年度 第Ⅰ類科目 データサイエンス科目について

令和5年11月13日

学修支援センター 教授

前田 長子

MAKE YOUR UNIVERSE.
一輝だからつくれる世界を。



第Ⅰ類科目_データサイエンス科目

MAKE YOUR UNIVERSE.
一輝だからつくれる世界を。



1. 令和2年度からの取り組みと データサイエンス教育プログラムの概要について

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

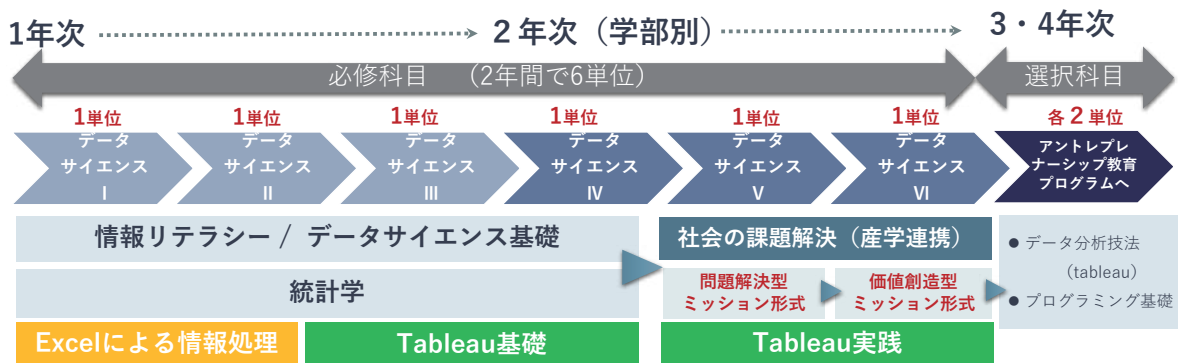
令和2年～5年度にかけての取組の流れ

- R2**
 - ✓ 令和2年度4月から**先行3学部において前期共通教育でデータサイエンスⅠ～Ⅲを必修科目として開始**
 - ✓ データサイエンスⅢ（第4QT）からtableauを取り入れた学修を開始
- R3**
 - ✓ 令和3年4月から**全6学部でのデータサイエンス教育を展開**
 - ✓ 2年次の必修科目であるデータサイエンスⅣ～Ⅵの授業を開始（先行3学部の2年生対象）
 - ✓ データサイエンスⅣ、Ⅴではtableauを活用した**産官学連携の取組を開始**
（株）サイゼリヤ様、三鷹市様、ニューラルポケット（株）様の2企業、1自治体と連携をスタート
 - ✓ 学生の学外コンテストの参加支援開始
- R4**
 - ✓ **「MDASH Literacy」および「MDASH Literacy+」に選定**される
 - ✓ 産官学連携先は、令和3年度の連携先に加えて、キリンホールディングスヘルスサイエンス事業様、Softbank（株）様、ガモールマルシェの5企業、1自治体となる
 - ✓ 夏休み、春休みを活用した年2回の資格取得のデータサイエンス特別プログラム（正課外）を開始
- R5**
 - ✓ データサイエンス科目Ⅰ～Ⅵの発展学修として、アントレプレナーシップ教育で2つの科目を開講（データ分析法、プログラミング基礎）

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

データサイエンス教育目標と教育プログラムの流れ

【データサイエンス教育プログラムでの教育目標】
主観的な判断ではなく、データをもとに意思決定を行うデータドリブンな思考を高め社会の課題を解決し、価値を創造していく人材となる



Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

分かりやすさと反復学修について

学生が自分事として学修できることを目指し、社会での様々な分野での身近なテーマを教材として扱っている。数学の苦手な学生のために講義と合わせてExcelやTableauでも学んだ統計を繰り返し復習できる教材を開発し、さらには復習用の演習（ワークブック）の提供などを行い、学生が常に反復学修ができるように工夫している。

(1) 「頭で理解する」と「手を動かす」のセットでの学修の流れ (2) 復習用ワークブック (tableau)

例：分散・標準偏差

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

実データ・実課題を活用したリアリティのある学修について

産官学連携先からは連携先が直面するリアルな課題の提示を受け、その課題解決のために活用できる実データの提供を受けている。実データを用いて実課題を解決する実践型の演習を段階的に充実させていくことによりデータサイエンスを学修する意義を実感させ、学修意欲を高めている。またデータサイエンスV、VIの最終回では産官学連携先が授業に参加し、プレゼンの講評やフィードバックを行うなど、リアリティのある学びの場となっている。

学部学科	R5_産学連携先	R5_DSⅤ「問題解決型」ミッション内容	提供いただいたデータ
心理社会学部	キリンホールディングスヘルスサイエンス事業 よるこびがたく世界へ 	サプリメントの「iMUSE」3つの商品のうち、今後注力すべき商品は何か、その理由も含めてターゲットを明確にし、拡販策を提案する	✓ 顧客ごとのLTVデータ
表現学部	ガモールマルシェソフトバンク株式会社ニューラルポケット株式会社 	大正大学ガモールマルシェにおける購買データと顧客属性を分析し、結果をもとに販売数向上を目的とした施策について提案する	✓ 販売POSデータ ✓ 店舗の陳列棚情報
地域創生学部 社会共生物学部	三鷹市企画部企画経営課 緑と水の公園都市 	市政に対する総合的な満足度と関連する要因を可視化した上で、その満足度を高めることにつながる課題を抽出し、あわせてその課題解決策を提案する	✓ 第5次三鷹市基本計画策定に向けた市民満足度調査
文学部 仏教学部	株式会社サイゼリヤ 	東西のサラダをはじめとした野菜料理の売れ方を分析し、もっと野菜をおいしく食べていただくためのアイデアを提案する	✓ サラダのPOSデータ ✓ 客数・組数データ ✓ 販売価格マスタ

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

令和5年度_データサイエンス科目のクラス編成について



データサイエンスⅠ～Ⅲは習熟度+ITリテラシーレベルを踏まえたクラス編成となっており、学生の状況に応じた授業運営を行っている。特に習熟度や理解度が低い学生に対しては基礎的内容の反復や個別学修支援の強化などに取り組んでいる。またデータサイエンスⅣ～Ⅵは学科別クラスとなっており、産官学連携先や扱うデータや課題解決ができるだけ専門の学問につながるように工夫している

R5 1年生 (学部混成12クラス)

木曜日クラス 1限目 探究実証系学部群の学生	金曜日クラス 1限目 社会創造系学部群の学生
A：混成クラス (低)	A：混成クラス (低)
B：混成クラス (低)	B：混成クラス (低)
C：混成クラス	C：混成クラス
D：混成クラス	D：混成クラス
E：混成クラス	E：混成クラス
F：混成クラス	
G：混成クラス	

※令和6年度からは
成績上位者のための
クラスを新設予定

R5 2年生 (学部学科別14クラス)

学部学科	クラス数	産学連携先
心理社会学部	3クラス	キリンホールディングス ヘルスサイエンス事業
表現学部	3クラス	ガモールマルシェ ソフトバンク株式会社 ニューラルポケット株式会社
地域創生学部 社会共生学部	3クラス	三鷹市企画部企画経営課
文学部 仏教学部	5クラス	株式会社サイゼリヤ

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

チームティーチングと「ひとりもとりこぼさない学修支援」の実践



教員、チューター、SAのチーム・ティーチングと授業前後の学修支援で、学生の主体的学びを推進する体制を構築し、文科系学生を念頭に学修者の苦手意識の克服・リテラシー向上を重視したデータサイエンス教育を推進している

1クラスあたりの人数
学生：約90～100名
教員：2名
チューター：1～3名
SA：3名～6名



チームティーチングによる教育
Teaching



チューター、SAによる学修支援
Support

役職	R5人数
専任教員	5名
非常勤講師	13名
コアチューター	3名
クラスチューター	17名
SA	65名

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

2. 令和5年度_目標設定と進捗状況

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

令和5年度のデータサイエンス科目チームの目標と重点課題

【令和5年度_数値目標】

- ✓ 単位未取得者3%未満の目標継続
- ✓ 春夏の特別プログラムでの受講者に対するの合格者率50%の達成
- ✓ 学外コンテストへの4チーム参加目標（昨年3チーム）

【令和5年度_重点課題】

<LMS (UR-note) の活用推進>

- ✓ UR-noteを活用したe-Learningによる自主学修推進（補習とe-Learningの併用推進）
- ✓ UR-noteを活用し、コアの事務的作業の軽減➡学修支援の時間の割合を増やす取り組み
- ✓ グループワークの展開方法の大幅見直し（教育、学修支援とも）➡4QT以降

<学修支援体制の強化>

- ✓ 新任チューター13名、早期の戦力化（先輩チューターからのOJTの徹底）
- ✓ 大幅増のSA65名のSA（昨年35名）の早期の戦力化（4年生SAからのOJTの徹底）
- ✓ I類探究科目チームとの連携強化
- ✓ データサイエンスラーコモを活用した、効率的且つ効果的な学修支援体制の進化

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

令和5年度のデータサイエンス科目の単位履修状況

単位未取得者3%未満の目標は未達状態。成績不振者や休みがちな学生には、2QT開始時に探究科目チームのコアチューターと連携して、59名の学生と個別面談を実施。リカバリーした学生もいるが、そのまま大学に登校していない学生も複数いる。第4QTにむけて引き続き、チームティーチングで主体的学修態度の醸成を図っていく。

R5 入学生	令和5年度 (2023年入学：1年生時)		
	DS I	DS II	DS III
学生数	1,212	1,210	
単位未取得者	38	76	
単位取得率	96.9%	93.7%	

R4 入学生	令和4年度 (2022年入学：1年生時)			令和5年度 (2年生次)		
	DS I	DS II	DS III	DS IV	DS V	DS VI
学生数	1,300	1,294	1,279	1,243	1,243	
単位未取得者	20	51	67	56	86	
単位取得率	98.0%	96.0%	94.8%	95.5%	93.1%	

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

特別プログラムの令和5年度の進捗状況

令和5年度は受講者の50%の合格率を目標とする。令和5年夏休みのプログラムが終了し現在の受講生はのべ315人でそのうち受験者201人、合格者が195人（受講者に対しての合格率は約62%、受験者数に対しての合格率は97%）で目標値はクリアした。更に令和4年度の夏休みと比較すると受講者数は約2倍に伸長している。MOS上級はこの夏から開始、統計検定3級は次の春休みから開始予定

◆R5年度夏_合格者数進捗状況◆

講座（講義）	目標数（学生数）		実績（学生数）			合格率		目標達成率	
	受講者数 目標数	合格者数 目標数	受講者 数	資格試験 受験者数	合格者 数	受講者数に 対しての合格率	受験者数に 対しての合格率	受講者数 達成率	合格者数 達成率
Tableau Desktop Specialist	30	15	86	54	54	62.8%	100.0%	286.7%	360.0%
統計検定4級	30	15	40	23	21	52.5%	91.3%	133.3%	140.0%
MOS Excel 一般	100	55	141	92	89	63.1%	96.7%	141.0%	161.8%
MOS Excel上級 (NEW)	15	7	48	32	31	64.6%	96.9%	320.0%	442.9%
合計	175	92	315	201	195	61.9%	97.0%	180.0%	212.0%

【参考】R4年度夏 & 春計

講座（講義）	受講人数	資格試験 受験者数	合格者	受講者に対し の合格率	受験者数に対し の合格割合
Tableau Desktop Specialist	43	28	28	65.1%	100%
MOS Excel 一般	205	144	140	68.3%	97%
統計検定4級	75	46	39	52.0%	85%
合計	323	218	207	64.1%	95%

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

令和5年度_学生たちの学外での活躍

令和4年度は学外コンテストに3チームが出場し、うち2チームが受賞した。令和5年度も学外コンテストに3チームが出場した。また令和4年度のコンテストや産官学連携の取組を通して、IT関連企業からの声掛けにより、長期インターシップへ3名が参加。さらに令和5年度のtableauのアカデミックアンバサダーに心理社会学部3年生が選抜され、学外コンテスト以外の場でも活躍を広げている。

一般企業への長期インターシップ参加

企業様	学生	インターシップ内容
A社様	4年生 2名	インターン中にAlteryx Designer Coreを取得した後データクレンジング業務に従事 (令和4年3月から開始)
B社様	3年生 1名	Tableauを使ったデータ可視化業務他 (令和5年9月から開始)

2023 Tableau Academic Ambassadorに選抜

BECOME A TABLEAU AMBASSADOR
Get all the details on applying or nominating others to become a Tableau Ambassador. We can't wait to meet you!
LEARN MORE

Nissato Genia
VIEW PROFILE

Tableau Academic Ambassador
心理社会学部3年生
新里元大さん

Tableau Academic Ambassadors
Academic Ambassadors are Tableau champions in higher education who empower and engage others to acquire fundamental skills to improve their employability. Student Ambassadors support Tableau Academic Programs through on-campus events and social media campaigns to prepare students for success in today's data-driven world. Instructor Ambassadors are the go-to light for other educators to get inspired by and to support and enhance the Academic Programs with us.

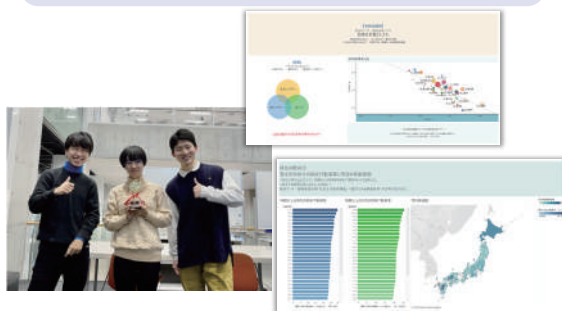
Salesforce社がグローバル募集を行っていたもので、Academic Ambassadorの対象は教員と学生。世界で67名が選出され、日本人は5名(教員1名、学生4名が選抜)

<https://www.tableau.com/community/community-leaders/ambassadors#tableau-student>

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

【参考】令和4年度_学生たちの学外での活躍

令和4年度 学外コンテストへの参加支援事例①
3年生のSA(現4年生)の有志学生2チーム(7名)が「企業分析AWARD 2022」に参加。うち1チームが優勝!



発表タイトルは「人々の生活時間に注目して日本を元気にしたい!」
見事賞金の30万円も獲得
<https://techplay.jp/column/1661>

令和4年度 学外コンテストへの参加支援事例②
公共政策学科の2年生(現3年生)の有志学生が三鷹市の「学生によるミタカ・ミライ研究アワード2022」で「優秀賞」を獲得 ※2年連続優秀賞受賞



Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

3. 令和5年度_学習支援面での重点課題

<LMS (UR-note) の活用推進他>
 <学修支援体制の強化>

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

UR-noteを使った自主学修の推進

R5_春学期に配信した自主学修メニューは以下の通り

1年生	配信目的	配信内容	Excel (正答付)	練習問題 (自動採点&正答付)
DSⅠ	第3回小テスト対策	小テスト対策練習問題 (1種類)		1 テーマ_20問
	第5回小テスト対策	小テスト対策復習用ワークブック	5 ファイル	
	期末テスト対策	期末テスト対策問題 (4種類) 期末テスト対策復習ワークブック	7 ファイル	4 テーマ_43問
DSⅡ	第3回小テスト対策	小テスト対策問題 (1種類)		1 テーマ_5 問
	第5回小テスト対策	小テスト対策練習問題 (3種類)		3 テーマ_40問

2年生	配信目的	配信内容	Tableau (正答付)	練習問題 (自動採点&正答付)
DSⅣ	第4回小テスト対策	小テスト対策復習用ワークブック	3 ファイル	
	第6回小テスト対策	小テスト対策復習用ワークブック	5 ファイル	
	期末テスト対策	期末テスト対策問題 (4種類) 期末テスト対策復習ワークブック	8 ファイル	4 テーマ_45問
DSⅤ	第4回小テスト対策	小テスト対策復習用ワークブック	1 ファイル	

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

UR-noteを使った自主学修（復習用ワークブック）の推進



事例① UR-noteを活用した補習の案内&復習用ワークブックの配信

※テーマ別ファイルとなっており、正答と解説付きで配信。

**復習用ワークブック
補習でも使用（1年生用）**

- DS I_自習・補習用①加算・減算・SUM関数
- DS I_自習・補習用②乗算・除算・絶対参照
- DS I_自習・補習用③書式設定・行列挿入削除
- DS I_自習・補習用④IF関数・COUNTIF関数
- DS I_自習・補習用⑤-1_平均値・最大値・最小値
- DS I_自習・補習用⑥-2_平均値・最大値・最小値・中央値・最頻値
- DS I_自習・補習用⑦並び替え・フィルター他

**復習用ワークブック
補習でも使用（2年生用）**

- RS_自習・補習用_DSIV①_日付
- RS_自習・補習用_DSIV②_並べ替え&フィルター
- RS_自習・補習用_DSIV③_グループ&階層
- RS_自習・補習用_DSIV④_計算フィールド
- RS_自習・補習用_DSIV⑤_集計非集計
- RS_自習・補習用_DSIV⑥_表計算・ランキング
- RS_自習・補習用_DSIV⑦_移動平均
- RS_自習・補習用_DSIV⑧_ダッシュボード

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

UR-noteを使った自主学修（e-Learning）の推進



事例② e-Learningの配信 📌小テスト・期末テスト対策の練習問題

※自動採点機能を活用。正答と解説付きで配信。何度でも取り組むことが可能

期末対策に知識問題のe-Learning 4つ（1年生）

- 【自主学修用】DS I_ 期末テスト対策_練習問題①「情報リテラシー」 10問
- 【自主学修用】DS I_ 期末テスト対策_練習問題②「単価集計とクロス集計」 10問
- 【自主学修用】DS I_ 期末テスト対策_練習問題③「基本統計量」 13問
- 【自主学修用】DS I_ 期末テスト対策_練習問題④「4つの尺度」 10問

期末対策に知識問題のe-Learning 4つ（2年生）

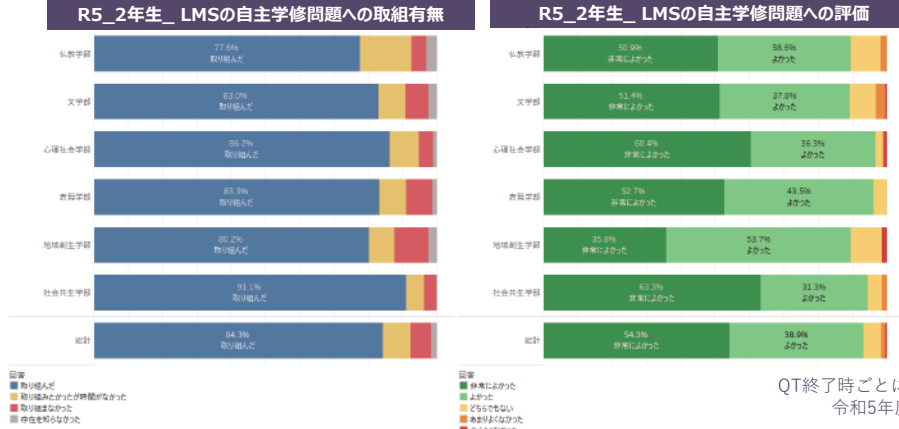
- 【自主学修用】DSIV_ 期末テスト対策_練習問題①「データドリブンの思考プロセス」 10問
- 【自主学修用】DSIV_ 期末テスト対策_練習問題②「データ活用の情報リテラシー」 10問
- 【自主学修用】DSIV_ 期末テスト対策_練習問題③「よく使う指標の計算式」 5問
- 【自主学修用】DSIV_ 期末テスト対策_練習問題④「グラフの種類と特徴、使いかたについて」 20問

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

令和5年度_LMSの自主学修サイトの利用 (2年生_春学期)



令和5年度から開始したLMSでのテスト対策の自主学修問題だが、全体で8割以上の学生が利用しており、活用率は高い。期末アンケートでの学生からの改善要望は「もっと問題数を増やしてほしい」「より難易度の高い問題を用意してほしい」「正答の解説をより詳しく書いて欲しい」などが挙がっており、今後改善に取り組んでいく。

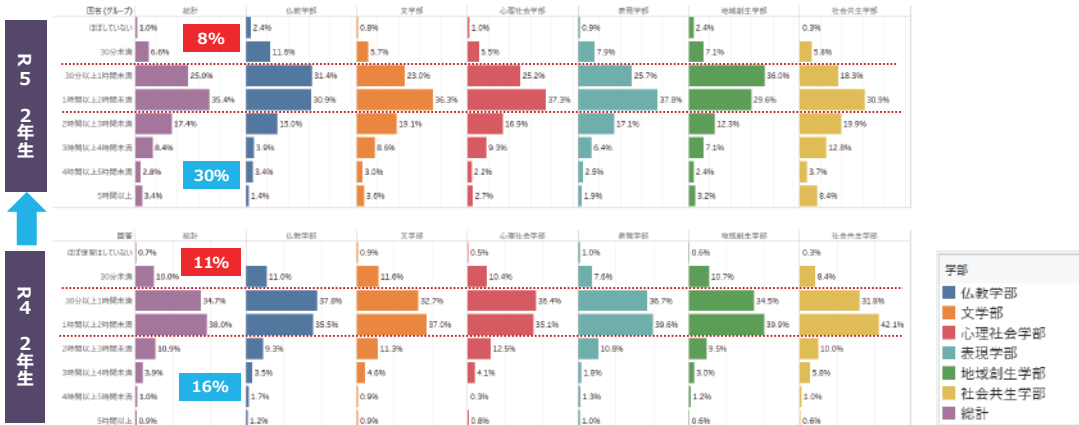


QT終了時ごとにアンケート実施。
令和5年度2年生1243名が回答

令和5年度_テストに向けた自主学修時間 (2年生_春学期)



学修時間は学生からの自己申告である。学部によってテスト準備学修時間の傾向は異なるが、令和4年度と比較すると30分未満の学生の割合が約3%減っていることと、2時間以上の学生の割合が16%から30%へと14%増えている要因のひとつに令和5年度から開始したLMSでの自主学修問題の配信が考えられる。



QT終了時ごとに学生にアンケートを実施。令和4年度2年生1068名、令和5年度2年生1243名が回答

【参考】LMSの自主学修問題に対する学生の声

【よかった点】

- ✓ テスト前の予習として十分な量であった。解説もテスト前に見直すと情報の整理ができた。
- ✓ 分野に分かれているので自分の苦手なものを選んで何回も挑戦できるのが良かった。
- ✓ 実際に手を動かして解くことでさらに理解が深まり、テストの対策ができたところが良かったです。
- ✓ 何を勉強したらよいかわからないときや、補講に出たいのに予定がどうしても合わないときにちょうど良かった。
- ✓ スタンダードな問題から応用問題まであり自分の苦手な点をよく知ることができたのでスムーズに勉強を進めることができた。
- ✓ 例えば同じ計算フィールドの問題でもいろいろなパターンが用意されていて、テストでどのような問題が出ても対応できるようになっていた点が良かった。
- ✓ 実際のテストよりも、少し難しい問題が出されているので、自分の力を試せるし、自主学習教材を解けるようになるのでテストが楽に感じるのですごくありがたかったです。
- ✓ 問題の難易度も明記されており、自分が今の位置にいるのか把握することができ良かった。

【改善してもらいたい点】

- ✓ 何度も取り組んでいると答えを覚えてしまうのでできるだけ沢山の問題を用意してもらいたい。
- ✓ 期末テストのようにランダムに問題を出題するという形式もあっていいかなと思いました。
- ✓ より難易度の高い問題を充実させてほしい。
- ✓ もっと早く配信してもらいたい。

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

データサイエンスラーコモの新設と活用 (令和5年4月～)

令和5年度4月から開設し、全24席。開室時間：月11時～17時半 / 火・水 10時～17時半 / 木・金 (授業日) 13時～17時半としており、コアチューター3名が基本常駐。主な使用目的は①補習 ②個別学修支援 ③追試となっている。学修支援場所が同じ場所になったことで学生がいつでも相談にこられる環境が整いつつある。

2QTの補習開催日時一覧

学年	学号	科目名	内容	期	曜日	開始時刻	終了時刻	実施形態	出席	欠席	出席率	備考
2023	001	データサイエンス基礎(必修)	4800101	1	月	11:00	13:30	対面	0	0	0%	
2023	002	データサイエンス基礎(必修)	4800101	1	火	10:00	12:30	対面	0	0	0%	
2023	003	データサイエンス基礎(必修)	4800101	1	水	10:00	12:30	対面	0	0	0%	
2023	004	データサイエンス基礎(必修)	4800101	1	木	13:30	16:00	対面	0	0	0%	
2023	005	データサイエンス基礎(必修)	4800101	1	金	13:30	16:00	対面	0	0	0%	
2023	006	データサイエンス基礎(必修)	4800101	1	月	11:00	13:30	対面	0	0	0%	
2023	007	データサイエンス基礎(必修)	4800101	1	火	10:00	12:30	対面	0	0	0%	
2023	008	データサイエンス基礎(必修)	4800101	1	水	10:00	12:30	対面	0	0	0%	
2023	009	データサイエンス基礎(必修)	4800101	1	木	13:30	16:00	対面	0	0	0%	
2023	010	データサイエンス基礎(必修)	4800101	1	金	13:30	16:00	対面	0	0	0%	
2023	011	データサイエンス基礎(必修)	4800101	1	月	11:00	13:30	対面	0	0	0%	
2023	012	データサイエンス基礎(必修)	4800101	1	火	10:00	12:30	対面	0	0	0%	
2023	013	データサイエンス基礎(必修)	4800101	1	水	10:00	12:30	対面	0	0	0%	
2023	014	データサイエンス基礎(必修)	4800101	1	木	13:30	16:00	対面	0	0	0%	
2023	015	データサイエンス基礎(必修)	4800101	1	金	13:30	16:00	対面	0	0	0%	
2023	016	データサイエンス基礎(必修)	4800101	1	月	11:00	13:30	対面	0	0	0%	
2023	017	データサイエンス基礎(必修)	4800101	1	火	10:00	12:30	対面	0	0	0%	
2023	018	データサイエンス基礎(必修)	4800101	1	水	10:00	12:30	対面	0	0	0%	
2023	019	データサイエンス基礎(必修)	4800101	1	木	13:30	16:00	対面	0	0	0%	
2023	020	データサイエンス基礎(必修)	4800101	1	金	13:30	16:00	対面	0	0	0%	
2023	021	データサイエンス基礎(必修)	4800101	1	月	11:00	13:30	対面	0	0	0%	
2023	022	データサイエンス基礎(必修)	4800101	1	火	10:00	12:30	対面	0	0	0%	
2023	023	データサイエンス基礎(必修)	4800101	1	水	10:00	12:30	対面	0	0	0%	
2023	024	データサイエンス基礎(必修)	4800101	1	木	13:30	16:00	対面	0	0	0%	
2023	025	データサイエンス基礎(必修)	4800101	1	金	13:30	16:00	対面	0	0	0%	



Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

データサイエンス科目の今後の取組

【令和5年度の目標達成にむけて】

- ✓ 単位未取得者3%未満の目標達成にむけての探究チームとのさらなる連携強化。個別面談&指導
- ✓ 特別プログラムの目標達成に向けての学修支援体制強化と取得資格の就活への有効活用推進
- ✓ 学外コンテスト出場にむけた計画的支援とコンテスト以外での学生の活躍や実績づくりの場の拡大。
特に理系の学生確保に難航しているIT企業との関係づくり
(データドリブな学生のインターンシップ送り込み)

【重点課題：LMSの活用推進】

- ✓ LMSの更なる活用推進による自主学修の習慣定着化推進と自主学修問題の量&質の向上

【学修支援体制】

- ✓ 教育と学修支援の質の維持向上のための教員採用とチューターの採用と育成
- ✓ 令和6年度にむけてシニアSA制度導入検討開始👉SA自身のリーダーシップ&キャリア開発も目的とする

【その他】

- ✓ 新学習指導要領世代の入学を見越してのカリキュラムの内容・水準の見直し（2025年に向けて準備）
- ✓ 1年生の成績上位層の早期引き上げ体制の構築 👉R6年度成績上位者層のためのクラスを新規設置準備
令和6年度にむけて授業内容、教授法、教材の改善を図るとともに、学生の理解度と社会的ニーズの双方を踏まえた上での難易度についての検証と見直し

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.



MAKE
YOUR
UNIVERSE.

一緒だからつくれる世界を。

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

令和5年度_夏のデータサイエンス 特別プログラム（検定・資格対策）実施報告書

2023年12月
学修支援センター（DAC）
トランジション教育チーム
データサイエンス科目担当

résumé

- ✓R5_夏_特別プログラム実施結果報告
- ✓R5_夏_特別プログラム振り返り
- ✓R5_春_特別プログラムに向けての計画

以降のスライドでは検定・資格名を略して表記しています

- ✓ 「Tableau Desktop Specialist」 → 「Tableau」
- ✓ 「MOS Excel 一般」 → 「MOS一般レベル」 「MOS一般」
- ✓ 「MOS Excel 上級」 → 「MOS上級レベル」 「MOS上級」
- ✓ 「統計検定4級」 → 「統計4級」 「統計」

2023年7月～2023年10月

R5_夏_特別プログラム実施結果報告

NO	名称	対象の資格・試験	特別プログラム実施計画				対象者 (推奨)	資格・試験の 主催
			R4夏	R4春	R5夏	R5春		
1	Tableau Desktop Specialist 対策講座	Tableau Desktop Specialist	→				データサイエンス I～VI修了 学生	Tableau Software
2	MOS Excel 一般レベル 対策講座	マイクロソフト オフィス スペシャリスト Excel 一般レベル	→				特に指定なし	Microsoft
3	統計検定4級 対策講座	統計検定 4級	→				特に指定なし	一般財団法人 統計質保証 推進協会
4	MOS Excel 上級レベル 対策講座	マイクロソフト オフィス スペシャリスト Excel 上級レベル			→ 開始!	Excel 一般レベル 資格保有者	Microsoft	
5	統計検定3級 対策講座	統計検定 3級			→ 新規	統計検定4級 資格保有者	一般財団法人 統計質保証 推進協会	

令和5年度_データサイエンス_特別プログラム報告書
令和5年度_夏の特別プログラム_実施スケジュール



スケジュール展開	R4_夏のプログラム	R5_夏のプログラム	内容
告知	7/21~8/3 (2週間)	7/13~7/31 (2週間半↑)	最終授業 → 第6回、7回で連続で案内 SAから体験談トーク(授業中) → 効果有
ガイダンスの実施	8/4、8/5、8/15、 8/17の4日間	7/20、7/21、7/24 3日間(↓)	対面とオンラインで実施
申込〆切り	8/17	7/31	Formsで集約
事前動画配信	8/9 - 9/30 (約7週間)	8/1 - 10/31 (約8週間↑)	MOSと統計のみオンデマンド動画視聴有/ 動画視聴を事前課題として、視聴の促しをはかる
対面授業と学習支援	8/18-9/8 (約3週間)	8/18 - 10/31 (約5週間↑)	春以降対面とオンライン併用 → 効果有
模擬試験	9/6 - 9/22 (約2週間)	8/23 - 10/31 (約5週間↑)	R4夏👉Tableau4回、MOS9回、統計5回実施 R5夏👉Tableau4回、MOS5回↓、統計7回↑実施
学生受験期間	9/9 - 10/31 (約7週間)	8/23 - 10/31 (約9週間↑)	模擬試験で一定のスコアを取得した学生は本試験を受験(70%クリアした時点で受験許可)
受験料補助申請	10/3 - 11/9 (約5週間)	8/23 - 10/31 (約9週間↑)	講義受講、模擬試験受験の条件を満たした学生が受験料の補助金を申請

令和5年度_データサイエンス_特別プログラム報告書
令和5年度_特別プログラム_実施結果



◆R3~R6_検定&資格取得目標◆

	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
取得率目標	0%	30%	50%	80%

◆R5年度夏_合格者数進捗状況◆

講座(講義)	目標数(学生数)		実績(学生数)		合格率		目標達成率		
	受講者数 目標数	合格者数 目標数	受講者 数	資格試験 受験者数	合格者 数	受講者数に 対しての合格率	受験者数に 対しての合格率	受講者数 達成率	合格者数 達成率
Tableau Desktop Specialist	30	15	86	57	56	65.1%	98.2%	286.7%	373.3%
統計検定4級	30	15	40	25	22	55.0%	88.0%	133.3%	146.7%
MOS Excel 一般	100	55	142	95	93	65.5%	97.9%	142.0%	169.1%
MOS Excel上級 (NEW)	15	7	49	38	36	73.5%	94.7%	326.7%	514.3%
合計	175	92	317	215	207	65.3%	96.3%	181.1%	225.0%

【参考】R4年度夏&春計_着地

講座(講義)	受講人数	資格試験 受験者数	合格者	受講者に対し の合格率	受験者数に対し の合格割合
Tableau Desktop Specialist	43	28	28	65.1%	100%
MOS Excel 一般	205	144	140	68.3%	97%
統計検定4級	75	46	39	52.0%	85%
合計	323	218	207	64.1%	95%

2023年7月～2023年10月

R5_夏_特別プログラム振り返り

【成果】

- ✓ 受講生はのべ317人でそのうち受験者215人、合格者が207人。昨年の約2倍に伸長
- ✓ 令和5年度の目標👉受講者の合格率目標50%は65%と達成した
- ✓ 受験者に対しての合格率も96%と概ね好調
- ✓ 課題であった統計検定4級の受験者の合格率は、春：92%→夏：88%と減少した。
引き続き課題として取り組む

講座（講義）	目標数（学生数）		実績（学生数）			合格率		目標達成率	
	受講者数 目標数	合格者数 目標数	受講者 数	資格試験 受験者数	合格者 数	受験者数に 対しての合格率	受験者数に 対しての合格率	受験者数 達成率	合格者数 達成率
Tableau Desktop Specialist	30	15	86	57	56	65.1%	98.2%	286.7%	373.3%
統計検定4級	30	15	40	25	22	55.0%	88.0%	133.3%	146.7%
MOS Excel 一般	100	55	142	95	93	65.5%	97.9%	142.0%	169.1%
MOS Excel上級 (NEW)	15	7	49	38	36	73.5%	94.7%	326.7%	514.3%
合計	175	92	317	215	207	65.3%	96.3%	181.1%	225.0%

【課題】

- ✓ 受講者人数に対する受験者数が春：73%👉夏68%へと減少した。受講生の増加も要因のひとつ

令和5年度_データサイエンス_特別プログラム報告書
R5_夏の特別プログラム実施結果（概要）



◆昨年からの変更点

UR-noteを特別プログラムでも活用することにより学生のPDCA推進と事務効率化を推進

① 模擬問題の配信（統計とtableauのみ）

- 自動採点機能を導入して（解説含）自習を促進

② 学生への連絡手段をTeamsからUR-note中心に変更 📌詳細はP18

③ 「学生カルテ」の作成

- 学修計画を記入してもらい、対面授業、模試、本試験までにすべきことを意識してもらう。
- 記入内容が常に上書き保存されるため、従来Formsで提出させていた模試の点数なども学生は少ない手間でも反映でき、コアチューターも効率的に集計できた。
- カルテ記入情報を元に、うまく進められていない学生をキャッチアップできるようになった。

令和5年度_データサイエンス_特別プログラム報告書
R5_夏の特別プログラム実施結果（詳細）



◆R5_夏_数値目標達成にむけて取組みの振り返り

R5夏の課題	R4_夏実績	R5_夏実績	評価	夏具体的な取り組み
受講人数の向上	155人	317人 (+162人)	◎	合格者の声と実績を明示することにより、「資格を取得することによるメリット」を鮮明に伝えることができ、学科に協力を依頼せずとも受講者を増やすことができた
受験者率の向上	60%	68% (+8%)	△	昨年の夏よりはあがったが直近の春よりは5%下がっている受講者が多く且つUR-noteの特性もあり連絡をとるのに苦労した
統計検定の合格率の向上 (対受験者数)	77%	88% (+11%)	○	昨年の夏よりはあがったが直近の春からはほぼステイ模試の問題数を増やす、もしくは演習として使えるサイト等を提示、ケア期間を増やすなどの対策で向上の余地あり。

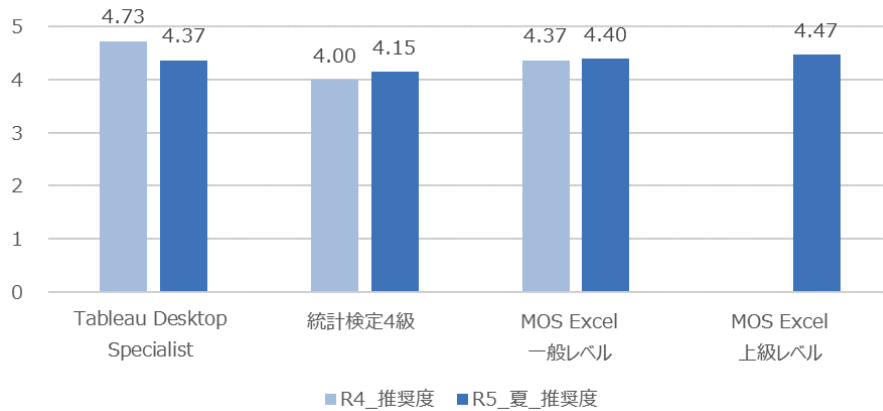
◆R5_夏_特別プログラム運営面での取り組みの振り返り

R5夏の課題	評価	夏の具体的な取り組み
コア中心の運営へのシフト	◎	昨年は宮脇先生が中心となっていたが、今年度はコア3人で分担と共有を徹底し進めることができた。ただし、縦割りになっていた業務については共有方法など検討の余地あり
PC貸し出しルールの明確化 (MacではMOSは受験できないため)	◎	この点に関してはスムーズに貸し出しをまわすことができた (総合学修支援部、探究のコアにも協力いただけた)
受講者マスタの整理とデータ更新の効率化	○	講座ごとのマスタを作り、学生カルテにより学生の状況を逐一把握できた。 プログラム後期に全講座をまとめたマスタを作ったため、春はより講座間の情報共有が期待できる。

令和5年度_データサイエンス_特別プログラム報告書
R5_夏の各プログラムごとの推奨度平均（5段階評価）



- ✓ 最も推奨度が高いのはMOS上級の4.47であった
- ✓ Tableauの推奨度はやや下がっているものの高水準である。統計の推奨度は前年と比較すると若干改善している。

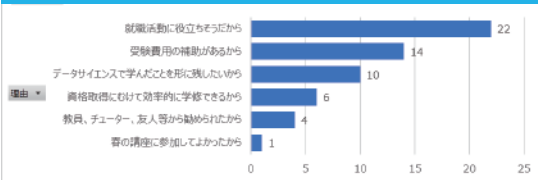


令和5年度_データサイエンス_特別プログラム報告書
R5_夏の特別プログラムへの1番の参加理由

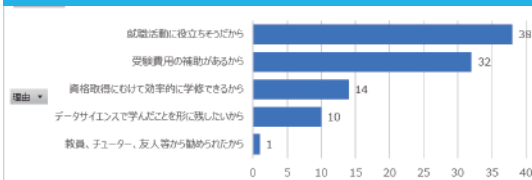


- ✓ 就活に役立ちそうだから、受験費用の補助があるから、資格取得にむけて効率的に学修できるデータサイエンスで学んだことを形に残したいの4項目がいずれも上位。

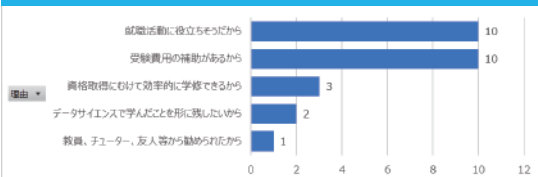
Tableau Desktop Specialist 57人回答



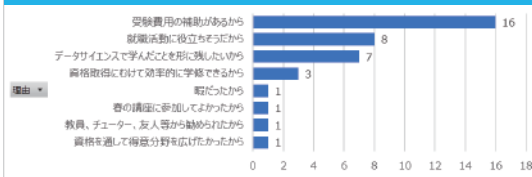
MOS Excel 一般レベル 95人回答



統計検定4級 26人回答



MOS Excel 上級レベル 38人回答



令和5年度_データサイエンス_特別プログラム報告書
R5_夏のプログラムの受講後の声(全講座共通事項)



【良かった点】

- ✓ 模擬試験などゴールが設定されていたため、スケジュールを立てて効率よく資格を取得することができた点がよかった。
- ✓ 授業や模試への出席が必須なことで、ちゃんとやろうという意識になった点。
- ✓ 模擬試験に合格できなかった時、これからの学習の仕方について教えてくれ、本試験前も面談を受けられて、安心して取り組むことが出来た。
- ✓ 模擬試験で70%以上合格という明確な目標数値があったおかげで、どれくらいの点数を獲得できれば合格できるのかを事前に知ることができたこと。
- ✓ 就活に役立ったり、どんな働き方でも役立つ資格の内容を実際に聞く機会は、このような講座やガイダンスがないと減多に聞く機会がないので、どういう資格を持っておくかと活かせるのがイメージできる機会にもなって個人的に良かった。
- ✓ 対面での模試により、実際の試験と同じような感覚で取り組むことができた。
- ✓ 自分一人で資格に向けて勉強するよりも、対面授業を通して自分のモチベーションを保つことができました。
- ✓ 本試験までの計画が立てやすいところが良かったです。講義動画の視聴→模擬試験→本試験までのサポートも手厚く、安心して本試験に望むことができました。また、合格に向けて学生ごとの面談を行い、各々の生活スタイルに沿って進行していく点も良かったです。質問があった時もチューターさんがメッセージにて即時対応してくれて、大変助かりました。
- ✓ 対面講義や模試の日を多く設けてくれていて、スケジュールの面で苦勞することがなかった。

【改善して欲しい点】

- ✓ 始めに受講方法だけでなく、補助金申請までの情報を早めに出してほしかった。また、講義や模試が対面必須なのか、オンラインでもよいのかの分かりにくかった。補助金申請のフォームをいつ公開するのかを、講義か模試の時に連絡してほしいです。
- ✓ テキスト購入を必須でなくしてほしいです。動画などで十分だったのでほしい人が買うようにしてほしいです。

令和5年度_データサイエンス_特別プログラム報告書
R5_夏のプログラム_Tableau_受講後の声



【良かった点】

- ✓ 講義を録画してくれていたため、分からないところを自分で見直すことができたのがよかった。
- ✓ 講義では授業を受けている人が付いてこられているかなど、受講者に対してしっかりと寄り添っていたこと。
- ✓ 毎回の講義で各問題についてなぜそれが答えになるのか、他の選択肢はなぜ間違っているのかを丁寧にしてくれたこと。
- ✓ DSの授業で学んでいない内容がいくつかあったので、それらに関しては講義を通して新しい知識を身に付けることができた。
- ✓ 質問解決の時間を設けてくれたことに感謝している。
- ✓ 模試が3回分受けることができるため、問題の順番を覚えて答えるなどの変な覚え方をせずに本番に臨むことができた。
- ✓ 試験の申し込み方法を分かりやすく案内してもらえた。
- ✓ 模擬試験に何度も挑戦できたので、わからないところをなくすことができた。

【改善して欲しい点】

- ✓ tableauの講義で使用した問題の答え(Excel)が少しだけ見づらかったです。
- ✓ 授業内で解いた問題の答えが書かれたリストを、今後配布すると発言があったが、結局無かった。
- ✓ ヘッダーやラベルといった初歩的な用語も、授業でちゃんとやった記憶がなかったので、tableauの画面に出てくるものの呼び名を最初に確認できていたら理解が早かったかもしれない。
- ✓ 初回の授業以前に出席確認の取り方のアナウンスがあると、出席登録忘れがなく良かったかもしれません。
- ✓ 受験料が一回目受験合格なら全額補助と聞き、それが受ける決め手になったのですが、1ドル135円の補助となっており、自分が申し込んだ日は1ドル149円と合計2000円近く自腹で払わなくてはならなかったのが最初の話と違うと思わず不満です。資格が欲しく受けるのは自分ですが、学費払っている分ドル値関係なしに全額免除してほしいです。
- ✓ オンラインで講義を受講していて、音声がかきこえない部分がありましたが、後日説明していただけたので助かりました。

令和5年度_データサイエンス_特別プログラム報告書
R5_夏のプログラム_Excel_一般_受講後の声



【良かった点】

- ✓ 分からない時は先生に聞きに行けばいいんだという安心感があった。
- ✓ 対面授業では、学生が質問をしやすいように多くの時間巡回してくれたため、質問を聞きやすいと感じた。
- ✓ 講義の動画に関して、自分が既に分かっているところは飛ばしても大丈夫な様にしてくれて、効率的に自分が分からないところを勉強することが出来、良かったです。
- ✓ 模試の結果に応じておすすめの学習方法を教えてもらえた点。
- ✓ 動画講義が分かりやすく、対策していくうえでかなり重宝した。何回も見ることができたため、2週目ができて良かった。
- ✓ windowsの貸し出しがあったのでwindowsの扱いに慣れてから受けることができて良かった。

【改善して欲しい点】

- ✓ (動画講義に関して)「〇?〇番」のようにまとめてあったので、見たいところを探す際に動画をいちいち飛ばさないといけないのが少し不便だと感じました。
- ✓ 説明があったが自分自身で行うことが多く、間違いそうで不安が残った点。
- ✓ 模擬試験のプログラムがダウンロード出来ずに毎回学校に通って受けることになったこと。家から学校までかなりの距離があり、わざわざ試験の練習の為に学校に行かなければならなかったのは少し酷だった。
- ✓ 貸出PCの長期貸与等の対応があったら嬉しかった。
- ✓ 対面講座が5限しかなく、一枠くらい別の時間に受けられる回があったらうれしかった。

令和5年度_データサイエンス_特別プログラム報告書
R5_夏のプログラム_Excel_上級_受講後の声



【良かった点】

- ✓ 受験料補助やパソコンを借りることができたことなど補助がなければ、私はこの資格を勉強することが難しい環境だったので助かった。
- ✓ 必ず出題されるような問題や間違えやすいポイントをじっくりと教えていただくことが出来ました。そのため、後々自宅学習を進めるときや、模擬試験プログラムに取り組んでいるときに、はじめから注意して問題を解くことが出来、ミスを減らすことが出来ました。ポイントを整理することで、着実に正解していくことに繋がったと思います。
- ✓ 動画講義ではテキストの説明だけでは分からなかった『実際に操作する様子』を見ることができて理解を深めることができた。

【改善して欲しい点】

- ✓ 模試の後に行った面談にあまり効果を感じなかった。模試の結果や、実際に間違えた問題を確認したりして、どうして間違えたのかなどを一緒に考えたかった。
- ✓ チューターさんにいつでも頼れるという環境ではなかった点です。経験的にMosのエキスパートを知っているチューターさんが少なかったため、対面講義が終わると質問をしたくても誰に頼れば良いかわからない状況でした。
- ✓ テストを受けた際に難しい関数の問題が多く出題されたので、関数の問題についてもっと詳しく解説をして頂けると良かったと思います。

令和5年度_データサイエンス_特別プログラム報告書
R5_夏のプログラム_統計検定_4級_受講後の声



【良かった点】

- ✓ 模試が数回受けられる点。質問がしやすい点。模試の後受験まで具体的に一人一人と話し合ってくれた点。
- ✓ 項目ごとに効率よく学習を行うことができたところです。出題範囲の動画を見た上で対面講義に臨むため、自身の苦手な部分を知ることができました。後はその範囲を集中して取り組むだけで合格に繋げることが出来ます。
- ✓ 動画教材の詳しい解説がいつでも見直せ、繰り返し復習できたことが良かった。

【改善して欲しい点】

- ✓ 模試のパリエーションを増やしてほしい。

令和5年度_データサイエンス_特別プログラム報告書
R5_夏のプログラム_UR-noteに関する受講後の声



【改善して欲しい点】

- ✓ 昨年まではGoogleFormsやTeamsでスムーズにやり取りができていましたが、4人に対してメッセージを送るなどやり方も不慣れな中でやり取りの仕方が質問をしてもメッセージに対応頂けなかったことがあったので、そこは前回の方がやりやすかったなと思いました。
- ✓ DS特別プログラムのコースを開かないとメッセージが見れないこと。
- ✓ 重要なメッセージや講義に関する連絡が更新された場合、メールでも通知が来るようにしてほしいです。
- ✓ 動画とそれ以外のコンテンツを同時に開けない点。外部サイトの利用？などもよいかもしいない。
- ✓ どの情報がどこにあるのかしばしば分からなくなった点。
- ✓ 模試で自分が何度も間違えた問題を記録して見返せるような機能があるとより効率的に学習できたと思いました。
- ✓ 時間割から対策講座のメニューに行くためのリンクが下過ぎる、もう少し目立つようにしてほしい。

令和5年度_データサイエンス_特別プログラム報告書
R5_夏のプログラムに向けた課題整理と春に向けて



	R5_夏の課題	R5_春に向けた対応策
【継続課題】	模試・本試験受験者数（率）の向上	申込時に模試・本試験受験の仮日程を決めてもらい、より本試験までのスケジュールを意識してもらう。
	学生の繁忙期（3QT）のバタバタ回避	模試の早めの受験の仕掛けを行う。具体的には模擬試験は対面講義の1週間後に固定し、スケジュールに余裕のない学生を減らす。
【新規課題】	統計検定3級合格者の確保	4級保有者への事前連絡 / 公共政策学科との連携
	学生との連絡方法の見直しと対策	参加者に「電話には必ず出るようにしてください」と事前告知の徹底 貸与携帯の活用
【運営上の課題】	学生追いかけ作業についての効率化	個別メッセージ配信ではなく一括送信など（Microsoft Power Automateの活用） 面談などの重点的な学修支援対象者を、主に「2回目の模擬試験不合格者」に絞る。
	事前説明の徹底 (学生との齟齬がないように) ・補助金の手続き ・tableauの自己負担	補助金申請書類に関して、掲示する時期を早めに提示しておく。 注意事項やQ&Aをまとめたファイルを作成する。 「必須テキストに基づいて講義を作成している」「Tableauの補助金はドル換算である」などの説明を加え、齟齬が起きないようにする。

令和5年度_データサイエンス_特別プログラム報告書



2024年1月～2024年3月

R5_春_特別プログラムに向けての計画

令和5年度_データサイエンス_特別プログラム報告書
令和5年度目標



◆R3～R6_検定&資格取得目標◆

	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
取得率目標	0%	30%	50%	80%

◆R5_検定&資格取得目標◆

✓ MOS上級は夏から開始、統計検定3級は春から開始予定

検定・資格名称	夏休み			春休み			令和5年度計		
	受講者数	合格者数	合格率	受講者数	合格者数	合格率	受講者数	合格者数	合格率
Tableau Desktop Specialist	30	15	50%	30	15	50%	60	30	50%
MOS Excel 一般	100	55	55%	100	55	55%	200	110	55%
統計検定4級	30	15	50%	30	15	50%	60	30	50%
MOS Excel 上級	15	7	47%	15	8	53%	30	15	50%
統計検定3級				10	5	50%	10	5	50%
合計	175	92	53%	185	98	53%	360	190	53%

令和5年度_データサイエンス_特別プログラム報告書
R5_春の特別プログラム実施内容





●特別プログラム（対策講座）の種類と資格

NO	名称	対象の資格・試験	対象者 (推奨)	資格・試験の 主催
1	Tableau Desktop Specialist 対策講座	Tableau Desktop Specialist	データサイエンス I～VI修了学生 1年生対象外	Tableau Software
2	MOS Excel 一般レベル 対策講座	マイクロソフト オフィス スペシャリスト Excel 一般レベル	特に指定なし	Microsoft
3	統計検定4級 対策講座	統計検定 4級	特に指定なし	一般財団法人 統計質保証 推進協会
4	MOS Excel 上級レベル 対策講座	マイクロソフト オフィス スペシャリスト Excel 上級レベル	Excel 一般レベル 資格保有者が のぞましいが 必須ではない	Microsoft
New !	統計検定3級 対策講座	統計検定 3級	4級資格保有者が のぞましいが 必須ではない	一般財団法人 統計質保証 推進協会

令和5年度_データサイエンス_特別プログラム報告書
プログラムの概要（各講座共通）



<p>動画講義</p>  <p>4～5本</p>	<ul style="list-style-type: none"> 試験範囲の各機能を、試験問題を念頭において網羅的に解説 試験範囲の多くはDSの授業にて学修済だが、試験対策として、より深く理解すべき点や、授業では触れていない部分を学修する 「対面の講義」と「受講前の視聴」をおすすめします <p>※Tableauの動画講義はありません</p>	<p>講義録画視聴期間（1/30-4/30）</p>
<p>対面講義</p>  <p>4コマ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 模擬問題による実習および解説、必要に応じて質疑応答 頻出問題や誤答しやすい問題を多く取り上げる 試験問題には「独特の表現で質問の意図がつかみにくい」ものがあるため、模擬問題を通じてこれに慣れておくことができる 	<p>受講期間（2/15-3/14） ※対面 or オンライン</p>
<p>模擬試験</p>	<ul style="list-style-type: none"> 模擬試験を受けて、自分のスコアを確認する 間違えた箇所を確認、本試験に向けての学修計画を見直す 	<p>模試（2/21-3/22）</p>
<p>学修支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> 全期間通して学修相談します！ 	<p>学修支援（1/30-4/30）</p>

令和5年度_データサイエンス_特別プログラム報告書
1. Tableau Desktop Specialist 概要

1年生対象外



- 「Tableau Desktop Specialist」は、Tableauの基本的なスキルと製品知識を証明する認定資格
 - ✓ Tableauを導入する企業が増えているにもかかわらず、まだ取得している人が少ない注目度の高い資格である
 - ✓ 試験は、選択式の知識問題45問が出題される(60分、実技試験なし)



● 試験範囲

データへの接続 保存形式 ディメンションとメジャー 不連続と連続 集計の概念 棒グラフ 折れ線グラフ 円グラフ ツリーマップ ヒストグラム 箱ひげ図	散布図 地図 クロス集計表 合計・小計 ハイライト表 二重軸 共有軸 複合グラフ マークカード 並べ替え フィルター	日付 階層 グループ 計算フィールド 集計と非集計 表計算 ダッシュボードとアクション ストーリー 結合 ユニオン	ライブと抽出 .tds アニメーション 関数 パラメーター リレーションシップ
<p>データサイエンスⅠ～Ⅵで学修済み</p> <p>学修内容よりやや高度な問題が出題される</p>			<p>未学修</p>

- 受験料 一般:100米ドル 学生:80米ドル

1. Tableau Desktop Specialist 対策講座



講座名	Tableau Desktop Specialist 対策講座
到達目標	Tableau Desktop Specialist の合格を目指す
参加資格	データサイエンスⅠ～Ⅳ修了学生 1年生対象外
授業形式	対面とオンライン選択可能 100分×4回
テキスト	特に指定なし
開講日	下記の4回すべてに参加 (いずれも3限目で4回シリーズです) 1回目: 2月15日(木) / 2回目: 2月20日(火) 3回目: 2月27日(火) / 4回目: 3月4日(月)
学修内容	試験範囲のTableauの機能について、問題を解きながら修得していきます。
模擬試験実施日	合格圏内に到達するまで、模擬試験を実施 (1回は必須) いずれも 3限目 に実施します。 3月11日(月) / 3月14日(木)

2. MOS Excel 一般レベル 概要



- 「マイクロソフト オフィス スペシャリスト(MOS)」は、ExcelやWordなどのOffice製品の利用スキルを証明できる資格
 - ✓ キャリアアップや就活に役立つほか、MOSを取得した学生だけが参加できる国際的なパソコン大会なども開催されている
 - ✓ パソコンを使用した実技試験で、「プロジェクト」と呼ばれる1つの問題の中で複数の設問に解答する方式(50分)

- 試験範囲

数式や基本的な関数の作成、セルの書式設定、グラフ作成など、Excelでの基本的な操作

- ・ ワークシートやブックの管理
- ・ セルやセルの範囲のデータの管理
- ・ テーブルとテーブルのデータの管理
- ・ 数式や関数を利用した演算の実行
- ・ グラフの管理

データサイエンスⅠ～Ⅱを履修した学生はほぼ学修済



2,310円(税込)

- 「対面の講義」では模擬問題の他、受験時の注意点や間違えやすい問題のポイントなども解説
- 受験料 一般:10,780円(税込) 学生:8,580円(税込)

令和5年度_データサイエンス_特別プログラム報告書
2. MOS Excel 一般レベル 対策講座



講座名	MOS Excel 一般レベル 対策講座
到達目標	マイクロソフト オフィス スペシャリストExcel 一般レベルの合格を目指す
参加資格	特に指定なし ※講義は複数回受講可能
授業形式	【動画】約14分の講義 9本 ※1月30日(火)～4月30日(火) 【対面orオンライン】100分 1回 ※同じ内容で4回開催、1回以上出席を
テキスト (購入必須)	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist Excel 365&2019 対策テキスト&問題集 https://www.fom.fujitsu.com/goods/officespecialist/fpt1912.html
開講日	下記のいずれかに1回以上参加 (いずれも5限目で同様の内容です) 2月15日(木) / 2月20日(火) / 2月27日(火) / 3月4日(月)
学修内容	【動画】 必須テキストの内容を、試験に出るポイントを交えながら動画で解説。視聴後、テキスト付属の模擬問題プログラムを解いて、各自習熟度を確認します。 【講義】 間違えがちな問題やよく出題される内容を集めた模擬問題を解きながら、受験のテクニックを解説します。試験範囲内で不安な部分は自由に質問ができます。
模擬試験 実施日	合格圏内に到達するまで、 模擬試験を実施(1回は必須) 2限目に実施します。 2月21日(水) / 2月28日(水) / 3月5日(火) 3月12日(火)

令和5年度_データサイエンス_特別プログラム報告書
3. 統計検定4級 概要



- 「統計検定」は、統計に関する知識や活用力を評価する全国統一試験
 - ✓ 日本統計学会が「国際通用性のある統計活用能力の体系的な評価システム」として検定を開発し、様々な水準と内容で統計活用力を認定
 - ✓ 試験は、選択式の問題が約30問出題される(60分)

● 試験範囲

データサイエンス I 割合 単純集計とクロス集計 調査票とクロス集計表 基本統計量 平均値 中央値 最頻値 四分位 カテゴリカルデータと量的データ データサイエンス II データの種類に応じたグラフ グラフの読みとり ヒストグラム データサイエンス I～IIを履修した学生はほぼ学修済	確率の基礎 未学修
--	--

必須テキスト：
日本統計学会公式認定 統計検定
3級・4級 公式問題集 2018～2021年



1,980円
(税込)

参考テキスト：
改訂版日本統計学会公式認定
統計検定4級対応 データの活用



2,200円
(税込)

- 受験料 一般:5,000円(税込) 学生:3,500円(税込)

令和5年度_データサイエンス_特別プログラム報告書
3. 統計検定4級 対策講座



講座名	統計検定4級 対策講座
到達目標	統計検定4級の合格を目指す
参加資格	特に指定なし ※講義は複数回受講可能
授業形式	【動画】約15分の講義 9本 ※1月30日(火)～4月30日(火) 【対面orオンライン】100分 1回 ※同じ内容で4回開催、1回以上出席を
テキスト	必須テキスト：日本統計学会公式認定 統計検定 3級・4級 公式問題集 https://jitsumu.hondana.jp/book/b590885.html 参考テキスト：改訂版日本統計学会公式認定 統計検定4級対応 データの活用 http://www.tokyo-tosho.co.jp/books/978-4-489-02325-5/
開講日	下記のいずれかに1回以上参加 (いずれも4限目で同様の内容です) 2月15日(木) / 2月20日(火) / 2月27日(火) / 3月4日(月)
学修内容	【動画】 主にデータサイエンスⅠ～Ⅱの授業スライドを使用して内容を復習後、練習問題と解説を繰り返します。データサイエンスでは触れなかった「確率の基本」は基礎から解説します 【講義】 過去に出題された問題とオリジナルで作成した問題をミックスした模擬問題と共に、受験のテクニックをお伝えします。試験範囲内で不安な部分は自由に質問できます。
模擬試験実施日	合格圏内に到達するまで、 模擬試験を実施(1回は必須)4限目に実施します。 2月22日(木) / 2月29日(木) / 3月7日(木)

令和5年度_データサイエンス_特別プログラム報告書
4. MOS Excel エキスパート 概要



- 「マイクロソフト オフィス スペシャリスト(MOS)」は、Office製品のスキルを証明する資格で、Excelのエキスパートレベルは一般レベルよりさらに高度なスキルがあることを証明できます。
 - ✓ (一般レベル同様の) パソコンを使用した実技試験で、「プロジェクト」と呼ばれる1つの問題の中で複数の設問に解答する 方式(50分)

● 試験範囲

ブックのオプションと設定の管理	ブックを管理する 共同作業のためにブックを準備する 言語オプションを使用する、設定する 既存のデータを使用してセルを入力する
データの管理、書式設定	データに表示形式や入力規則を適用する 詳細な条件付き書式やフィルターを適用する
高度な機能を使用した数式およびマクロの作成	関数で論理演算を行う 関数を使用してデータを検索する 高度な日付と時刻の関数を使用する データ分析を行う 数式のトラブルシューティングを行う 簡単なマクロを作成する、変更する
高度な機能を使用したグラフやテーブルの管理	高度な機能を使用したグラフを作成する、変更する ピボットテーブルを作成する、変更する ピボットグラフを作成する、変更する



3,410円(税込)

- 「対面の講義」では模擬問題の他、受験時の注意点や間違えやすい問題のポイントなども解説
- 受験料 一般:12,980円(税込) 学生:10,780円(税込)

令和5年度_データサイエンス_特別プログラム報告書
 4. MOS Excel 上級レベル 対策講座



講座名	MOS Excel 上級レベル 対策講座
到達目標	マイクロソフト オフィス スペシャリストExcel 上級レベルの合格を目指す
参加資格	Excel一般レベル資格保有者がのぞましい ※講義は複数回受講可能
授業形式	【動画】約11分の講義 16本 ※1月30日(火)~4月30日(火) 【対面orオンライン】100分 1回 ※同じ内容で4回開催、1回以上出席を
テキスト (購入必須)	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist Excel 365&2019 Expert 対策テキスト&問題集 https://www.fom.fujitsu.com/goods/officespecialist/fpt2014.html
開講日	下記のいずれかに1回以上参加 (いずれも2限目で同様の内容です) 2月15日(木) / 2月20日(火) / 2月27日(火) / 3月4日(月)
学修内容	【動画】必須テキストの内容を、試験に出るポイントを変えながら動画で解説。視聴後、テキスト付属の模擬問題プログラムを解いて、各自習熟度を確認します。 【講義】間違えがちな問題やよく出題される内容を集めた模擬問題を解きながら、受験のテクニックを解説します。試験範囲内で不安な部分は自由に質問ができます。
模擬試験 実施日	合格圏内に到達するまで、模擬試験を実施(1回は必須) 3限目に実施します。 2月21日(水) / 2月28日(水) / 3月5日(火) 3月12日(火)

令和5年度_データサイエンス_特別プログラム報告書
 5. 統計検定3級 概要

New!



- 「統計検定」は、統計に関する知識や活用力を評価する全国統一試験
 - ✓ 日本統計学会が「国際通用性のある統計活用能力の体系的な評価システム」として検定を開発し、様々な水準と内容で統計活用力を認定
 - ✓ 試験は、選択式の問題が約30問程度出題される(60分)
- 試験範囲

統計検定3級出題範囲表(2020年4月より実施)

大項目	小項目	対応
データの扱い	データの属性	質的変数、量的変数、連続変数、離散変数、階級変数、識別変数、属性変数、量的変数、連続変数、離散変数
	データの加工	データの集約、データの抽出、データの結合、データの並び替え、データのフィルタリング
	データの集約	データの平均値、データの標準偏差、データの分散、データの標準誤差、データの信頼区間、データの検定値
	データの抽出	データの抽出方法、データの抽出条件、データの抽出結果
	データの結合	データの結合方法、データの結合条件、データの結合結果
	データの並び替え	データの並び替え方法、データの並び替え条件、データの並び替え結果
	データのフィルタリング	データのフィルタリング方法、データのフィルタリング条件、データのフィルタリング結果

必須テキスト：
日本統計学会公式認定 統計検定
3級・4級 公式問題集 2018~2021年



1,980円
(税込)

参考テキスト：
改訂版日本統計学会公式認定
統計検定3級対応 データの活用



2,420円
(税込)

- 受験料 一般:6,000円(税込) 学生:4,000円(税込)

令和5年度_データサイエンス_特別プログラム報告書
5. 統計検定3級 対策講座

New !



講座名	統計検定3級 対策講座
到達目標	統計検定3級の合格を目指す
参加資格	統計検定4級の資格保有者がのぞましい ※講義は複数回受講可能
授業形式	【動画】約45分の講義 5本 ※1月30日(火)～4月30日(火) 【対面orオンライン】100分×2回 ※変更の可能性あり
テキスト	必須テキスト：日本統計学会公式認定 統計検定 3級・4級 公式問題集 https://jitsumu.hondana.jp/book/b590885.html 参考テキスト：改訂版日本統計学会公式認定 統計検定4級対応 データの活用 http://www.tokyo-tosho.co.jp/books/978-4-489-02325-5/
開講日	①・②のいずれかに2日程1セットに参加(①と②は同内容、全て4限) ① 2月15日(木)と2月20日(火) ② 2月27日(火)と3月4日(月) ※変更の可能性あり
学修内容	【動画】主にデータサイエンス I～IIの授業スライドを使用して内容を復習後、練習問題と解説を繰り返します。データサイエンスでは触れなかった「確率の基本」は基礎から解説します。 【講義】過去に出題された問題とオリジナルで作成した問題をミックスした模擬問題と共に、受験のテクニックをお伝えします。試験範囲内で不安な部分は自由に質問できます。
模擬試験実施日	合格圏内に到達するまで、 模擬試験を実施(1回は必須) 2限目に実施します。 2月22日(木) / 2月29日(木) / 3月7日(木) / 3月13日(水)

令和5年度_データサイエンス_特別プログラム報告書
ガイダンス(説明・相談会)



【事前申込不要】受講を悩んでいる人はまずはガイダンスに参加を！
詳しくはUR-noteもしくはT-Poから確認して参加してください。

内容	春の特別プログラム_事前ガイダンス
ガイダンステーマ	①マイクロソフト オフィス スペシャリストExcel 一般レベル ②マイクロソフト オフィス スペシャリストExcel 上級レベル ③統計検定4級 ④ 統計検定3級 New ! ⑤Tableau Desktop Specialist
実施方式	対面orオンライン のどちらでも参加可能
ガイダンス日時・場所	1月18日(木) / 1月19日(金) / 1月22日(月) 5限：17:00～18:00まで 753教室 ※事前申し込みは不要
説明内容	・受講方法や受講内容について詳細説明 ・試験内容や資格取得のメリットなどの情報共有 ・個別相談

(3) クロスディシプリン (学融合) 教育

クロスディシプリン (学融合) 教育



学長補佐・教務部長
小林 伸二

第Ⅱ類科目における学融合（クロスディシプリン）教育について説明いたします。クロスディシプリン教育に関しては、「学融合ゼミナール」という授業科目を設置しています。こちらは、学科の縦の並びに対して、横の並びと位置付けたプログラムであり、学科間クロスという形で授業展開しています。令和4年度には、2年次に「学融合ゼミナールⅠ」を開講しました。令和5年度には3年次に「学融合ゼミナールⅡ」を開講しました。

当プログラムは6名の教員が担当していますが、その教育理念や運営方針、学習支援を支えるべく、各学科には「第Ⅱ類コーディネーター」と呼ばれる専任教員を配置しており、第Ⅱ類コーディネーターが学科間のクロスを行う体制を整えています。

ただし、日本学術振興会の実地査察において、授業が知識の提供にとどまっているのではないかと。さらに、授業の内容や方向性の改善が必要なのではないかというご指摘を受けました。そこで、年度末となる3月に、学融合に関するFD（Faculty Development）を実施し、改めて授業のあり方を考えた上で、プログラムを見直すとともに、新企画も実施しました。

その結果、学生の主体的な学びの場を確保すべく、グループディスカッションを徹底させることで、知識の提供にとどまらない授業展開を心掛けるように各授業で取り組みました。また、LMSシステムをフル活用し、授業のプランニングや事後課題、学習成果の可視化、チャットを使った学生間のコミュニティを徹底することも実施しました。

さらに、本事業の一環として新たな研究開発を担う「クロスディシプリン教育ラボラトリー」の取組みとして、研究紀要も発行しました。

また、令和5年度は新たに「学融合サロン」を開設しました。クロスディシプリン教育の学習支援のために学期末に設置したもので、学生のレポートやプレゼンテーション資料の作成は勿論のこと、学びの支援も行い、学生たちの交流の場としても活用されました。

そして、「学融合サミット」を開催しました。こちらも本年度からの新たな取組みであり、2年生が受講している「学融合ゼミナールⅠ」の学習成果報告会として行いました。「学融合サミット」については、選抜学生が実施したプレゼンテーションの内容をビデオ配信し、全学で共有しながら、他の学生からチャットで意見を募るといった新しい試みにも挑戦しました。各自が行ったプレゼンテーションの内容についての動画を視聴した学生の意見や感想を学生間・教員間で共有しました。

そして、春学期を終えた各学科の第Ⅱ類コーディネーターにアンケート調査も実施し、来年度の教育改善も実施しました。加えて、学融合ゼミナールを受講した学生へのインタビューも実施し、学生からの改善意見も参考

にしています。

そうした中、11月にスタートする第4クォーターからは、「プロジェクト研究」という新たな授業も展開しました。こちらは、「学生による学生のための学びのプロデュース」として、巣鴨を学融合するという試みとなっています。本学は地域主義を掲げており、地元巣鴨を舞台とした取組みとしており、学融合サミットは2年生が対象でしたが、今回は学融合ゼミナールのⅠとⅡの両方を受講した3年生を対象に、クロスディシプリン教育の最終形としてこのような授業を開講することにいたしました。

さらに、令和6年度からは、クロスディシプリン教育の集大成として、「クロスディシプリン・フィールドワーク」を実施します。本学の地域主義の一環として、京都のエリアキャンパス「京都アカデミア」を活用した京都の佛光大学の学生との交流プログラムです。単なる知識提供にとどまらない現代社会の課題に答えるような学融合を、学生間の交流によって、京都の地で展開してほしいと考えています。

以上のような取組みを実施してきましたが、来年度以降はさらなる教育改革が必要となります。現地視察では、2つの大きな指摘を受けました。一つは、本学が行っているような学科間クロスだけでは、クロスディシプリン教育としては不十分ではないかということ。もう一つは、グループディスカッションがきちんとなされていない傾向があるという指摘です。早速いくつかの新しいプログラムを導入することといたしました。

令和6年度のクロスディシプリン教育の改革については、「学融合ゼミナールⅠ」において、学科間でもっとより多くのディスカッションが出来るような学科クロスを超えた設定をするというものです。3年生における「学融合ゼミナール」に関しましては、大きく2つに分けて開催します。「スタンダード」と「プレミアム」と言われるものを用意します。

まず、スタンダードの方は、自己の学融合に基づく研究領域の自由選択を行います。すなわち、マイクロディシプリンというものを学科の枠を超えた形で行うために、第1回から第5回までの自学科の授業を聞いた後に、第6回から第10回まではそれぞれの学科が開いている学融合パートから自由に選択できる授業とします。なお、授業科目の内容も、令和5年度までは学科の教員が教えることが前提ですが、今後は外部の先生を招聘することや文理融合的な内容の導入も想定しております。

一方、プレミアムコースは、哲学のない領域はないということを含め、まずは学科の学びをしっかりと取得した上で、それを超えたセルフクロスディシプリンをフィールドで実施するというものになっております。ただし、学習者のグループという問題がでてきます。特に地方に出る学生に対しては、学びの共有や成果をどのような形式で発信するのが課題です。このような新たな試みを展開する予定です。

令和6年度においては、以上のような改革を推進します。7割の学生が上記の「学融合ゼミナール」を履修する予定です。さらに、3割の学生には、異なる学科の学生が合同で課題解決型学習（PBL）を行い、テーマも自由に選択できるプログラムも並行して実施する予定です。この授業科目は学生の選択制として、ワークショップ、フィールドワーク、プレゼンテーションも行う授業にしたいと考えています。

以上のような取組みにより、Society5.0時代に対応する人材育成として、他学科や他領域の学びを学生が学ぶことにより、問題解決能力の向上や創造性や柔軟性、チームワーク力を向上させることを目指します。これらの能力・資質の向上により、第Ⅲ類アントレプレナーシップ育成教育への橋渡しの役割ともなることができます。

第Ⅱ類科目 学融合（クロスディシプリン） 教育



令和5年度クロスディシプリン教育報告

- 学融合ゼミナール科目の授業運用
 - クロスディシプリン教育ラボ研究開発
 - 学融合サロン設置★
 - 学融合サミット開催★
 - 学融合ゼミナールアンケート・Ⅱ類コーディネーター
 - 学融合ゼミナールアンケート・学生
 - 「プロジェクト研究」開講★
 - 令和6年度「クロスディシプリンフィールドワーク」科目追加★
- ★新企画

学融合ゼミナール科目の授業運用

クロスディシプリン教育

「自らの専門分野の学問領域と他学科の学問領域を統合的に学び、多面的・重層的な思考をすることで、複雑で多様な現代社会の課題に応えることができる」

目標

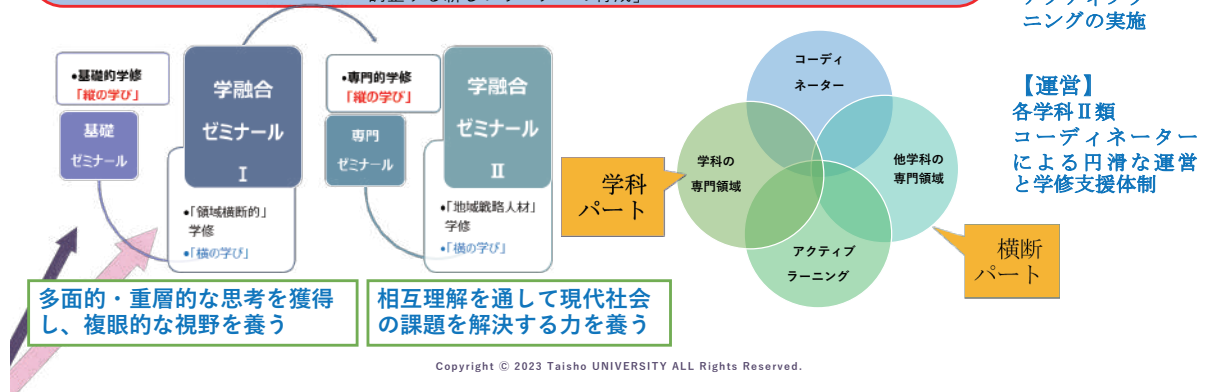
「多面的な性質をもつ地域の課題解決に向けて異なる専門分野の多様な人材を統合し、調整する新しいリーダーの育成」

【開講形態】

- ・ 多人数の講義型クラス
- ・ 各学科1クラス
- ・ ICTを活用したアクティブラーニングの実施

【運営】

各学科Ⅱ類
コーディネーターによる円滑な運営と学修支援体制



Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

●学融合ゼミナールⅠ(2年次)

【定義】 学科カリキュラムの履修「縦の学び」と学科を超えた領域横断的「横の学び」による専門教育
【目的】 自専攻とは異なる専門領域の学びから多面的・重層的な思考を獲得し、複眼的な視野を養う

【開講内容】 地域学cross 人文科学cross

- 探究実証系学部群 ⇒ 学科専門領域と地域学
- 社会創造系学部群 ⇒ 学科専門領域と人文科学
- 評価 卒業論文テーマについて多様な視点を修得のため、プレゼンテーション、アカデミック・エッセー

●学融合ゼミナールⅡ(3年次)

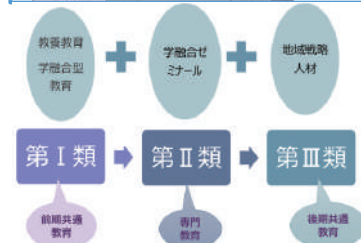
【定義】 複雑で多様な現代社会に応えることのできる「地域戦略人材」教育
【目的】 複数のディシプリン(分野、領域)の連携と交流、相互理解を通して現代社会の課題を解決する力を養う

【開講内容】 現代社会cross 人間学cross

- 探究実証系学部群 ⇒ 学科専門領域と現代社会
- 社会創造系学部群 ⇒ 学科専門領域と人間学
- 評価 卒業論文テーマについて多様な視点を修得のため、プレゼンテーション、アカデミック・エッセー

■第Ⅱ類科目 文学部 歴史学科 履修科目一覧

部 門	履修科目名	履修年次	単位	備 考
全学共通	学融合ゼミナールⅠ	2	2	2科目4単位必修
	学融合ゼミナールⅡ	3	2	
文学部	基礎ゼミナールⅠ	1	2	5科目10単位必修
	基礎ゼミナールⅡ	1	2	
	基礎ゼミナールⅢ	2	2	
	基礎ゼミナールⅣ	2	2	
	基礎ゼミナールⅤ	2	2	
歴史学科	歴史学入門	1	2	
	基礎歴史学	1	2	
基礎部門	基礎歴史学	1	2	
	基礎歴史学	1	2	



Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

● シラバス・歴史学科

学融合ゼミナール I (2年次)

テーマ / Thema	学際的学修から学融合学修 学科の研究領域「縦の学び」と学科を超えた領域横断的 「横の学び」
授業の目的 / Class Objectives	クロスディシプリン（複数の分野・領域の連携と融合） の実現を目的とし、複数のディシプリン（分野・領域）の 連携や交流、融合により、異なる分野の専門知を横断的に とらえ「新たな知」とする力の育成を目指す。具体的には、 多面的な性質をもつ地域の課題を解決する力を身につける ため、以下の内容について学んでいく。 まず学科の専門領域では、歴史学における地域の「記 録」（データ）という視点から、日本史、東洋史、文化 財・考古学の各分野を関連させ、対象とする地域において、 歴史的に生成された豊かな地域性や多様な課題についての 理解を深める。また横断的領域については、現在の地域社 会における観光・環境・災害などの実態とともに、それぞ れの分野で直面している課題を認識する。 それらを通して、それぞれの専門知を「融合」させた多 面的・重層的な思考を修得し、地域が直面する課題に対 して、どのように歴史学の成果を還元し、より良い地域社会 の実現に貢献していくかを考える。
授業の到達目標・DP との関連性 / Relevance to Class Goals and DP	①学科専門領域を地域の視点から説明することができる。 （歴史DP①②） ②学科専門領域に他学科専門領域を関係づける思考を身に 付けている。（歴史DP③⑤） ③学科専門領域に他学科専門領域の視点を加えた、新たな 課題を的確に表現することができる。（歴史DP④） ④学科専門領域が現在の社会の課題に関係しているという 問題意識をもつことの大切さがわかる。（歴史DP⑤⑥⑦）

学融合ゼミナール II (3年次)

テーマ / Thema	学際的学修から学融合学修 学科の研究領域「縦の学び」と学科を超えた領域横断的 「横の学び」
授業の目的 / Class Objectives	複数のディシプリン（分野・領域）の連携と交流、相 互理解を通して現代社会の課題を解決する力を養う。 「歴史学の融合」では、歴史学と「現代社会」の視点 から、日本史、東洋史、文化財・考古学の専門分野を 通じて、複雑で多様な現代社会に応えることのできる 「地域戦略人材」を担う思考を修得する。
授業の到達目標・DP との関連性 / Relevance to Cla ss Goals and DP	① 学科専門領域を現代社会の視点から説明することが できる。（歴史 DP①②） ② 学科専門領域に他学科専門領域を関係づける思考を 身に付けている。（歴史 DP③） ③ 学科専門領域に他学科専門領域の視点を加えた、新 たな課題を的確に表現することができる。（ 歴史 DP④） ④ 学科専門領域が現代社会の課題に関係しているとい う問題意識をもつことの大切さがわかる。 （歴史 DP⑤）

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

● 「学融合ゼミナール I・II」学科cross Ⅱ類コーディネーター

探究実証系	コーディネーター	CROSS	社会創造系	コーディネーター
歴史学科	三浦龍昭	CROSS	地域創生学科	大橋重子
人文学科	天木勇樹	CROSS	公共政策学科	本田裕子
日本文学科	中川祐治	CROSS	社会福祉学科	神山裕美
仏教学科	長澤昌幸	CROSS	表現文化学科	ヨシムラヒロム
臨床心理学科	石川亮太郎	CROSS	地域創生学科	大橋重子
人間科学科	澤口恵一	CROSS	公共政策学科	本田裕子

授業内容・方法の改善

クロスディシプリン
教育懇親会

学融合教育意見交換
3月4日（火）
参加者 学部長・学科長
Ⅱ類コーディネーター

●学融合ゼミナール授業内容例

【開講事例】 歴史学科cross地域創生学科

歴史
地域
現代社会

●学融合ゼミナールⅠ 歴史学と地域
〔学科パート〕

- 第1回 歴史における地域
- 第2回 地域の日本史—東日本
- 第3回 地域の日本史—西日本
- 第4回 地域の東洋史—中国
- 第5回 地域の文化財・考古—関東
〔横断パート〕
- 第6回 地域の政治—組織と運営
- 第7回 地域の政治—公共と支援
- 第8回 地域の経済—観光と交流
- 第9回 地域の経済—流通とサービス
- 第10回 地域のきまり—伝統と社会
〔学科パート〕
- 第11回 歴史と地域経済
- 第12回 歴史と伝統社会
- 第13回 アカデミック・エッセーに向けて
- 第14回 まとめ—学融合・プレゼンテーション

●学融合ゼミナールⅡ 歴史学と現代社会
〔学科パート〕

- 第1回 歴史における社会
- 第2回 社会の日本史1
- 第3回 社会の日本史2
- 第4回 社会の東洋史
- 第5回 社会の文化財・考古
〔横断パート〕
- 第6回 社会と都市
- 第7回 社会と人口
- 第8回 社会と家族
- 第9回 社会と技術
- 第10回 社会と民族
〔学科パート〕
- 第11回 歴史から見る都市と人口
- 第12回 歴史から見る国家と民族
- 第13回 アカデミック・エッセーに向けて
- 第14回 まとめ—学融合・プレゼンテーション

人材育成

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

●学融合ゼミナールⅠ・歴史学科授業内容

学科パート

横断パート

授業内容の改善

〔学科パート〕

第1回 担当教員：三浦隆昭「ガイダンス／伊藤忠之「地域史について」
事前学習：この授業のシラバスを確読しておくこと。インターネット等で「地域」「地方」「郷土」について調べ、言葉の意味や使われ方の違いについてまとめておくこと。（2時間）
事後学習：授業内容を復習し、リアクションペーパーにまとめること（2時間）

第2回 担当教員：白木太一「ヨーロッパ・ウクライナの歴史からみた地域—」
事前学習：ウクライナの地理、歴史、政治体制について調べておくこと。（2時間）
事後学習：授業内容を復習し、リアクションペーパーにまとめること（2時間）

第3回 担当教員：新藤廣史「内陸アジアの地域と発展」
事前学習：モンゴル、チベット、雲南について調べておくこと。（2時間）
事後学習：授業内容を復習し、リアクションペーパーにまとめること（2時間）

第4回 担当教員：宮崎洋一「中国地域研究と『地方志』」
事前学習：中国の明清時代（14世紀～20世紀）の行政区分と地方官制について調べておくこと。（2時間）
事後学習：授業内容を復習し、リアクションペーパーにまとめること（2時間）

第5回 担当教員：櫻本洋一「東アジア世界と日本」
事前学習：朝貢体制、王統文化、徳国について調べておくこと。（2時間）
事後学習：授業内容を復習し、リアクションペーパーにまとめること（2時間）

〔横断パート〕

第6回 担当教員：白土健「地域振興と観光—観光学は食う・稼ぐ・遊ぶの楽しさを探る—」
事前学習：各人が居住する地域の観光資源、農文化、観光産業などについて調べておくこと。（2時間）
事後学習：授業内容を復習し、リアクションペーパーにまとめること（2時間）

第7回 担当教員：天野浩史「暮らしを創造する手法」
事前学習：地元や居住地において、自分が「理想」と思うまちほどのよさ（状況）を、理由を挙げて整理しておくこと。（2時間）
事後学習：授業内容を復習し、リアクションペーパーにまとめること（2時間）

第8回 担当教員：徳島典司「東日本大震災と東北地方」
事前学習：東北地方の人口、GDP、大学進学率等を把握した地域をまとめ、全国の地方の中でその位置づけを整理しておくこと。（2時間）
事後学習：授業内容を復習し、リアクションペーパーにまとめること（2時間）

第9回 担当教員：斎藤正弘「身近な自然環境の歴史を学ぶ」
事前学習：『となりのトトロ』を鑑賞し、昭和30年頃の東京郊外の環境としてどのような自然が描かれているかを整理しておくこと。（2時間）
事後学習：授業内容を復習し、リアクションペーパーにまとめること（2時間）

第10回 担当教員：菊山節子「東京20年（東武20年）」
事前学習：自分の住むまちのこみ・ルールと地理について調べておくこと（2時間）
事後学習：授業内容を復習し、リアクションペーパーにまとめること（2時間）

〔学科パート〕

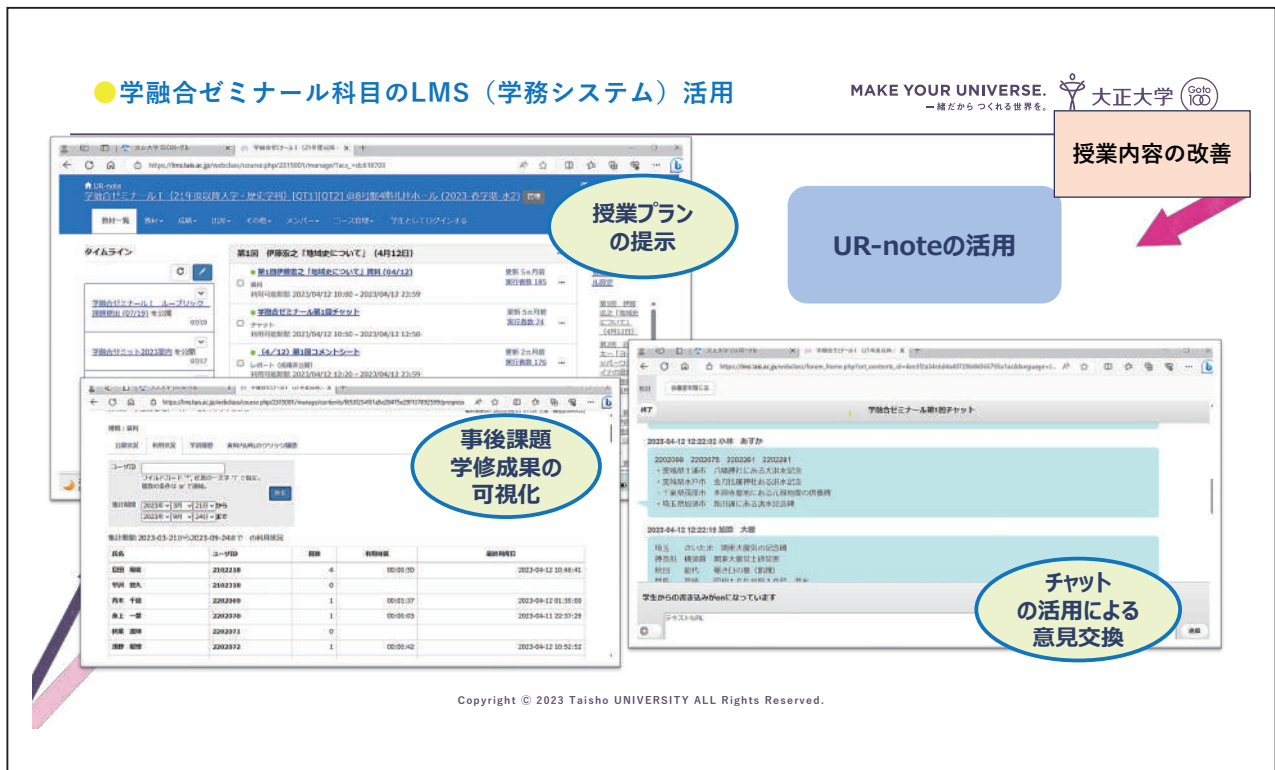
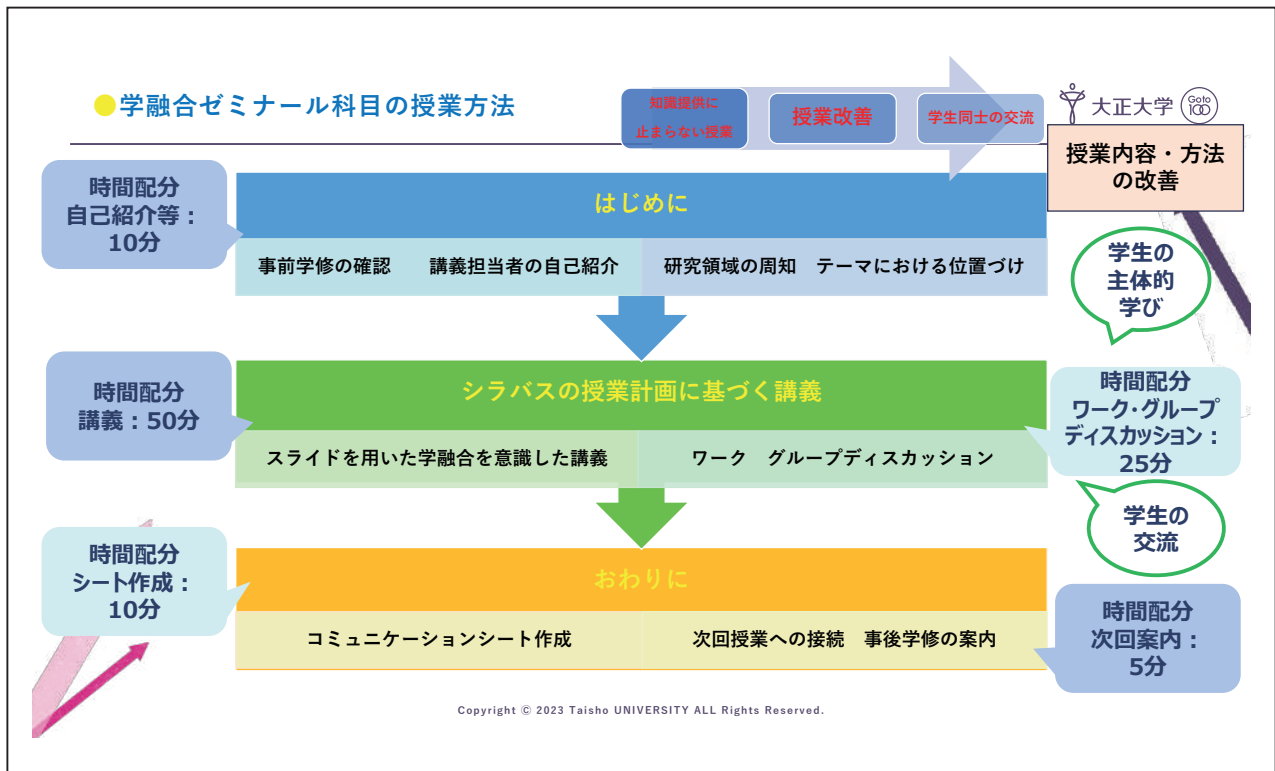
第11回 担当教員：中川仁直「史料から見る型地の発展」
事前学習：世界遺産でもある栃木県日光の歴史について調べておくこと。（2時間）
事後学習：授業内容を復習し、リアクションペーパーにまとめること（2時間）

第12回 担当教員：増田悦彦「遠路から来た異郷の歴史と文化」
事前学習：『史蹟で読む日本の歴史』（吉川弘文館）、「日本史への挑戦—「開闢」の創造をめざして」（ちくま学芸文庫）などを参考に、関東地方にどんな遺跡があるのか調べておくこと。（2時間）
事後学習：授業内容を復習し、リアクションペーパーにまとめること（2時間）

第13回 担当教員：瀧本浩「アカデミックエッセーに向けて」
事前学習：アカデミックエッセーのテーマ・構成などについて考えておくこと。（2時間）
事後学習：授業内容を復習し、リアクションペーパーにまとめること（2時間）

第14回 担当教員：小村希二・松本洋孝「プレゼンテーション」
事前学習：プレゼンテーションの準備をしておくこと。（2時間）
事後学習：授業特製のコンメンなどを読ませ、アカデミックエッセーを完成させること。（2時間）

※各回の授業には、授業の代表者員としても伊藤忠之も出席する。



クロスディシプリン教育ラボ研究開発

MAKE YOUR UNIVERSE. 大正大学 Goto 100
一線だからつくれる世界を。

『クロスディシプリン研究紀要』の刊行

⇒ 令和4年度「学融合ゼミナール」の開講を受けた「研究開発」の報告

研究

成果

公表

【目次】

1 紀要論文

「クロスディシプリン教育と「学融合ゼミナール」」

「仏教学とクロスディシプリン」

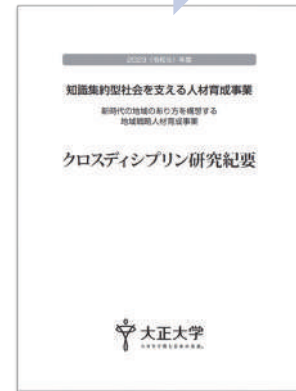
「公共政策学とクロスディシプリン」

2 調査結果

「学科クロスの研究成果」

公刊 = 令和5年7月

本学独自のクロス
ディシプリン教育



Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

● クロスディシプリン教育の展望

MAKE YOUR UNIVERSE. 大正大学 Goto 100
一線だからつくれる世界を。

授業の展開として、学生にはグループワーク、プレゼンテーションから、まずは学科内の学び、そして学生同士の異なる視点を実感し、他学科の異なる学びからは、共有と交渉を通じて、「cross領域の形成」にもとづく、自学科の学び、あるいは卒論、キャリアへの意識を醸成してほしいと考えている。それにはクロスディシプリンに関する「態度と好奇心の重要性」を認識させ、各回のリフレクション、コーディネーターや大学院生らによる学融合支援が重要であり、学生同士の「学融合知」をめぐる「理論」と「実践」の往還を前提とした活発な交流などが、「学融合ゼミナール」の今後の課題であると考えられる(5)。加えて、ICTの進化にともなう教育DXの進展による(山本敏幸・濱本久二雄2021)、プレゼンテーション、アカデミック・エッセーのデータ化と学修の蓄積と可視化、経年変化も不可欠な検討課題である。

さらに、実際に開講に向けた段階で、研究領域を異にする教員間の、あるいは学科学部の枠を超えた連携の難しさが存在した。これは、現場の教員の苦勞・努力、コーディネーターへの負担となったが、クロスディシプリン教育自体、研究者である教員crossを前提とした学科cross、すなわち個々の学生crossを含めた人間crossであって、大学教育での壮大な人間をテーマとするカリキュラム構想の具現化の一つの到達点であることを示唆していると考えられる。したがって、本事業におけるクロスディシプリンは、本学の建学の理念「智慧と慈悲の実践」を使命とした、教育ビジョン「4つの人となる」の一翼を担う重要な企画であり、あらためて学内外に対する成果が求められるといえよう。

小林伸二2023「クロスディシプリン教育と「学融合ゼミナール」」

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

学融合サロン設置★

MAKE YOUR UNIVERSE. 大正大学 Goto 100
 一緒にだからつくれる世界を。

学修支援 学生交流 学融合知の形成

「学融合サロン」の案内

学融合・クロスディシプリンの授業目標到達のため、学修支援ならびに学生同士の交流、意見交換の場として、この度、「学融合サロン」を設置します。是非、活用してください。

日時 6月28日(水)、7月5日(水)、12日(水)、19日(水)
 12:30~13:20
 教員待機(クロスディシプリン教育チーム 小林伸二)

場所 図書館3F グループ学修室C

内容 学融合セミナーのプレゼンテーション、レポート作成の学修相談
 学融合セミナーに関する他学科の学生との交流、意見交換
 その他、学融合、クロスディシプリンに関する事項

授業内容・方法の改善

学融合サロン	活用報告
6月28日	3名
7月5日	11名
7月12日	6名
7月19日	1名

プレゼンテーションの方法
 ・課題の選択
 ・授業講評

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

学融合サミット開催★

MAKE YOUR UNIVERSE. 大正大学 Goto 100
 一緒にだからつくれる世界を。

学生交流 学融合知の報告 学生の相互理解

専門分野を超えた学問領域の統合による、多面的・重層的な思考を深めるための「学融合知」の相互理解

知識提供に止まらない授業
 学生交流

【教育目標】
 自らの専門分野の学問領域と他学科の学問領域を統合的に学ぶ「学融合知」に関して、サミットを通じた相互理解とさらなるクロスディシプリンを目指す

●「学融合サミット」
 【定義】学科の「縦の学び」と学科を超えた領域横断的「横の学び」と「学融合知」の相互理解
 【目的】学生交流「学融合知」の共有
 【テーマ】「学科専門領域における学融合知」
 【開催形態】プレゼンテーション
 【実施時期】令和5年7月
 【対象】学科選抜メンバー

知識創生

学際的学修 + 学融合的学修 = 地域戦略人材

第Ⅰ類 第Ⅱ類 第Ⅲ類

●学融合サミット 2023
—学融合知の交流—

MAKE YOUR UNIVERSE. 大正大学 Goto 100
—一緒にだからつくれる世界を。

日時 令和5年7月26日(水) 11時~12時
場所 大会議室
発表者 4学科選抜メンバー
参加者 専務理事 学長 副学長 4学科Ⅱ類コーディネーター

テーマ
・専門分野を超えた学問領域の統合による、多面的・重層的な思考を深めるための「学融合知」の相互理解

スライド5枚 動画1内訳4 2分01

プレゼンテーション
質疑応答
コメント

地域創生 歴史 社会福祉 日本文学

Ⅱ類コーディネータ推薦の4学科「学融合セミナーⅠ」の優秀者によるプレゼンテーション

学生の交流の活性化
学生の主体的学びの場の提供
Ⅱ類の学部クロスディプロマ教育を通じた知識の融合

学生交流 相互理解

UR-noteでの録画共有
チャットを活用した意見交換・交流

学融合サミット 2023

「視聴・投稿に関しては本学が進める学修履歴の蓄積、学修成果の可視化のもと、令和6年度開講の「学融合セミナーⅡ」（必修）に向けた、学修活動の一環（事前学修）として評価の対象とします。必ず視聴し、感想・意見等を投稿してください。」

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

●プレゼンテーションテーマ

MAKE YOUR UNIVERSE. 大正大学 Goto 100
—一緒にだからつくれる世界を。

地域創生
学融合セミナーⅠ
学び得たものとマイテーマについて
地域創生学科 2年 2231015 新谷光真

歴史
茂原市の災害
2022277 日本史コース 神原英徳

社会福祉
外国人ホームレス
社会福祉学科 2232004 千原剛次

日本文学
子供と貧困
2022277 日本史コース
文学部日本文学科
清水唯梨花 鈴木彩花 鈴木遼人 高橋清

地域 + 歴史 = 学融合知

福祉 + 文学 = 学融合知

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

●コーディネーターの意見・感想

よりよい授業のため何でも結構ですので、ご意見、情報等をお聞かせください。

1	2年目となり、昨年度よりもスムーズに授業を担当することができました。また、学融合ゼミIIの期末発表では、昨年度に比べて、3年生の成長を感じることができました。
2	来年度はもう少しスムーズに運営できるように、改善点をご検討いただきたいです。
3	学科横断授業の場合、両学科混合の小グループをつくり、URnoteより、小グループでの資料共有や小グループを作ることができなかった。今年度はTeamsを使ったが二重手間になるので、次年度は使用できるようにしてほしい。また、二学科の混成小グループ作成等、社会福祉学科は学科事務スタッフの助けを借りたが、日本文学科の事務スタッフには頼めないとのことだった。学融合の授業事務は、どの学科の事務スタッフにも依頼できるようにすると、教員もより授業をやりやすくなると思う。
4	学生たちの理解を確認しながら進めていくために、グループディスカッションやグループワークなど、授業中のアクティブな活動を効果的に取り入れることが重要であると思った。今後さらに授業構成を考えていきたい。
5	もっと計画的に教育内容の検討を進めてほしい。
6	学融合サミットについては多くの学生が視聴するような工夫が必要ではないか（例えば、全学科共通で14回目にZoomでリアルタイムに視聴させるか、あらかじめ録画したものを流すなど）。
7	2年目ということもあり、3年生はこの授業の意図を理解して円滑に運営できました。2年生も後半の授業回になると慣れてきたように思います。他学科への出講に際し、専門の難しい話をされる先生もいらっしまったので、事前にこちらからの説明がもう少し必要だと感じました。次年度に活かしていきたいと思います。

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

学融合ゼミナールアンケート・学生

●学融合ゼミナールアンケート 🗳️

- 仏教の表現方法、海外で見られる役割、仏教が取り組むべき現代的課題について理解を深めることができたと感じています。これらについて仏教が目指していくべきあり方についてさらに考察を深めたいと感じています。
- 他学部の先生の授業を聞いて普段では学ばないような内容を知ることができて学ぶ意欲が高まった。更に生きていくうえで知識として必要になると感じた。
- 地域創生学と臨床心理学との関連を考える機会があり、臨床心理学に関しては、これまでよりも幅広い視点で学ぶことができたと思う。
- 他コースの考えを取り入れ、自身の専門する学問に学びを生かすことのできる他学科の教授の講義があり、これまで以上に公共という概念に対する理解が深まった。
- 社会福祉学科と共にプレゼンを行い、互いに互いの分野の理解を深め、異なる視点で課題発見と解決策提示を行えた点、社会における具体的なリアルな問題と専門の日本文学を交差させて学び理解できた点である。
- 自分の専門分野ではない授業を受ける機会がないため、それだけでかなり興味が湧き、学ぶ意欲も湧いていた。他学科の授業の中にも専門科目と似ている・活かせる部分があり、一類科目で学んだような「学びの融合」を実感できるところが面白かった。
- 公共政策学科で取り扱う問題を人文科学的に講義をしてもらったことで、新たな価値観であったり、多面的に考える力を養うことができた。この学習を基にこれからの授業や生活にも活かしていこうと考える。

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

● 学融合ゼミナールアンケート 🗳️

- 仏教学科の先生の講義は、わかりやすくまとまっていて理解も深まりましたが、表現学部講義の意図するところが分かりづらく、この授業のゴールがどこなのかももう少しはっきり示してほしいです。
- 毎回授業内容が変わるので飽きはしないが結局自分が何を学んでいるかわからない。
- 学部生の2年生にやらせる内容にしては高尚すぎます。理想に現実が追いついていません。
- この授業の本質である学際的な発想には非常に価値があり、有意義な授業であるということは間違いのない。ただ、最後の発表は必要なのだろうか。机上の空論を語ることが学際的な発想を育むとは思わない。必要なことは学際的な発想をいかにして現実にあてはめるのかということである。特に、人文学科は現実との結び付けが難しい。現状の発表は早仕上げにしては優秀だが、本質的な部分では価値がない。これならば2回分講義を増やしてレポートを一本書かせるほうがより有意義だと考える。
- 正直社会福祉と日本文学というより日本語の融合のように感じ、あまり気が進まなかった
- 授業を受けて地域と歴史は密接に関わっていることがわかった。様々な地域のことを学んできたことを活かして、自分の住んでいる地域や学校のある地域について興味を持つことができた。改善点としてはこれまでの学びと重複している授業が多々あった。
- 他学科の学びを取り入れて広い視野で考える思考を身につけることに関しては良いと思うが講義内容が毎回浅く、しっかりとした知識をつけないで浅い考えで学融合しても効果がないと思う。公共政策を考えるうえで深い知識や正しい知識理解は必要不可欠であると思うので、省略しながら軽く触れて学融合というのならやめた方が良くと思う。しっかりと専門的な知識、正しい理解ができる環境を整えるべきである。

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

「プロジェクト研究」開講★

令和5年第4QTにクロスディシプリン教育、「学融合ゼミナールⅡ」の実践プログラムとして、「プロジェクト研究」(第Ⅲ類科目・3年生対象)を開講する予定です。授業履修、さらには授業のプロデュースに参加してみませんか。テーマ「巢鴨を学融合する」

クロスディシプリン教育の展開

「学びたい」を交流を通じて実現できます

木曜日5時限
巢鴨キャンパス

学生のための、学生による、「学び」のプロデュースです。



9月4日(月)
9月7日(木)
9月8日(金)
9月12日(火)
9月14日(木)
11:00
~12:00

説明会

参加者
歴史学科 1名
表現文化学科 2名

- ・他学科の学生と交流したい
- ・寺院でのイベント企画

当該科目は学生の皆さんが、「学融合ゼミナール」ⅠⅡで修得した「学融合知」をもとに、自ら授業内容、方法、事後課題学修に至るまでを、プロデュースするものとなります。

全14回の授業に関して、担当学科、研究領域、担当教員など授業方法として、オンデマンド、対面、対面+オンデマンド、対面+フィールドワークなど

成果報告を計画立案してもらいます。授業の主担当はクロスディシプリン教育チーム小林

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

● 授業目標・到達目標

テーマ / Thema	学融合の実践 学科の研究領域「縦の学び」と学科を超えた領域横断的「横の学び」の「理論」を「すがも街中キャンパス」を活用して「実践」する。
授業の目的 / Class Objectives	専門科目と異分野の知識を融合し、データ分析による科学的な視野に基づく、探究と実証に向けた（よく学びよく考える）思考としての「理論」を前提に、コミュニケーションを基盤とした交渉力や数理解理解力によって、地域の人々の生活・文化・環境の現場を（フィールドワーク）を通じて「実践」する。
授業の到達目標・DPとの関連性 / Relevance to Class Goals and DP	①専門分野の多面的・重層的な思考と地域を結びつけることができる。 ②多面的な性質をもつ地域の課題を理解することができる。 ③複雑で多様な現代社会に応える力を身につけている。 ④「地域戦略人材」の意義を的確に解釈することができる。
DP参照ページ / DP Reference Page	
授業形態 / Class Type	・グループ形式で学習成果を発表する。 ・双方向型授業を重視し、ディスカッションも随時行う。 ・「すがも街中キャンパス」でのフィールドワーク
テキスト / Text	使用しない
参考文献 / References	授業時に提示
評価方法 / Grading Method	①成果報告（報告書・プレゼン）50%（授業の到達目標2・4） ②事前事後学修 50%（授業の到達目標1・3）
前提科目 / Prerequisite course	学融合ゼミナールⅠ 学融合ゼミナールⅡ

「プロジェクト研究」シラバス

令和6年度「クロスディシプリンフィールドワーク」科目追加★

全学共通第Ⅱ類科目（2単位）令和6年度開講予定
各学科「学融合ゼミナールⅠ・Ⅱ」の学科cross授業の内容を踏まえ、自らの専門分野と他学科の学問領域を統合的に学ぶ場としてのフィールドワーク

クロスディシプリン教育の展開

【教育目標】

自らの専門分野の学問領域と他学科の学問領域を統合的に学ぶ実践として、異なる分野のネットワーク結節点となるための力の育成と、地学連携・産学協創体制によるフィールドワークを通じた複雑で多様な現代社会の課題に応える力の養成

● 「クロスディシプリン・フィールドワーク」

- 【定義】 学科の「縦の学び」と学科を超えた領域横断的「横の学び」の実践教育
- 【目的】 地学連携・産学協創体制を生かした自分の専門性に繋がりを見出し、融合させるフィールドワーク
- 【評価】 調査報告書「フィールドレポート」
- 【運営】 学科Ⅱ類コーディネーターを通じた円滑な運営と学修支援
- 【開講形態】 全学共通第Ⅱ類科目 選択2単位 CAP外
- 【実施時期】 夏期休業期間 2泊3日の実地調査
- 【実施場所】 京都エリアキャンパス「京都アカデミア」
- 【対象学年】 3年生

授業科目の概要	授業科目の名称	単位数又は時間数			備考
		必修	選択	自由	
全学共通第Ⅱ類科目					
学融合ゼミナールⅠ		2			全学部4単位必修
学融合ゼミナールⅡ		2			
クロスディシプリンフィールドワーク			2		



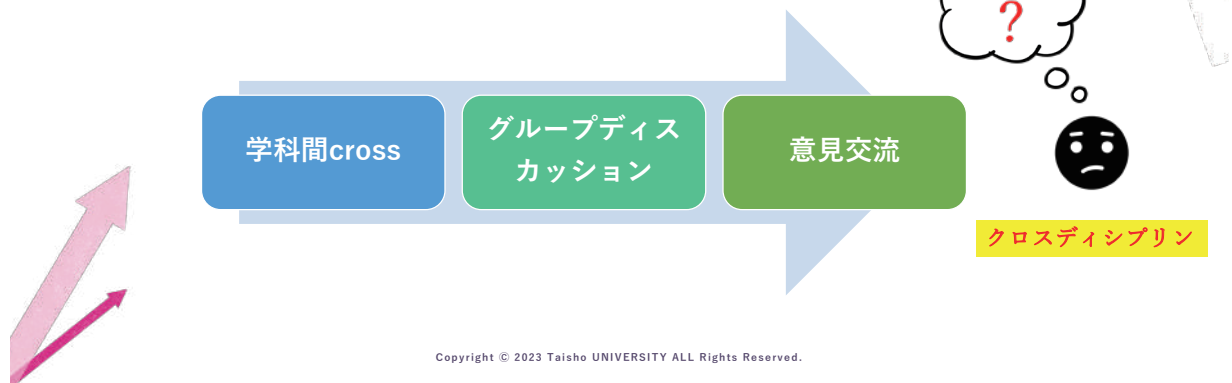
学生の交流の活性化
学生の主体的学びの場の提供

クロスディシプリン 教育改革

- 1 現地視察の指摘
- 2 改革の要旨
- 3 本学のクロスディシプリン教育
- 4 本学でのクロスディシプリン教育の定義と教育目標
- 5 「学融合ゼミナール」の開講方法
- 6 「学融合ゼミナール」と地域戦略人材育成
- 7 クロスディシプリン教育の展開1 令和5年4QTプロジェクト研究
- 8 クロスディシプリン教育の展開2 令和6年集中クロスディシプリンフィールドワーク
- 9 令和6年度クロスディシプリン教育の改革「学融合ゼミナールⅠ」
- 10 令和6年度クロスディシプリン教育の改革「学融合ゼミナールⅡ」

1 現地視察の指摘

- ・クロスディシプリン教育は学科間crossでは不十分である。
- ・グループディスカッションが常に同じメンバーになっており、十分な意見交換、交流がないようだ。



2 改革の要旨

- ・学科を超えたクロスディシプリン教育の推奨
- ・毎回、事前にグループを作成し、指定座席に座らせる。
- ・事前のグループ分け、教室の座席の把握



9 令和6年度クロスディシプリン教育の改革 「学融合ゼミナールI」

※混合パートの設置

「学融合ゼミナールI」

※学融合ゼミナールI

1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回	11回	12回	13回	14回
← 学科パート →					← 横断パート →				混合パート		学科パート		
◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
■										★	★	◆	◆

◎毎回の座席指定、事前に座席の提示、グループワーク

■本事業におけるクロスディシプリン教育の位置 学融合ゼミナールの意義を周知

- ・探究実証系学科 ⇒ 学科専門領域と地域学+cross社会創造系学科の地域学
- ・社会創造系学科 ⇒ 学科専門領域と人文科学+cross探究実証系学科の人文科学

★cross2学科混合クラス (A学科+B学科÷2⇒混合2クラス) 混合パート

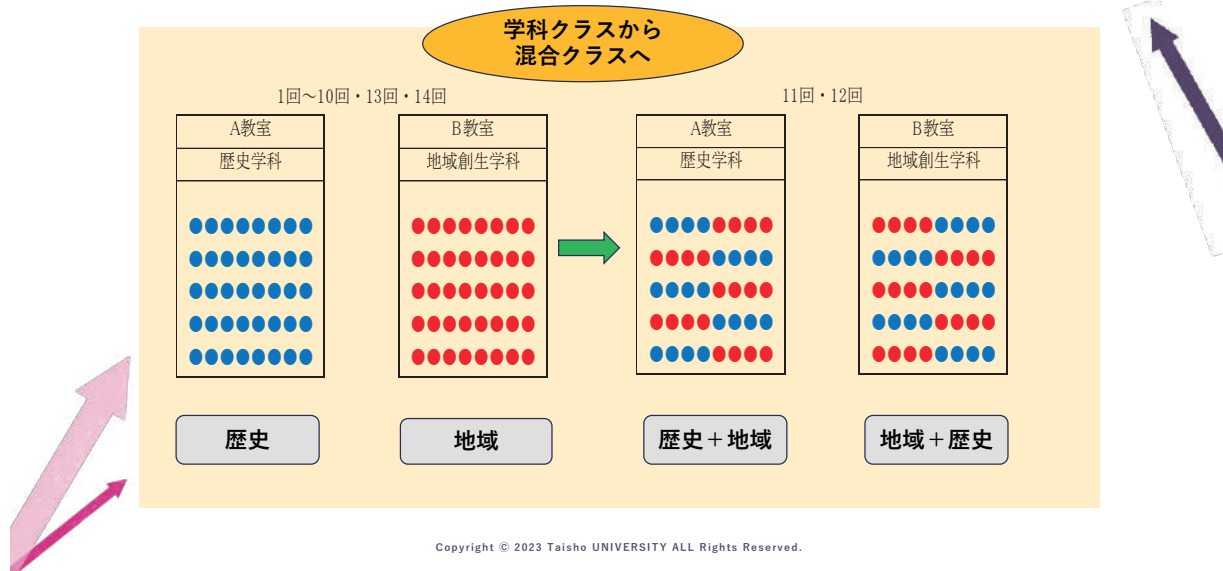
・学科の枠を超えたディスカッション

・授業は事前の学科計画を活用

◆レポート作成 プレゼン

cross2学科混合クラス「混合パート」イメージ

MAKE YOUR UNIVERSE. 大正大学 Goto 100
一線だからつくれる世界を。



10 令和6年度クロスディシプリン教育の改革 「学融合ゼミナールII」

※「スタンダード」と「プレミアム」の分離

MAKE YOUR UNIVERSE. 大正大学 Goto 100
一線だからつくれる世界を。

「学融合ゼミナールII」①

※学融合ゼミナールII (スタンダード「探究する学融合」)

1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回	11回	12回	13回	14回
← 学科パート →					← 学融合パート →					← 学科パート →			
◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
■					▲	▲	▲	▲	▲			◆	◆

- ◎毎回の座席指定、事前に座席の提示、グループワーク
- 本事業におけるクロスディシプリン教育の位置 学融合ゼミナールの意義を周知
 - ・探究実証系学科 ⇒ 学科専門領域と現代社会
 - ・社会創造系学科 ⇒ 学科専門領域と人間学
 - ・学科専門領域を超えた学融合の探究
- 開講テーマ 探究実証系学科—人間学 社会創造系学科—現代社会
- ▲自己の学融合に基づく研究領域の自由選択
 - ・横断パートを学融合パートに変更
 - ・当該授業時間帯—水曜日3時限開講の融合科目の中からcross学科を超えた授業選択
 - ・UR-noteに3年対象の授業コースを設定、資料提示、課題提出（各学科コースに提出=提出をもって配点とする）
 - ・各回のレポートを元に成績評価 UR-noteの活用 合計点で成績認定
 - ・授業は事前の学科計画を活用
- ◆レポート作成 プレゼン

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

学融合パート受講イメージ



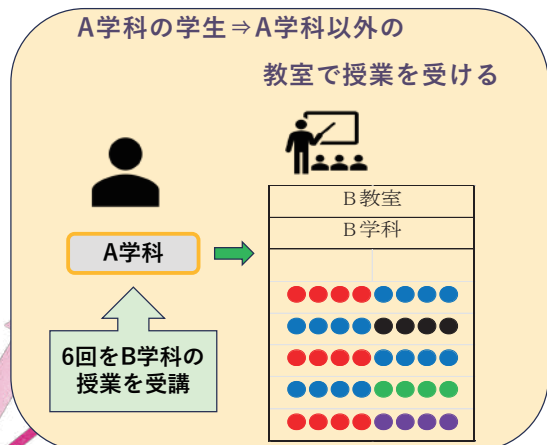
Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

学融合パート教室イメージ

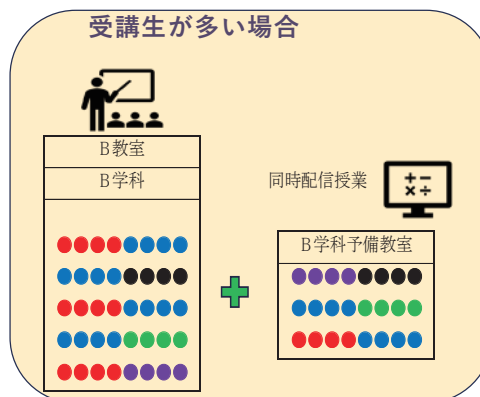
6回～10回

A学科の学生⇒A学科以外の

教室で授業を受ける



受講生が多い場合



Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

「学融合ゼミナールⅡ」②

※学融合ゼミナールⅡ

1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回	11回	12回	13回	14回		
◎	◎	←	学融合実践1				→	←	学融合実践2				→	◎	◎
■		☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	◆	◆		

◎毎回の座席指定、事前に座席の提示、グループワーク

■本事業におけるクロスディシプリン教育の位置 学融合ゼミナールの意義を周知

☆任意の2週間を活用した「学融合実践」

- ・学科の学びを前提に、自身の学融合（セルフ・クロスディシプリン）をフィールドで実践する。
- ・居住地域+本学全国エリアキャンパス=連携自治体から2地域を利用、合計3地域
- ・学融合実践1ないし2の期間のうち、連続する2週間を選択、学園祭期間は不可
- ・実践期間内はオンライン授業対応

◆「フィールドワークレポート」報告

・フィールドワーク実践計画を事前に提出

⇒「目的=あなたにとっての学融合」

⇒「フィールドワーク実践先・3地域=学融合との関連性」

「旅する学融合計画書」提出 ⇒ II類コーディネータ面談 ⇒ 許可 ⇒ 履修登録

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

(4) アントレプレナーシップ育成教育

アントレプレナーシップ育成教育について



学修支援センター教授
前田 長子

「アントレプレナーシップ教育プログラム」については、令和5年度より、本格的に始まったプログラムであり、今後軌道に乗せていく必要があります。令和5年度の試行錯誤しながらの取組みを報告させていただきたいと思っております。

まず、本学では、全学的に地域戦略人材の育成に取り組んでおり、そのための施策として、通称「アントレプレナー」と言われている起業家を育てる「起業人材コース」、「イントレプレナー」とも呼ばれる「企業内リーダーシップ人材コース」、公務員等を育成する「地域戦略人材コース」という3つのコースを設置しております。単位については、24単位以上習得することとなっております。

本プログラムの設置にあたっては、新しく教員を雇用し、同じ方向に向かって地域戦略人材を輩出して行くための方針等も共有しています。アントレプレナーシップ育成教育の中で育成すべき資質と能力というのが11項目あり、どの科目のどの授業でもシラバスに掲載することになっています。実際にシラバスに落とし込んでいる事例としては、3項目から4項目を到達目標に定めています。

各コースはスキル科目と実践科目で構成されています。「起業人材コース」については、希望するワークショップが1科目6単位となっているので、ワークショップごとの履修モデルというものを学生に提示し、スキル科目の履修等の提案をした上での履修を促しています。次に、「企業内リーダーシップ人材コース」については、一般企業に勤めることを前提として、希望する業界や業種、あるいは職種をイメージし、よりふさわしい授業科目の履修を提示しています。そして、「地域戦略人材コース」については、ビジネス感覚を持つ公務員の育成を目指すコースとしています。

履修にあたっては、まず学生たちに各コースの内容を理解してもらい、興味・関心を持ってもらった上で、自分の進むべき道と照らし合わせながらコース選択をしてもらう必要があります。そこで、最初に教員と学生を対象とした全体の説明会を開き、その後に登録希望者別に各コースの説明会を開催し、必要があれば個別相談会等も実施して、正式にコース登録をして履修して行くこととしました。

また、プログラムの履修にあたっては学生各自が学習計画書を作成して、どのように学んで行くかということを中心に事前に考えるようにしています。

一方、担当教員については、特に実践科目を担当する実務家教員は、一般社会では活躍されていますが、大学で授業をするのは初めての場合、シラバスの勉強会から始まり、講義やワークショップ等の進め方、そして、LMSを使いこなせるようになるまでのFDを開催しています。

これだけの準備をしっかりと整えた上でスタートしましたが、やはり実際に授業が始まると、想定外のことが

発生することや、計画に対する進捗状況の確認をする必要があること等、様々な事項が発生します。そのため、それらは常に改善して行くという方針で、コースごとに振り返りを実施しております。全教員が良質な教育を展開して行きたいという考えで、基本的にFDに出席し、軌道修正や授業改善を行っています。

授業改善への取組みについては、まず、学生がこの授業を受けて実際にどう感じ、力が付いているのか付いていないのかといったことを把握する必要があります。そこで、学生にアンケートを取り、次に学生へのインタビューを行い、教員にもアンケートを参考に自己評価を行う等、様々な角度からその点検・評価に取り組んでいます。

春学期終了時点での教員アンケートについては、授業運営や責任に関する自己評価において、成績評価の適切性や学習内容の難易度、あるいは個々の学生の有利な積極性を引き出すといったことについて、厳しい評価を付けられています。したがって、教員同士で情報交換をしたり、ディスカッションをしたりと、様々な形で改善事項に取り組んでいます。例えば、とある授業科目の自己評価によると、第1クォーターの到達目標が達成できませんでした。そこで話し合いをした結果、第2クォーターでは達成出来たという事例もあります。また、「マイスターワークショップ」の振り返りも実施しました。

学生インタビューの結果については、コース選択の理由から、期待と現状の乖離、授業内容の分かりやすさ、課題設定の適切さ、学習意欲の高まり具合、先生方からのフィードバックやアドバイスに対する感想、教員の態度といったことを何度か実際に聞いています。そして、ここで出て来た回答を先生方にフィードバックさせていただき、さらなる授業改善に取り組んでいます。

さらに、「起業人材コース」の学生を対象にした「将来ビジネスの発展」というプログラムも開催しました。こちらは授業とは別に、こうしたことを学ぶ場を作るという試みで、11月中旬から定期的に開催しました。

一方、「企業内リーダーシップ人材育成コース」の取組みについては、キャリアセンターと連携しながら「選抜型インターンシップ」を令和5年度から開始しました。企業に3日間以上のインターンシップの売り込みをして、学生を派遣しました。企業での実践研修の後に報告会を学内で開催しています。

この取組みについては、学生についての事後アンケートも実施しており、受け入れ先企業から、学生の評価や期待値とのギャップ等をフィードバックしていただいています。フィードバックについては、詳細を分析して、学生への教育・学修支援活動の改善の材料としています。

本プログラムの運営については、様々な関係者と連携しながらより良いものにしていくように取り組んでおります。それを踏まえながらさらに発展させるために、今後は、次のとおり改善していきます。

まず、令和5年4月から初めて導入する教育プログラムのため、どのくらいの学生がどの科目を履修するかというシミュレーションを行いました。実際には科目数やクラス数が足りないこととなりました。そこに関しては期待外れのような感じになってしまいましたので、次年度は科目やクラスの数を増やすという形で準備しております。

次に、学生自身のプログラム履修に向けての姿勢については、詳しい説明を受けず、友達と同じコースを取ったものの、授業が大変で後悔しているという話もあります。とはいえ、いかに自分の人生を見つめ、コース選択に責任を持たせるかということは課題の一つだと考えています。そこで、令和6年度に向けては、事業計画の明示や先輩とのパネルディスカッションなどを取り入れて、プッシュ型ではなく、プル型戦略で学生たちにしっかりと興味関心を持たせ、自分のキャリアビジョンともきちんと向き合わせた上で、それと一致したコースを履修させる形にしています。

その他、初めて大学の授業を持つ教員のために、シラバスの勉強会として、教育効果があるシラバスかどうか議論・検討する場を設けていましたが、教員間の情報交換の場にもなっているため、今後も継続して行きたいと思えます。

来年度においても、3つのコースを維持・発展した形で推進し、学生のキャリア形成等に寄与することができればと考えています。

○起業人材コース説明会

アントレプレナーシップ育成教育プログラムについては、地域戦略人材と深くつながりがあり、これまでの学びとどのような関係があるかを確認してもらいたと思います。

今まで皆さんが学んできたことを地域戦略人材として活かしていくことが、社会に出た後にも求められます。学生生活の中でも様々な課題を解決していると思われそうですが、皆さんには、社会で起こる様々な問題を解決し、新しい価値を生み出すリーダーとなっていただきたいと考えています。

チュートリアル教育、データサイエンス、そして、今回のアントレプレナーシップ育成教育プログラムは、単独のプログラムではなく、全てがつながった地域戦略人材としての皆さんがリーダーになっていただきたいという趣旨で始まっています。アントレプレナーシップ論や超スマート社会論等の基礎科目6単位、スキル科目12単位、実践科目6単位、合計24単位で完成するのが、この起業人材コースになります。

アントレプレナーシップ育成教育プログラムでは、どういった資質・能力が育成されるかということ、11の資質と能力を育成していきます。そのため、この資質・能力を自身で確認しながら足りない箇所や伸ばさせたい能力を伸ばすという観点で履修をしていくことが求められます。

「起業人材コース」の特徴と、科目構成、概要について3つのポイントを説明します。一つ目は、どのような学生が対象になるかということ、「起業人材コース」では、地域に新しい価値を創出するという起業にチャレンジしたい学生を対象としています。もちろん、起業を考えていないという方もいると思います。その場合でも起業人材コースを選択しても問題ありません。必ずしも起業を目指す学生のみコースとはせず、社会の中で多くの課題を解決していく上で、起業という手段もあるということを理解するという目的で学ぶことも問題ないと考えています。

「起業人材コース」では、起業をして、新しいビジネスを創造し、そのビジネスのアイデアを出す方法、また、そのアイデアを実際に運用するにはどのようにすれば良いかということも学ぶことができます。また、自分の強みや課題を把握した上で、将来の夢や目標を明確化し、短期的なビジョンだけではなく、長期的なビジョンを持ちたいと考える学生を対象としています。

二つ目は、11の資質・能力を身につけ、それに加えて、イノベーション思考と実行力が身に付きます。時代の変化を先取りして、新たなビジネスや新しい価値をどのように見つけていくかどうかを考えることができます。顧客価値を発見し、作り出していくかという思考と実行力を養うことができます。

三つ目は、「起業人材コース」の最大のポイントになります。それは、実践科目のワークショップがあるということです。このワークショップは、実際に、もう会社を経営している方や、団体を運営している方々が教員として担当します。

以上のように、皆さんと一緒に授業を展開していきます。そして、1年間、または1.5年間にわたって、教員とともに起業に関する必要な知識や手法を学んでいきます。実際に大学の中だけではなく、現場に行き身につけてくるというような特別なワークショップも開催します。また、理論を養うために、スキル科目として、ロジカルシンキング、コミュニケーション、ファシリテーション、ファイナンスの基礎、マーケティングの基礎等を設けています。これらは、ワークショップと同様に、実務家教員による授業科目となります。コースの修了としては、スキル科目12単位、実践科目6単位を履修する必要があります。スキル科目については6科目選択、実践科目は1科目で選択となります。

履修学生の卒業後のイメージについて説明します。アントレプレナーというのは起業というイメージが非常に強いので、在学中・卒業後すぐに起業するというイメージがあるかもしれませんが、しかし、一般企業に入社してから、30代ぐらいで中堅の社員になって、40代で将来起業するという方もいるかもしれません。フリーランスとして活動して、将来的に法人化することによって、起業する方法もあります。また、本業を生かしつつ、社内起業される方もいるかもしれません。最近では、企業に入りながら、社内起業または副業をされている方もいま

す。以上のような様々な方法や手段があると思いますので、今現在で決めるのではなく、このような働き方もあるということをイメージして、起業人材コースを履修することを推奨します。

そして、起業人材コースで求められる学生像は、次の3つとなります。アントレプレナーシップ育成教育プログラムを受講し、卒業後には起業を一つ的手段として考え、新しい価値を提供し、世の中に貢献しようとする学生。自分自身の強みや課題を把握した上で、将来の夢や目標を明確化し、短期的なビジョンではなく、長期的なビジョンを持ちたいと考える学生。知的好奇心旺盛で、主体的に学習計画を立案し、さらには、様々な課題に積極的に取り組める学生。以上のような学生が起業人材コースに求める学生像になりますので、参考にさせていただければと思います。

次に、履修計画について説明すると、スキル科目は12単位必要な中、13講座開講しています。ワークショップについては、令和6年度に8講座開講します。必要単位数は、スキル科目12単位、ワークショップは通年6単位となります。ワークショップは3年生からスタートし、スキル科目は、履修計画の中で4年生までに取ればいいのは、12単位となります。しっかりと計画的に履修することを想定しています。

最後に、起業戦略人材育成コースについては、実際に事業を行っている経験豊富な講師から、ビジネスの世界について学べる点が非常に魅力的です。ビジネスの基礎や種類について知る過程で、自らが向いている、またはやりたいと思える仕事についても解像度を上げることができます。現在、起業を考えていない学生でも、将来のもしもを考える。そんなきっかけになるような学びが得られるのではないかと考えています。

○企業内リーダーシップコース説明会

企業内リーダーシップコースについては、起業をするのではなく、一般企業の中でキャリアアップして行くイントレプレナーのコースとなります。単位は24単位であり、どのように取得していくのかをモデルで示しているので、具体的なイメージを持ってもらえればと考えています。

卒業後については、一つの企業でキャリアを積み重ねて行く人や、様々な企業をキャリアアップしながら転職を繰り返して自分のやりたいことを実現して行く人、大きく分けて2パターンの人材像を想定しています。そして、GPAが当該年度の春学期までで、通期で2.3以上の学生が履修可能ということ、ワークショップ2科目を春学期に履修することが条件になっています。

イントレプレナーで求める学生像については、自身の自己実現という夢の実現があるのと同時に、それを実現することで世のため人のために貢献して行きたい学生です。すなわち、自分のやりたいことだけやるのではなく、自分のやりたいことを通して、それが世のため人のために繋がって行くというような高い志を持った学生としています。

そして、就職活動でも成果を出せるように組み立ててはいますが、就職活動だけが目的でこのコースを選択するのではなく、その先長い社会人の生活をしていく中で、しっかりと基礎を作り、社会で活躍して行ける人材になってほしいと考えているため、そのような中長期的なビジョンを持った学生が履修してほしいと考えています。そして、知的好奇心を持って自分の力を高めたいということ。様々な課題に取り組んでみたいという学生を募集しています。そして、これらを乗り越えて行くには、基本的な基礎学力を持っている必要があります。

授業科目については、スキル科目12科目と、実践科目10科目となります。コース修了に必要なスキル科目の単位は12単位であり、6科目の単位を取得する必要があります。実践科目については、6単位必要となるため、10科目の内、3科目を取得する必要があります。ワークショップについては、ほぼ土曜日開講としています。

スキル科目について、順番に簡単に説明していきます。自身で選択してもらえればと考えています。以下、授業科目について説明します。

・「コミュニケーション」については、対人という視点でのコミュニケーションの基礎を一度見直していくことから、最終的にはビジネスで求められるビジネスコミュニケーションのスキルまでを習得していきます。ビジネ

スのコミュニケーションについては、ネゴシエーションやファシリテーション等も一つのコミュニケーションとして、物事が進まないときのコミュニケーションをどうしていくのかというところを学ぶ内容になっています。

・「ロジカルシンキング」については、ビジネスの現場で必要となるロジカルシンキングとして、文章を書くというライティングだけではなく、その場面でロジカルに動けるのかということ、ケーススタディを使って学んでいく内容です。

・「ビジネスファシリテーション」については、司会進行だけではなく、時間内に結果を出すという視点で、合意形成を多様な意見の人々の中で進めるワーク等を実施します。

・「財務会計の基礎」については、ビジネスに必要な財務会計の基礎を学ぶ内容です。

・「リーダーシップ」については、ビジネスシーンで求められるリーダーシップ開発について学びます。

・「マーケティングの基礎」については、様々な会社のマーケティング手法を分析・解析をして、何故売れたのか等を考えるワークを沢山用意しています。

・「データ分析法」については、「データサイエンスⅥ」の授業からさらに一歩進んだ学びを行います。少人数での実践科目です。

・「プログラミングの基礎」については、現在、社会で求められているプログラミング人材を念頭に、コーディングをして、学びながらペッパー君を動かせるようにする等の内容としています。

・「ビジネス英語」については、第2クォーターと第4クォーターのみの開講となり、第2クォーターはTOEIC400点以上、第4クォーターは500点以上を目安にしています。ビジネス英語については、社会に出てから求められることが多く、就職活動に直結しなくても必要な講座であると考えています。

・「キャリアデザインA」については、授業日程に加えて夏期インターンシップ5日間が必要です。大学として、選抜型のインターンシップを設けており、特定の会社を選んで実習を行うこととなります。希望者が多い場合は、第1希望・第2希望という形で選択することになりますが、インターンシップに行くまでの事前準備と終了してからの報告を通して、しっかり力を付けて行くというプログラムになっています。一般的に申し込むインターンシップとは異なり、実際、営業現場に同行させてもらったり、商品開発のワークショップに参加させてもらったり、会議に出席したり、そういった本格的な社会体験や就労体験が出来るインターンシップを用意しています。

・「キャリアデザインB」については自分軸確立を目的としており、「ちょっと何していいのかわからない。何に向いているのかわからない」という学生が一から自己分析をして、社会に向かって行くというプログラムになります。「キャリアデザイン」については、AまたはBを履修することになります。

・「ワークショップ」については、10科目開講しており、コースとして6単位必要なため、3科目を選ぶ必要があります。業界ごとのテーマとなっていますが、授業科目名だけに注目するのではなく、どんな力が付くかということを読み解き、自分が行きたい業界で使えそうな力かどうかを見極めて履修する必要があります。以下、ワークショップについて説明します。

・「営業職」のワークショップについては、本学で最も多い就職先の職種が営業と思われます。ノルマ型のいわゆる数を達成するまで会社に戻れないという仕事は割とごく一部の仕事で、課題解決型・ソリューション型、コンサルタント型の営業が現在多いため、そのようなことを体験しながら学べる授業になっています。

・「財務分析」のワークショップについては、企業の財務状況を財務諸表から分析をして、その会社の経営状態、将来の安定性、リスク等を読み解いて行く学びとなります。自分が行きたい業界の財務分析を行います。

・「多様性推進」のワークショップについては、現在、どこの企業も多様性を意識しています。様々な人が集まって成果を出して行く集団になっていく必要があります。様々なバックグラウンド、雇用形態が違う人、性別が違う、年齢が違う人達とワンチームになって、どのような成果を出して行くか、そのようなことをイメージしながら力を付けて行く授業になっています。

・「金融経済と私」のワークショップについては、金融教育を行います。お金を自分事としても捉え、仕事の中

でもしっかり金融のリテラシーを押さえつつ経済との繋がりを把握し、自分のマネープランもしっかり立てられる。そのようなことを学んで行ける授業になっています。

・「人と企業を繋ぐ人材関連業界」のワークショップについては、人材関連業界で必要となる知識やスキルを身に付けて行くワークショップです。

・「メディア業界」のワークショップについては、メディア業界の将来をイメージしながら、必要となる知識・スキルを身に付けていきます。

・「サービス業界」のワークショップについては、サービス業界で必要な知識やスキルをしっかり学んで行くことと、サービス業界の経営視点を学んでいきます。

・「ブランディング」のワークショップについては、リブランディングという既存のブランドを再度、強化する・成長させるための課題に取り組むワークを開講します。

・「コンサルティング」のワークショップについては、実例のコンサルティングのケーススタディを用いて、コンサルティングの体験をして行くワークショップを行います。

・「出版・編集」のワークショップについては、書く練習を行います。書くといっても様々な切口で勉強していきます。企画書の作成も行い、最終的には、出版する書籍の企画書を作成して行くというワークを行います。

最後に、この10科目と別に「マイスターインターンシップ」という授業科目で単位を取ることも可能としています。これは、自分が見つけてきたインターンシップ先で40時間以上のインターンシップを無償で行って来たものに対して、前後の講座やプラスアルファの学習をした上で、単位を認定します。ただし、40時間のインターンシップを見つけて実践するのは難しいと聞いています。

○地域戦略人材コース説明会

地域戦略人材コースの卒業後の進路としては、2年後に公務員になることを目指しています。地域貢献をしたというマインドを持ちつつ、その後転職して、NPO法人や地域貢献事業の立ち上げ等も考えられます。

地域戦略人材コースについては、1年間で履修をするプログラムになりますが、実践科目のマイスターワークショップについては、翌年の第1・第2クオーターの履修を想定しています。基本的には3年生の1年間で完結をします。

また、多くの学生は週4回、8時半まで勉強しています。実際に1学年上の先輩たちは、チームとして一体感ができています。様々な知識や経験というのを共有し合うことも目的としています。チームで動くことにより、地域戦略人材となることを目指しています。

夜中まで授業を受講する大変さはあるかもしれませんが、それ以上にチームになっており、お互いに仲良くなり、公務員になった後もつながりを持てるような、大切な友達になっていくと思います。

どのような資質、能力が身につくかという点、地域創生戦略思考とビジネスマインドです。マイスターワークショップという授業を通して、主に身につけていきます。公務員試験も近年、人物重視傾向にあります。そのためマインドや実施するべきことを学んでいきます。このコースでは3年生第1クオーターから緩やかに準備をしていきます。公務員になるために必要な経験や能力・資質を考えるプログラムにしています。なお、単位数については、12単位プラス6単位を推奨しています。また、実践科目が6単位になります。

登録条件としては、GPA等の制限を設けていません。公務員になりたい、地域に貢献したいという学生にぜひ履修してほしいと考えています。地域戦略人材コースで求める学生像としては、他のコースと共通になっていますが、より職種等が明確になっており、全科目必修で実施をします。マイスターワークショップという授業の中で、お互いの学びの進捗確認をすることやこの時期にどの科目を勉強しているのか等の指標も示しています。さらに3年生の春休み以降は補習も開講します。

第Ⅲ類科目

アントレプレナーシップ育成教育プログラムについて

本日の目次

résumé

1. アントレプレナーシップ育成教育のプログラムの設計
2. 学生のプログラム履修登録にむけて
3. プログラム担当教員のFDについて
4. 教育目標達成のための授業改善の取組
5. アントレ教育に関する正課外のプログラム
6. プログラムの運営体制
7. 令和6年度に向けたプログラムの課題

1. アントレプレナーシップ育成 教育プログラムの設計

大正大学が目指す地域戦略人材とは

大正大学が育成する
新時代の地域リーダー像



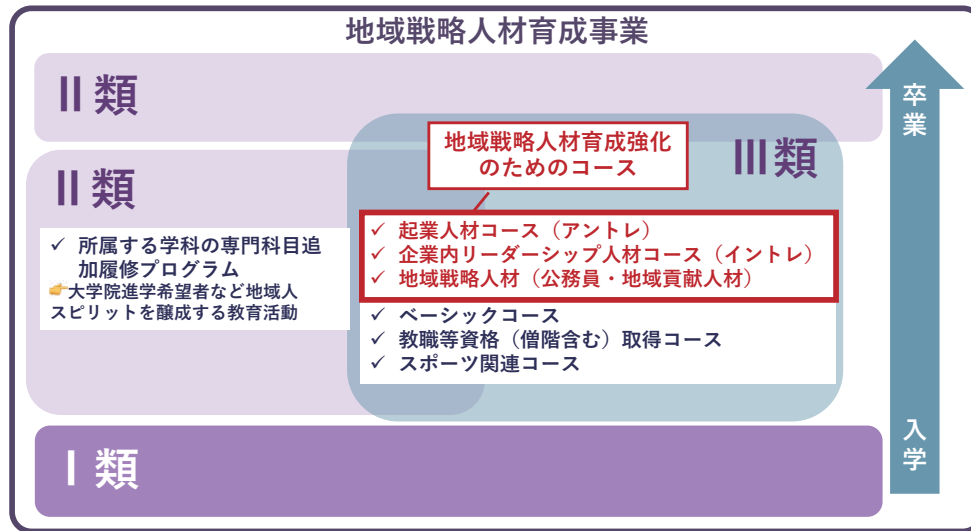
地域戦略人材

地域戦略人材とは

多面的な性質をもつ地域課題解決に向けて、
異なる専門分野の多様な人材を統合し、調整する新しいリーダー

< 4つの要素 >

- ✓ 主体的に解決策を提起する態度・意識
- ✓ 具体的課題に対する的確な事実認識、解決のための知恵を生み出す知識・技能
- ✓ 学融合からの視点、多様な視点からの課題アプローチ
- ✓ 複数分野のネットワークの結節点となるためのコミュニケーション能力



アントレプレナーシップ育成教育の3つのコース

A. 起業人材コース (アントレプレナー)

地域に新しい価値を創造するビジネスを起業する人材

B. 企業内リーダーシップ人材コース (イントレプレナー)

地域企業や組織内においてイノベーションによって活性化と業績向上に貢献する人材

C. 地域戦略人材コース (公務員・地域貢献人材)

地域創生戦略志向とビジネスマインドを持つ人材

アントレプログラムの単位取得について

■アントレプレナーシップ育成教育の履修モデル

A. 起業人材コース
(アントレプレナー)

B. 企業内リーダーシップ人材コース
(イントレプレナー)

C. 地域戦略人材コース
(公務員・地域貢献人材)



基礎科目、スキル科目、実践科目ともに4年生の春学期までに24単位取得できるように計画を立てる

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

アントレプレナーシップ育成教育プログラムで育成すべき資質と能力

アントレプレナーシップ育成教育のすべての科目において以下の11のうちどの資質や能力を重点的に育成するのかということを各科目教員に検討してもらい、シラバスに落としている。

- ①汎用的知識： society5.0の社会で活動するにあたって必要となる基礎知識 ※主に基礎科目
- ②データドリブン： 常に明確な根拠に基づき、自ら意思決定を行い、判断・アクションできる力
- ③人的ネットワーク構築力： 対人力を発展させ、様々な領域での良質な人間関係を構築する力
- ④力強いリーダーシップとマネジメント能力： 多様性を理解しながら合意形成し、前進できる力
- ⑤未来をイメージできる力： 成し遂げたい目標を定めて具体化し、行動計画を立て実行する力
- ⑥創造性とイノベーション： 既存の枠組みにとらわれず、新しい価値を創り出す力
- ⑦社会の課題解決力： 解決したい社会課題を自ら解決する力、もしくは解決しようとする力
- ⑧探究心と意思決定能力： ものごとの本質を射抜き、判断や意思決定することができる力
- ⑨ポジティブシンキングとチャレンジ精神： どんな場面においてもリスクを恐れず果敢に挑む力
- ⑩機会の追求： 限られた資源を最大限に活かし、機会（チャンス）を追求して挑戦する力
- ⑪コミットメント： どんな困難があっても、目標達成に向けて最後まで諦めずにやり遂げる力

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

第III類科目_アントレプレナーシップ育成教育プログラム



【参考】アントレ科目のシラバスの到達目標事例

起業人材コース

科目：マイスターワークショップ
 サブタイトル：チェンジメーカーズ・コミュニティ
 担当教員：山本 繁
 単位：6単位（通年）

企業内リーダーシップ人材コース

科目：マイスターワークショップ
 サブタイトル：コンサルティング
 担当教員：西川 世一
 単位：2単位

テーマ /Thema	自分自身の「熱い想い」に着想したプロジェクトを形にし、起業家/チェンジメーカーとしての第一歩を踏み出す
授業の目的 /Class Objectives	この授業では、まず初めに、自分自身の「熱い想い」や「実現したい世界観（やりたいこと）」を他者に伝えるように言語化していきます。その上で、その世界観を実現するための「機会」を発見していきます。次に、「解決すべき課題」とそのための「事業アイデア」を構想し、「小さなプロジェクト」を行ってみます。最後（2024年2月）に「DEMODAY」を開催します。DEMODAYでは、実現したい世界観、そのためのプロダクトやサービス、今後の活動計画等を発表し、起業家/チェンジメーカーとしての第一歩を踏み出します。 以上の活動を通して、未来の起業家/チェンジメーカーにとって必要となる資質・能力の修得を目指します。 この授業は、「熱い想い」や「実現したい世界観」を持っている方、または授業を通じて見つけたい方々を対象としています。やりたいことが見つかった人もこれからの人も、どちらも歓迎します。モットーは「Everyone a Changemaker（誰もがチェンジメーカー）」です。
授業の到達目標・DPとの関連性 /Relevance to Class Goals and DP	この授業を修了すると、以下のような資質・能力が身に付きます。 ①「熱い想い」や「実現したい世界観（やりたいこと）」を他者に伝えるように言語化することができる（未来をイメージできる力） ②「機会」を発見するとともに、「解決すべき課題」と「事業アイデア」が明確になっている（創造性とイノベーション） ③具体的な「小さなプロジェクト」を開始することができる（ポジティブシンキングとチャレンジ精神、社会的課題解決力） ④生涯にわたる切磋琢磨できる「熱い想い」を持った同世代の友人・仲間・メンターに恵まれている（人的ネットワーク構築力） ⑤①から④を再現できる力が身に付いている

テーマ /Thema	社会の課題解決～中小企業の後継者不足問題について～
授業の目的 /Class Objectives	・中小企業が抱える最大の課題でもある「後継者不足問題」について学び、実体験を聞くことで自分事として課題を捉え、理解する ・課題解決のために、中小企業・地域、国、学校など、どのような働きかけや仕組みがあれば良いか企画する力を身につける ・企画書を中小企業社長へプレゼンテーションし、アドバイスや意見を踏まえ改善することで、実現可能な企画案にし、自身のアイデアが企業活動に影響する体験を通じ、社会の一員であることを再認識する
授業の到達目標・DPとの関連性 /Relevance to Class Goals and DP	中小企業を取り巻く現状と課題が正しく理解できている（社会の課題解決力） ・企業と地域、自治体、学校など、課題解決のために必要な協力者の仮説を立てることができる（未来をイメージできる力） ・ビジネス視点をもって課題解決策を企画することができる（創造性とイノベーション） ・相手に共感を生み出すプレゼンテーションができる（人的ネットワーク構築力） ・企業の課題解決に留まらず、その先に地域の活性化、日本経済の発展に繋がる視点をもつことができる（機会の追求）

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

第III類科目_アントレプレナーシップ育成教育プログラム



R5_ 起業人材コース_開講科目一覧と履修モデル

「スキル科目」12単位



「実践科目」6単位

✓ 希望するワークショップ（実践科目）ごとの履修モデルを学生に提示

大分類	中分類	対象コース	科目	単位数
スキル科目	スキル科目	起業人材	コミュニケーション（アントレ）	2
スキル科目	スキル科目	起業人材	ロジカルシンキング（アントレ）	2
スキル科目	スキル科目	起業人材	プレゼンテーション（アントレ）	2
スキル科目	スキル科目	起業人材	ファンデーション（アントレ）	2
スキル科目	スキル科目	起業人材	マネジメント（アントレ）	2
スキル科目	スキル科目	起業人材	財務会計の基礎（アントレ）	2
スキル科目	スキル科目	起業人材	ファイナンスの基礎（アントレ）	2
スキル科目	スキル科目	起業人材	マーケティングの基礎（アントレ）	2
スキル科目	スキル科目	起業人材	情報表現技術（アントレ）	2
スキル科目	スキル科目	起業人材	言語表現技術（アントレ）	2
スキル科目	スキル科目	起業人材	キャリアデザインA（アントレ）①	2
スキル科目	スキル科目	起業人材	キャリアデザインB（アントレ）①	2
実践科目	ワークショップ	起業人材	ワークショップ（起業実践～6名のプロから指導～）	6
実践科目	ワークショップ	起業人材	ワークショップ（起業というキャリアデザイン）	6
実践科目	ワークショップ	起業人材	ワークショップ（チェンジメーカーズ・コミュニティ）	6
実践科目	ワークショップ	起業人材	ワークショップ（地域共生コミュニティづくり実践）	6
実践科目	ワークショップ	起業人材	ワークショップ（ビジネス実践）	6
実践科目	ワークショップ	起業人材	ワークショップ（起業・企業再生事例研究）	6

科目分類	授業科目	単位数	実践科目：ワークショップ<1科目6単位>							
			事務経理実践 （大規模から小規模へ）	起業実践～6名の プロから指導～	起業実践～6名の プロから指導～	起業実践～6名の プロから指導～	起業実践～6名の プロから指導～	起業実践～6名の プロから指導～	起業実践～6名の プロから指導～	
基礎科目	超スマート社会論	2	○	○	○	○	○	○	○	○
	新共生社会論	2	○	○	○	○	○	○	○	○
	地域人イノベーション	2	○	○	○	○	○	○	○	○
	アントレプレナーシップ論	2	○	○	○	○	○	○	○	○
	3科目自由単位	3	○	○	○	○	○	○	○	○
	3科目自由単位	3	○	○	○	○	○	○	○	○
スキル科目	コミュニケーション	2	○	○	○	○	○	○	○	○
	ロジカルシンキング	2	○	○	○	○	○	○	○	○
	ファンデーション	2	○	○	○	○	○	○	○	○
	プレゼンテーション	2	○	○	○	○	○	○	○	○
	マネジメント	2	○	○	○	○	○	○	○	○
	財務会計の基礎	2	○	○	○	○	○	○	○	○
	ファイナンスの基礎	2	○	○	○	○	○	○	○	○
	マーケティングの基礎	2	○	○	○	○	○	○	○	○
	情報表現技術	2	○	○	○	○	○	○	○	○
	言語表現技術	2	○	○	○	○	○	○	○	○
	キャリアデザインA	2	○	○	○	○	○	○	○	○
	キャリアデザインB	2	○	○	○	○	○	○	○	○
6科目12単位	6	○	○	○	○	○	○	○	○	
6科目12単位	6	○	○	○	○	○	○	○	○	
6科目12単位	6	○	○	○	○	○	○	○	○	
6科目12単位	6	○	○	○	○	○	○	○	○	
6科目12単位	6	○	○	○	○	○	○	○	○	
6科目12単位	6	○	○	○	○	○	○	○	○	

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R5_企業内リーダーシップ人材コース_開講科目一覧と履修モデル



「スキル科目」12単位



「実践科目」6単位

✓ 希望する業界や職種ごとに履修モデルを学生に提示

大分類	中分類	対象コース	科目	単位数
スキル科目	スキル科目	企業内リーダーシップ人材	コミュニケーション (イントロ)	2
スキル科目	スキル科目	企業内リーダーシップ人材	ロジカルシンキング (イントロ)	2
スキル科目	スキル科目	企業内リーダーシップ人材	プレゼンテーション (イントロ)	2
スキル科目	スキル科目	企業内リーダーシップ人材	フシリテーション (イントロ)	2
スキル科目	スキル科目	企業内リーダーシップ人材	リーダーシップ (イントロ)	2
スキル科目	スキル科目	企業内リーダーシップ人材	マーケティングの基礎 (イントロ)	2
スキル科目	スキル科目	企業内リーダーシップ人材	データ分析の基礎 (イントロ)	2
スキル科目	スキル科目	企業内リーダーシップ人材	デジタルマーケティングの基礎 (イントロ)	2
スキル科目	スキル科目	企業内リーダーシップ人材	ビジネス英語 (イントロ)	2
スキル科目	スキル科目	企業内リーダーシップ人材	キャリアデザインA (イントロ) ① ※A/B/Cいずれかひとつのみ履修可能	2
スキル科目	スキル科目	企業内リーダーシップ人材	キャリアデザインB (イントロ) ① ※A/B/Cいずれかひとつのみ履修可能	2
実践科目	ワークショップ	企業内リーダーシップ人材	ワークショップ (ブランディング)	2
実践科目	ワークショップ	企業内リーダーシップ人材	ワークショップ (サービス業務)	2
実践科目	ワークショップ	企業内リーダーシップ人材	ワークショップ (全業種共通_財務分析)	2
実践科目	ワークショップ	企業内リーダーシップ人材	ワークショップ (HR/人材関連業務)	2
実践科目	ワークショップ	企業内リーダーシップ人材	ワークショップ (全業種共通_多様性推進)	2
実践科目	ワークショップ	企業内リーダーシップ人材	ワークショップ (メディア業務)	2
実践科目	ワークショップ	企業内リーダーシップ人材	ワークショップ (コンサルディング)	2
実践科目	ワークショップ	企業内リーダーシップ人材	ワークショップ (全業種共通_課題解決型授業)	2
実践科目	ワークショップ	企業内リーダーシップ人材	ワークショップ (金融_保険業務)	2
実践科目	インターンシップ	企業内リーダーシップ人材	インターンシップ (イントロ)	2

科目分類	履修科目	履修必須	単位数	希望業界										
				金融 保険	IT 情報通信	メーカー	メディア	マーケティング 広告	HR/人材	エデュ	サービス	小売		
基礎 科目	超入門社会学		2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	新共生社会学		2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	地域入門社会学		2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	イントロ&マーケティング論		2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
基礎科目で6単位必要 (3科目選択)				6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	
スキル 科目	コミュニケーション		2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ロジカルシンキング		2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	プレゼンテーション		2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	フシリテーション		2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	リーダーシップ		2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	マーケティングの基礎		2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	データ分析の基礎		2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	デジタルマーケティングの基礎		2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ビジネス英語		2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	キャリアデザインA (A/B/C/V/D)		2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	キャリアデザインB (A/B/C/V/D)		2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	スキル科目で12単位必要 (6科目選択)				12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
実践 科目	ワークショップ (全業種共通_組織での多様性推進)		2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ワークショップ (全業種共通_財務分析)		2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ワークショップ (全業種共通_課題解決型授業)		2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ワークショップ (コンサルディング)		2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ワークショップ (HR/人材関連業務)		2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ワークショップ (メディア業務)		2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ワークショップ (金融_保険業務)		2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
インターンシップ		2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R5_地域戦略人材コース_開講科目一覧



「スキル科目」12単位
+ 推奨履修科目 6単位



「実践科目」6単位

✓ 地域戦略人材として、地域での仕組みづくりをする職種である公務員を想定し、問われる知識・資質についてを 春休みや夏休みでの集中講義を含めた年間を通じた学習をおこなう

大分類	中分類	対象コース	科目名	単位数
スキル科目	スキル科目	地域戦略人材コース	ロジカルシンキング (教養科目A)	2
スキル科目	スキル科目	地域戦略人材コース	プレゼンテーション (教養科目B)	2
スキル科目	スキル科目	地域戦略人材コース	コミュニケーション (教養科目C)	2
スキル科目	スキル科目	地域戦略人材コース	マネジメント (専門知識A)	2
スキル科目	スキル科目	地域戦略人材コース	リーダーシップ (専門知識B)	2
スキル科目	スキル科目	地域戦略人材コース	財務会計の基礎 (専門知識C)	2
スキル科目	スキル科目	地域戦略人材コース	ファシリテーション (専門知識D)	2

大分類	中分類	対象コース	科目名	開講期	単位数
スキル科目	スキル科目	地域戦略人材コース	キャリア探究A	夏休み	2
スキル科目	スキル科目	地域戦略人材コース	キャリア探究B	春休み	2
実践科目	実践科目	地域戦略人材コース	マイスターワークショップ	通年	6

- ✓ 集中講義や実践科目では、公務員を主に、職務理解や地域貢献人材の現場を理解する。
- ✓ 時事問題を取り上げたワークショップや、現役の職員をゲスト講師に招へいた現実的な実情の理解、グループワークなどのアクティビティを通じた体感的な理解、モチベーションの向上などを行なう。

✓ 教養科目はスキルの背景となる知識・基礎力の科目として必須であることから履修指導で推奨科目とする。

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

2. 学生のプログラム履修登録にむけて

アントレのコース選択と履修登録に向けてのスケジュール

履修までのスケジュール	登録	日程
教員への説明会 学生への説明会		2022年11月24日・12月2日 2022年12月5日～8日
学生への希望調査（プレ調査）※コース選択と科目選択		2022年12月5日～17日
コース別説明会（各コース3回実施）		2023年1月17日～19日
アントレプレナーシップ育成教育プログラム履修登録（コースのみ選択）	コース登録	2023年1月23日
令和5年度 春学期履修ガイダンス ※履修登録にむけて学修計画の作成と個別面談実施		2023年3月下旬
プログラム履修登録修正（コース確定）	コース確定	2023年3月下旬
春学期履修登録	履修科目確定	2023年4月上旬

令和5年度履修学生数：対象の全2年生、3年生1955人のうち1543人（78.9%）が履修

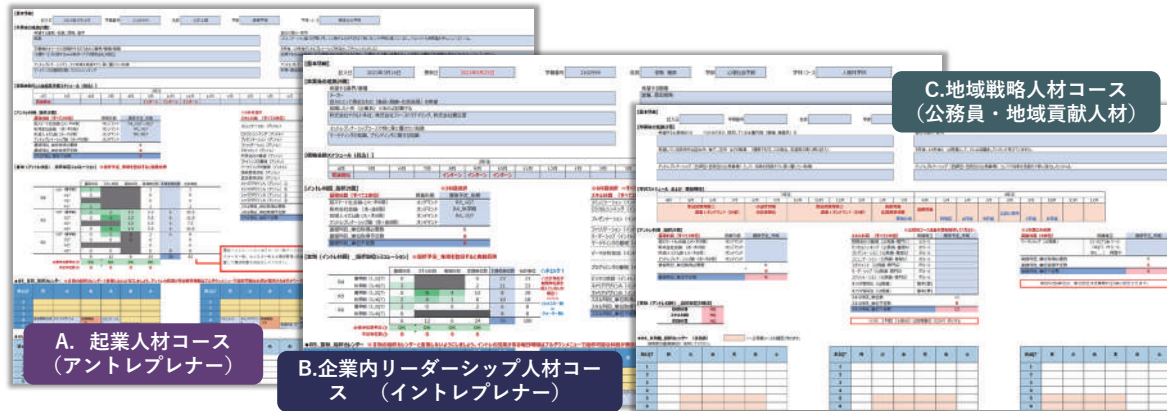
学修計画書作成 & 提出と個別相談会

学修計画書提出： 3月24日（金）締め切り

履修登録開始： 3月27日（月）

履修登録個別相談： 3月27日（月）～29日（水）

各コースごとのフォーマットを使って学修計画を作成し、提出を必須とした。（提出率92.7%）



3. プログラム担当教員のFDについて

教員の育成と教育の質保証のためのFD実施内容

約8割の教員が、「実務家且つ大学講師未経験者」であることもあり、教育プログラム開始前、開始後の研修会・FDを計画的に実施することで、教育の質向上を図っている

FD・研修会名	実施日	方法	参加 教員数	対象教員			目的
				アントレ	イントレ	地域人材	
シラバス勉強会	1月14日	オンライン	20名	○	○		<ul style="list-style-type: none"> ✓ シラバスの作成目的と項目理解 ✓ 到達目標のレベル感合わせ ✓ 個別のシラバスのブラッシュアップ
講義法ワークショップ	2月8日	対面	23名	○	○		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 教育目標達成にむけて学修成果を高めるための授業設計や講義の手法の検討と習得 ✓ シラバスの見直し
LMS勉強会	3月31日	対面	30名	○	○	別日実施	<ul style="list-style-type: none"> ✓ LMSの基本操作習得 ✓ 学修成果の可視化の推進 ✓ 授業管理のデジタル化促進

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

4. 教育目標達成のための授業改善の取組

授業改善にむけての振り返りMT（コースごとの取組）

3コース共通での取り組み

振り返りMT	実施日	方法	参加 教員数	対象教員			目的
				アン トレ	イン トレ	地域 人材	
企業内リーダーシップ人材コース_ スキル科目振り返り	6月3日	オンライン	8名		○		✓ 1QTの振り返りと2QTに向けての授 業改善について
起業人材コース_ マイスターワークショップ科目振り 返り	6月30日	対面	7名	○			✓ 6月までの振り返りと7月以降の授業改 善について（通年科目）
企業内リーダーシップ人材コース_ 実践科目_振り返り	7月29日	オンライン	8名		○		✓ 春学期の振り返りと秋学期に向けての 授業改善について
地域戦略人材コース全体MT	月1回	対面	1名			○	✓ 毎月の状況把握と授業改善について コア教員との定例会

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

授業改善にむけての現状把握の取組（3コース共通）

3コース共通での取り組み

➤ 教員アンケート

- ◆ 実施期間：1QT終了時:5月下旬 / 2QT終了時：7月下旬～8月上旬 ※5下はイントレのみスキル科目のみで実施
- ◆ 手法：formsで実施
- ◆ 対象教員：39人（延べ数）
 - 起業人材コース：スキル科目担当教員12人
 - 企業内リーダーシップ人材コース：スキル科目担当教員9人、実践科目担当教員8人
 - 地域戦略人材コース：スキル科目担当教員4人、実践科目担当教員1人
 - ベーシックコース：スキル科目担当教員5人
- ◆ アンケート項目
 - 授業運営や設計に関する教員評価を10段階で自己評価
 - 授業運営や設計に関する設問ごとの自己評価の理由
 - 授業運営や設計に関する設問ごとの自己評価の今後の改善点
 - 教育目標（育成すべき資質と能力）の達成度（5件法）
 - それぞれの教育目標に対する達成度の理由
 - その他意見（自由記述）

【授業運営や設計に関する6つの質問】

1. 【授業目標や目的】を明確に設定できていたか
2. 【学習内容と量と難易度】が適切であったか
3. 教育目標達成に適した【教材】であったか、
また学生の理解度習熟度に合っていたか
4. 【成績評価】方法が適切であったか
5. 授業の中での【学生の意欲や積極性】はどうであったか
6. スムーズな【授業運営】ができたか

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

授業改善にむけての現状把握の取組（コースごとの取組）

起業人材コース

▶ 教員ヒアリング

- ◆実施時期：1 QT、2 QT終了時にそれぞれ実施
- ◆実施方法：個別にオンライン 約30分
- ◆ヒアリング項目
 - ①授業を担当した全般的な感想
 - ②本学学生の強みと課題
 - ③学生が能力を高めるために必要なこと
 - ④授業システム（LMSなど）について

▶ 学生アンケート

- ◆実施時期：2 QT終了時に実施
- ◆実施方法：formsでの回答（59名）
- ◆アンケート項目
 - ①起業人材コースを履修した理由
 - ②受講してどのような変化があったか
 - ③今後どのようなスキルを活かしたいか
 - ④スキル科目で印象にあるものは
 - ⑤実践科目で印象にあるものは
 - ⑥授業への改善要望

企業内リーダーシップ人材コース

▶ 教員ヒアリング

- ◆実施時期：2 QT終了時に実施
- ◆実施方法：個別にオンライン 約30分
- ◆ヒアリング項目
 - ①授業を担当した全般的な感想
 - ②本学学生の強みと課題
 - ③学生が能力を高めるために必要なこと
 - ④4 QTもしくは次年度にむけて

▶ 学生ヒアリング

- ◆実施時期：1 QT、2 QT終了時にそれぞれ実施
- ◆実施方法：対面でのインタビュー（1 QT8名、2 QT10名）
- ◆ヒアリング項目
 - ①企業内リーダーシップ人材コースを履修した理由
 - ②アントレ育成教育プログラムに対する期待と現状
 - ③授業内容のわかりやすさ
 - ④課題設定の適切さ
 - ⑤学修意欲の向上
 - ⑥教員のフィードバックやアドバイスについて
 - ⑦教員の意欲や態度に関すること

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

教員アンケート結果（授業運営や設計に関する自己評価）

授業改善にむけての現状把握の取組（3コース共通：教員アンケート結果）

成績評価の適切性（7.5）や学修内容の量と難易度（7.6）については、各教員も課題認識が高く、秋学期にむけて各授業ごとに課題点を明確にして改善していく方向。学生の意欲や積極性（7.7）に関しては「真面目に取り組んでいるが、一歩前になることに躊躇する学生が多い」という本学の学生気質が共通課題である。

【2QT終了時点】アントレ全体の授業評価 ※10段階評価

	起業人材		企業内人材		地域戦略人材		総計
	スキル科目	実践科目	スキル科目	実践科目	スキル科目	実践科目	
総計	8.1	7.8	7.3	8.4	9.8	7.9	
【授業目標や目的】を明確に設定できていたか	8.4	8.2	7.6	8.5	9.0	8.2	
【学習内容と量と難易度】の適切さ	7.9	7.7	6.4	8.8	10.0	7.6	
【教材】の適切性、学生の理解度習熟度の一致度	8.2	8.0	7.1	8.5	10.0	8.0	
【成績評価】方法の適切さ	8.1	7.3	6.1	8.3	10.0	7.5	
【学生の意欲や積極性】	7.5	7.7	7.4	8.8	10.0	7.7	
スムーズな【授業運営】ができたか	8.4	7.6	8.9	7.5	10.0	8.3	

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

平均スコアが高い項目

1. スムーズな授業運営（8.3）
2. 目的や目標設定（8.2）
3. 教材の適切性（8.1）

平均スコアが低い項目

1. 成績評価の適切性（7.5）
2. 学習内容と量と難易度（7.6）
3. 学生の意欲や積極性（7.7）

第Ⅲ類科目_アントレプレナーシップ育成教育プログラム

MAKE YOUR UNIVERSE.
一緒だからつくれる世界を。

【事例】 教員アンケート結果（教育目標に対する達成度）※企業内リーダーシップ人材コース



第1QT終了時にイントレのスキル科目担当教員でFDを実施。教員の自己評価と学生アンケートを踏まえて、第2QTへの授業改善につなげた。結果的に授業の到達目標に対する達成度は全体的に向上している。

1QTの教員評価	企業内リーダーシップ人材コース_スキル科目_1QTの教員評価										
	担当科目	①汎用的知識	②データリテラシー	③人的ネットワーク構築力	④多岐リーダーシップとマネジメント能力	⑤未来をイメージできる力	⑥創造性とイノベーション / ⑦社会課題解決力	⑧探究心と意思決定能力	⑨プロジェクトマネジメントとプレゼンテーション	⑩社会の垣根	⑪コメント
コミュニケーション (イントレ)			2. 大きく達成した	4. 一部達成できなかった			2. 大きく達成した	3. 達成した		3. 達成した	
ファシリテーション (イントレ)		2. 大きく達成した		3. 達成した			4. 一部達成できなかった	3. 達成した		3. 達成した	
リーダーシップ (イントレ)		2. 大きく達成した		2. 大きく達成した			2. 大きく達成した				
チーム分析推進 (イントレ)		3. 達成した		3. 達成した			2. 大きく達成した				
プロジェクトの基礎 (イントレ)		2. 大きく達成した	2. 大きく達成した							2. 大きく達成した	
ロジカルシンキング (イントレ)				4. 一部達成できなかった	4. 一部達成できなかった		4. 一部達成できなかった				
プレゼンテーション (イントレ)	1. 完全に達成した	3. 達成した	3. 達成した	4. 一部達成できなかった	4. 一部達成できなかった	2. 大きく達成した	1. 完全に達成した		3. 達成した		
マーケティング基礎 (イントレ)											

2QTの教員評価	企業内リーダーシップ人材コース_スキル科目_2QTの教員評価										
	担当科目	①汎用的知識	②データリテラシー	③人的ネットワーク構築力	④多岐リーダーシップとマネジメント能力	⑤未来をイメージできる力	⑥創造性とイノベーション / ⑦社会課題解決力	⑧探究心と意思決定能力	⑨プロジェクトマネジメントとプレゼンテーション	⑩社会の垣根	⑪コメント
コミュニケーション (イントレ)			1. 完全に達成した	3. 達成した			4. 一部達成できなかった	3. 達成した		2. 大きく達成した	
ファシリテーション (イントレ)		2. 大きく達成した		3. 達成した			3. 達成した				
リーダーシップ (イントレ)		2. 大きく達成した		3. 達成した			3. 達成した				
チーム分析推進 (イントレ)		3. 達成した		2. 大きく達成した			3. 達成した				
プロジェクトの基礎 (イントレ)		2. 大きく達成した	2. 大きく達成した							2. 大きく達成した	
ロジカルシンキング (イントレ)				3. 達成した	4. 一部達成できなかった		3. 達成した				
プレゼンテーション (イントレ)	2. 大きく達成した	2. 大きく達成した	3. 達成した	3. 達成した	2. 大きく達成した	2. 大きく達成した	2. 大きく達成した		2. 大きく達成した		
マーケティング基礎 (イントレ)		2. 大きく達成した				3. 達成した	3. 達成した	2. 大きく達成した	2. 大きく達成した		

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

第Ⅲ類科目_アントレプレナーシップ育成教育プログラム

MAKE YOUR UNIVERSE.
一緒だからつくれる世界を。

【事例】 起業人材コース_マイスターワークショップ科目振り返り



◆1QT終了しての振り返り

- 日時： 6月30日（金）
- 時間： 17:00～18:30
- 場所： すがもプロダクトスタジオ I
- 参加者： WS担当教員6名、アントレコース担当職員4名
- 内容： ①授業内での取り組みについて
②学生の学修状況について
③アントレプレナー人材育成強化について



◆振り返りと今後のアクションに向けて

担当教員6名より1QTで実施した授業内容の共有を行ったうえで、学生の学修状況や特性などについて共有と意見交換がなされた。本学の学生は素直で感覚は良いが、新しい行動に対しては消極的であるとの共通意見であった。WSにより少しずつ意識の変化を感じており、2QTから夏季期間に設定されている現場でのフィールドワークやインターンシップなどにより、自発性や積極性を高めていけるような仕掛けとサポートを強く意識して進めていくことが確認された。

※マイスターワークショップは通年で展開されているため、今後は定期的な情報交換会の実施やビジネスカフェの開催により学生を継続してサポートしていく。

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

【事例】 学生インタビューで出てきた声 ※企業内リーダーシップ人材コース

企業内リーダーシップ人材コース（学生ヒアリング内容）  教員フィードバック済

(0) コース選択の理由

- ・意志を持って選択した学生もいたが、消去法でイントレを選択した学生も複数いる
- ・説明会ではどうしてもアントレ教育の全体像がつかみきれなかった
- ・特にアントレとイントレのコースの違いが「起業家かどうか」という点以外分かりにくくイメージしにくかった

(1) アントレ育成教育プログラム（イントレ）に対する期待と現状

【期待】

- ・社会で活躍できる人材になりたい/入社時に即戦力のある社会人になりたい
- ・就活で成果を出したい/希望の職種や業界で仕事ができる力をつけたい

【現状】

- ・リアリティのある授業が多い。社会に出たときのことをイメージできる場面が多い（これまでの授業とは異なる）
- ・学生の視点ではなくビジネスマンとしての視点で物事を考える難しさも感じている（慣れていないからつらい）
- ・授業時間外に取り組むことが多すぎて（複数科目で求められる）想定外につらい
- ・履修している学生のモチベーションや能力格差が想像以上にある
- ・1QTのみで終わり、ではなく、次のステップに進みたい、もう少し深めたかった、習得レベルを上げたかった

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

【事例】 学生インタビューで出てきた声 ※企業内リーダーシップ人材コース

(3) 授業の内容のわかりやすさ（理解しやすかったか、社会接統を意識できるものであったか）

- ・社会接統を十分イメージできる、意識できる授業が多い。
- ・社会人には一般的に使われている用語かもしれないが時々出てくる表現で「???'となることもあった。
- ・科目によっては難易度が高すぎるものもある/自分は十分理解できていたが、一方でグループワークなどでメンバーから「先生の指示が理解できない」と相談されることもあった。どこが難しいのか不明だが複数の学生からの声
- ・理論と実践のどちらもということで授業設計してくださっていると思うが、その結果、いずれも中途半端で消化不良。
- ・講義内容と最後のプレゼンのつながりが腹落ちしない授業もあった。

(4) 課題設定が適切であったか（到達目標、授業内容とつながっているものであったか）

- ・先生からすると大変ではないと思っている（想定される）ものでも学生の立場からは取り組みに時間がかかる、大変なものもあったので学生にとっての難易度をイメージして期日設定やボリューム設定をしてほしい。
- ・特にアントレの複数の授業で授業外のグループワークを実施しなくてはならない状況となっており、バイトと睡眠時間と学修時間の調整が非常に辛かった。先生は担当している授業（1科目）だけしかイメージできていないのではないか。
- ・プレゼンのお題についてはできるだけ学生の共感と納得感が得られるものにしてほしい。
- ・特に4、5限の授業内にリフレクションタイムが取られない科目で、当日中のリフレクション提出は辛かった。通学に時間がかかり、帰宅後取り組むにも気力が出ず、作業的になってしまったことがあった。自分としては課題もリフレクションもきちんと取り組みたいため、4、5限の授業のリフレクションの提出期日は検討してもらいたい。

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

【事例】学生インタビューで出てきた声 ※企業内リーダーシップ人材コース

(5) 学修意欲の向上 (学修意欲が高まる内容であったか)

- ・「楽しい」か、と聞かれると「楽しい」とは言えないという学生が多い。
「価値があるか」と聞かれると「価値がある」と言える授業が複数ある。

(6) フィードバックやアドバイスについて

- ・想像以上の沢山のフィードバックをもらう授業もあり、先生の関わりに感謝している。
- ・厳しいフィードバックもあるが的を射ており納得感がある。一方で逆にもっと厳しいフィードバックをもらいたいと思う授業もある (承認してくれるのはありがたい)
- ・調べ方など、課題への取り組み方へのヒントやアドバイスがもらえるとありがたい。専門性が高い内容だったのでどうやって調べてよいか分からないこともあった。
- ・一方で途中のワークの教員からのフィードバックに翻弄されて、結果的に授業外の議論にかなりの時間を使わざるを得ない状況もある。さらにグループメンバーで先生のフィードバックに基づいて見直そうという話になり、次のフィードバックでさらに大きく修正をかけるということが実際起っていて、FBの良い点、マイナス点を感じた。

(7) 教員の意欲や態度に関すること

- ・どの先生も共通して、Passionを感じる。熱意をもって取り組んでいることは十分伝わっている。人柄がよい先生が多い。
- ・逆に熱意がありすぎて、授業内容が詰め込みすぎ、Too Muchだと感じることもあった。メモ取りが追い付かない授業もあった。
- ・熱心すぎてフィードバックが過多になっている(受け取り切れない、消化しきれない) ケースもあった。

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

5. アントレプレナーシップ育成教育に関する正課外のプログラム

SHODAI BUSINESS CAFÉ

【目的】授業としてではなく、社会の現場で活躍する人物とビジネスや起業に関して、気軽に意見交換ができる場を継続的に提供し、学生を支援する。在学中だけでなく、卒業後も交流を図れる場をめざす。

➤ 第1回 SHODAI BUSINESS Café

日時：令和5年7月28日（金）16時～17時30分

場所：プロダクトスタジオⅢ（すがも街なかキャンパス）

ファシリテーター：瀬下翔太（アントレコース非常勤講師）

参加者：学生3名



参加学生の感想：

講師との距離感、そして、授業らしくないラフな空間が故に気楽に相談できると言うのは、学生にとっても圧迫感や緊張感がなくスムーズに内容が頭に入ってくるのが良いと感じました。

ビジネスや起業に興味のある学生は、まず何をしたら良いのかわからないと言う壁にあたるかと思います。あのようなコミュニティがあればそのような学生をスタートダッシュから支援できるコミュニティが出来るのではないかと思います。

◀SHODAI BUSINESS Caféの様子

➤ 今後の予定

ビジネス・社会の現場で活躍する方々をゲストに迎え、第4QT（11月中旬～）から定期的に開催

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

選抜型インターンシップの開始について

【内容】

起業人材コースの学生に対して、企業側が独自に大正大学の学生向けに設定した選抜型インターンシップ

キャリアセンターと連携して実施

【実施目的】

- インターンシップ参加により、学生自身の視野を広げる機会とし、同時にビジョン意識を高める
- 学んだことを実務につなげ、実務を通じた気づきで学びの質を高める
- インターンシップ受入企業様の事業・業界の理解と人的ネットワーク構築をはかる
- 働くことと自己実現の関連付けを行う

【スケジュール】

令和5年度のスケジュール	内容
7月20日（木）～	学生への告知と募集開始
～7月28日（金）	応募締め切り
～8月4日（金）	エントリーシートの提出期間
～8月11日（金）	応募学生全員と個別面接の実施
～8月14日（月）	面接結果連絡（派遣先決定、可否）
8月24日（木）～8月25日（金）	事前研修（200分×2日間）
8月28日（月）～9月22日（金）	インターンシップ期間
10月14日（土）	学内報告会実施（200分）

【実施企業と参加学生数】
9社に16名の学生が参加

企業名	日数	学生数
（株）セブン&アイ・フードシステム	9日間	1名
東武トップツアーズ（株）	4日間	3名
（株）加藤製作所	3日間	1名
（株）ディスコ	3日間	2名
（株）ビタブリッドジャパン	3日間	2名
（株）サダマツ	3日間	2名
バリューマネジメント（株）	6日間	1名
（株）ピックカメラ	5日間	2名
（株）NTT南関東	1日間	2名

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

選抜型インターンシップ後の企業&学生アンケート

次年度以降、選抜型インターンシップの規模拡大と社会接続に効果的な展開をめざす。今年度受け入れ企業へのヒアリングを通して社会のニーズと本学の学生の状況を的確に把握し、アントレ教育（授業を通しての能力開発）と連動した形で、質の高い選抜型インターンシップに取り組んでいく

【受け入れ企業様へのアンケート】7社_集計結果

行番号	学生の評価 (平均)	企業側の重視 項目 (平均)	差
① 基本姿勢	4.4	4.9	-0.4
職場で適切な態度や振る舞いができる	3.9	4.9	-1.0
身だしなみや言葉遣いなど社会常識を身につけている	4.4	4.7	-0.3
責任感をもって業務に取り組む姿勢がある	5.0	5.0	0.0
② 学びの吸収力	4.3	4.6	-0.3
フィードバックも正しく受け取り、それを活かそうとする姿勢がある	4.4	4.6	-0.1
新しいスキルや知識を吸収し、活かそうとする姿勢がある	4.1	4.6	-0.4
③ インタラクティブ	3.8	3.9	0.0
自発的に新しいアイデアを提案し、積極的に行動している	4.0	4.1	-0.1
自分から仕事を請け、リーダーシップを発揮する姿勢がある	3.6	3.6	0.0
④ 課題解決力	4.1	4.0	0.1
データドリブンな思考をもって課題発見に取り組む姿勢がある	4.2	3.7	0.5
課題解決につながる独創的なアイデアなどを持っている	3.8	3.9	0.0
自ら問題を分析し、効果的な解決策に導く姿勢がある	3.8	4.3	-0.5
様々な業務上の課題に対して、柔軟に対処できる	4.6	4.3	0.3
⑤ 態度・指導・指導	4.3	4.3	-0.1
指示や相手の立場を考慮し、行動することができる	4.0	4.9	-0.9
担当業務だけでなく、仕事全般に対して、幅広い興味関心を持っている	4.4	4.1	0.3
中長期視点から自らのビジョンやキャリアを考えている	4.3	4.0	0.3
⑥ コミュニケーション&チームワーク	4.2	4.9	-0.6
円滑なチームワークや健全な人間関係を築くことができる	4.3	4.7	-0.4
業務上、必要なコミュニケーション能力を身に付けている	4.1	5.0	-0.9
⑦ 仕事へのコミットメント	4.8	4.6	0.1
インターン期間中継続、業務に積極的に取り組む姿勢がある	4.7	4.6	0.1
与えられたミッションやプロジェクトを最後までやり遂げようとする姿勢がある	4.8	4.7	0.1
総計	4.3	4.4	-0.1

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

【参加した学生へのアンケート】結果

1. 経験したことの価値と繋がり

インターンシップはこれまでの学修や経験と繋がっており、無駄な経験はないことを実感できた

2. 実務経験と人間関係の重要性

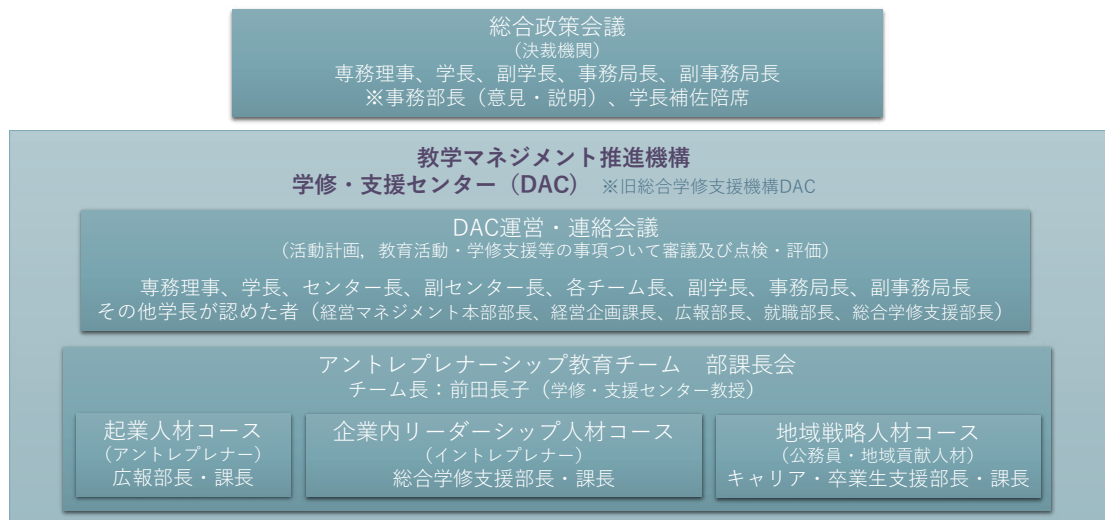
実務では多面的に評価されることを学んだ/業務上での人間関係の大切さを実感した/社会人としての感覚を少しつかめた/営業の実際のやり方を見ることができ、次の機会へつなげるスキルの必要性やビジネスの楽しさを学んだ/興味のある分野に対する理解が深まり、選考に有利な情報を得られた/D2CビジネスやECサイトの裏側を知ることができた/昇給の仕組みへの理解が深まった

3. インターンシップの意義

インターンシップを通じて会社の実態や必要なスキルを理解した/今後の就活に大いに役立った/自身の在りたい姿が明確になり、尊重し合う社員の一人として会社に貢献したいと感じた/小さな幸せを提供できる仕事に就きたいと確信した

6. プログラムの運営体制

アントレプレナーシップ育成教育プログラム運営体制



Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

7. 令和6年度に向けたプログラムの課題

アントレプレナーシップ育成教育プログラムの今後の課題

1. **アントレプレナーシップ育成教育のプログラムの設計**
 - ✓ 希望科目が履修できるように、適切なクラス数の設定（抽選落ちを可能な限り抑制する）
2. **学生のプログラム履修登録にむけて**
 - ✓ プログラム修了に向けたコースごとの登録学生ガイダンスや履修計画指導等の学修支援の実施
 - ✓ 各コース登録に向けたプログラムの意義・設計に関する説明会の見直しと授業見学の実施
 - ✓ 配慮学生への対応についての研修会実施や事例の事前共有などの取組
3. **プログラム担当教員のFDについて**
 - ✓ シラバス勉強会は新任以外の教員にも継続実施
4. **教育目標達成のための授業改善の取組**
 - ✓ イントレコースの「力強いリーダーシップとマネジメント能力」強化など、各コース所属学生の資質能力について現状を把握し、各授業における仕掛け方をFDで議論していく
5. **アントレ教育に関する正課外のプログラム**
 - ✓ 選抜型インターンシップは早期から準備を開始し、選抜型とマッチング型の両方を実施検討していく
 - ✓ 「SHODAI BUSINESS Café」のようなアントレ教育に関する学生コミュニティ形成をしかけていく

3. 令和5年度（初年度）を終えての振り返り

アントレプレナーシップ育成教育プログラム受講後の『学生アンケート』

実施時期：2024年1月15日（月）～1月31日（水）

対象学生：全3コースで共通アンケート（forms）を実施

実施目的：

- ① 地域戦略人材育成の成果を評価する手段として実施。PROGの結果を合わせて令和5年度のアントレ教育の取り組みを評価し、次年度の授業改善につなげる
- ② R6コースごとの地域戦略人材育成の目標設定の検討材料とする

主な質問項目：

- ① プログラムへの期待（2年生終了時点）
- ② プログラムの評価（3年生終了時点）
- ③ 履修前後における学生自身の変化

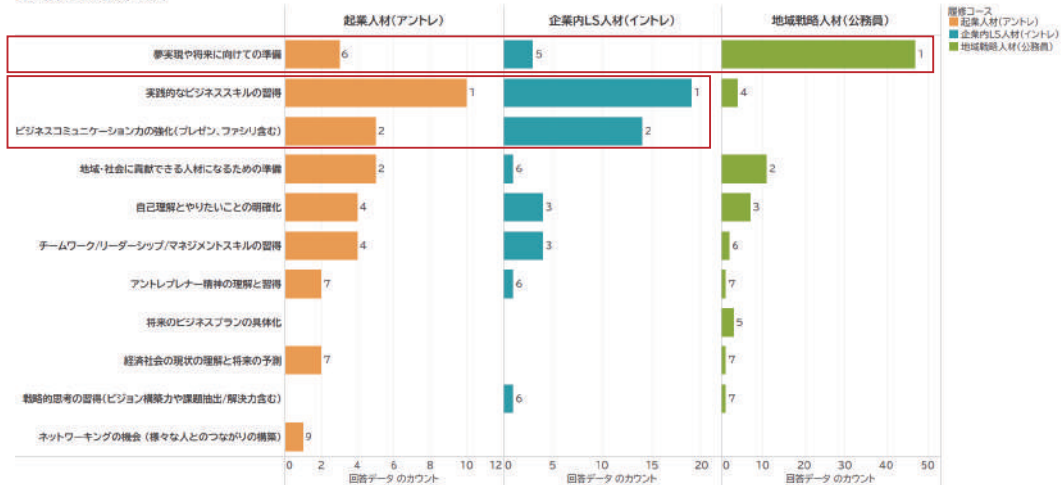
回答学生数：

	履修学生数	回答学生数	回答率
起業人材(アントレコース)	130人	36人	27.7%
企業内リーダーシップ人材(イントレコース)	164人	47人	28.7%
地域戦略人材(公務員コース)	88人	78人	88.6%
	382人	161人	42.1%

1. 受講前のプログラムへの期待 (単一選択)

✓ プログラムに対する期待 (単一選択) は公務員が夢実現や将来に向けての準備が最も多く、アントレ、イントレはともに実践的なビジネススキルの習得やビジネスコミュニケーション力の強化がもっとも高い。

プログラムへの期待 (SA)

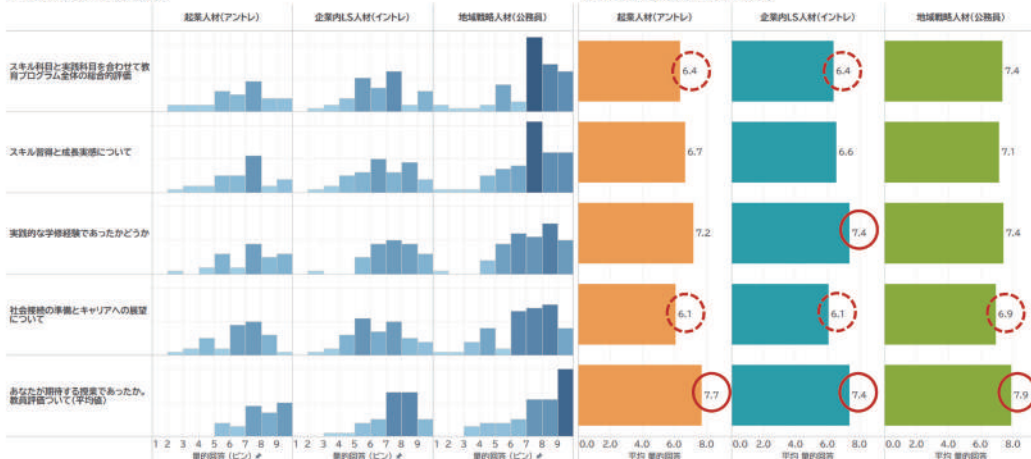


2. 学生のプログラム全体の評価 (分布とスコア平均)

✓ プログラム全体に対する評価は公務員が全体的に高く、社会接統の準備とキャリアへの展望以外はすべてスコアが7以上になっている。特に教員評価は7.9と高め。アントレは教員評価が7.7と高く、イントレは実践的な学修と教員の評価が同率で7.4。プログラム全体の総合的な評価はアントレもイントレも6.4とやや低めで要因の確認と改善が必要

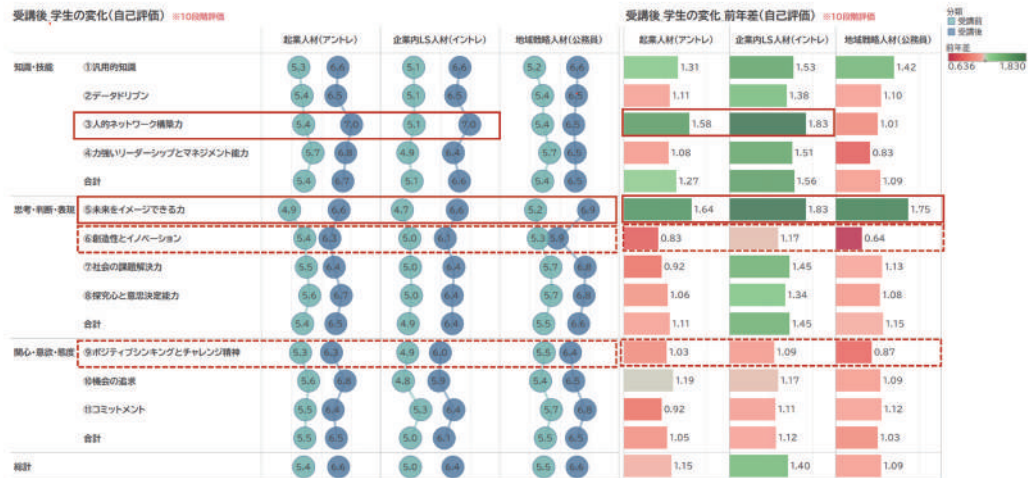
プログラム全体への評価(分布)

プログラム全体への評価(スコア平均)



3. 受講後の学生の変化（自己評価）

✓ プログラムに対する総合評価はアントレ、イントレともにスコアは高くないが、受講後の学生の変化から学生自身が一定の成長実感はもっていると想定される。アントレ、イントレ、公務員とも最も伸ばした資質・能力は「未来をイメージできる力」であるが、伸ばしていない資質・能力はアントレ、公務員は「創造性とイノベーション」、イントレでは「ポジティブシンキングとチャレンジ精神」である



4. 受講後の学生アンケートのコメントより

	プログラム総合的評価のスコア（10段階）	
	👍高評価（スコア7以上）のコメント	👎低評価（スコア4以下）のコメント
起業家 人材コース	<ul style="list-style-type: none"> ✓ スキル科目で実用的なスキルを学びつつ、学んだスキルをグループワークや面接練習などで実践的に練習を重ねられるところが良いと感じた。 ✓ 他学科の学生と交流する機会が多かったため、考え方など刺激になり、交友関係も広げることができたと感じるから。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ スキルを得ることはできなかったと感じるから。 ✓ スキル科目に関して言えば、ワークの多い授業が大半であったが、具体的にスキルが身についたかと言えばそうでもなく、ただ手法としてのスキルを学んだ感に過ぎなかったから。
企業内LS 人材コース	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 進路に限らず様々な業界、日常で使えるスキルを身に付けることが出来たから。 ✓ 授業スライドにおける正確性やスキルの説明の際における実践例の紹介などが分かりやすく、同時にグループワークの充実性がしっかりしていたと考えたからです。 ✓ スキル科目・実践科目ともに、社会に出た際に役に立つ、むしろ習得しなければならないと感じる学びだった。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 実践的なスキルを身に付けられた自信がない。 ✓ 入門や基礎といったものでもかなり難しいものも多く、ついていくのが大変だったから。 ✓ 各授業の課題の量がとて多く、処理しきれないと感じることが多かった。 ✓ 短期授業のため、最終プレゼンテーションの準備時間が足りず、少々雑な進み方なものがあつた。
地域戦略 人材コース	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 現在の社会を客観的に見るだけでなく、将来の予測や課題解決に向けて必要なことを考える授業が比較的多かったからです。 ✓ 講義内容が、実際に社会人になった際に必要なスキルや知識を学べて、自分なりの答えを見つけることが出来たから。 ✓ 自分のこれからに活かせることを多く学ぶことが出来た。特にこのコースでは自分の進路先への勉強をすることが出来たので、このプログラムには大変満足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 授業が5、6限のため、帰宅する時間が遅くなったり、アルバイトに入れないことがほとんどでした。そのため、復習する時間取れないことや生活リズムが崩れることが多々ありました。 ✓ 非常に良い教育プログラムだと思うが、アントレプレナーシップなどの精神的なものを養う機会が少なかったと思う。

『PROGテスト』実施について

実施時期：2023年12月16日（土）～1月20日（土）
対象学生：2021年度入学生（現3年生） ※3回目の受験 / オンラインで実施
実施目的（学生）：

- ① 以前受験した結果と比較し、自分自身の成長度合（学修成果）を確認する
- ② 現在の強み・弱みが何かを把握し、就職活動および卒業後の社会活動に備える
→ 結果を踏まえて、本学の学生の成長度合いを確認し、アントレ教育の質の向上・改善につなげていく

テスト内容：

- ① リテラシー（30問：45分）
- ② コンピテンシー（195問：40分） 計 約1時間半

受験学生数：

	現3年生数	受験学生数	回答率
リテラシー	1008人	576人	57.1%
コンピテンシー	1008人	559人	55.5%

分析対象者学生数：

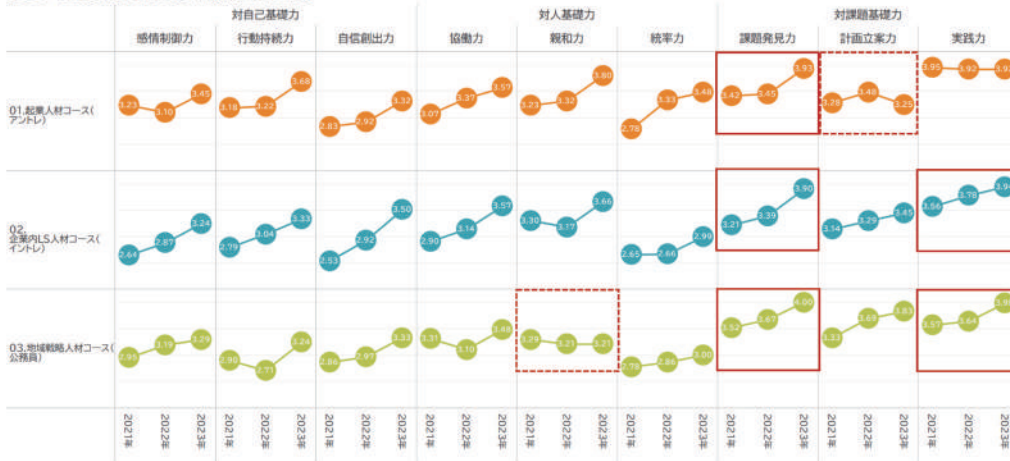
	3年連続受験	内訳
アントレ3コース	221人	起業人材（60人/履修学生の46%） 企業人材（103人/履修学生の63%） 地域戦略人材（58人/履修学生の66%）
アントレコース外	330人	ベーシック（71人） 教職（60人） スポーツ（10人） 学科専門中心（189人）
合計	551人	

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

1. 【コンピ：9つの要素】アントレ3コース履修学生の経年推移

- ✓ 起業人材はもともと実践力が高いが、「課題発見力」が3年次で3.9以上のスコアに伸長している
- ✓ 企業内LS人材は「課題発見力」や「実践力」が3年次で3.9以上のスコアに伸長しているが、元々低かった「自信創出力」も伸長率でみると高い
- ✓ 地域戦略人材は「課題発見力」や「実践力」が3年次で3.9以上のスコアに伸長しているが「親和力」の伸び悩みについては懸念点

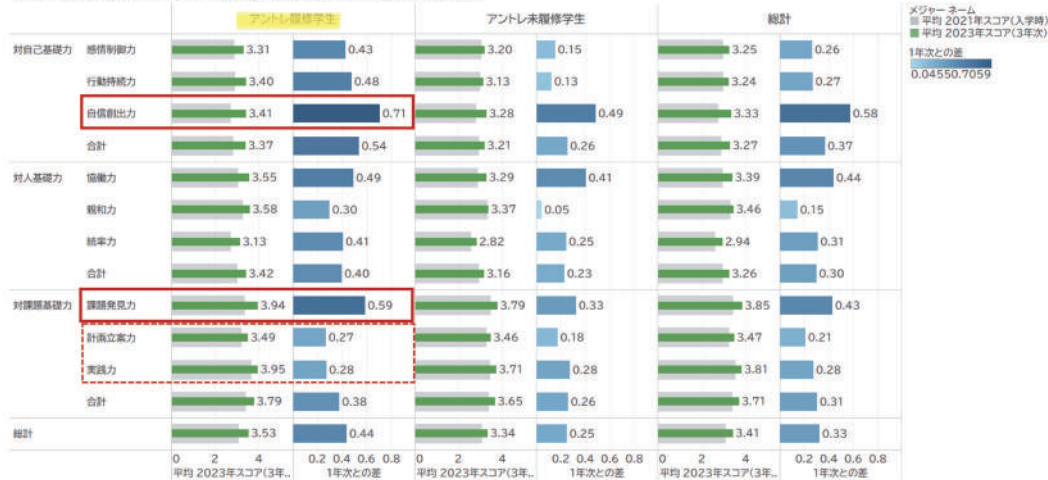
【コンピ：9つの要素】アントレ3コース履修学生 経年推移



2. 【コンピ：9つの要素】アントレ履修学生と未履修学生の経年比較

- ✓ アントレ履修学生のコンピテンシーの中で最も伸び悩んだのが「計画立案力 (+0.27)」「実践力 (+0.28)」
- ✓ アントレ履修学生のコンピテンシーの中で最も伸ばしたのが「自信創出力 (+0.71)」「課題発見力 (+0.59)」

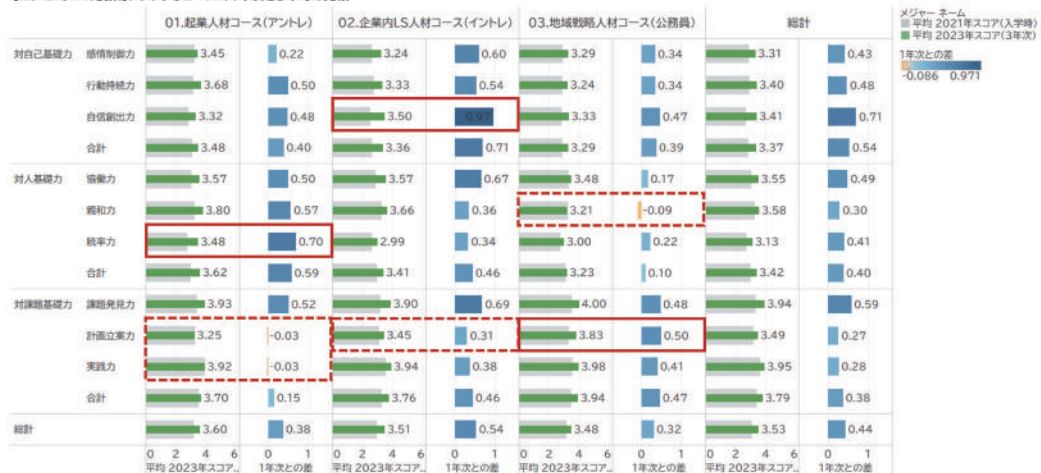
【コンピ：9つの要素】アントレ3コース履修学生と未履修学生の1年次と3年時の比較



3. 【コンピ：9つの要素】アントレ3コース履修学生の経年比較

- ✓ 起業人材で最も下落しているのが「計画立案力」と「実践力」(-0.03)、伸ばしているのは「統率力 (+0.70)」
- ✓ 企業内LS人材で最も伸びなかったのが「計画立案力 (+0.31)」、伸ばしているのは「自信創出力 (+0.97)」
- ✓ 地域戦略人材で下落しているのが「親和力 (-0.09)」、伸ばしているのは「計画立案力 (+0.50)」

【コンピ：9つの要素】アントレ3コースの1年次と3年時の比較



ふり返りからのまとめ

- ✓ **教育プログラムについては今後の改善と伸長の余地**がある。
- ✓ プログラム全体評価項目のひとつである「スキル習得と成長実感」等項目では評価は高くないものの、育成すべき資質・能力ごとに確認すると2年次末と比較してすべての項目で伸長し、特に「未来をイメージできる力」などは大きく伸長している。一方でアントレプログラムでの重要な資質・能力である「創造性とイノベーション」や「ポジティブシンキングとチャレンジ精神」の育成においては課題があり、担当教員とも議論しながら授業改善の具体的案を練っていく必要がある。
- ✓ PROGの1年次の結果と比較してもコース受講学生のコンピテンシーは未受講学生よりも伸長しており、プログラムの一定の成果が出ていると評価できる。
- ✓ 対自己基礎力の「自信創出力」や対課題基礎力の「課題発見力」は特に伸長していることから、伸長した力をどう対課題基礎力の「計画立案力」や「実践力」もしくは「創造性とイノベーション（新しい価値を生み出す力）」や「ポジティブシンキングとチャレンジ精神（前向きに様々な事柄へ挑戦していく力）」に発展させていくかが課題である。授業改善のみならず、正課外の取り組み（外部との接点を早期から設ける）などの仕掛けも重要と考える。
- ✓ 学生のふり返りや授業への期待などのアンケート結果からもプログラム履修に対する学生の視座がやや低く『就活に活かせる、もしくは活かしたい授業』という位置づけにとどまっている。本プログラムは「地域戦略人材育成」を強化するプログラムと位置付けていることから、令和6年度においては次の点を特に強化して取り組んでいく。

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

令和6年度の重点課題

1. 学生へのプログラムの教育目標の理解浸透の推進

- ✎ 「地域戦略人材」の価値を正しく理解し、短期だけではなく、中長期の視点で主体的に目標を設定できるよう学生の視座が高まる取り組みを様々な場面で仕掛けていく。

2. 教育目標到達のための授業改善

- ✎ 各担当教員にプログラムの到達目標と現状とのGAPを正しく認識してもらい、具体的な授業改善に取り組んでもらう。

3. 学生と社会との早期接点強化による経験学修の推進

- ✎ 数日間のインターンシップへの参加など早期から外部での経験値を高める機会を増やしていくと同時に社会経験や実務経験から次の学びや成長につなげていくサイクルを強化していく。

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

令和6年度

アントレプレナーシップ育成教育プログラム

「アントレコース」ガイダンス

MAKE YOUR UNIVERSE.
一線だからつくれる世界を。



第Ⅲ類科目_アントレプレナーシップ育成教育プログラム

MAKE YOUR UNIVERSE.
一線だからつくれる世界を。



アントレコースの特徴と科目構成、
概要について

アントレプレナーコースについて

Q.どんな学生が対象か？



**A.地域に新しい価値創出する
起業チャレンジを目指したい学生にお勧めです！**

将来起業を
目指す学生にも
お勧めです！

Q.どんな資質・能力が身につくのか？

A.イノベーション思考と実行力が身につきます
時代の変化を先取りし、新たなビジネスや新たな価値、
顧客価値を発見し、創り出していく思考と実行力を養っていきます



Q.基礎科目以外の履修についてのポイントは？

A.実践科目（ワークショップ）では1人の教員から体系的に学びます



「スキル科目」12単位
(6科目選択)

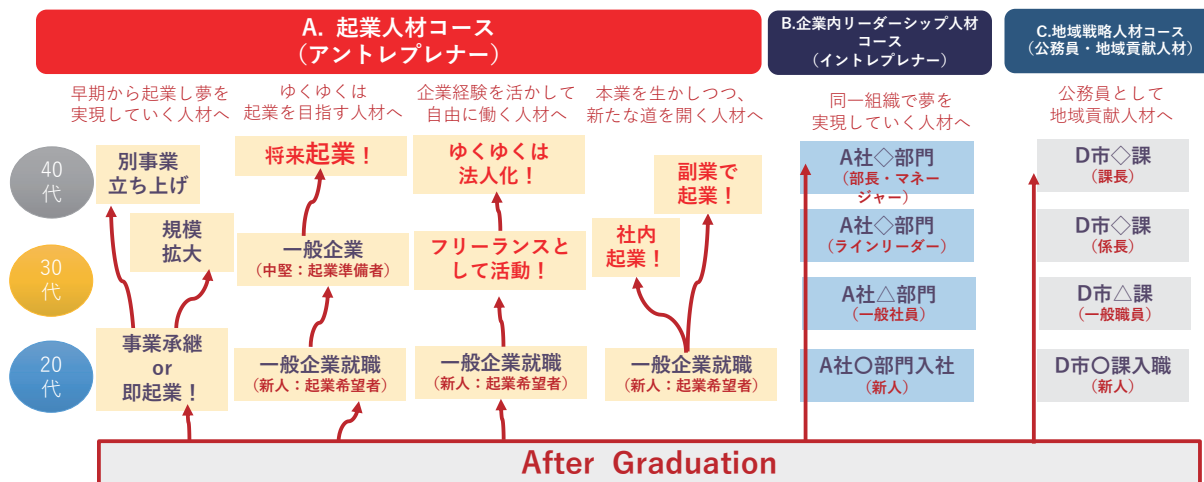
「実践科目」6単位
(1科目選択)

実践科目は3年から4年で履修し、1科目6単位の科目です。

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

各コースの履修学生の卒業後のイメージ

✓ 卒業後の進路は多様で、一部を例に挙げています。コース選択の参考にしてください



アントレプレナーシップ育成教育プログラム_アントレコース説明会

アントレプレナーコースで求める学生像

- ✓アントレプレナーシップ教育プログラムを受講し、卒業後には起業を一つの手段として考え、新しい価値を提供し、世の中に貢献しようと志す学生
- ✓自分自身の強みや課題を把握した上で、将来の夢や目標を明確化し、短期的なビジョンだけでなく、長期的なビジョンも持ちたいと考える学生
- ✓知的な好奇心が旺盛で、主体的に学修計画を立案し、さらには様々な課題に積極的に取り組める学生

第Ⅲ類科目_アントレプレナーシップ育成教育プログラム



アントレコースの履修計画について

R6_アントレプレナーコース_開講科目一覧と履修モデル (予定)



✓ 希望するワークショップ (実践科目1科目) を中心にスキル科目を選択&履修

「スキル科目」12単位

【6科目選択】

科目名	単位数
コミュニケーション (アントレ)	2
ロジカルシンキング (アントレ)	2
プレゼンテーション (アントレ)	2
ファシリテーション (アントレ)	2
マネジメント (アントレ)	2
財務会計の基礎 (アントレ)	2
ファイナンスの基礎 (アントレ)	2
マーケティングの基礎 (アントレ)	2
情報表現技術 (アントレ)	2
言語表現技術 (アントレ)	2
キャリアデザインA (アントレ)	2
キャリアデザインB (アントレ)	2
キャリア探究B (アントレ)	2



「実践科目 (ワークショップ)」6単位

【1科目選択】

科目分類	授業科目	単位数	履修可能							
			池田孝昭	山本繁	牧野真	夏山直哉	小澤正紀	黒田徳幸子	平石洋介	井原守彦
基礎科目	起業実践 ~6名のアイデアから始まる~	2	○	○	○	○	○	○	○	○
	起業実践 ~6名のアイデアから始まる~	2	○	○	○	○	○	○	○	○
	地域生主コミュニティの構築	2	○	○	○	○	○	○	○	○
	ビジネス実践	2	○	○	○	○	○	○	○	○
	起業・企業再生事例研究	2	○	○	○	○	○	○	○	○
	起業・企業再生事例研究	2	○	○	○	○	○	○	○	○
スキル科目	コミュニケーション	2	○	○	○	○	○	○	○	○
	ロジカルシンキング	2	○	○	○	○	○	○	○	○
	プレゼンテーション	2	○	○	○	○	○	○	○	○
	ファシリテーション	2	○	○	○	○	○	○	○	○
	マネジメント	2	○	○	○	○	○	○	○	○
	財務会計の基礎	2	○	○	○	○	○	○	○	○
	ファイナンスの基礎	2	○	○	○	○	○	○	○	○
	マーケティングの基礎	2	○	○	○	○	○	○	○	○
	情報表現技術	2	○	○	○	○	○	○	○	○
	言語表現技術	2	○	○	○	○	○	○	○	○
	キャリアデザインA	2	○	○	○	○	○	○	○	○
	キャリアデザインB	2	○	○	○	○	○	○	○	○

スキル科目の担当講師は社長や歴戦のビジネスパーソンたち



「スキル科目」12単位

【6科目選択】

科目名	単位数
コミュニケーション (アントレ)	2
ロジカルシンキング (アントレ)	2
プレゼンテーション (アントレ)	2
ファシリテーション (アントレ)	2
マネジメント (アントレ)	2
財務会計の基礎 (アントレ)	2
ファイナンスの基礎 (アントレ)	2
マーケティングの基礎 (アントレ)	2
情報表現技術 (アントレ)	2
言語表現技術 (アントレ)	2
キャリアデザインA (アントレ)	2
キャリアデザインB (アントレ)	2
キャリア探究B (アントレ)	2



株式会社LIFE BASE取締役Co-CEO 佐藤 有希
(1・4QT 月曜 4・5限 「コミュニケーション」 担当)

日鉄興和不動産に入社後、社内でリビオライフデザイン総研を立ち上げ。顧客調査や新商品開発を行う傍ら、会社に所属しながら「LIFE BASE」を起業し、宿泊施設の運営や研修事業など幅広く活躍中。



大手コンサルティング企業 コンサルタント 田村 充
(1・4 QT 土曜 1・2限 「ロジカルシンキング」 担当)

日本最大規模のコンサルティングファーム勤務。コンサルタントとして多くの有名企業と連携し、新事業立ち上げや組織改革など組織が抱える課題をロジカルシンキングをはじめとする様々なスキルを活用し、解決に導く



編集者・ディレクター 瀬下 翔太
(1QT 月曜 4・5限 「情報表現技術」 担当)

編集者・ディレクターとして紙媒体、WEB媒体を問わず様々な表現で情報を発信。またその傍ら、島根県にて高校生向け「教育型下宿」を展開するなど、地域創生、魅力発信の分野でも幅広く活動中。



大手コンサルティング企業 コンサルタント 岡 遠平
(3・4 QT 土曜 3・4限 「プレゼンテーション」 担当)

日本最大規模のコンサルティングファーム勤務。有名企業の事業戦略策定、業務改善、DX推進の支援に幅広く携わる。また、プレゼンテーションやコーチングなどの企業研修も担当。

R6_アントレプレナーシップ育成教育プログラム

MAKE YOUR UNIVERSE.
一線だからつくれる世界を。

起業家やその道のプロフェッショナルから実践的に学ぶ濃密な1年



「実践科目 (ワークショップ)」6単位

【1科目選択】

科目	単位数
ワークショップ (起業実践～6名のプロが0から指導～)	6
ワークショップ (起業というキャリアデザイン)	6
ワークショップ (チェンジメーカーズ・コミュニティ)	6
ワークショップ (地域共生コミュニティづくり実践)	6
ワークショップ (ビジネス実践)	6
ワークショップ (起業・企業再生事例研究)	6
ワークショップ (クリエイティブは一人じゃない。～生かし合う創造性の実践)	6
ワークショップ (「ゼロスタ・ツグスタ」新しいキャリアデザイン)	6



起業実践 (～6名のプロが0から指導～) 1QT・2QT・4QT・4年1QT 水曜4限

大正大学客員教授 海老原嗣生
(株) ニッチモ代表取締役
学生を指導する5名のプロフェッショナル：
(株) ミライ代表取締役社長 佐藤雄佑
・(社) Fukusen代表理事 細野真吾
・3BOOKS (株) 代表取締役 山際尚徳
・(株) リクルートキャリア マネジャー 新井雅子氏
・(株) HARES CEO 西村創一朗氏



起業というキャリアデザイン

1QT・2QT・4QT 水曜4限

大正大学招聘教授 黒田佳奈子
(株式会社WOMAN COLLEGE代表取締役)

中央大学法学部卒業後、(株)ベンチャー・リンク、(株)電通コンサルティングにて勤務のち、30歳で独立。
2016年からは企業の女性活躍支援に力を入れるため(株)WOMAN COLLEGEを創業。のべ4,000人との1on1やメンタリングを担当し、現場との対話を強みとしたHR支援を行う。



チェンジメーカーズ・コミュニティ

1QT・2QT・4QT 月曜5限

大正大学総合学修支援機構DAC特命教授 山本繁

社会起業家。「日本の社会起業家30選」(週刊ダイヤモンド)、「日本を立て直す100人」(週刊AERA)に選ばれ、日本における社会起業家やチェンジメーカーという生き方の普及につとめてきた。



地域共生コミュニティづくり実践

1QT・2QT・4QT 木曜5限

大正大学招聘教授 牧野篤

(東京大学大学院教育学研究科)
日本のまちづくりや高齢化と過疎化問題、中国・台湾のコミュニティ教育・少子高齢化問題などに関心。最近では、自治体と一緒に公民館や生涯学習の共同調査を行った、多世代交流型コミュニティの構築を進めたり、さらには企業と一緒に「ものづくりの社会化」プログラムなどを運営している。

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R6_アントレプレナーシップ育成教育プログラム

MAKE YOUR UNIVERSE.
一線だからつくれる世界を。

起業家やその道のプロフェッショナルから実践的に学ぶ濃密な1年



ビジネス実践

1QT・2QT・4QT 水曜4・5限

大正大学 教授 夏山 直道
(株式会社ロフティー・ジャパン 代表取締役)
ソフトバンク、NTTドコモなどの大手一流企業にて、企業内幹部研修を実施。実戦で活かせる実学(アウトプット型)のコミュニケーション心理学(性格形成分析+論理療法+交流分析主軸)、消費者心理マーケティング(購買心理学・行動心理学)を主に知る一理解する一使えるようになる、の三段階にて指導。



起業・企業再生事例研究

1QT・2QT・4QT 火曜4・5限

大正大学 招聘教授 小堺正記
(NHKエンタープライズ エグゼクティブ・プロデューサー)
「クローズアップ現代」や「NHKスペシャル」などのドキュメンタリーや報道番組の制作を通じて数多くのベンチャーや社会起業家の取材を行い、企業再生の現場も訪ねてきた。その経験から授業では多種多様なゲスト講師を招く予定。



クリエイティブは、一人じゃない

～生かし合う、創造性の実践～

1QT・2QT・4QT 水曜4・5限

大正大学 招聘教授 平石洋介(左)/鈴木雄飛(右)
(株式会社 電通 クリエイター)
企業や商品ブランディングなどから、TVドラマ企画演出、海外でデジタル雑誌編集長など幅広く活躍(平石)
企画屋・構想家として、TVCMやキャンペーン企画、コンサルティングやブランディングに携わる(鈴木)



「ゼロスタ・ツグスタ」新しいキャリアデザイン

1QT・2QT・4QT 水曜4・5限

大正大学地域創生学部 教授 井原守茂(上)

大正大学 講師 中野裕哲氏(左下)

(税理士法人V-Spiritis 代表)

大正大学 講師 上野光夫氏(右下)

(株式会社 MMコンサルティング 代表取締役)

日本政策金融公庫にて創業支援事業に従事、数々の企業を支援(井原)
起業支援コンサルティング、資金調達サポートを行うほか、研修、講演、執筆など幅広く活動(上野)
100社を超える起業家を支援。事業計画支援、会社設立、資金調達、経理財務、人事労務、法務支援等に携わる(中野)

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

令和6年度 第Ⅲ類科目 アントレプレナーコース説明会

R6_アントレプレナーシップ育成教育プログラム《イントレ》

アントレ各コースの登録者条件

✓ 各コースごとの説明会でも詳細は説明しますが、十分確認をした上でコース登録をしましょう

3つのコース	コース登録者条件・履修ルール	単位取得期間 ※基礎科目除く
アントレプレナーコース	✓ 実践科目は1科目のみしか履修できないため（1科目6単位）2024年4月の時点で履修登録必須	3年生春学期 ～4年生春学期中
イントレプレナーコース	✓ GPA 2.3以上の学生のみが履修登録可能 👉2023年春学期までの通期換算 ✓ 実践科目は3年春学期に2科目（6単位中4単位）履修登録必須	3年生春学期 ～4年生春学期中
公務員コース (地域戦略人材)	✓ 基本的に実践科目6単位、スキル科目12単位の計18単位は3年次中にすべて履修する ✓ 春休みや夏休みでの集中講義を含みます。また実践科目は1.5年履修です。	3年生春学期 ～4年生春学期中

2. イントレプレナーコースについて

イントレプレナーコースで求める学生像

- ✓アントレプレナーシップ教育プログラムで起業家（企業家）精神を養い、卒業後にはビジネスリーダーとして、世のため人のために貢献しようと志す学生を求めます。
- ✓自分自身の強みや課題を把握した上で、将来の夢や目標を明確化し、短期的なビジョンだけでなく、長期的なビジョンも持ちたいと考える学生を求めます。
- ✓イントレプレナーの各科目の教育目標を達成するためには知的好奇心が旺盛で、主体的に学修計画を立案し、さらには様々な課題に積極的に取り組む意欲があり、且つ一定の基礎学力を備えていることが必要となります。

そのため1年生から2年生の春学期までの通期でGPA**2.3**以上をコース履修条件とします。

【参考】大手企業と中小企業の違い

	大手企業	中小企業・ベンチャー
福利厚生	充実している企業が多い	不十分な企業もある
人材育成教育体制	中長期的な育成プランがあり実行され、仕組みがある企業が多い	中長期的な育成プランがなく、育成の仕組みがない企業が多い
給料	役職・勤務年数などベース飛び級はないが安定していることと全体的に高め	中小：大手と比較すると低め ベンチャー：業種によっては高額
雇用状況	終身雇用を望む社員の割合が高め生え抜きの社員が一定以上いる	転職・中途採用も多く人の入れ替わりが激しい企業もある
労働時間の長さ	働き方改革が浸透している企業が多い	働き方改革になかなか着手できていない企業もある
キャリアアップ	1場所ですべての期間の経験を積まないと次の職場には変わらない	能力次第で短期間でキャリアアップの機会がある企業もある
一緒に働く人	定期的なジョブローテーションが行われるため、様々な人と働くことができる	少人数のため、嫌な上司や先輩ともなかなか離れられない。イツメン、代り映えないデメリットもある
従業員数の影響	多いため、よくも悪くも理もれやすい	少ないため、よくも悪くも目立ちやすい

短期間でのキャリアアップを目指したい人にとっては大企業より中小企業のほうが機会があるかもしれません。



Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

【リマインド】就職活動のポイント

【特に大手企業は注意】 職種はあくまで「希望」となるケースが多いことを理解する
 日本はメンバーシップ型が主流。多くの一般企業は「職種」を選ばない。
 ただし、業種と職種は連動しているケースもある。

	ジョブ型 (就職型)	メンバーシップ型 (就社型)
主な採用国	主に欧米型	主に日本型
概要	仕事に人を割り当てる	人に仕事を割り当てる
給料	成果給	役職・勤務年数などベース
雇用	転職、解雇が容易	終身雇用が基本
仕事の範囲	限定的・専門的	総合的 (ジョブローテーション)
労働時間	仕事が終われば定時で帰社	長時間労働になりやすい
転勤	基本なし	会社の指示で転勤

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

ジョブ型に近い「**コース別採用**」のメリット

最近増えて
ます！

- ✓ コース別採用への応募メリット① やりたい仕事にダイレクトにつける
- ✓ コース別採用への応募メリット② 人気企業も部門によって差があるためチャンス

三井住友・三菱UFJ、新卒で専門人材育成採用枠拡大へ 2023/9/25 日経新聞電子版

メガバンクは**コース別採用の人数を増やしている**（写真は三井住友銀行が23年4月に開いた入行式）
メガバンクが新卒採用した行員を専門性の高い部署に配置し、育成する取り組みを加速する。三井住友銀行と三菱UFJ銀行は2025年入行の採用で、配属部署を特定するコース採用を拡充し、市場部門に携わるコースや支店運営に関わる採用枠を新設する。もともと専門人材を充当する意味合いが強い中途採用を補完するとともに、入行段階から希望に応じる採用枠を増やし、有望な人材の確保につなげたい考えだ。

各社HPより、キリンHD、DIP株式会社、株式会社博報堂

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

イントレプレナーコースについて

Q.どんな学生が対象か？



A.大手有名企業に就職し、大舞台で活躍したい学生or

一般企業に勤めながらも貪欲にキャリアアップしたい学生にお勧めです！

Q.どんな資質・能力が身につくのか？

A.企業や組織の中でリーダーシップを発揮する力が身につきます

市場のグローバル化、デジタル化により、新しいビジネスモデルが必要とされている
今の時代に対応できるリテラシーとコンピテンシーを身につけます

Q.基礎科目以外の履修についてのポイントは？

A.実践科目（ワークショップ）では興味関心のある業態や職種を

ベースに選択し、業界・職種理解と求められるスキルを習得します



「スキル科目」 12単位
(6科目選択)



「実践科目」 6単位
(3科目選択)

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

3. 授業科目の紹介

R6_イントレプレナーコース_開講科目一覧と履修モデル (予定)

✓ 希望する業界や職種 (実践科目3科目) と関連するスキル科目を選択&履修

「スキル科目」12単位				「実践科目 (ワークショップ)」6単位													
大分類	中分類	対象コース	科目	科目コード	単位数	必修	選択	履修	マーケティング	HR/人材	リスク	サ-ビス	小売	その他	合計		
スキル科目	スキル科目	イントレプレナー	コミュニケーション (イントレ)	20101	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
スキル科目	スキル科目	イントレプレナー	ロジカルシンキング (イントレ)	20102	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
スキル科目	スキル科目	イントレプレナー	プレゼンテーション (イントレ)	20103	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
スキル科目	スキル科目	イントレプレナー	先ゼミナール (イントレ)	20104	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
スキル科目	スキル科目	イントレプレナー	先ゼミナール (イントレ)	20105	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
スキル科目	スキル科目	イントレプレナー	リーダーシップ (イントレ)	20106	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
スキル科目	スキル科目	イントレプレナー	マーケティングの基礎 (イントレ)	20107	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
スキル科目	スキル科目	イントレプレナー	データ分析技術 (イントレ)	20108	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
スキル科目	スキル科目	イントレプレナー	元ゼミナールの基礎 (イントレ)	20109	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
スキル科目	スキル科目	イントレプレナー	財務会計の基礎 (イントレ)	20110	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
スキル科目	スキル科目	イントレプレナー	ビジネス英語 (イントレ)	20111	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
スキル科目	スキル科目	イントレプレナー	キャリアデザインA (イントレ) ①	20112	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
スキル科目	スキル科目	イントレプレナー	キャリアデザインA (イントレ) ②	20113	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
スキル科目	スキル科目	イントレプレナー	キャリアデザインB (イントレ) ①	20114	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
スキル科目	スキル科目	イントレプレナー	キャリアデザインB (イントレ) ②	20115	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
実践科目	ワークショップ	イントレプレナー	ワークショップ (フロンディング)	20201	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
実践科目	ワークショップ	イントレプレナー	ワークショップ (企業総共通 多様性推進)	20202	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
実践科目	ワークショップ	イントレプレナー	ワークショップ (W-ビス業務)	20203	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
実践科目	ワークショップ	イントレプレナー	ワークショップ (企業総共通 財務分析)	20204	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
実践科目	ワークショップ	イントレプレナー	ワークショップ (出版・編集)	20205	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
実践科目	ワークショップ	イントレプレナー	ワークショップ (人と企業を繋ぐ人材関連業務)	20206	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
実践科目	ワークショップ	イントレプレナー	ワークショップ (企業総共通 課題解決型授業)	20207	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
実践科目	ワークショップ	イントレプレナー	ワークショップ (コンサルティング)	20208	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
実践科目	ワークショップ	イントレプレナー	ワークショップ (W-7実習)	20209	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
実践科目	ワークショップ	イントレプレナー	ワークショップ (企業総共通 金融・経済と私)	20210	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
実践科目	インターンシップ	イントレプレナー	インターンシップ (イントレ)	20301	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		

令和6年度はスキル科目1科目、ワークショップ (実践科目) 2科目新規追加予定

R6_アントレプレナーシップ育成教育プログラム《イントレ》

MAKE YOUR UNIVERSE.
一線だからつくれる世界を。



イントレプレナーコースの科目ごとの開講日と開講クラス数

イントレのワークショップの開講曜日が2科目除いてすべて土曜日となっています。
注意してください。

大分類	中分類	対象コース	科目	1QT	2QT	要休み・集中	4QT	開講クラス見込み数	単位数	定員	教員候補	備考
スキル科目	スキル科目	イントレ/ルナ	コミュニケーション (イントレ)	金4・5	金4・5	—	金4・5	3	2	50	吹野あゆ子	
スキル科目	スキル科目	イントレ/ルナ	ロジカルシンキング (イントレ)	火4・5	火4・5	—	火4・5	3	2	50	豊村宏子	
スキル科目	スキル科目	イントレ/ルナ	プレゼンテーション (イントレ)	月4・5	月4・5	—	—	3	2	50	平田薫太郎	同じ科目ですが、担当が4QTから平田先生へ樋口先生へ変わります
スキル科目	スキル科目	イントレ/ルナ	プレゼンテーション (イントレ)	—	—	—	火4・5	—	2	50	樋口友恵	同じ科目ですが、担当が4QTから平田先生へ樋口先生へ変わります
スキル科目	スキル科目	イントレ/ルナ	プレゼンテーション (イントレ)	火4・5	火4・5	—	木4・5	3	2	50	直井友樹	
スキル科目	スキル科目	イントレ/ルナ	リーダーシップ (イントレ)	金4・5	金4・5	—	—	2	2	50	宮入小夜子	
スキル科目	スキル科目	イントレ/ルナ	マーケティングの基礎 (イントレ)	水4・5	水4・5	—	水4・5	3	2	50	持田智也	
スキル科目	スキル科目	イントレ/ルナ	データ分析技法 (イントレ)	水4・5	水4・5	—	水4・5	3	2	25	佐藤晋也	
スキル科目	スキル科目	イントレ/ルナ	プログラミングの基礎 (イントレ)	木4・5	水4・5	—	木4・5	3	2	25	佐藤晋也	
スキル科目	スキル科目	イントレ/ルナ	財務会計の基礎 (イントレ)	月4・5	月4・5	—	月4・5	2	2	25	吉田厚志	※新規開講
スキル科目	スキル科目	イントレ/ルナ	ビジネス英語 (イントレ)	—	木4・5	—	木4・5	2	2	30	レベント・アキオール	2QTは400点以上、4QTは500点以上を目安
スキル科目	スキル科目	イントレ/ルナ	キャリアデザインA (イントレ) ①	—	—	—	—	2	2	20	前田長子	① 5/18,6/1,6/22,7/6,7/20,9/7,9/14 → 夏休みインターンシップ
スキル科目	スキル科目	イントレ/ルナ	キャリアデザインA (イントレ) ②	—	—	—	—	2	2	20	前田長子	② 5/25,6/15,6/29,7/13,7/27,9/7,9/14 → 夏休みインターンシップ
スキル科目	スキル科目	イントレ/ルナ	キャリアデザインB (イントレ) ①	—	—	—	—	2	2	30	吹野あゆ子	① 4/13,4/27,5/18,6/15,6/22,7/6,7/20
スキル科目	スキル科目	イントレ/ルナ	キャリアデザインB (イントレ) ②	—	—	—	—	2	2	30	吹野あゆ子	② 4/20,5/11,5/25,6/15,6/29,7/13,7/27
実践科目	ワークショップ	イントレ/ルナ	ワークショップ (ブランディング)	—	—	—	土1・2	2	2	25	宮本雅恵	① 4/13,4/27,5/18,6/15,6/22,7/6,7/20
実践科目	ワークショップ	イントレ/ルナ	ワークショップ (全業態共通 多様性推進)	—	—	—	土1・2	2	2	25	あかひゆかり	① 4/13,4/27,5/18,6/15,6/22,7/6,7/20
実践科目	ワークショップ	イントレ/ルナ	ワークショップ (サービス業)	—	—	—	土3・4	2	2	25	岡本有子	① 4/13,4/27,5/18,6/15,6/22,7/6,7/20
実践科目	ワークショップ	イントレ/ルナ	ワークショップ (全業態共通 財務分析)	—	—	—	土3・4	2	2	25	石田雄介	① 4/13,4/27,5/18,6/15,6/22,7/6,7/20
実践科目	ワークショップ	イントレ/ルナ	ワークショップ (出版・編集)	—	—	—	土1・2	2	2	25	長坂邦宏	② 4/20,5/11,5/25,6/15,6/29,7/13,7/27 ※新規開講
実践科目	ワークショップ	イントレ/ルナ	ワークショップ (人と企業を繋ぐ人材関連業界)	—	—	—	土3・4	2	2	25	遠辺朋子	② 4/20,5/11,5/25,6/15,6/29,7/13,7/27
実践科目	ワークショップ	イントレ/ルナ	ワークショップ (全業態共通 課題解決型営業)	—	—	—	土1・2	2	2	25	平田薫太郎	② 4/20,5/11,5/25,6/15,6/29,7/13,7/27
実践科目	ワークショップ	イントレ/ルナ	ワークショップ (IT/デジタル)	—	—	—	土3・4	2	2	25	野上智之	② 4/20,5/11,5/25,6/15,6/29,7/13,7/27
実践科目	ワークショップ	イントレ/ルナ	ワークショップ (メディア業界)	水4・5	水4・5	—	水4・5	3	2	25	伊藤賢一	※土曜日開講から平日へ+2QT3クラスへ
実践科目	ワークショップ	イントレ/ルナ	ワークショップ (全業態共通 金融・経済と私)	—	火4・5	—	火4・5	2	2	25	吉田厚志	※新規開講
実践科目	インターンシップ	イントレ/ルナ	インターンシップ (イントレ)	—	—	—	—	—	2	—	前田長子	自分で見つけてくる。ただし、単位数認定には条件あり。

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

第III類科目_アントレプレナーシップ育成教育プログラム《イントレ》

MAKE YOUR UNIVERSE.
一線だからつくれる世界を。



イントレプレナーコース
スキル科目 (全12科目)

【必要単位】スキル科目
12単位 = 6科目 × 2単位

R6_アントレプレナーシップ育成教育プログラム《イントレ》

MAKE YOUR UNIVERSE.
一線だからつくれる世界を。



【スキル科目】コミュニケーション

科目名	コミュニケーション	分類/単位	スキル科目 / 2単位
対象学生	就活対策だけでなく、卒業後に社会において必要なコミュニケーション力を身につけたい学生		
授業テーマ	ビジネスや日常で役立つコミュニケーション能力を手法ごとに身につける。仲間と一緒に楽しく実践する！		
授業目的	今後社会で活躍するためにコミュニケーションは必須のスキルである。しかしコミュニケーションと一口に言っても、様々な切り口がある。本授業では様々なコミュニケーションのスキルを段階を追って実践し、「仲間とともにトライ&エラー」を繰り返しながら身につけることを目的としている。日常生活からビジネスシーンまで様々なシチュエーションのケースに触れることで、来るべき就職活動はもちろろん、今後社会で「能動的に他者と関わる力」を身につけていく。他者と関わる中で、「自分のコミュニケーションスタイル」「自分の特徴・強み」に気づくことも目的としている。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 他者の考えや価値観を受容し自らの主張を織り交ぜながら協働する工夫ができる。(人的ネットワーク構築力) 2. 課題に対して周囲を巻き込み成果を出すコミュニケーションをとることができる。(力強いリーダーシップとマネジメント能力) 3. 自分の意見を論理的に語り表現することができる。(探求心と意思決定能力) 4. ペアワークやグループワークのフィードバックを通して、相互のコミュニケーション力を高めることができる。(ポジティブシンキングとチャレンジ精神) 5. 仲間とのグループワークを通して対話の機会に積極的に参加することができる。(コミットメント) 		
開講予定	第1QT・2QT・4QT 年3クラス / 金曜日4・5限連続 2コマ×7回=14コマ		
講師名	吹野 あゆ子 (国家資格キャリアコンサルタント、全米NLPトレーナー、AHCアサーティブトレーナー) 出版社勤務後、学生・社会人トータル30000人以上のキャリア支援を経験。現在複数の企業でコンサルタントをしていることから、仕事現場での生の声をお届けします。https://cheerup-career.jp/		
講師からのメッセージ	様々なコミュニケーションの手法を段階を追って実践していきます。仲間と一緒に「一つ一つ」トライすることで、社会に出ても活用できるコミュニケーションの力を身につけていきましょう。		

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R6_アントレプレナーシップ育成教育プログラム《イントレ》

MAKE YOUR UNIVERSE.
一線だからつくれる世界を。



【スキル科目】ロジカルシンキング

科目名	ロジカルシンキング	分類/単位	スキル科目 / 2単位
対象学生	社会や仕事で活用できる高い論理思考を身につけたい学生		
授業テーマ	仮想飲食店経営をケーススタディ(題材)としてロジカルシンキングとロジカルライティング力を高める		
授業目的	直感や感覚的に物事を捉えるのではなく、筋道を立てて矛盾・破綻がないように論理的に考え、結論を出すロジカルな思考法はビジネスにおいて重要なスキルです。日常生活においても、常に「何か」を決める、判断しているにも関わらず、ビジネスの現場になると「考える」に苦手意識を持つ人、「考えたことが伝わらない」ことで、自分のやりたいことが実現できないことに苦勞している社会人は沢山います。逆に言うと、つまり、この当たり前すぎる「考える力」や「伝える力」が身につけていると、自分自身がやりたいことの実現率をあげることが可能になる、とも言えるでしょう。この授業では、1つのカフェをテーマに飲食店経営者の視点で、複雑な情報や自分の意図を、相手に的確にかつすばやく伝えるために必要な考え方を個人、グループワークを通じて学び、合わせて、「伝える力=ロジカルライティング(書く)」の向上にも結び付けることで、より実践的に学びあいます。		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・曖昧さがある中でも、自らの基準を持って思考し、自らの責任で迅速かつ主体的に判断し、行動を選択できる(未来をイメージできる力) ・自分事として物事や活動の本質をとらえ、筋道を立てて考え抜くことができる(探求心と意思決定能力) ・自分の主張やその根拠・理由を誰が見ても納得できるコミュニケーション力が身につけている(力強いリーダーシップとマネジメント能力) 		
開講予定	第1QT・2QT・4QT 年3クラス / 火曜日4・5限連続 2コマ×7回=14コマ		
講師名	島村宏子 (キリンホールディングス(株) 経営監査部) 1992年キリンビール(株)入社。営業経験、新規事業の立ち上げなどの経験を経て、23年4月より経営監査部にグループの内部監査を担当。		
講師からのメッセージ	「人間は考える葦である」とはフランスの有名な哲学者・パスカルの言葉です。考える事こそ人間に与えられた最高のギフトです。ロジカルに考えることを強みに自分らしく自由に生き、やりたいことを実現させていきましょう。		

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R6_アントレプレナーシップ育成教育プログラム《イントレ》

MAKE YOUR UNIVERSE.
一線だからつくれる世界を。



【スキル科目】プレゼンテーション

科目名	プレゼンテーション	分類/単位	スキル科目 / 2単位
対象学生	就活の面接時のみならず、社会人に求められる高いコミュニケーション力を身につけたい学生		
授業テーマ	「相手に伝わる」ロジカルプレゼンテーションの作り方・デザイン		
授業目的	プレゼンテーションの概念、作成方法および発表手法を学び実践することで、相手に伝わるアウトプット（言語化・表現手法）スキルの習得を目的とする。本授業での講義やワークを通じて、プレゼンテーション＝単なる発表・報告ではなく、ビジネスシーンにおいて必要とされるプレゼンテーション（相手を動かす、目標を達成する）について理解し、構成の作り方・デザインスキルを身につける。また、ターゲット・目的・シチュエーションに合わせてプレゼンテーションの構成を自分の力で組み立て、伝えたいことを論理的にまとめ、言語化する力を培っていく。大学卒業後も社会人として活躍できる人材になるために、授業内では社会問題やビジネスでの場面を想定した課題解決に向けたテーマを用いて、実践的なプレゼンテーションの経験を積む。		
授業の到達目標	1.プレゼンテーションについて正しく理解を深め、学んだ内容をゼミや講義、インターンシップで活用しさらに高めることができる（汎用的知識・機会の追求） 2.思考の整理や構成の組み立てを通じて論理的思考力を高め、データやビジュアルを用いながら的確に伝えることができる（データドリブン・社会の課題解決力） 3.Powerpointなどのプレゼンテーションツールを活用し、データやビジュアルを活用した表現方法を身につけることができる（創造性とイノベーション） 4.仲間とディスカッションやグループワークを行い協働して意見をまとめるとともに、他者との共生を目指して行動する（人的ネットワーク構築力・力強いリーダーシップとマネジメント能力）		
開講予定	第1QT・2QT・4QT 年3クラス/ 第1・2QTは月曜日、第4QTは火曜日で4・5限連続 2コマ×7回=14コマ		
講師名	平田 憲太郎 大手飲料メーカーで、現場の営業・営業企画（営業支援・営業育成）の経験を経て、本社で営業力向上に向けた営業推進や営業開発、営業戦略作成、各種PJ立上げ等に従事後、独立。 ※1・2QT担当教員 堀口 友恵（株式会社固/一般社団法人プレゼンテーション協会 専務理事） ※4QT担当教員 ソフトバンク株式会社にてプレゼン資料作成/IT支援セミナーなどを担当。現在はスライドデザイナーとして活動。 書籍「プレゼン資料のデザイン図鑑」「パワーポイント最速仕事術」（ダイヤモンド社）デザイン担当		
講師からのメッセージ	「プレゼンテーションは準備が9割！」 講義やワークを通じて、皆さんの考え・思いを、相手に伝わる表現方法へブラッシュアップしていきます。 プレゼンに苦手意識がある方も大歓迎です！一緒に学んで、ドキドキをワクワクに変えていきましょう。		

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R6_アントレプレナーシップ育成教育プログラム《イントレ》

MAKE YOUR UNIVERSE.
一線だからつくれる世界を。



【スキル科目】ファシリテーション

科目名	ファシリテーション	分類/単位	スキル科目 / 2単位
対象学生	就活の面接時のみならず、社会人に求められる高いコミュニケーション力を身につけたい学生		
授業テーマ	日常生活でも応用できる「リーダーシップ型ファシリテーション力」の養成		
授業目的	・「ファシリテーション」と聞くと、何を思い浮かべますか？会議の司会、議論の進行役、組織の舵取り役といったビジネスシーンをイメージする人が多いかもしれませんが、しかし、ファシリテーションとは平たく言えば、「人々の活動が容易にできるようサポートし、上手く事が運ぶように促すこと」です。 ・それは会議のような枠組みでなくても、皆さんの身の回りの場面でずっとあるはず。高校の同窓会を計画する時、アルバイト先での仲間とのちょっとした打合せ、就活中のインターンシップなど、何か集団で物事を決めたり、問題解決をする際など日常の中でファシリテーションスキルはともて役立ちます。なぜならファシリテーションは、段取りや進行といった表面的なプロセスだけではなく、メンバー一人一人に寄り添いながら進める内面的なプロセスにも関わるコミュニケーションの一つだからです。 ・この講座では、ファシリテーションに必要な要素・型の理解と実践を通じて、人と人との相互作用を促すスキル・マインドセットの習得を目指します。14回終了時には、ファシリテーションの役割を踏まえて、場全体デザインするスキル、論点を構造的に捉え問いかけする思考力、周りを巻き込みポジティブに議論を進めるリーダーシップ力を習得していきます。単にファシリテーションとしての「テクニク」を身につけるのではなく、思考力とコミュニケーション力を兼ね備えたリーダーシップ型ファシリテーション力にフォーカスすることで、社会や場を活性化させる能力を身につけていきます。		
授業の到達目標	①ファシリテーションに必要なスキルセットや基本的なステップ・議論の構造を正しく理解している。（①汎用的知識） ②議論の進め方や論点を正確に捉え、最適な問いかけから議論をリードすることができる。（②探求心と意思決定能力） ③対立が起きた場合でも、共感しながら周りをモチベートし、意思決定～問題解決までチームを動かすことができる。（④力強いリーダーシップとマネジメント能力）		
開講予定	第1QT・2QT・4QT 年3クラス/ 第1QT・2QTは火曜日 第4QTは木曜日 4・5限連続 2コマ×7回=14コマ		
講師名	直井友樹（認定NPO法人日本ボランティアコーディネーター協会 運営委員） 2019年より運営委員を務める。大学時代から非営利セクターに関わり、2012～2020年は、NPO法人NICE（日本国際ワークキャンプセンター）の専従職員。これまで国内外で、数々のワークショップを開催してきた。		
講師からのメッセージ	「ファシリテーション」はビジネスシーンだけで発揮されるものではありません！バイト先やサークル等での打合せ、複数の友人と何かを決める、日常的に活用することで物事がスムーズかつ前向きに進めることができるようになります。また「ファシリテーション」というスキルを身につけることで、様々な背景の異なる人々と出会い、コミュニケーションをとるなかで、生き方の幅をひろげる経験を積むことができるようになります。ぜひ一緒に学びましょう！		

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R6_アントレプレナーシップ育成教育プログラム《イントレ》



【スキル科目】 財務会計の基礎 ※新規開講

科目名	財務会計の基礎	分類/単位	スキル科目 / 2単位
対象学生	実践で役立つ財務会計の基礎知識と財務分析手法を身につけたい学生		
授業テーマ	ビジネスに必要な財務会計知識と財務分析の基礎を身につける		
授業目的	財務会計の知識は、ビジネスの様々な場面で必要です。例えば、入社1年目の皆さんが、次の場面に遭遇したと考えてみて下さい。店舗開発部担当の貴方は、会社が経営するレストラン事業部30店舗の厨房機器をリニューアルする場面で、厨房機器を納品する会社を比較検討し、上司に報告せねばなりません。どのように比較検討するのでしょうか？企業実務では、機器の品質や価格が水準をクリアしている場合、①財務面：決算書の財務分析、②非財務面：厨房機器の保守対応など、を検討し、報告します。他にも営業、審査、人事など各部署で同様の場面が発生しますので、企業実務に必要な財務分析の基礎を身につけることを目的とします。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 財務3表に出てくる会計用語の意味を、系統立てて説明する事ができる（汎用的知識/探求心と意思決定能力） ② 実際のビジネスの取引で、財務3表の運動する項目を見つけ、関係づけることができる（データドリブン/社会の課題解決力） ③ 収益性・安全性・成長性の観点から、事例での財務分析手法の仮説を立てることができる（未来をイメージできる力） ④ さまざまな事例で、財務面から見た自分の意見を言語化し、述べる事ができる。（データドリブン/コミットメント） 		
開講予定	第1QT・2QT・4QT 年3クラス/ 月曜日4・5限連続 2コマ×7回=14コマ		
講師名	吉田厚志 (株)三菱UFJ銀行に29年勤務、2016年に三菱UFJニコス(株)西日本営業部長として転籍、2023年に定年退職、現在に至る。3,000社超の企業訪問経験から、「お客様ニーズへの対応」や「提案方法」の社内研修講師を約20年勤め、若手・中堅社員の支持を受ける。約2,000社の同行訪問では、「研修を実践で生かそう」と自ら提案し、若手・中堅のスキル向上に努めた。		
講師からのメッセージ	関西人ですが、東京勤務3年の経験あり、標準語も対応できます。私自身も新入社員の時は、財務会計の知識は皆無でしたので、実践では「学生時代に学修していればなあ」と後悔していました。本講義は「基礎」ですので、用語の解説も丁寧に実施します。「ビジネスに役立つ財務会計」に興味ある方、お待ちしております！		

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R6_アントレプレナーシップ育成教育プログラム《イントレ》



【スキル科目】 リーダーシップ

科目名	リーダーシップ	分類/単位	スキル科目 / 2単位
対象学生	自身が、よりよい社会やチームづくりに貢献したいと思っている学生		
授業テーマ	自らが主体となって、様々な人々を巻き込み、動機づけ、社会や組織の課題解決のための行動を起こしていくためのリーダーシップのあり方やスキルについて学ぶ。		
授業目的	国や地域社会、企業組織を取り巻く環境が大きく変化する中で、リーダーに求められる資質やリーダーシップがますます重要になってきている。変革期の企業経営者や社会課題を解決しようとする社会リーダーなど、グローバルな課題解決に求められるリーダーシップについて考える。具体的には、国家や企業のリーダーの事例をあげ、関心のあるリーダーについてインターネット等で検索して個人的見解を持ったうえで、事例にあげたリーダーの特徴とリーダーシップ理論との関連をグループ討議を通して検証することで、多様なリーダーシップのあり方について理解していく。また、リーダーシップの有効性を高めるために必要なモチベーション理論や関連した行動科学の理論を紹介し、身近な組織や自分が所属する集団の状況をこれらの理論に当てはめて分析することで、リーダーシップの有効性と集団の状況との関係を考える。さらに、様々なリーダーシップ理論を援用して、自分自身の行動スタイルやリーダーシップを発揮するための課題について考えていく。		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・国や地域、企業組織において、目標達成に向けて人々を動機づけ、協働してビジョンを実現するために必要なリーダーシップの有効性について理解できている。（力強いリーダーシップとマネジメント能力） ・身近な集団や地域活動、将来働く組織において成果をあげるためのリーダー行動をとることができるようになる。（社会の課題解決力） ・授業で理論を学んだ後、チーム活動や討議を通して、自らリーダーシップやフォロワーシップについて体験し、リーダーに必要なコミュニケーション能力やスキルを身につけている。（ポジティブシンキングとチャレンジ精神、コミットメント） ・リーダーシップの専門分野を体系的に理解して得られる情報に基づき、論理的な思考・批判的な思考を醸成できる。（探求心と意思決定能力） 		
開講予定	第1QT・2QT 年2クラス / 金曜日4・5限連続 2コマ×7回=14コマ		
講師名	宮入小夜子 大学教員の傍ら、長年組織風土改革、組織開発のコンサルティングに関わり、企業の経営幹部・管理職のリーダー養成プログラムの講師を担当。現在、3社の社外取締役として、人的資本経営における人と組織の課題に取り組む。		
講師からのメッセージ	リーダーの志や想いに共感し、一緒に実現したいと思うフォロワーがいて初めて、リーダーシップは有効性を発揮します。肩書や地位で人を動かすことがリーダーシップではないこと、これからの社会や未来の地球課題に貢献できるリーダーシップを自ら発揮できることに気づいていただきたいです。		

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R6_アントレプレナーシップ育成教育プログラム《イントレ》

MAKE YOUR UNIVERSE.
一線だからつくれる世界を。



【スキル科目】マーケティングの基礎

科目名	マーケティングの基礎	分類/単位	スキル科目 / 2単位
対象学生	マーケティングに興味がある、ヒット商品を創出してみたいと考える学生		
授業テーマ	「ヒット商品の秘密探る」～マーケティング視点から、商品の企画・販促を考える～		
授業目的	目今の課題に振り回されず、本質的な課題を浮き彫りにし、創造性の高い解決策を立案する能力を身につける		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「誰」の「どのような課題」を解決するべきか、見抜き考察できる (創造性とイノベーション/社会の課題解決力/探究心と意思決定能力) ・その考察のために必要な情報を得る視点、方法を学び、体験し、活用できる (データドリブン/創造性とイノベーション/社会の課題解決力/探究心と意思決定能力) ・課題解決策として「人を動かす」ための情報展開を学び、議論できる (創造性とイノベーション/社会の課題解決力/探究心と意思決定能力) ・解決策実現のため、誰にどのような情報を提供すればよいか、デジタル情報展開を中心とした手法を学び、実践できる (創造性とイノベーション/社会の課題解決力/探究心と意思決定能力) ・産官を問わず実業の世界で、マーケティング視点を持ったプロジェクトリーダーとして課題解決できる (創造性とイノベーション/社会の課題解決力/探究心と意思決定能力/ポジティブシンキングとチャレンジ精神) 		
開講予定	第1QT・2QT・4QT 年3クラス / 水曜日4・5限連続 2コマ×7回=14コマ		
講師名	持田 智也 (ミヨシ油脂株式会社 取締役執行役員 兼 CCO) 1989年、日経BP入社。流通経済、情報通信産業分野の雑誌、オンライン媒体の編集長などを担当。「日経トレンド」プロデューサー、マーケティングの専門媒体「日経クロストレンド」開発責任者・プロデューサーを経て、2021年にミヨシ油脂に入社。マーケティング部を創設し、現在に至る。戦略企画、技術開発担当。		
講師からのメッセージ	ヒットはなぜ生まれるのか。マーケティングの基本的な考えから、「人を動かす」ために必要なこと、デジタルマーケティングの仕組み、調査をマーケティングに生かす、といったことを、講義で知識を蓄え、グループワークで実践してもらいます。仲間との会話を楽しみながら、「次のヒット商品」を考えてみましょう。		

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R6_アントレプレナーシップ育成教育プログラム《イントレ》

MAKE YOUR UNIVERSE.
一線だからつくれる世界を。



【スキル科目】データ分析法

科目名	データ分析法	分類/単位	スキル科目 / 2単位
対象学生	現代のビジネスパーソンに強く期待される、データドリブンな思考を高めたい学生 (I類科目「データサイエンスI～VI」を履修済であること)		
授業テーマ	学内アンテナショップ「ガモールマルシェ」を題材に、データ分析の型を身につける		
授業目的	<p>データをもとにした意思決定やアクションを行う必要性が業界問わず増してきています。本学I類科目の「データサイエンス」では、主に統計学、データリテラシー、ツール(Excel/Tableau)など、データを可視化し解釈するための手技を習得しました。</p> <p>本授業では、さらに進んで「どのような課題を解決するか(課題設定)」「分析を行うか(分析設計)」「データをどのように整備するか」を学習します。講義前半では基本的な考え方を多数の演習やグループワークを交えて実践的に学びます。データ整備についてはTableau Prep Builderを用い、ハンズオンを交えて習得します。講義後半では学内アンテナショップ「ガモールマルシェ」のデータを用いて実際に課題設定から提案までを一貫通貫で行います。</p> <p>本授業を通じて「課題設定→分析設計→データ整備→データ可視化→結果解釈/施策検討」というデータ分析の進め方についての一連の流れ(型)を獲得することで、データドリブンな意思決定を進めるための礎を体得できるようになります。</p>		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ①現代においてデータ活用が求められる背景を説明することができる。(汎用的知識、データドリブン) ②取得したデータを目的に応じて加工し、必要なデータを整形することができる。(データドリブン) ③データ活用プロセスに従い、漠然とした悩みから意味のある課題を抽出して分析を行い、結果をもとにアクションを提案することができる(データドリブン) ④仲間とディスカッションを経て、協働して成果物を作成することができる(創造性とイノベーション)(コミットメント) 		
開講予定	第1QT・2QT・4QT 年3クラス / 第1・4QTは水曜日、第2QTは木曜日で4・5限連続 2コマ×7回=14コマ		
講師名	佐藤 晋也 (大正大学) これまでに大手コンサルティングファームにて金融、自動車、エンタメ、酪農、化学など数々のデータ分析プロジェクトに関わる。2022年3月より本学。I類DS担当兼任。		
講師からのメッセージ	企業では、データを読み、データに基づき行動する人材が著しく不足しています。この授業ではI類DS授業を通じて主に「データを読む」ための手技を身につけた皆さんを対象に、「データに基づき行動する」ために必要なことを共に学びます。一緒に楽しく学習しましょう！		

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R6_アントレプレナーシップ育成教育プログラム《イントレ》

MAKE YOUR UNIVERSE.
一線からつくれる世界を。



【スキル科目】プログラミングの基礎

科目名	プログラミングの基礎	分類/単位	スキル科目 / 2単位
対象学生	現代のIT社会で必須となる、プログラミングの思考を身につけたい学生。(データサイエンス科目の履修は不問)		
授業テーマ	人型ロボット「Pepper」を用いた実用的なプログラミング		
授業目的	本授業ではコンピュータの特徴を踏まえた、プログラミング的な思考を習得することを目的とする。具体的には大学が所持している人型ロボット「Pepper」を題材に、プログラミングの基本的な構文を学習する。 講義前半では、Pepperを動かすためのプログラミングツール「RoboBlocks」を通じてPepperに様々な指令を与えて反応を見ることを通じて、プログラミング的な思考を習得する。一つ一つの命令に対してPepperが忠実に反応してくれるので、目に見える形でより体験的、実践的に習得することができる。 講義後半では、現在大正大学が運営しているアンテナショップ「ガモールマルシェ」に設置してあるPepperを対象に、集客につながるプログラムを作成し、実装、運用までを試みる。		
授業の到達目標	①プログラミングにおけるループ、条件分岐、構造化、一般化などの代表的な考え方や実装方法を身につけている(汎用的知識) ②ヒアリングした要件をもとに、必要なプログラムの内容を設計することができる(データドリブン) ③設計したプログラムをPepperに実装し、実際に動かすことができる(データドリブン) ④仲間とディスカッションを経て、協働して成果物を作成することができる(創造性とイノベーション)(コミットメント)		
開講予定	第1QT・2QT・4QT 年3クラス/第1・4QTは木曜日、第2QTは水曜日で4・5限連続 2コマ×7回=14コマ		
講師名	佐藤 晋也 (大正大学) これまで学術研究職、コンサルティングファームなど様々な職歴の中で、日常的にプログラミングを活用してきた。2022年3月より本学。I類DS担当兼任。		
講師からのメッセージ	本授業は、従来のプログラミングの授業から連想される「難解な言語を使う」「コンピュータに向かって地道で単調な作業を繰り返す」といった、取っつきにくさを極力排除しています。社会で役立つプログラミングを、一緒に楽しく学びましょう！		

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R6_アントレプレナーシップ育成教育プログラム《イントレ》

履修にはTOEICスコア
2QTは400点以上、
4QTは500点以上を目安

【スキル科目】ビジネス英語

科目名	ビジネス英語	分類/単位	スキル科目 / 2単位
対象学生	国際社会で使われるビジネス英語やその背景を理解し社会で役立てたい学生		
授業テーマ	All Englishで学ぶ国際社会の現状とビジネス英語		
授業目的	目まぐるしく変化する国際情勢は、各国の経済状況にも大きく影響します。大国アメリカの経済状況や為替の変動など、様々な要素が関連し、日本を含む世界中の人々の仕事や暮らしに影響を与えているのです。当該授業では、世界のビジネスシーンでいま何が起きているのか、また国際社会での日本の立ち位置について理解し、学生自らがそれらのテーマについて主体的に思考する機会を設けます。また、当該授業はAll English、すなわち英語で行われる為、学生の基礎英語力をビジネスに必要な英語コミュニケーション力へとブラッシュアップすることを目的とします。具体的には、英語でビジネスについてのインプットを行い、身に付けたビジネス英単語や表現方法を活用しながら英語でのアウトプットにも挑戦します。		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 国際社会でのビジネスの現状について理解し、論理的にまとめ伝えることができる 国際社会での日本の立ち位置を理解し、日本企業の今後の展望について検討することができる 学生が備える基礎英語力を、ビジネスに必要な英語コミュニケーション力へとブラッシュアップすることができる 		
開講予定	第2QT・4QT 年2クラス/木曜日4・5限連続 2コマ×7回=14コマ		
講師名	レベント・アキョール (大正大学非常勤講師、東海大学非常勤講師、元ベルリッツ・ジャパンシニアマネージャー)		
講師からのメッセージ	大学の学びを社会でのスキルとして活かす為に、ビジネス英語や国際情勢の理解を進めていきましょう。 I look forward to welcoming motivated students!		

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R6_アントレプレナーシップ育成教育プログラム《イントレ》

キャリアデザインAかBの
いずれかのみ受講可能

【スキル科目】キャリアデザインA

科目名	キャリアデザインA	分類/単位	スキル科目 / 2単位
対象学生	就職活動に向けて、目標設定と行動計画を立て、実践的なスキルを習得したい学生。 ある程度自分のやりたいことが明確となっており、就活に必要な知識や実践的なスキルを高めたい学生を対象 ※キャリアデザインAかBいずれか1つのみ受講可能		
授業テーマ	より大きな舞台で活躍できる力をつけ、目標とする企業の選考、採用にむけて挑戦する		
授業目的	～将来のキャリアビジョンを描き、実現するためのはじめの一歩～ 自己理解を深め、自分らしいキャリア構築を実現するために具体的なアクションプランを策定すると同時に、目標達成にむけて必要なスキルを毎回の実践的トレーニングを通し高め、最終的には社会で求められる資質・能力を培っていく。 夏のインターンシップを通じて、授業で身に付けたスキルをさらにブラッシュアップし、高めていく ※夏のインターンシップ先は大学のキャリアセンターと連携して10社～15社を提示します。		
授業の到達目標	1. 10年後、20年後、自身が何を成し遂げたいかを明確にし、逆算のキャリアプランを策定できる（未来をイメージできる力） 2. 興味関心のある企業研究を通して、業界・職種理解を深め、求められる資質や能力を明確に把握することができる。（未来をイメージできる力） 3. ビジスマナーを身に付け、短時間で相手と関係構築ができる力を身に付ける（人的ネットワーク構築力） 4. ファシリテーションスキルを高め、グループワークで他の力を引き出す力を身に付ける（力強いリーダーシップとマネジメント能力） 5. 質問に対する意図を見極めて、相手が理解、納得する自身の考えや意見を端的にわかりやすく述べる力を身に付ける（機会の追及）		
開講予定	第1、2QT隔週 年2クラス / 土曜日1・2限2コマ×7回=14コマ + 夏の選抜型インターンシップ（5日間予定）参加必須 ① 5/18,6/1,6/22,7/6,7/20,9/7,9/14 ② 5/25,6/15,6/29,7/13,7/27,9/7,9/14		
講師名	前田 長子（学修支援センター（DAC）/国家資格キャリアコンサルタント） 令和元年までキリンビール㈱に勤務し、営業、企画、物流、広報など様々な業務に従事してきました。I類のデータサイエンス科目を担当していますが、就職支援は10年以上の実績があります		
講師からのメッセージ	兎にも角にもひたすら場数を踏んで、就活をゴールとせず、総合的な社会人スキルを向上させていく授業です。 2QT最終回は自身のスキルアップを実感できるように一緒に頑張っていきましょう。		

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R6_アントレプレナーシップ育成教育プログラム《イントレ》

キャリアデザインAかBの
いずれかのみ受講可能

【スキル科目】キャリアデザインB

科目名	キャリアデザインB	分類/単位	スキル科目 / 2単位
対象学生	就職活動に向けて、目標設定と行動計画を立て、実践的なスキルを習得したい学生。やりたいことが複数ある、もしくはまだまだ自分の方向性が見極められていないが、自分軸を見出しさらに就活に必要な知識やスキルを高めたい学生対象 ※キャリアデザインAかBいずれか1つのみ受講可能		
授業テーマ	実践ワークに取り組むことで、目標とする企業を絞り、インターンや就活で差をつける学生になろう		
授業目的	人生100年時代と言われる中、自ら課題を見つけ、解消していく力が求められるようになってきている。本授業ではその課題を解決するために「自分とは」「社会とは」を考え、就職活動だけではなく今後の人生を生き抜く「自分軸」を確立し、今後進むべき道を「自分で選択できる」ことを目指している。また、他者と協働するためのリーダーシップ・対人コミュニケーション力をケーススタディを含む実践的なワークの中で身に付け、今後のインターンシップや就職活動に自信をもって参加し、進むべき道に挑戦することができるようになることを目的としている。		
授業の到達目標	①自己理解を深め、自分の将来をイメージし言語化することができる。（未来をイメージする力） ②様々なチームメンバーとケーススタディ等の協働作業をする中でリーダーシップや対人コミュニケーション力を身に付けることができる。（人的ネットワーク構築力） ③リーダーシップ体験をすることで、マネジメントの経験を得ることができる。（力強いリーダーシップとマネジメント能力） ④ケーススタディやディスカッションを体験する中で、最大限の成果を出すことができるようになる。（機会の追求）		
開講予定	第1、2QT隔週 年2クラス / 土曜日1・2限2コマ×7回=14コマ ① 4/13,4/27,5/18,6/1,6/22,7/6,7/20 ② 4/20,5/11,5/25,6/15,6/29,7/13,7/27		
講師名	吹野 あゆ子（国家資格キャリアコンサルタント、全米NLPトレーナー、AHCアサーティブトレーナー） 出版社勤務後、学生・社会人トータル30000人以上のキャリア支援を経験。現在複数の企業でコンサルタントをしていることから、仕事現場での生の声をお届けします。https://cheerup-career.jp/		
講師からのメッセージ	「皆さんが主役」となる楽しい授業にしていきます。「自分を知り」「自分をコントロールする術」を学ぶことで、就活だけではなく「今後の人生を生き抜く力」を一緒に身に付けましょう。		

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

イントレプレナーコース 実践科目（全10科目_マイスターワークショップ）

【必須単位】実践科目
6単位 = 3科目 × 2単位

【実践科目】ワークショップ（営業職）

科目名	ワークショップ（全業態共通_課題解決型営業）	分類/単位	実践科目/2単位
対象学生	地域や社会の課題解決や、共創型のプロジェクトに興味のある学生		
授業テーマ	「営業」で培われる能力を身に付けながら、「誰かと一緒に課題を解決する面白さ」を学ぶ		
授業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・「営業」という、対人型の職種を題材にしなが、多くのビジネスシーンや共創型のプロジェクトでも共通して必要になるコンピテンシースキルを（高い成果につながる行動特性）理解し身に付ける為に、体感しながら習得する。 ・座学の知識だけでは習得が難しいコミュニケーションスキルを、事前課題や、ワークショップ型の実習を通じて仲間同士で対話することで、それぞれのスキルの重要性や、今後磨いていきたい自身の課題を自分の言葉で語れるようになる。 ・今後中心となっていく、「正解がない中で、顧客と共に新しい価値を共創していく」ビジネスシーンにおいて、ベースとなるスキルやマインドを理解することは勿論、営業職という業種に留まらず、「企業の中で誰かと何かを一緒に解決する・創る・成し遂げる」際にも活用出来る知恵やコツを学ぶ。 		
授業の到達目標	授業でのインプットを元に、事前課題やワークショップの実践を通じて、以下3点を到達目標に置く。 ①営業で培われるスキルが、なぜその他の仕事にも応用が利くベーススキルなのか理解できている。（創造性とイノベーション） ②自分自身や自分が好きなブランドについて、バリュープロポジション（差別化ポイント）の表現ができる。（社会の課題解決力） ③観察力・洞察力を養い、相手に寄り添いながら表面上ではない本質的な課題を聞き出すコツを掴んでいる。（人的ネットワーク構築力）（探求心と意思決定能力）		
開講予定	第1～2QT 隔週土曜日3・4限連続 / 第4QT 毎週土曜日1・2限連続 年2クラス 各2コマ×7回=14コマ 【授業日】 4/20,5/11,5/25,6/15,6/29,7/13,7/27 ※1～2QT		
講師名	平田 憲太郎 大手飲料メーカーで、現場の営業・営業企画（営業支援・営業育成）の経験を経て、本社で営業力向上に向けた営業推進や営業開発、営業戦略作成、各種PJ立上げ等に従事後、独立。		
講師からのメッセージ	授業自体が一方通行の押し売りにならないように、インプットと同時に皆さんの関心領域や日常生活での課題も取り上げながら、アウトプットの時間も大切にしています。一緒に学びの機会を創っていきましょう。		

R6_アントレプレナーシップ育成教育プログラム《イントレ》

MAKE YOUR UNIVERSE.
一様だからつくれる世界を。



【実践科目】ワークショップ（財務分析）

科目名	ワークショップ（全企業共通_財務分析）	分類/単位	実践科目/2単位
対象学生	経営幹部やリーダーに必要な、実践で役立つ会計の基礎知識と財務分析の手法を身につけたい学生		
授業テーマ	簿記や会計の知識を持たない学生でも、現実のビジネスの現場で十分に通用する会計知識と財務分析の手法を修得できる。資格取得ではなく、ビジネスパーソンに必要とされる、より実践的な知識と技能の修得を目指す。		
授業目的	<p>財務分析とは、決算書をはじめとする会計情報に基づき、企業の安全性・収益性・効率性・成長性などを診ることである。したがって財務分析を行うには会計の基礎知識を必要とするが、本ワークショップは、簿記や会計の知識をまったく持たない学生にも、実践で使える会計知識と財務分析の勘所を、効果的に修得してもらうことをテーマとしている。そのために以下の3点を重視する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 複雑なものは、単純化して考える。 2. 細部に捉われず、常に全体像を意識する俯瞰的な視点を持つ。 3. レクチャーとワークを組み合わせることで、単なる暗記ではない、知識と技能の真の定着を目指す。 <p>ワークショップでは、受講生が3～4人のグループとなり、自らの興味や関心に基づいて研究対象とする企業を選定する。そして、対象企業のリアルな会計情報とニュースリリース等の定性情報を材料とし、対象企業に関する研究や討議を行い、最後にグループの研究成果をプレゼン資料としてまとめ、発表を行う。本ワークショップの中で、学生時代に会計・財務を学び、金融業界で活躍しているゲストスピーカーの講演も予定している。</p>		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書のそれぞれが何を表しているのか理解している。(汎用的知識) 2. ビジネスの主要な取引に関して、財務3表のそれぞれがどのように変化するかをイメージできる。(汎用的知識) 3. 財務3表から、企業が置かれている状況を予想できる。(探求心と意思決定能力) 4. 財務分析の目的に応じて、適切な財務分析指標を選択できる。(データドリブン) 5. 企業の財務情報から、問題点やビジネスチャンスを探ることができる。(探求心と意思決定能力) 		
開講予定	第1～2QT 隔週土曜日3・4限連続 / 第4QT 毎週土曜日3・4限連続 年2クラス 各2コマ×7回=14コマ 【授業日】 4/13,4/27,5/18,6/1,6/22,7/6,7/20 ※1～2QT		
講師名	花田 雄介 (関東海むらせ 代表取締役社長 / 米国公認会計士) https://tk-murase.co.jp/ 大手食品会社での勤務を経て、事業再生や事業承継が必要な会社からバトンを受ける経営者として仕事をしています。		
講師からのメッセージ	企業の業績は情熱だけでも、論理だけでもよくなりません。『働く社員の感情』と『達成すべき数字』の両方を理解して行動し、成果をあげられる人材を、企業は必要としています。日本の将来を担う皆さんが、企業の経営幹部やリーダーとして活躍できるよう全力でサポートいたします！		

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R6_アントレプレナーシップ育成教育プログラム《イントレ》

MAKE YOUR UNIVERSE.
一様だからつくれる世界を。



【実践科目】ワークショップ（多様性推進）

科目名	ワークショップ（全企業共通_多様性推進）	分類/単位	実践科目/2単位
対象学生	多様性を尊重し個性を発揮しあえる組織・ダイバーシティマネジメントに興味のある学生		
授業テーマ	No one left behind (誰一人取り残さない) ダイバーシティマネジメントを学び実際の企業にプレゼンテーションをしてみよう。		
授業目的	<p>年齢、性別、障がい、生育環境、国籍、宗教。そして育児、介護、傷病治療、テレワーク・・・価値観や環境、文化の違う人達の集団において共通ゴールを達成するためには、ダイバーシティとしての相互理解に加え「包括性」と「公平性」が必要になります。この講義では、多様性の高い組織においてリーダーシップを発揮し、互いを尊重し個を最大限に輝かせるマネジメント手法を習得します。授業を通して実企業に多様性推進に関する課題解決の提案を行い、提案力と実践力も身につけます。</p>		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ①ダイバーシティの本質的な考え方を身につけることができる。(汎用的知識) ②慈悲と中道の精神に基づく心理的安全な場作りを習得し、個を発揮しあう組織を作る力を身につけることができる。(人的ネットワーク構築力) ③己を尊重し自らを頼りとして生きる自灯明の精神に基づくリーダーシップを習得し、いかなる集団でも成果を発揮できる力を身につけることができる。(力強いリーダーシップとマネジメント能力) ④互いの違いを尊重しながら共通の目的を達成していく共生的な力を身につけ、多様性推進の中でアントレプレナーシップを発揮し、組織全体でより高い成果を出す力を習得することができる。(創造性とイノベーション)(社会の課題解決力) 		
開講予定	第1～2QT 隔週土曜日1・2限連続 / 第4QT 毎週土曜日1・2限連続 年2クラス 各2コマ×7回=14コマ 【授業日】 4/13,4/27,5/18,6/1,6/22,7/6,7/20 ※1～2QT		
講師名	あかい ゆかり (ゆかいぶらねっと株式会社 代表取締役/劇団ゆいにい〜&びい〜す 座長) 障がいや不登校など様々な環境下の劇団員と多様性をテーマとした劇団運営9年目、年間120名の経営者のラジオ番組制作等、これまで450名以上をプロデュースしてきました。		
講師からのメッセージ	異文化は国家間だけでなく、実は個人と個人の間にも存在するもの。 ダイバーシティマネジメントを身につけ、就職後や今後の人生で実践的に活用していきましょう！		

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R6_アントレプレナーシップ育成教育プログラム《イントレ》

MAKE YOUR UNIVERSE.
一線だからつくれる世界を。



【実践科目】ワークショップ（金融・経済と私） ※新規開講

科目名	ワークショップ（全業態共通 金融・経済と私）	分類/単位	実践科目 / 2単位
対象学生	「金融・経済とお金」について学修し、社会人として自立を目指す学生		
授業テーマ	社会人としての自立に必要な「金融・経済知識」と「金融リテラシー：お金に関する知識や判断力」を身につける		
授業目的	例えば「〇〇Payでの割り勘」や「円安で旅行先を変えた」とことは、人々の生活に影響する身近な金融・経済の事象です。ワークでは、まず金融・経済の基本を理解し、次に「使う・貯める・運用する・借りる・備える」という金融リテラシーを修得します。最終的に、金融・経済の基本の理解と金融リテラシーの修得が、「ビジネスの場面でどのように役立っているか」を知ることが目的とします。		
授業の到達目標	① 金融の機能と「預金・為替・融資」という銀行の3機能を理解し、示された事例において「企業や個人はどのように準備しておくべきだったか」を考察することができる。（データドリブン/探求心と意思決定能力） ② 「円安」「デフレ」「キャッシュレス」などの経済用語を理解し、示された経済用語において、国別の対応や、業種別の企業の対応について、具体的に述べるができる。（汎用的知識/社会の課題解決力） ③ 金融リテラシーを修得し、ビジネスの場面で活用する方法を示す事ができる。（データドリブン/未来をイメージできる力/コミットメント） 1. 人事部の福利厚生担当として、社員の豊かなライフプランを描くため、新NISAなどを含め30才時点の標準資金運用計画を構成できる。 2. 財務部の運用担当として、PERやPBR、配当性向など各種指標も考察し、未来の株価を予測できる。 3. 総務部のコンプライアンス担当として、社員がSNS詐欺や不動産詐欺などに巻き込まれないよう、お金のトラブル防止策を説明できる。 ④ 2025年問題など、示された金融・経済の時事問題について理解し、ビジネスの切り口を推論する。（創造性とイノベーション）		
開講予定	第2QT・4QT 年2クラス / 毎週火曜日4・5限連続 各2コマ×7回=14コマ		
講師名	吉田厚志（株）三菱UFJ銀行に29年勤務、2016年に三菱UFJニコス（株）西日本営業部長として転籍、2023年に定年退職、現在に至る。3,000社超の企業訪問経験から、「お客様ニーズへの対応」や「提案方法」の社内研修講師を約20年勤め、若手・中堅社員の支持を受ける。約2,000社の同行訪問では、「研修を実践で生かそう」と自ら提案し、若手・中堅のスキル向上に努めた。		
講師からのメッセージ	関西人ですが、東京勤務3年の経験あり、標準語も対応できます。「金融・経済とお金」について考える事は、悪い事ではなく、逆に人生を豊かにする事だと考えています。夢は百人百様、全力で支援しますので、「社会人として自立したい」という意欲のある方、お待ちしております！		

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R6_アントレプレナーシップ育成教育プログラム《イントレ》

MAKE YOUR UNIVERSE.
一線だからつくれる世界を。



【実践科目】ワークショップ（HR/人材関連）

科目名	ワークショップ（人と企業を繋ぐ人材関連業界）	分類/単位	実践科目/2単位
対象学生	人材業界の仕事、人事の仕事、人と組織に係る課題解決等に興味を持つ学生		
授業テーマ	人材サービスのリアルなケースを通して、企業・個人双方の多様な視点への理解を深めよう		
授業目的	人材関連の仕事に興味を持つ学生が、企業・個人双方の多様な視点の存在を知り、視野を広げることを目的とする。人材サービスのリアルなケースを扱い、その中で「自分だったらどう対応するか？」を考え、他者と共有することで、人材関連の仕事を知ると同時に、多様な視点を具体的に述べるようになる。また、多様な視点を理解する過程の中で、自らのキャリア形成における気づきを得て、自身のキャリアデザインにも関係づけていく。		
授業の到達目標	・グループワークを通して、未知のケースに対しても互いの考えを尊重しながら、解決策を具体的に述べる事が出来る。（人的ネットワーク構築力） ・人材サービスのリアルなケースについて考えることで、多様な視点について考察する。（社会の課題解決力） ・多様な視点を理解することで、自らのキャリア形成に対する考えを表現する。（未来をイメージできる力） ・人材関連業界の仕事を考察する。（探究心と意思決定能力）		
開講予定	第1～2QT 隔週土曜日1・2限連続 / 第4QT 毎週土曜日3・4限連続 年2クラス 各2コマ×7回=14コマ 【授業日】 4/20,5/11,5/25,6/15,6/29,7/13,7/27 ※1～2QT		
講師名	渡辺 朋子（国家資格キャリアコンサルタント、米国CCE,Inc.認定GCDF-Japanキャリアカウンセラー）パーソルキャリア株式会社で14年勤務した後に、企業や大学でキャリア研修や教育を行っています		
講師からのメッセージ	人材系企業のリアルなケースを題材に、企業・個人双方の視点で「人」にまつわる様々な仕事を考えていきます！就職活動へ向けた仕事理解へも繋がりますよ。共に学びましょう。		

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R6_アントレプレナーシップ育成教育プログラム《イントレ》

MAKE YOUR UNIVERSE.
一線だからつくれる世界を。

【実践科目】ワークショップ（メディア業界）

科目名	ワークショップ（メディア業界）	分類/単位	実践科目 / 2単位
対象学生	メディア業界に興味のある学生		
授業テーマ	「5年後、テレビが今より魅力的なメディアになっているためには？」について、皆さんが望む社会のあり様を軸に、学び、議論し、提案していく講座です。		
授業目的	「テレビ離れ」など転換期を迎えたテレビ業界を深掘りしつつ、他メディアについても知ることでメディア業界を幅広く理解する。そして、テレビや他メディア業界の未来について、皆さんが望む社会の実現に向けての考察との両輪で一層の理解を深める。また、提案プロセスを学び体感することで、メディア業界に限らず多様な社会課題への提案に向けてのスキルを身につける。		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビ業界の新旧ビジネスモデルの基礎的な知識を身に付けることができる（データドリブン） ・テレビ業界が抱える課題と対応策事例をもとにメディア事業の未来を見据える力を養うことができる（未来をイメージできる力）（創造性とイノベーション） ・ありたい姿→現状把握→原因分析→アクションへの提案プロセスを理解し、様々な場面で活用することができる（社会の課題解決力）（探究心と意思決定能力） ・グループでのディスカッションを経て、協働して成果物を作成することができる（創造性とイノベーション）（コミットメント） 		
開講予定	第1QT・2QT・4QT /年3クラス 毎週水曜日4・5限連続 各2コマ×7回=14コマ		
講師名	伊藤賢一（ハルバル材木座 代表／国家資格キャリアコンサルタント） TBSテレビを2020年末に早期退職しましたが、番組制作、人事、関連会社経営など携って来ました。現在、コミュニケーションスペースの運営とキャリアコンサルタントとして個人や企業の支援をしています。		
講師からのメッセージ	「テレビ見てません」大歓迎です。 テレビや他メディアを活用して、皆さんが望む未来の社会を創ってみませんか。		

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R6_アントレプレナーシップ育成教育プログラム《イントレ》

MAKE YOUR UNIVERSE.
一線だからつくれる世界を。

【実践科目】ワークショップ（サービス業界）

科目名	ワークショップ（サービス業界）	分類/単位	実践科目 / 2単位
対象学生	小売、ホテル、飲食などのサービス業界に興味のある学生		
授業テーマ	ブライダル業界で培ったホスピタリティマインドを伝授！～多様な業種への汎用性を実践的に習得する講座～		
授業目的	ホスピタリティ業に求められる構成要素である「接客マナー」「所作」「ビジネススキル」等のベーシックな対人スキルの理解と実践をベースにホスピタリティマインドの醸成、経営視点を通し、新たなビジネスを生み出す思考を修得する。 本講座14回修了時には、サービス業とホスピタリティ業の概論を基礎知識として理解するために、「ホスピタリティマインド」に焦点を当て、業種別、実例別に付加価値の醸成や対応力を修得する。また、経営の基礎知識の学びを通してビジネス視点への意識づけも実践的に行う。本講座受講の成果物として、新たな視点で発想する「ホスピタリティ×ビジネス」をグループで企画立案しビジネスコンペを実施する。		
授業の到達目標	<p>本講義を受講し、課題に積極的に取り組むことによって、多様な業種で活躍するために必要なスキルを修得することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス業とホスピタリティ業の概念を比較する。(①汎用的知識/②データドリブン) ・ブライダルの現場での実例を用いて実践的に課題解決に取組み、成功体験を構築する(⑧探求心と意思決定能力) ・ホスピタリティ業を事例に戦略や戦術を生み出し実践する「経営視点」を構築する(⑨ポジティブシンキングとチャレンジ精神) ・ホスピタリティマインドの他業種への汎用性を見出し新たなビジネスを創造する(⑤未来をイメージできる力) 		
開講予定	第1～2QT 隔週土曜日3・4限連続 / 第4QT 毎週土曜日3・4限連続 年2クラス 各2コマ×7回=14コマ 【授業日】 4/13,4/27,5/18,6/1,6/22,7/6,7/20 ※1～2QT		
講師名	岡本 有子（沖縄全日空リゾート株式会社万座ビーチホテル/結婚式場CASAFELIZで20年のホスピタリティ業の実績があります。現在はこの実績を汎用し、ファイナンシャルプランナー、キャリアコンサルタントとして対人支援をしています。）		
講師からのメッセージ	宿泊業界・飲食業界・ブライダル業界と幅広くサービス業を経験してきました。 AIと共存しながらWINWINを創出するために求められる「ホスピタリティとは」を一緒に創っていきましょう！		

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R6_アントレプレナーシップ育成教育プログラム《イントレ》

【実践科目】ワークショップ（ブランディング）



科目名	ワークショップ（ブランディング）	分類/単位	実践科目 / 2単位
対象学生	商品開発やマーケティング、企業ブランディング、セルフブランディングなどに興味のある学生、就活面接力を高めたい学生		
授業テーマ	「ブランド立ち上げ」のビジネス構築ノウハウをリアルなワークショップ形式で伝授！ブランド創造力や企画力、また、就活に役立つセルフブランディング力も習得する		
授業目的	<ul style="list-style-type: none"> ◆新ブランドやサービスの新規事業立ち上げ事例を題材に分析し、マーケットリサーチからコンセプト設定、販売戦略などをまとめ、事業計画として立案できる企画力、構築力を学ぶ。 ◆「新規事業立ち上げ」を社内コンペで競うという設定で、リアルなプロジェクトワーク（演習）を通して、課題解決力、分析力、創造力、ライティング力、ロジカルシンキングなどを習得する。また、他者に考え方や想いを伝える際の説得力、伝達力、外見力、スピーチ力、プレゼンテーション力など、聞き手を魅了する印象管理術のノウハウも習得する。 ◆ゴールは、経営者会議での新規事業立案コンペのプレゼンテーション。コンペ優勝をグループで競い、優勝グループが経営者承認を得て、ビジネス展開が可能となる設定。立案能力はもちろんのこと、結果に関わらず、チームワークの意義、コミュニケーションの重要性、達成感など、仕事を想定した体験をすることで、仕事のやりがいや高揚感を実感する ◆スピーチ力や外見力を高めるテクニックを習得することで、就活時の面接対応力（好印象を高める）を向上させる 		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 企業マーケティングやブランディングの知識習得：ブランド戦略におけるフローやPDCAへの理解を深めることができる（未来を想像できる力⑤） 2. 課題分析力、探求力・課題抽出力向上：事例や市場動向、データを整理、分析し、課題抽出や課題解決ができる（社会の課題解決力⑦）、（データドリブン②） 3. 企画力・創造力向上：課題解決をもとに、意欲をもって新たな価値創造を描くことができる（創造力とイノベーション⑥） 4. コンセプトメイクやライティング力向上：アイデアや想いを形にし、相互理解を深め、チーム方針をまとめることができる（探求心と意思決定能力⑧） 5. プレゼンテーション力・外見力向上：他者に自分の考えや存在感を好感度高く伝達し、良質な信頼関係を構築できる（人的ネットワーク構築力③） 		
開講予定	第1～2QT 隔週土曜日1・2限連続 / 第4QT 毎週土曜日1・2限連続 年2クラス 各2コマ×7回=14コマ 【授業日】 4/13,4/27,5/18,6/1,6/22,7/6,7/20 ※1～2QT		
講師名	宮本 雅恵（イメージ・ブランディング 代表取締役） http://www.image-branding.co.jp/ （關ボラ・オルビスホールディングスから独立後、コンサルタントとしてビューティ&ヘルスジャンルを中心に、新ブランド立ち上げや人のブランディングに従事）		
講師からのメッセージ	講義だけでなくワーク（プレゼン含む）を大切にしながら、「自分の想いやアイデアを形にして可視化する」ためのスキルを惜しみなく伝授します。皆様が楽しく学べる環境を考慮し、活気ある授業を提供します。		

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R6_アントレプレナーシップ育成教育プログラム《イントレ》

【実践科目】ワークショップ（コンサルティング）



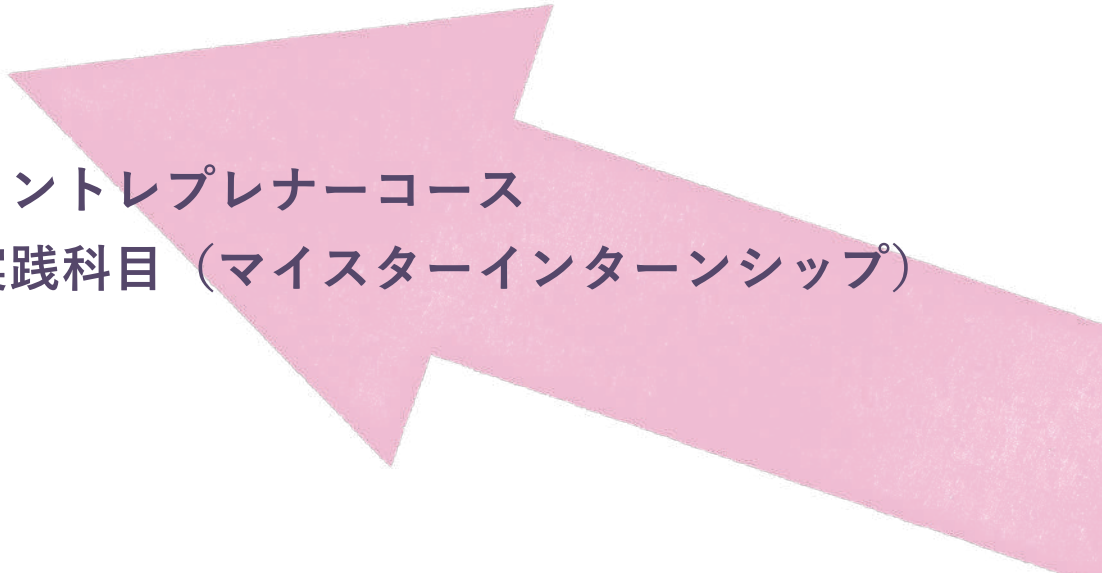
科目名	ワークショップ（コンサルティング）	分類/単位	実践科目 / 2単位
対象学生	変化を楽しみ、企業経営に興味や関心のある学生		
授業テーマ	複数のケーススタディより、企業で起きている様々な問題に挑戦することで、基礎的なコンサルティング能力を身につける。		
授業目的	企業経営により好奇心が増すようなケーススタディを体感し、学生自らが、正解のない企業の問題へ果敢に挑戦、問いをも自らが設定し、解決策を提案・変革できる力を修得することを目的とする。ケーススタディは、実際に経営改善や再生に着手したノンフィクション企業を扱う。例えば、コロナ禍での飲食業、建築資材高騰における建設業、中国の景気減速における製造業などは、何が真の要因で業績が悪化したのかを分析、そして、どうやって業績を回復させるのかを考察し、解決策を提案する。そのために必要な知識である、風土・事業・財務を習得、アウトプットで表現する。本科目で疑似社会人を体感し、大学卒業後のあらゆる業界の社会人に準備できる。		
授業の到達目標	市場動向、業界情報、事業評価、財務分析などを用いて、企業の問題点を客観的に洗い出すことができる。（データドリブン） 企業のありたい姿と現在抱えている問題とのギャップに対し、改善の方向性やアクションプランを創造することができる。 （創造性とイノベーション） 経営視点をもってグループワークに参加し、異なる仲間の意見にも共感しつつ、前向きな発言により成果物の作成へ導くことができる。（ポジティブシンキングとチャレンジ精神）		
開講予定	第1～2QT 隔週土曜日3・4限連続 / 第4QT 毎週土曜日3・4限連続 年2クラス 各2コマ×7回=14コマ 【授業日】 4/20,5/11,5/25,6/15,6/29,7/13,7/27 ※1～2QT		
講師名	野上智之（行政書士試験合格・宅地建物取引士・ITサポート・不動産評価アドバイザー・事業再生アドバイザー） ソフトウェア開発会社、教育研修会社を経て、収支損益の黒字化と人財育成がなければ、企業は元気にならないという強い信念のもと経営コンサル会社へ転身。中小企業経営のご支援、経営者、社員、金融機関職員向けのセミナー講師や研修講師を担当している。 また、キャンパスベンチャーグランプリ大阪（CVG大阪）2022・2023の審査委員を担当している。		
講師からのメッセージ	経営者と共に味わった企業経営の浮き沈み、乗り越えたときの達成感、そのエッセンスをケーススタディで疑似体験しよう。そして、企業経営には100%正しい解はないので、一緒にワイワイガヤガヤ悩み、脳みそに汗をかきましょう。		

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

【実践科目】ワークショップ（出版・編集） ※新規開講 

科目名	ワークショップ（出版・編集）	分類/単位	実践科目 / 2単位
対象学生	出版・編集業界に興味のある学生		
授業テーマ	出版・編集業界の現状と将来性への理解を深めると同時に、最終的には書籍の企画書を作成するための実践力を学ぶ		
授業目的	出版・編集業界は年々縮小し、紙媒体のほかにデジタル媒体に力を入れるようになり、新たなビジネスモデルを模索している。チャレンジングな仕事であることは変わりなく、出版・編集業界の現状と課題を考えながら、将来の可能性を探る。さらに自分で出版したい本の企画書を作成し、グループディスカッションによる「模擬企画会議」で出版・編集に必要な視点を養う。		
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 出版・編集業界の現状と課題を把握し、デジタル時代に必要な出版知識を身につける。（汎用的基礎知識） 2. 出版・編集業界が取り組む新たなビジネスモデルへの理解を深める。（未来をイメージできる力） 3. 読み手の心に残る文章、タイトルを書くことができる。（創造性とイノベーション） 4. ChatGPTを活用して訴求力や魅力のある文章を作成する力を磨く。（探究心と意思決定能力） 5. 自分で出版したい書籍の企画書を書き、プレゼンの基礎力を身につける。（機会の追求） 		
開講予定	第1～2QT 隔週土曜日1・2限連続 / 第4QT 毎週土曜日1・2限連続 年2クラス 各2コマ×7回=14コマ 【授業日】 4/20,5/11,5/25,6/15,6/29,7/13,7/27 ※1～2QT		
講師名	長坂邦宏（フリーランス、企画・取材・編集・執筆・撮影） 機械技術雑誌から美術市場雑誌まで幅広く担当。「ナショナル・ジオグラフィック日本版」取締役編集長など歴任。現在も画像から宇宙まで様々なテーマで執筆し、「わかりやすく伝える」ことをモットーにしています。		
講師からのメッセージ	巧くなくてもいい、皆さんのみずみずしい言葉が響く文章にきっと出会えるだろうと想像しています。とにかく楽しむことが大切です。楽しみながら、みんなで一緒に学んでいきましょう。		

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.



イントレプレナーコース 実践科目（マイスターインターンシップ）

R6_アントレプレナーシップ育成教育プログラム《イントレ》

MAKE YOUR UNIVERSE.
一線だからつくれる世界を。



【実践科目】 マイスターインターンシップ単位認定の条件について

【単位認定条件】

以下の①～⑦の条件+イントレプレナーコースの学修支援を受けること。

- ① 実習期間：2023年4月25日（火）～2023年9月22日（金）に実施されるインターンシップ（就業体験）であること（正課授業でのインターンシップ実習を除く）。ただし、実習先の都合等により、やむを得ず期間外の実習となる場合、単位認定者と相談の上で特例として認める場合がある。
- ② 実習時間：一社3日以上プログラムに参加し、合計40時間以上となること。
なお、実習時間は複数社のプログラムを合計することができる。
- ③ 実習形態：無償のインターンシップであること（昼食・交通費支給は除く）。
- ④ 事前学習：2023年度春学期「就活基礎講座」3回以上の出席 ※キャリアセンター開催
- ⑤ 事後学習：2023年度秋学期「就活基礎講座」3回以上の出席 ※キャリアセンター開催
- ⑥ 対象講座：春学期および秋学期「就活基礎講座」※12月開講回まで。
また、キャリアセンター開催の「筆記試験対策講座」は対象外。
- ⑦ 実習課題：実習終了後2週間以内に実習日誌及び報告書を提出すること

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R6_アントレプレナーシップ育成教育プログラム《イントレ》

MAKE YOUR UNIVERSE.
一線だからつくれる世界を。



【実践科目】 マイスターインターンシップ単位認定の条件について

【評価基準】

- ① 企業からの評価
 - ・自ら能動的・積極的に行動し、意欲的に取り組んでいたか
 - ・実習内容を理解し、計画的に作業に取り組んでいたか
 - ・担当者や周囲と円滑なコミュニケーションが取れていたか
- ② 報告書記述内容
 - ・実習先の業界や企業について調べた事柄や、実習から学んだことや積極的に実習に臨んだことを記録に残しているか
 - ・インターンシップが業界の向き不向きや適性を考えるための重要な機会としてとらえているか
- ③ その他、**実習中の態度・実習内容及び報告書内容を評価**する。

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

4. イントレプレナーコース 履修時の注意事項と履修計画

コース選択 & 科目選択における注意事項

【コース選択】

- ✓ 3年春学期にワークショップ2科目履修登録は必須になっていますが、**ワークショップ10科目中8科目が土曜日開講**となっていますので、**その前提でコース登録**をお願いします。

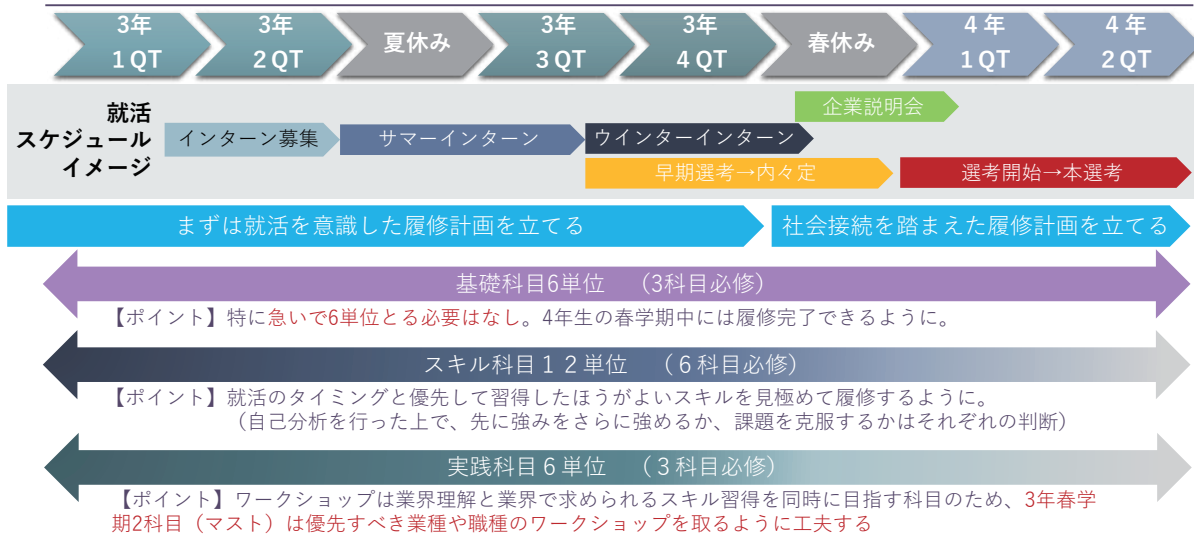
【科目選択：スキル科目】

- ✓ **ビジネス英語**を履修登録できる学生は2QTはTOEIC400点以上、4QTは500点以上が目安となっています。
- ✓ **キャリアデザインAとB**両方を履修することはできませんので注意してください。
- ✓ **キャリアデザインA**は夏のインターンシップ参加（5日間を予定）が必須となっています。大学の指定の企業10社～15社の中から希望した企業に参加してもらう予定ですが、希望学生が多い企業を第1希望としている学生は第2希望、第3希望の企業になる可能性もあります。必要条件をクリアすれば、自分自身で見つけてきた先をインターン先として認めることもできます。履修後個別相談となります。
- ✓ **財務分析（実践科目）**を履修希望する学生で会計に関する知識や数的処理能力に全く自信がない学生は、**財務会計の基礎（スキル科目）**を春学期受講した上で秋学期に履修することをおすすめします。

R6_アントレプレナーシップ育成教育プログラム《イントレ》



就活と連動した履修計画を立てる



Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R6_アントレプレナーシップ育成教育プログラム《イントレ》



スキル科目12科目と実践科目6単位の履修パターン (一例)



Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R6_アントレプレナーシップ育成教育プログラム《イントレ》



春学期・秋学期の平日の受講に関して

スキル科目のキャリアデザインA・Bを除いて、残り10科目と実践科目の『メディア業界』（水曜日4・5限開講）と『経済・金融と私』（火曜日4・5限開講）の2科目はすべて平日の4・5限の開講となります。同じ科目が年間2～3回開講されます。どのタイミングでどの科目を履修するかはII類の科目のカレンダーを元に計画を立ててください。

	授業科目	1QT(4・5限)					2QT(4・5限)					4QT(4・5限)				
		月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金
スキル科目	コミュニケーション					★					★					★
	ロジカルシンキング		★					★					★			
	プレゼンテーション	★					★					★				
	ファシリテーション		★					★								★
	リーダーシップ					★					★					
	マーケティングの基礎			★					★					★		
	データ分析技法				★				★						★	
	プログラミングの基礎			★						★				★		
	ビジネス英語				★				★							
	財務会計の基礎 (新規)	★					★					★				
実践科目	メディア業界			★					★					★		
	金融・経済と私							★					★			

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

R6_アントレプレナーシップ育成教育プログラム《イントレ》



春学期（1・2QT）の土曜日の受講に関して

実践科目の『メディア業界』（水曜日4・5限開講）と『経済・金融と私』（木曜日4・5限開講）の2科目を除いて、他のワークショップ8科目とスキル科目のキャリアデザインA/Bはすべて土曜日開講（春学期は隔週開講、**秋学期は毎週開講**）となります。注意してください。2QT跨ぎで開講し、1科目2単位となります。

時限	科目名	4月(1QT)			5月(1QT)			6月(2QT)				7月(2QT)			9月		
		13日	20日	27日	11日	18日	25日	1日	15日	22日	29日	6日	13日	20日	27日	7日	14日
① 1・2限	WS_ブランディング WS_多様性推進 キャリアデザインB①	★		★		★		★		★		★		★			
	キャリアデザインA①					★		★		★		★		★		★	★
① 3・4限	WS_サービス業界 WS_財務分析	★		★		★		★		★		★		★			
② 1・2限	WS_出版・編集 WS_人材関連業界 キャリアデザインB②		★		★		★		★		★		★		★		
	キャリアデザインA②				★		★		★		★		★		★	★	★
② 3・4限	WS_課題解決型営業 WS_コンサルティング		★		★		★		★		★		★		★		

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

秋学期（4QT）の土曜日の受講に関して

- ✓ 秋学期（4QT）は春学期と同じ科目が開講されますが、毎週開講となる点異なる点です。
- ✓ 12月21日（土）が6日目で、最終日が1月18日（土）と4週間間空きますので注意してください。

時限	科目名	4QT						
		11/16	11/23	11/30	12/7	12/14	12/21	1/18
1・2限	WS_ブランディング WS_多様性推進 WS_出版・編集 WS_課題解決型営業	★	★	★	★	★	★	★
3・4限	WS_サービス業界 WS_財務分析 WS_コンサルティング WS_人材関連業界	★	★	★	★	★	★	★

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.



科目の詳細についてはシラバスを確認してください。

科目によって開催される回数が異なります。
どこで履修するのがよいのかをよく考えた上で
履修計画を立てましょう

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

令和6年度 第Ⅲ類科目 地域戦略人材コース説明会

R6_アントレプレナーシップ育成教育プログラム

地域戦略人材コースについて

Q.どんな学生が対象か？



**A.公務員を目指す学生です。
2024年度1年間で履修するプログラムです。**

**履修者チームで
公務員を目指します！**

Q.どんな資質・能力が身につくのか？

A.地域創生戦略思考とビジネスマインド

地域課題解決に向けて、異なる専門分野の多様な人材を統合し、調整する力を養います。

Q.基礎科目以外の履修についてのポイントは？

**A.公務員試験突破に向けて、基本的な知識の定着を目指します。
また、近年の人物試験重視傾向の対策までカバーします。**



**「スキル科目」 12単位
+ 6 単位推奨**

一次選考（筆記）対策 科目学習



「実践科目」 6単位

二次選考（面接）対策、学習ベースメイク等

**全科目
必修**

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

アントレ各コースの登録者条件

✓ 各コースごとの説明会でも詳細は説明しますが、十分確認をした上でコース登録をしましょう

3つのコース	コース登録者条件・履修ルール	単位取得期間 ※基礎科目除く
アントレプレナーコース	✓ 実践科目は1科目のみしか履修できないため（1科目6単位）2024年4月の時点で履修登録必須	3年生春学期 ～4年生春学期中
イントレプレナーコース	✓ GPA2.3以上の学生のみが履修登録可能 👉2023年春学期までの通期換算 ✓ 実践科目は春学期に2科目（6単位中4単位）履修登録必須	3年生春学期 ～4年生春学期中
地域戦略人材コース	✓ 基本的に実践科目6単位、スキル科目12単位の計18単位は3年次中にすべて履修する ✓ 春休みや夏休みでの集中講義を含みます。また実践科目は1.5年履修です。	3年生春学期 ～4年生春学期中

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

地域戦略人材コースで求める学生像

- ✓ アントレプレナーシップ教育プログラムで起業家（企業家）精神を養い、卒業後にはビジネスリーダーとして、世のため人のために貢献しようと志す学生を求めます。
- ✓ 自分自身の強みや課題を把握した上で、将来の夢や目標を明確化し、短期的なビジョンだけでなく、長期的なビジョンも持ちたいと考える学生を求めます。
- ✓ 公務員を志望する学生を求めます。

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

「スキル科目」12単位
+ 6 単位推奨



「実践科目」6単位

一次選考 (筆記) 対策 科目学習

二次選考 (面接) 対策、学習ペースメイク等

全科目 必修 で、大原学園の公務員プログラム (東京都特別区レベル) の「主要教科」を学内講座でカバー

大分類	中分類	対象コース	科目	開講クラス 見込み数	単位数	必修	アントレ プレナー	イントロ プレナー	ベシック	公務員
実践科目	スキル科目	公務員	コミュニケーション (基礎教養C)		2	●				●
実践科目	スキル科目	公務員	ロジカルシンキング (基礎教養A)		2	●				●
実践科目	スキル科目	公務員	ファシリテーション (専門知識D)		2	●				●
実践科目	スキル科目	公務員	プレゼンテーション (基礎教養B)		2	●				●
実践科目	スキル科目	公務員	マネジメント (専門知識A)		2	●				●
実践科目	スキル科目	公務員	リーダーシップ (専門知識B)		2	●				●
実践科目	スキル科目	公務員	財務会計の基礎 (専門知識C)		2	●				●
実践科目	スキル科目	公務員	キャリア探求A (公務員)		2	●				●
実践科目	スキル科目	公務員	キャリア探求B (公務員)		2	●				●
実践科目	ワークショップ	公務員	ワークショップ (公務員・公共) (第1、2、4クォーター 2単位×3期)	3	6	●				●

正課外の補助学習



- ① オンライン学習: 「主要教科以外」「単元確認演習」等 ② 模試、直前対策 (春休み以降の補習)

全科目 必修

No.	科目名	授業のテーマ
1	コミュニケーション(教養科目C)	将来、公務員として、コミュニケーションを図るために必要な考え方、幅広い教養を身に付ける。
2	ロジカルシンキング(教養科目A)	将来、公務員として、必要な事務処理能力を身に付けるため、与えられた条件下で、推測する過程で鍛える柔軟な思考力を向上させる。
3	ファシリテーション(専門知識D)	将来、公務員として、スムーズなファシリテーションを遂行するために、基本的な民法の知識を習得する。
4	プレゼンテーション(教養科目B)	将来、公務員として、プレゼンテーションを進める際に必要な、算数・数学的の基本的な知識と資料の読み方を習得する。
5	マネジメント(専門知識A)	将来、公務員として、マネジメントするために必要な憲法の基本的な知識を習得する。
6	リーダーシップ(専門知識B)	将来、公務員として、どのような状況でもリーダーシップを発揮するために、あらゆる法律の基本的体系となる民法の知識を習得する。
7	財務会計の基礎(専門知識C)	将来、公務員として、財務会計を携わるために必要な基礎的な知識を習得する。
8	キャリア探究A(公務員)	公務員として、社会事情を知り、論作文を構成する力を身に付ける。
9	キャリア探究B(公務員)	公務員試験の合格を目指すため、重要視されている論作文試験の対策を万全に行います。

【参考】地域戦略人材コースプログラム_科目内容第 **1** クォーター (週4日) ※ 土曜日開講はなし

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 限					
2 限					
3 限					
4 限					
5 限		●	●	●	●
6 限		●	●	●	●

- 1 上記のほか、オンデマンド講義があります。
- 2 集中講義期間、長期休み期間の実施があります。

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

【参考】地域戦略人材コースプログラム_科目内容第 **2** クォーター (週4日) ※ 土曜日開講はなし

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 限					
2 限					
3 限					
4 限					
5 限		●	●	●	●
6 限		●	●	●	●

- 1 上記のほか、オンデマンド講義があります。
- 2 集中講義期間、長期休み期間の実施があります。

Copyright © 2023 Taisho UNIVERSITY ALL Rights Reserved.

【参考】公務員コースプログラム_科目内容

第4クォーター（週4日）※ 土曜日開講はなし

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1限					
2限					
3限					
4限					
5限	●	●	●	●	
6限	●	●	●	●	

- 1 上記のほか、オンデマンド講義があります。
- 2 集中講義期間、長期休み期間の実施があります。

(5) 学修支援・学びのコミュニティ

学びのコミュニティ・学修支援について



図書館情報メディア部長
附属図書館長
稲井 達也

本学の8号館は2022年11月にグランドオープンしました。コロナ禍により、学生は登校できませんでしたが、学生の学びを支援することを図書館からも示したいと考えていました。そういった思いと社会情勢を考えて、オンラインでの図書の推薦だけでなく、学生の学びをオンライン上でも提供したのが、学びのコミュニティのスタートです。ここ数年は、学融合の学びを具現化するために、継続的・計画的に取り組んでいます。

学びのコミュニティの講座については、平日の17時～18時に開催しています。多くの学生が帰宅する中、参加したいと言う学生に学部学科の学びを超えて、社会課題に取り組む学びを提供しています。そして、3階に「本の響き」というコーナーを設置しています。イノベーションは横断的・総合的な課題から生まれることから、分類にとらわれず書籍を設置しています。「本の響き」の書籍を手にとった学生が学びのコミュニティの講座を受講する。また、講座を受講した学生がその書籍を取るといった相互連携の仕組みを構築しています。ゼミや学科の学生の成果物を展示するというものもしています。

学びのコミュニティの講座の内容をいくつか説明すると、アサーションをテーマに、他者との人間関係を学ぶ講座について、臨床心理学科の教員が実施したところ、コロナ禍で対面の授業が初めて、どのように人と接したら良いのか参考になりたいという意見があり、学生の役に立ったと言えます。さらに、キャッシュレスの講義について、地域創生学科の教員と財務省と協働で実施しました。

また、本学は文系の大学ではありますが、サイエンスとして地学と数学の自然科学の図書の展示コーナーを設けています。そして、自然科学の講座についても実施しました。さらに、いくつかの講座のポスターを掲示して募集しています。児童虐待防止としてのオレンジリボン活動については、講座だけではなく、図書館の特設コーナーに学生自身が作成するポスターを掲示しています。

豊島区消滅可能性についての講座は、人口減少社会の最たるものであり、区長中心に再生を図られています。SDGsの観点からどのようにしているのかという講座を実施しました。また、ポストコロナ社会の支え合いについて考えると、文学・教育学の観点から、宮沢賢治を挙げて、この中で注目した利他を考える講座を実施しました。

「魂の行方～心の文化としての靈魂観～」という講座については、本学はキャンパス内で長年盆踊りを開催しています。そのため、学生に盆踊りを深く理解してほしいと考えて開催しました。図書館は21時までの開館でしたが、閉館を遅くして、恐怖という概念を考えるために、敢えて講座の時間をずらしました。また、ジブリに関する講座も設けて、学問的・文化的に検討する内容を実施しました。

入館者数も増加していき、学生の学びのコミュニティの参加については、2022年度は、全17講座217名、

2023年度は、全16講座147名の参加がありました。なお、この学びのコミュニティ参加学生からはアンケートを取っています。

課題や目標については、まだまだ参加者数が少ないので、周知と同時に魅力的な内容を増やしたいと考えています。加えて、財務省との連携講座も開催しましたが、外部との連携、地域との連携というように様々な連携をしたいと考えています。

また、学びのコミュニティの目的である「自律的・主体的な学生を育てたい、そういった学生を社会に送り出したい」という点を考えると、例えば、学生と職員で講座を企画する、あるいは学生自身が講座を運営するという様々なアプローチによって、主体的・自律的な学習者を育成する等、前例にとらわれない取組みを今後実施したいと考えています。

さらに、令和5年度は、本学が私立大学図書館協会総会・研究大会の会場となり、学びのコミュニティについて、前例にとらわれない取組みとして発表させていただきました。また、令和4年度にはなりますが、豊島区との連携で図書館フォーラムも開催しました。本と一緒に学びが繋がっていくということを念頭に、今後も様々な取組みを実施していきたいと考えています。

「学びのコミュニティ」 実施報告

大正大学
附属図書館



東京都豊島区西巣鴨にある大正大学 8号館 附属図書館&ラーニング・commons
2020年11月グランド・オープン

「学びのコミュニティ」講座設置の思いや願い

- ・コロナ禍のオンライン授業を中心とした学生の学びを一層広げるとともに、充実させたい。
- ・コロナ禍で急速に進む価値観の変化に、しなやかに対応できる柔軟な思考力を育てたい。
- ・学びを通して、学生相互の緩やかなつながりをつくり出し、学ぶ喜びを実感してもらいたい

「学びのコミュニティ」講座の理念

- ・学部・学科の垣根を越えて、学問を総合的・横断的に捉え、学生の教養を一層深め、社会に主体的にコミットしようとする資質・能力を養う。
- ・学問の専門分野にとらわれず、さまざまな領域を取り上げ、学生の視野を広げるとともに、学生の問題意識を掘り下げ、日頃の学びに主体的に生かそうとする資質・能力を養う。
- ・現代社会の諸課題を取り上げ、学生の社会への興味・関心を高めるとともに、自ら課題を主体的に解決する資質・能力を養う。

3階 本の響A

◆学問のイノベーション

テーマ性のある配架により、本の豊かな世界に入り込み、充実した時間を過ごすスペース

これからの社会では、人々が共に支え合う「共生社会」を実現し、お互いの違いを認め合う「多様性」社会が求められています。
例えば、SDGsのように、切実な社会課題を解決するという視点から、学問の領域を超えて、さまざまな書籍を集約し、本の見せ方を工夫して配架しています。



図書館独自講座「学びのコミュニティ」

2023年7月20日

臨床心理学の教員がアサーションをテーマにコミュニケーションについて講義



成人年齢引き下げに伴うキャッシュレス講座
 ～金融トラブルに巻き込まれないために～
 「キャッシュレスについて考えよう」

地域創生学科の教員と
 財務省の職員による
 協働講座



7

地学と数学を中心に
 自然科学について
 実体験から学ぶ講座を開講

館内では「サイエンス・コーナー」
 を設置し、自然科学の学問分野の垣根
 を超えて、様々な内容に触れる
 機会を創っています。



8

学びのコミュニティ 特別講座
自己と他者のどちらも大切にする方法を学ぼう！
～適切な伝え方と聞き方～

『自分の意見をしっかりと伝えたいけど、相手にも意見がある』
『こんな時、皆さんはどうしますか？』
『自分の意見を押し通す？』『相手の意見をすべて受け入れる？』
実は、この2つのどちらでもない方法もあります。

今回は「適切な表現や方法で自分も相手も尊重する『アサーティブ』」を学びます。「コミュニケーション」を学びたい方は、ぜひ受講してください！
自分なりの適切な方法が見つかります。
"I am OK, You are OK."の方法を学びましょう！

開催概要
日 時) 7月20日(水) 17:15-18:15
場 所) 図学 理学 臨床心理学 講義
場 所) 図書館3階フロア

申込方法
T→ポータルページ「メニュー」
C→「教育・エンターテインメント」欄「講座」
S→「セミナー申込」ボタンから申込可能！

問合せ先：大正大学附属図書館

自己と他者の どちらも大切にする方法を学ぼう！ ～適切な伝え方と聞き方～

コミュニケーションについて学びたい学生のために開講しました。
今の大学生はコロナ禍の影響で、高校時代、あるいは大学生になって以来、オンラインでのコミュニケーションを体験しています。
そのため、対面でのコミュニケーションに不安を持っている学生もいるため、臨床心理学を社会に開かれた観点から広く捉え、実社会・実生活の中でのコミュニケーションについて考えました。



学びのコミュニティ講座 1926
キャッシュレスの注意点、知っていますか？
お金、キャッシュレスについて考えよう
～成人年齢引き下げから～

日時: 4月19日(水) 17:15-18:15
場所: 図書館3階
講師: 財務省 関東財務局 若手職員
西山 巨章先生 (地域創生学科)

申込: [こちらをClick](#)

※Microsoft 365のWEBフォームにつながります。
Microsoft 365にログインした状態でアクセスをお願いします。

もしかすると、「金融トラブル」は身近にあるかも…。
トラブルに巻き込まれるのを防ぐため、キャッシュレス(お金)について知ろう!!

自分のことを守るために!

←二次元コードから申込OKです!

財務省の若手職員が分かりやすく、かつ面白く皆さんの立場に立った説明をしてくれます。

企画: 学びのコミュニティ(附属図書館)

お金、キャッシュレスについて考えよう ～成人年齢引き下げから～

成人年齢が18歳になった今、お金のトラブルに巻き込まれる学生が少なくなるよう、本学教員と財務省若手職員の方に協力いただき、開講しました。





児童虐待防止 「オレンジリボン運動」を考える

本学の社会福祉学科の学生の活動に
「オレンジリボン運動推進隊」があります。
11月は「児童虐待防止月間」です。

活動している学生と担当教員による「現状を知ってもらう」「どうすれば良いか」を考えるきっかけにするため、この講座を開講しました。



学びのコミュニティ 豊島区は消滅可能性都市？ 持続可能都市？ SDGsから考える

地域社会、国の「持続可能性」とは何か？
豊島区を事例に考えてみましょう。
SDGsが描く「持続可能な社会像」を理解し、
私たちにできることを考えます。

日時) 5月18日(木) 17:15~18:15
場所) 8号館3階 ガイダンススペース
講師) 月山 翔子 地域創生学部 教授
申込) T-poトップページ「メニュー」
>「展示・アンケート」>「展示板」
>「セミナー申込」カレンダーから申込可能！



豊島区は消滅可能性都市？ 持続可能都市？ SDGsから考える

SDGsについて理解を深める講座として開講。
身近なことを題材にSDGs全てのゴールについて考えるため、開講しました。





ポストコロナ社会と支え合い・助け合い —宮沢賢治に学ぶ「利他」—

『宮沢賢治に学ぶ「利他」』を副題とし、
宮沢賢治の考え方から私たちが今学ぶべきものを
考えるため、開講しました。



魂の行方 ～心の文化としての霊魂観～

本学では7月に「みたま祭り(盆踊り)」を
開催しています。
身近な盆踊りを題材に、
その意味や歴史について
学ぶきっかけをつくるため、開講しました。



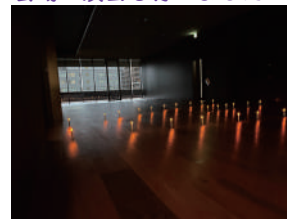


夜の図書館講座

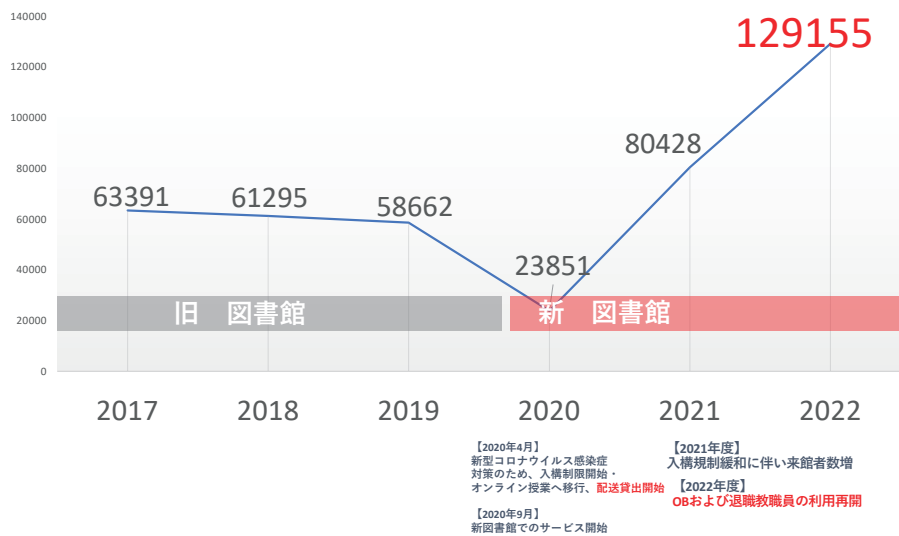
近世怪異文学の系譜 ～“恐怖”はどこからやってくる？～

「怪異文学」を題材になぜ恐怖を感じるかを作品の特徴から学び、考えるきっかけになればと思い、開講しました。

会場の演出も行いました



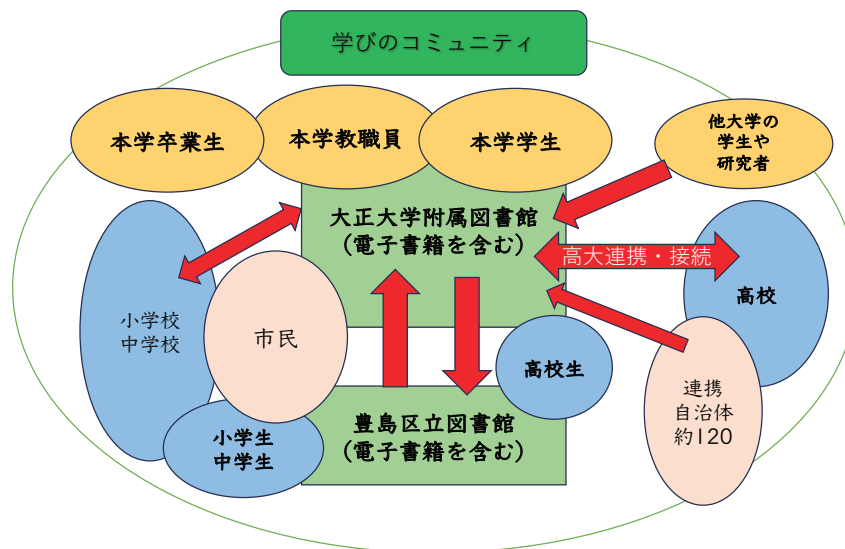
入館者数推移表 (2017年度～2022年度)



「学びのコミュニティ」参加学生の声

- ・日頃なかなか出会えないような他学部・他学科の先生のお話を聞いて、貴重な体験ができたと思いました。
- ・授業でも散々言われていることですが、「多面的・多角的に見て聴く」ということの重要性を学んだ。
- ・様々な方向からの考察を聞くことができ、自分が深く考えるきっかけになった。
- ・講義の内容が自分の興味ある分野の「ど真ん中」だったことと、聞いたことのない学問を知ることができ、知的好奇心がくすぐられた。

集い合い、学び合う場(コモンズ)としての 大正大学附属図書館「学びのコミュニティ」構想



私立大学図書館協会研究大会/記念出版
「学びのコミュニティ」をはじめ3年間の実践を集約



大正大学出版会より、令和5年9月に刊行

参考動画資料

にぎやかな図書館祭(フェス)2022

学びのコミュニティ講座発展のための一環として開催

大正大学附属図書館にて、2022年11月5日(土)開催

図書館フォーラム「本を通して”人”がつながる」

登壇者：

- | | |
|-------------------------------|-------------|
| ・公益社団法人全国学校図書館協議会・理事長 | 設楽 敬一 氏 |
| ・株式会社河出書房新社・常務取締役、YA出版会・相談役 | 岡垣 重男 氏 |
| ・豊島区立中央図書館・館長 | 倉本 彩子 氏(当時) |
| ・大正大学附属図書館・館長 / 人間学部教育人間学科・教授 | 稲井 達也 |

・フォーラムの収録動画(大正大学公式 youtubeチャンネル)

<https://www.youtube.com/watch?v=sZu0d-umOuw>

2023年度実施講座

タイトル	担当部署	担当者	参加者数
お金、キャッシュレスについて考えよう ～成人年齢引き下げから～	図書館	図書館職員	14
新入生座談会2023 ～新生活への第一歩～	図書館・DAC	図書館職員・神木まなみ(チューター)	3
新入生座談会2023 ～新生活への第一歩～	図書館・DAC	図書館職員・山口和也(チューター)	8
ジブリのさんぽ	人文学科	伊藤淑子(教員)	19
豊島区は消滅可能性都市？持続可能都市？ SDGsから考える	地域創生学科	岡山朋子(教員)	3
たましいの行方～心の文化としての靈魂観～	仏教学科	塩入法道(教員)	13
夕方の読書会と電子書籍紹介	図書館	図書館職員	1
自己と他者のどちらも大切にする方法を学ぼう！ ～適切な伝え方と聞き方～	臨床心理学	隅谷理子(教員)	10
違いを感じさせる文章とは？～文章心理学への招待～	人間科学科	井関龍太(教員)	13
悩みに向き合うアタマづくり～みんなで考える問題解決アプローチ	臨床心理学	西牧陽子(教員)	12
怪異文学の系譜～「恐怖」の正体とは～	日本文学科	田中仁(教員)	11
児童虐待防止「オレンジボン運動」を考える	社会福祉学科	金 潔(教員) 社会福祉学科所属学生のみなさん	22
おススメの本を語ろう！「冬の読書会」	図書館	図書館職員	5
歩いて地球の大きさを測ろう！～古代ギリシア人は地球の大きさをどう測ったのか～	図書館	図書館職員	2
人生100年時代！ライフプランから考えたお金のつき合い方	地域創生学科	西山巨章(教員) 財務省職員さま	11
冬の読書会	図書館	図書館職員	0
		16講座	147

2022年度実施講座

タイトル	担当部署	担当者	参加者数
【2022年度新入生対象】図書館スタッフ、学修支援チューターとの座談会！	図書館・DAC	図書館職員・山口和也(チューター)	8
【2022年度新入生対象】図書館スタッフ、学修支援チューターとの座談会！	図書館・DAC	図書館職員・朴輪貞(チューター)	3
命を考えるVol.2 ポストコロナ社会と支え合い・扶け合い -宮沢賢治に学ぶ「利他」-	図書館	稲井達也(附属図書館長)	12
本の森から新たな発見を！	図書館・DAC	図書館職員・泉利奈(チューター)	7
就職活動に役立つ！？ 図書館の活用法	就職課	就職課職員	3
日本人にとって「みたま」「魂」「霊」とは？	仏教学科	塩入法道(教員)	23
ZENKOJI History	歴史学科	中川仁喜(教員)	14
データベースの使い方(データベースの種類・調べ方)	図書館・DAC	図書館職員・川嶋孝幸,山口和也(チューター)	0
ジャニーズから考えるエンターテインメント	表現文化学科	ヨシムラヒロム(教員)	43
夜の図書館講座 近世怪異文学の系譜 ～“恐怖”はどこからやってくる？～	日本文学科	田中仁(教員)	48
Google Earthで行こう！巨大古墳と戦国城下町	歴史学科	塚田良道(教員)	11
調べるのは本当にWEBだけで良いの？？ 様々なツールを用いた情報検索講座	図書館・DAC	図書館職員・川嶋孝幸,山口和也(チューター)	0
萩原朔太郎のオノマトペ	客員准教授	笹公人	6
大河ドラマからみる権力闘争の歴史 ～鎌倉殿の13人を題材に～	歴史学科	三浦 龍昭(教員)	12
児童虐待防止「オレンジボン運動」を考える	社会福祉学科	金潔(教員)	8
古典的映画に対する想い	仏教学科	塩入法道(教員)	13
古典的名画への誘い パートII	仏教学科	塩入法道(教員)	6
		17講座	217

終わりに



学校法人大正大学
理事長

柏木 正博

本学は、平成 21 年度に『第一次中期マスタープラン』を策定し、中長期計画として教育研究、学修支援体制の充実を計画してきました。第一次中期マスタープランの期間中に 4 学部体制となり、第二次中期マスタープランにおいて 2 つの学部を設置し、短期間の間に 6 学部の大学となりました。

平成 27 年度には、認可申請という形で、「地域創生学部」を設置し、学内に非常に大きな刺激を与えました。そして、それを機に、様々な取組みが推進されるようになり、平成 30 年 5 月 1 日からは第三次中期マスタープランが始動しました。

令和 8 年には創立 100 周年を迎えます。そこで、次の 100 年を意識し、これを折り返し地点と考え、今までの骨格を引き継ぎながらも、第二の改革というべき大きな改革を成し遂げることを掲げた「第四次中期計画」を策定しました。

実際、新型コロナウイルスの感染拡大により、世の中は大きく変化しました。本学は、令和 2 年度に文部科学省の『知識集約型社会を支える人材育成事業』に採択されました。令和 5 年度において、残り 2 年間というところまで来ております。この事業を発展する形で、令和 5 年度 10 月 1 日施行の新たな中期計画をまとめたという運びです。

そして、『知識集約型社会を支える人材育成事業』における「新時代の地域のあり方を構想する地域戦略人材育成事業」については、1 年生と 2 年生に「探究科目」、「データサイエンス」、「リーダーシップ」を必修科目としており、3 年生と 4 年生に「学融合教育」、「アントレプレナーシップ育成教育」を導入したプログラムを、大きな柱として掲げております。

Society5.0 社会を担う人材を育成するために、学融合・文理融合・データサイエンス・アントレプレナーシップの教育活動を実施してきましたが、これらのプログラムが一体となって学生が成長するプロセスが必要と考えています。各々の取組みとしては問題なく、データサイエンスについては文部科学省の「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（リテラシープラス）」の認定を受ける等の高い評価を得ています。そのため、今後、各教育プログラムがより連携していくことが必要です。

そして、学融合教育については、学生 1 人 1 人が他学科の科目を履修するのではなく、申請当時は、学問分野を統合的に学ぶこととしていました。このことについては、多少、学習者と教育者もとまどうことがあったかもしれません。学生には必修科目としているため、自学科と他学科が固定されているということに違和感があるという意見があると聞いています。ただし、熱心な学生からは深い学びができたという満足な意見もありました。これらを踏まえて、新しい学融合のあり方を検討した結果、1～3 年生まで自学科の学問を学んでいる前提で、別の分野の知識を加えて、PBL を用いた社会課題を解決するプログラムも選択制で実施したいと考えています。

さらに、アントレプレナーシップ育成教育については、全学生がアントレプレナーとなり、スタートアップを

学ぶというわけではありません。起業家精神を学んで新しい価値をつくる、企業に入って企業の中でいわゆるイノベーション人材となるという2つのコースを設けています。この2つのコースについては、かなり十分な効果があがっています。3つ目の地域戦略人材となるための公務員育成のコースについては、ビジネス感覚のある公務員を育てるといった目的のコースとしています。ただし、授業をしているだけでは、キャリア教育とどこが違うのかという日本学術振興会からの指摘がありました。試験対策はキャリア支援課であり、公務員養成は授業で行うという住み分けをしていますが、来年度より、現地の首長や公務員の方の生の声を聴いて、日本がおかれている地域の課題を学ぶ取組みを新しく追加したいと考えています。

また、アントレプレナーシップの養成については、現在、大正大学から巣鴨駅までの商店街を「すがもオールキャンパス構想」として、まち中教室の設置や様々なフィールドワークを実施しています。それを発展させて、巣鴨まち中インキュベーションセンター（すがもバレー）という形で模様替えをしたいと考えています。これにより、メンターの常駐や起業家と学生が交流する機会を設けることができます。理屈ばかりではアントレプレナーシップは醸成できないため、実践の場を設けることが必要です。

これらは地域戦略人材の育成に寄与し、Society5.0時代に向けた教育をより進化し続けることができると言えます。新時代に向けた教育を来年度以降も進めていきたいと考えています。



**MAKE
YOUR
UNIVERSE.**

一緒だからつくれる世界を。